

### 株式神戸製鋼所

(本社) 神戸市東區福祿町一丁目三一(電報合)01・2000

【増資断行】 當社は今般愈々現在の資本金二千萬圓を四千五百萬圓に増加することに決定した。増資新株五十萬株のうち四十萬株は、本年六月一日現在の株主に、一對一の割合で割當て、三萬五千株は功勞株とし、残り六萬五千株はプレミアム付きで公募する。なほ第一回拂込は一株十二圓半とする。

【目的】 増資の目的はいふまでもなく諸擴張資金を調達するにある。即ちまづ兵庫縣加古郡平岡村に第四機械分工場を新設する。これには最初本社のドリル工場を移轉し、その後はディゼル自動車工場等を擴張する計畫だ。第二に海岸工場の隣接地に山手の鑄物工場を移轉し、更に製鐵工場を擴張する模様だ。この外子會社滿洲鑄鋼所の擴張計畫があり、また先般創立した高知電氣工業にも資金を必要とする。これらの爲め増資断行となつた譯だ。

【前途も順調】 増資後に不安はない。業績は依然順調で、去る十二月末決算に於いても、利益金は百八十八萬一千圓に達し、對拂込資本利益率は一割八分を示してゐる。而も今後は鋼材界の強調により、海岸工場が好成績を収める筋合にあり、機械工場も引き續き繁忙だ。資本負擔の増加も懸念の要はない。擴張工事完成後の躍進は充分期待されてよからう。

【設立】 明治四十四年七月

【決算期】 六月、十二月

【事業】 鋼材、線材、伸鋼、電氣機械

並に一般機械類の製造、販賣

【資本金】 公稱 5,000,000

【株主数】 10,000

【役員】 社長 田宮善吉

取締役 小田島修三

常務 森本準一

取締役 和田信房

取締役 長平

川上義弘

取締役 土屋行藏

監査 曾我裕邦

酒井重之助

佐々木義彦

【株主数】 十年下 七千

【大株主】 七名

【事業規模】 平瀬設備

二十噸爐

三十二噸爐

四十二噸爐

三十八噸爐

電氣爐(熔平)

工場 神戸山手、海岸工場、門司

工場 島羽電機製作工場

【事業成績】 十年下 十一年上 十一年下

【投資會社】 播磨造船所、滿洲鑄鋼所、

高知電氣工業、日本エヤーブレーキ

【資本異動】 十一年四月三〇日 萬圓増資決定

【資産負債】 十二年 六十一 十一年

株主資本 2,000,000

外部負債 1,000,000

社債 1,000,000

借入金 1,000,000

支拂手形 1,000,000

使用總資本 4,000,000

固定資産 1,000,000

流動資産 3,000,000

現金預金 1,000,000

【收支勘定】 十年下 十一年上 十一年下

【業績】 十年下 十一年上 十一年下

【株價(東高)】 高値 安値

【理想配當】 十二年六月期 八分

【利息】 三月二十日 八分

【名義書換】 十 額 新券交付 五十 額

### 徳山鐵板株式會社

(本社) 大阪市東區高麗橋四丁目三五第一ビル(電北濱) 二九二

【鐵板市況昂騰】 鐵板市況は昨年十一月頃から強調に轉じ、本年一月に入つては文字通りの暴騰を演じた。即ち薄鐵板川崎十三枚物は超當り三百圓、中鐵板一・六ミリ物は二百四十五圓、三・二ミリ物は二百七十圓を唱へた。二月に入つてはや、軟調を示してゐるが、それでも前年同月に比すると、薄板は約百圓、中板も八十圓から百二、三十圓見當の高値だ。これが當社今期の業績に寄與すること言ふまでもあるまい。

【今期配當】 そこで當社の来る四月末決算であるが、前期より著しい増益を示すことは必至だ。尤も當社は二、三ヶ月先のものを賣つてゐる關係から、今迄のところ増益はそれ程著しくはない。一、二月の高相場利益を受けるのは今後だ。然し今期既に相當の増益を來すは確實で、従來の例によると特別配當も期待される。尤も今後は原料高によつてそれ程儲けは多くなるまい。しかし、二、三、四月の成績も依然良好だから結局特配をつけることにならう。その程度は三分位かと思はれる。

【拂込徴收】 かうした基本事情の上に、帶鐵製造が本格的となり、中板製造も順調だ。尙ほ四月一日、手許資金の圓滑を期する爲め、一株につき十二圓半、合計百二十五萬圓の拂込を徴收した。

【設立】 昭和三年三月

【決算期】 四月、十月

【事業】 薄鐵板、中鐵板、帶鐵製造

【資本金】 公稱 5,000,000

【株主数】 10,000

【役員】 社長 岩井雄二郎

取締役 下田伊三郎

常務 友田一太

監査 岩井豊治

常務 徳光 隆明

【株主数】 十年下 十一年上 十一年下

【大株主】 七名

【事業規模】 山口製鐵所

工場所在地 山口縣大津村(徳山)

生産能力(年産) 薄鐵板 50,000噸

中鐵板 10,000噸

帶鐵 5,000噸

【資本異動】 九年十二月三〇日 拂込徴收

十二年四月三〇日(最終) 拂込徴收

【資産負債】 十二年 六十一 十一年

株主資本 2,000,000

外部負債 1,000,000

社債 1,000,000

借入金 1,000,000

支拂手形 1,000,000

使用總資本 4,000,000

固定資産 1,000,000

流動資産 3,000,000

現金預金 1,000,000

【收支勘定】 十年下 十一年上 十一年下

【業績】 十年下 十一年上 十一年下

【株價(東高)】 高値 安値

【理想配當】 十二年六月期 八分

【利息】 三月二十日 八分

【名義書換】 十 額 新券交付 五十 額

### 大阪製鉄株式会社

(本社) 兵庫県武庫郡大塚村中濱(電尾崎火)  
(支社) 大阪市此花区北安治川通一ノ二(電土佐堀 三六一)

【配當復活】来る四月末決算に於て、配當を復活することに内定してゐる。その程度は八分の一割程度と見られる。巷間傳へるところによると、普通配當一割の外に、特別配當一割がつけられると言ふが、そんな無茶な決算は、當社の爲になすべきではない。

【復配程度】當社は昨年四月決算に於て、一割二分配當から一舉無配を断行してゐる。業績悪化の當然の結果ではあるが、無理な彌補策をとらず、思ひ切つた手持品の評價訂正を行ひ、無配を断行したことは、寧ろ眞面目な経営方針と評してよい。然しかうした急變は元々當社に抵抗力がないからで、今期急増収を見たからと言つて、直ちに二割といふ高率配當を行ふといふやうでは、又反動が来ると無配となる危険性がある。當社の首腦者も、極力業績の安定に留意して、配當も内輪に止めると言つてゐる。結局一割配當をつけることにならう。

【前途】鐵板市況は一月を最高として、二月にはや、軟調を呈してきたが、それでも前年同月に比すれば、薄板は約百圓、中板も八十圓から百二、三十圓見當の高値だ。今後は原料高によつて、採算は今期ほど良くはあるまいが、八分程度の配當なら充分維持出来よう。要するに堅實な経営方針をとるのが肝要だ。

### 鶴見製鐵造船株式会社

(本社) 東京市鶴見区九ノ内(電丸ノ内三二)

【株式公開】當社はもと淺野造船と稱したが、昨十一年十一月、現在名に改められた。そしてこの社名變更と共に資本金を倍額の二千五百萬圓(全額拂込済み)に増資し、更に本年一月中旬、淺野同族持株のうち五萬株を限つて一般市場に公開された。

【一貫作業の強味】此の株式公開は、當社の業績安泰を意味するつまり株式を市場に出しても、當面株主に迷惑をかけぬだけの確信が淺野同族に於て持てたからだ。殊に當社の強味とする處は、小規模作ら煉鐵爐を持ち、鉄鋼一貫作業が可能を上に、造つた鋼板がそのまま、更に造船材料に向けられると云ふ點にある。大戦後再禁止直前までの間は、造船、製鐵共に悪く、この一貫作業が却つて當社の痛となつてゐたが、今日の如く原料乃至材料が高くなつて来ると、他社の追隨出来ぬ特色と變つて来た。現に十一年下期の成績は期待出来る。八分配當は安定性を持つてゐる。

【今後の興味】内容も亦九年一月の半額減資と、昨年暮の増資による借金整理とで、面目を一新した。のみならず今後には増資の樂しみも残されてゐる。第二煉鐵爐仕上げ、混鉄爐建造、工作工場新設等に資金が要るからだ。下期には或は増配もやらう。

【設立】	大正九年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	各種鐵製製造販賣
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 一八〇,〇〇〇
【株数】	新 三〇〇,〇〇〇 舊 (五〇,〇〇〇)
【重役】	社長 北島安太郎 取締役 風間武三郎 専務 鶴岡正祐 監査 千葉金三郎 取締役 豊木政吉 監査 森下彌三郎 井上長太夫 森下彌三郎
【株主總數】	十一年上 七千二百八 十一年下 七千二百八
【大株主】	北島安太郎 四〇,〇〇〇 風間武三郎 三〇,〇〇〇 鶴岡正祐 二〇,〇〇〇 井上長太夫 二〇,〇〇〇 千葉金三郎 二〇,〇〇〇 村岡大太郎 一〇,〇〇〇 村岡大太郎 一〇,〇〇〇
【事業規模】	生産能力(月産) 薄板(噸) 三〇,〇〇〇 中板(噸) 三〇,〇〇〇 厚板(噸) 三〇,〇〇〇 鋼材(噸) 三〇,〇〇〇
【事業成績】	十一年上 十一年下 厚板販賣 二,〇〇〇 二,〇〇〇 中板販賣 一,〇〇〇 一,〇〇〇 薄板販賣 一,〇〇〇 一,〇〇〇 鋼材販賣 一,〇〇〇 一,〇〇〇 同金(千圓) 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 同金(千圓) 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 同金(千圓) 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 同金(千圓) 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
【資本異動】	九年六月百萬圓増資、同年九月現社名に改稱(元大阪シャヤリ) 十年五月百五十萬圓増資
【資産負債】	十一年 十一年 株主資本 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 外部負債 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 支拂手形 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 使用總資本 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 流動資産 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 固定資産 二〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 現預金 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 固定負債 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 流動負債 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【株價】	十一年上 十一年下 高値 安値 高値 安値 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇
【利息】	十一年上 十一年下 六分四厘 四分六厘 六分四厘 四分六厘 六分四厘 四分六厘
【名義書換】	十一年上 十一年下 新券交附 五十萬

【設立】	大正十年六月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	船舶、機械、製造修理、其他
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込 一〇〇,〇〇〇
【株数】	一〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 淺野良三 取締役 淺野八郎 専務 鈴木紋次郎 監査 金子喜代太 常務 小松 監査 清宮 梧壽 正木 藤郎 監査 里田 藤三 大村 正助 監査 藤野 大藏 村上 是助 監査 藤野 義夫 浅野良三 監査 橋本梅太郎 浅野良三 監査 橋本梅太郎
【株主總數】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	淺野同族 四〇,〇〇〇 源次 一〇〇,〇〇〇 山口利一 一〇,〇〇〇 近藤 重太郎 一〇,〇〇〇 山口利一 一〇,〇〇〇 淺野 義夫 一〇,〇〇〇 重地 一〇,〇〇〇 清宮 梧壽 一〇,〇〇〇
【事業規模】	工場別生産能力 造船工場 二〇千噸 製鐵工場 二〇千噸 製鐵工場 二〇千噸 製鐵工場 二〇千噸 受託船舶(隻) 二 二 竣工船舶(隻) 二 二 入渠修理(隻) 二 二 全噸數(千噸) 二 二 鋼材生産高(千噸) 二 二 鋼材生産高(千噸) 二 二 鋼材生産高(千噸) 二 二
【資本異動】	十一年十二月倍額増資(全額拂込)
【資産負債】	十一年 十一年 株主資本 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 外部負債 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 支拂手形 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 使用總資本 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 流動資産 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 固定資産 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 現預金 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 固定負債 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 流動負債 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【株價】	十一年上 十一年下 高値 安値 高値 安値 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇 一〇〇 八〇
【利息】	十一年上 十一年下 四分六厘 四分六厘 四分六厘 四分六厘 四分六厘 四分六厘
【名義書換】	十一年上 十一年下 新券交附

### 株式 大島製鋼所

(本社) 東京市東區大島四ノ三(電本所三三三四番)

【昨下期】昨下期の鐵鋼會社は軒並みに大巾減益を來したが當社の成績は殊に悪るかつた。出荷高は二百三十一萬圓で、前期より三萬八千圓の減少に止つたが、原料高と製品安との挾撃に遭つて單位當り差益は急減し、結局二十三萬一千圓の利益しか計上し得なかつた。上期より九千圓の減少で、利益率は七分七厘と云ふ惨めさである。大期の好轉を見越して配當は五分に据え置いたけれども、此の期だけの成績から云へば減配が至當であつたこと云ふ迄もない。

【今期豫想】四月末で締め切られる今年上期成績は、幸に鋼材相場が暴騰して來たから相當見直ほすだらう。鋼塊の半期生産高を三萬圓と押へ、相當り五圓の増益としても十五萬圓となる勘定だ。安値約定の手持も残つておやうし、原料高もある。また内部保留も必要の筈だ。従つて何れ位の利益を計上するか問題だが、一割以上の利益率にはなるものと期待される。

【身賣り説】とすれば増配説の出るのも當然だ。併し當社は不況中にも減資を行はず、内容には今尚ほ相當の缺陷がある。たゞ最近當社の身賣り問題が起つてゐるので、それを有利に導く爲め或は増配するかも知れぬが、内容的に云へば増配を望むは無理だ。

【設立】 大正六年十二月

【決算期】 四月、十月

【事業】 造船用部分品、鐵道電車、輪船用部分品、一般兵器、汽機、鐵管、製鐵機械

【資本金】 100,000

【重役】 取締役 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

### 株式 吾嬭製鋼所

(本社) 東京市向島區吾嬭町東四ノ九三(電本所三三三四番)

【増益に二轉】十一年上期まで期を逐つて業績低下を示し、再度の減配を餘儀なくされた當社にも、また好轉の機會が訪れて來た。十一月を以て締切られた昨下期には、期末の製品漸騰に惠まれて、原料不足で思ふやうな操業を行ひ得なかつたに拘らず、四十六萬六千圓の利益を擧げた。前期より十三萬三千圓の増益で、利益率は二割九分二厘に當る。漸く好轉した許りだったので、勿論配當は八分の据え置きとしたが、決算には可なり餘裕を生じた。

【今期豫想】今期は更に好轉の見込みである。鋼材生産高は六萬噸前後で前期より大して殖えまいと見られるが、相場は前期の二倍前後になつてゐるから、時價採算で丸鋼相當り少くとも廿五圓の利益が見込める。安値約定のものも可なり多いし、原料は日を追つて上つてゐるから、期を通じてはかうはなるまいが、平均越十五圓の差益と見ても九十萬圓の利益だ。増税負擔も大きい、六割前後の利益率にならう。

【今後】そこで経営者は再び二萬株の株式を公開し、之を機會に普通一割、特別二割五分、計三割五分の配當をやる意向らしい。普通一割位の配當は下期も續けられやう。但熔鑪爐を持たぬ爲め、業績には結局激變を免れまい。此の點警戒を要する。

【資産負債】 十一年 四十一月 十一年

株主資本 六、六〇〇

外部負債 一、五〇〇

借入金 六、一〇〇

使用總資本 八、〇〇〇

流動資産 六、三〇〇

固定資産 一、七〇〇

現金預金 一、〇〇〇

【收支】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

【株主数】 十年上 1,217、十年下 1,533、總計 2,750

【大株主】 大倉組 100,000、大川合名 80,000、大倉商事 40,000、長谷川大郎 30,000、田中榮八郎 20,000、淺野同族 20,000、山二株式 10,000、瀬戸幸三郎 10,000

【事業規模】 平爐 十五、廿五、廿五、各一基、エール式電氣爐 一基、鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【設備】 鐵道用鋼 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、各一基、各種鋼材、鐵管、汽機、鐵管、製鐵機械、水壓機、各種仕上機、其他

【重役】 社長 長谷川大郎、取締役 門野重九郎、取締役 石田直吉、取締役 大倉善一郎、取締役 田中榮八郎、監査 淺野良三、監査 白石元治郎

### 東海鋼業株式会社

(本社) 東京市豊町區丸の内一ノ二番太田業内(電九ノ内二六)  
(出張所) 大阪市西區江之子島西町

【下期引續き好成绩】十一年上期は製品相場の昂騰により成績好轉したが、次いで十一年下期も利益金十七萬五千圓、利益率一割五分六厘に達する好成绩を示した。かゝる成績の向上は直接的には製品相場の昂騰に因るが、一面當社の特殊性に負ふ處多い。

【特殊性】即ち當社は平爐を有せず鋼塊を日鐵から購入してゐるが、買入値は製品市價の何割と決つてゐるので原料高とは關係なく、製品相場が騰れば採算は良化する筋合にある。十一年上、下共、製鋼會社は原料の暴騰で成績低下したが、當社のみがよく成績を好轉し得たのは、全く右の理由によるものだ。

【今期待配期待】来る五月末締切の今上期は、製品相場の一層の昂騰により、素晴らしい成績向上が見込まれる。大體前期の約二倍の三十五萬圓見當の利益が豫想されるが、これは拂込資本金に對し三割一分餘の利益率となる。當然増配が問題となる筋合にあるが、當局者は前途を警戒してゐるから今期の配當は据置かれる模様だ。但し、今期は創立二十周年に當るので、五、六分の記念特配を期待し得る。

【下期増配か】今後も引續き好成绩が見込まれるから、下期あたり二分程度の増配が實現するものと見られてゐる。

【設立】	大正五年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼板、鋼線、鋼條
【資本金】	公稱 三〇〇〇〇
【株主数】	三〇〇
【役員】	社長 田中榮八郎 取締役 伊藤九萬一 常務 大橋不二雄 監査 長谷川太郎 取締役 白石元治郎 大西良輔 同崎久太郎 同崎 博 鈴木 抽藏
【大株主】	同崎久太郎 三〇〇〇 大橋不二雄 三〇〇〇 服部 玄三 三〇〇〇 大川合名 三〇〇〇 谷野 彌吉 三〇〇〇 同崎 房子 一〇〇〇 長谷川太郎 一〇〇〇 田中榮八郎 一〇〇〇 井田 五郎 一〇〇〇 下村齊次郎 一〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 九州若松市
【生産高】	十年下 一〇〇〇〇〇 十年上 一〇〇〇〇〇 十一年下 一〇〇〇〇〇 十一年上 一〇〇〇〇〇
【設備】	製鋼工場(中型) 一 製鋼工場(小型) 一 加熱爐 二 年産能力 二〇〇〇〇 年産能力 一〇〇〇〇 年産能力 一〇〇〇〇

【資産負債】	十一年 五月 十一年
株主資本	三〇〇〇〇
外部負債	一〇〇〇〇
借入金等	一〇〇〇〇
使用總資本	四〇〇〇〇
流動資産	二〇〇〇〇
固定資産	二〇〇〇〇
現金預金	一〇〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上
収入	三〇〇〇〇
支出	二〇〇〇〇
利益	一〇〇〇〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
【豫想配當】	十二年五月期 八分 三月二十日調 記五分
【名義書換】	五 額【新券交付】三十額

### 株式 大同電気製鋼所

(本社) 名古屋市南區東榮地三二(電南六五)

【多角經營進捗】當社は昨年春、資本金六百萬圓(四分の一拂込)の第二大同電気製鋼を創立したが、その後更に多角經營化の歩を進めてゐる。その一つは本年一月初に於ける大同機械製作所の創立である。同社は資本金百萬圓で、當社のほか矢作工業、昭和曹達の三社が共同出資してゐる。新會社は三社の使用する機械の製作乃至修繕しかやらぬが、その材料は當社から全部供給する筈であるし、新事業への進出でもあるから、注目し得る。

【製鐵會社の計畫】のみならず、更に矢作水力、矢張工業との共同で製鐵會社を創立する計畫を進めてゐる。製法はコークスによらず、電氣を利用してやる特異なもので、電力は矢作水力から、磁石は矢作工業から(同社の磁安工場で用ひた磁化鐵礦より生ずるもの)から供給を受ける予定だ。資本金は一千萬圓(四分の一拂込)生産設備は第一期以降第三期まで各四十萬圓一基で、完成の曉には日産二百八十噸の鉄鐵が得られると云ふ。

【拂込徴収か】かうした種々の計畫があるので、當社の拂込徴収は近いものと思ふ。成績亦資本負擔に充分耐え得る見込みだ。三月末締切の本年上期成績は本稿執筆中は未發表だったが、二割の利益率は期待される。九分配當の安泰なのは明かだ。

【設立】	大正十年十一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	合金鋼、鋼製品、鋼製品、鋼
【資本金】	公稱 六〇〇〇〇
【株主数】	一〇〇〇
【役員】	社長 川崎合恒 取締役 小野 秀一 常務 野長順三 取締役 坂下 忠雄 取締役 野長順三 監査 坂下 忠雄 取締役 野長順三 監査 坂下 忠雄 取締役 野長順三 監査 坂下 忠雄
【大株主】	木曾川電力 三〇〇〇 榮地興業 八〇〇〇 大同電力 三〇〇〇 木村商店 三〇〇〇 常陽銀行 三〇〇〇 田中清三 三〇〇〇 千歳商會 一〇〇〇 荒川長太郎 一〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 名古屋市中區東區 工場所在地 名古屋市中區東區 工場所在地 名古屋市中區東區
【生産高】	十年下 一〇〇〇〇 十年上 一〇〇〇〇 十一年下 一〇〇〇〇 十一年上 一〇〇〇〇
【設備】	製鋼工場(中型) 一 製鋼工場(小型) 一 加熱爐 二 年産能力 二〇〇〇 年産能力 一〇〇〇 年産能力 一〇〇〇

【資産負債】	十一年 三月 十一年
株主資本	三〇〇〇〇
外部負債	一〇〇〇〇
借入金等	一〇〇〇〇
使用總資本	四〇〇〇〇
流動資産	二〇〇〇〇
固定資産	二〇〇〇〇
現金預金	一〇〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上
収入	三〇〇〇〇
支出	二〇〇〇〇
利益	一〇〇〇〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
【豫想配當】	十二年三月期 九分 三月二十日調
【名義書換】	五 額【新券交付】二十額



### 日本電気工業株式会社

(本社) 東京市京橋區寶町一ノ七味の素ビル内(電京橋 二五二六)

【実績良好】兎角に不安視され、悪宣傳の絶えない会社ではあるが、事實とは正反對だ。業績低下が豫想され、減配必至と見られたに拘らず最近締切られた十二年三月期決算は成績良好で、既に一割二分の配當措置に内定してをる。當期の豫想利益は約三百十二萬五千圓で、十一年下半年の利益に比し八十四萬圓の増益を現はしてをる。この実績を以てすれば一割二分の配當所要金は百六十二萬五千圓にすぎないから、その措置の容易であることが理解される。下期も引き続き配當措置の餘力を加ふるものと見てよい。

【採算良好】下期成績は一段の良好さを期待せしめる。當社は單なるアルミ會社でなく、特殊合金を初め電爐及化學藥劑品の諸事業が兼營せられてをる。然るに、これらの製品はアルミニウムを筆頭に何れも最底二割以上五割、中にはそれ以上の騰貴を示し、このために一率一體に採算は良好化した。今年三月末締切りは先約關係から未だ其の影響は全面的でないが、下期はその全部に就て恩恵は現はれてくる。業績は急カーブに向上して業績は一段の安定性を加ふるであらう。

【アルミ利益】アルミ賣値は四月一日に五百圓の大巾引上が行はれ同時に先約契約は中止された。アルミ利益の急増は必然的だ。

【設立】	大正十五年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	アルミニウム、炭酸、加里、電線、電機、カーボラダム其他
【資本金】	公稱 50,000,000 拂込 31,100,000
【株数】	新(500) 50,000 舊(311) 31,100
【重役】	社長 森 龜次郎 専務 佐野 精一 常務 近藤 静郎 取締役 高橋 保 監査 田中 兵吉 羽村 廣道 岩瀬 亮 米村 貞雄 浦山助太郎
【株主数】	十一年下 十一年上 十二年下
【大株主】	東洋電業 100,000 山一證券 20,000 東京電氣 10,000 第一生命 10,000 味の素本舖 10,000 船川電力 10,000
【事業規模】	工場 兵庫、岡山、神戶、大阪、東京、横濱、大町、秋田、小樽、松本、生野、加賀、石川、富山、岐阜、愛知、三重、滋賀、奈良、和歌山、徳島、香川、高松、岡山、広島、山口、福岡、熊本、鹿児島、那覇
【投資】	昭和肥料、東信電氣、昭和火災、日本火災、昭和和洋、昭和電業、昭和火災、日本火災、昭和和洋、昭和電業、昭和火災
【資本異動】	十一年二月一七日、十月廿四日、十一月、十二月、十一月、十二月、十一月、十二月

【資産負債】	九月	十一月	十一月
株主資本	18,000,000	18,000,000	18,000,000
外部負債	3,000,000	3,000,000	3,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用総資本	21,000,000	21,000,000	21,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	2,000,000	2,000,000	2,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支出入	10,000,000	10,000,000	10,000,000
消却年率	10%	10%	10%
【業績】	十一年上	十一年下	十二年上
売上	100,000,000	100,000,000	100,000,000
利益	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【利益】	三月二十日調	六月二日調	三月二十日調
時價	新 100	新 100	新 100
【名義書換】	十 十	十 十	十 十

### 日滿アルミニウム株式会社

(本社) 東京市麹町區内幸町一ノ三大阪ビル二號館内(電銀座五二〇一)

【再認識の要】日滿アルミは既に押しも押されぬ國産アルミ會社の雄として世上の認識をかり得てをる。けれども、その後の実績と内容好轉とは世上の再認識を餘儀なくせしむる事情にある。當社は唯一のアルミ乾式法の會社であるが、企業は全く軌道に乗り今は只管内容の整備充實期に入った。而も事業は思ひもよらぬ世界的アルミ高に惠まれて順風高帆の業績が期待され、増配と未拂込の徴収に株主は十分の潤を得ることになつた。

【二分増配か】来る五月末締切りの上期は二分増の八分配當が豫想される。湯水期關係でアルミ地金の生産販賣高は千六、七百圓に止まるが、平均賣値は千六百圓に上り差益最少五百圓が見込まれる。豫想利益は八十萬圓(利益率約三割)以上だから充分の償却を行ふても二分増の八分配當は樂である。増配は確定的だ。

【再増配と拂込】本年下半年の業績は更に飛躍する。設備能力二千趣の擴張は五月末に完成し、年産七千趣となる。而も湯水期關係から約二千五百趣の生産が見込まれる。平均千八百圓賣、コスト一千圓として差益八百圓總計二百萬圓の利益豫想となる。利益率六割だ。自然二分増の一割配當は必至である。同時に新株には亦十二圓半の第二回拂込が約束せられてをる。

【設立】	昭和八年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	アルミニウム製造
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新(100) 10,000 舊(100) 10,000
【重役】	取締役 古田 忠徳 林 好文 取締役 八巻 彌一 小畑 三郎 取締役 杉 宜隆 神戶 徳太郎 監査 深水 貞吉 多田 耕榮 監査 山藤 茂一郎
【株主数】	十一年上 十一年下
【大株主】	「發表セズ」
【事業規模】	工場所在地 富山縣東岩瀬町 年産能力 七千趣 製造方式 乾式(露式) 主 四千KVA電氣爐 三基 要 鑄造處理爐 一〇基 電解槽 一五六槽 設備 工場力(ボールド) 五千趣 工場先 富山縣津波本發電所 日本海電氣株式會社 使用原料 澳洲產土質其他諸國土質 【資本異動】 十一年十一月、十二月、十一月、十二月

【資産負債】	十一月	十一月	十一月
株主資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用総資本	11,000,000	11,000,000	11,000,000
流動資産	5,000,000	5,000,000	5,000,000
固定資産	6,000,000	6,000,000	6,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支出入	10,000,000	10,000,000	10,000,000
消却年率	10%	10%	10%
【業績】	九月上	九月中	九月下
売上	100,000,000	100,000,000	100,000,000
利益	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【利益】	三月二十日調	六月二日調	三月二十日調
時價	新 100	新 100	新 100
【名義書換】	十 十	十 十	十 十

### 日本アルミニウム株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル新館内(電丸ノ内空室)

【電解爐火入】高雄工場の建設は追々と完成期に近づいた。電解工場の一部は既に昨年十一月に完成し、同十二月一日を以て火入式を舉行した。けれどもアルミナ工場の完成は未だしてである。これが完成して同工場が一貫作業にかゝり得る日はいつであらうか。的確には分らぬが、會社側の豫定の如くに行けば本年四月一杯までに工場は完備され五月一日より愈々一貫作業の開始となる段取りである。けれども、當社の建設工事は意外に遅延し、既に本来ならば昨年から本格的操業となる豫定であつたものが、もつて尙ほ一部の操業開始にすぎない状態だから、尙ほ暫らくの隱忍を餘儀なくせらるゝのではなからうか。

【割引を要す】世上の當社に對する期待は餘りにも大である。單に六大財閥の糾合資本をバックとすると云ふだけで無配のこの株が百圓近い。だが當初電力の豊富低廉を強味としたが、實は一キロ時一錢一厘でそれ程の強味でない事が判つて來た。無論、工場設備は日本一優秀で製法技術の點に不安はないから、操業開始後の運営に問題のあらう筈はないが、豫定の如くに行くとしても營業収益に基く配當開始は昨年三月期からではなからうか。株價の高位持續は電電の持株公開のための工作と見られてをる。

### 炭 礦 事 業

【十二年度需要豫想】昭和石炭は、協定炭の送炭割當を決定する資料として十二年度(四月—來年三月)の需要を豫想してゐるが、それに依ると、四千七百四十五萬五千噸に達し、十一年度に比し三百九十六萬五千噸、九%の増加を示す見込みである。十一年度の十年度に對する送炭増加高四百二十萬二千噸に較べると、十二年度の増加高は稍々減ることになるが、併し年四百萬噸近い増加は著しい躍進と言つてよい。而してこれを産業界別に見ると、全面的に増加するが、就中重工業と化學工業部門の石炭需要の殖え方が多い。重工業部門では熔鑛爐増設に伴ふコークス原料炭の急激なる増加は勿論のこと、軍需工業部門の全面的活躍によるボイラー用炭の需要も多い。化學工業では人絹、ステープルファイバーの躍進、石炭法による合成硫安、曹達を始め各種藥品工業の活躍によるものである。

【増産獎勵】此の需要増加に應ずるため、協定炭の増送は勿論のこと、非協定炭即ち輸入炭並に内地のアウト

【設立】	昭和十年六月	【決算期】	三月、九月
【事業】	アルミニウム製造	【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 5,000,000
【株主】	社長 井坂孝 専務 吉田一郎 取締役 原邦造、牧田恒、各務謙吉、三谷一二、中川末吉、中村房太郎、松木幹一郎、後宮信太郎、安達房太郎	【大株主】	三井礦業 10,000,000 三井礦山 10,000,000 古河礦業 10,000,000 三井合資 10,000,000 三井合名 10,000,000 住友合資 10,000,000 安田保全 10,000,000
【事業規模】	工場所在地 臺灣高雄市 生産高 年額千噸(第一期計畫) 原鑛石 蘭領印成りオ群島ピン 製造法 タン島産ボークサイト 電氣設備 パイヤー法(濕式法) 電力 臺灣電力會社ヨリ購入	【收支豫算】(支出)	賣上代 1,000,000 アルミナ生産費 1,000,000 アルミニウム 1,000,000 六〇〇〇(噸) 1,000,000 電解費 1,000,000 電氣費 1,000,000 賃借費 1,000,000 償却金 1,000,000 純益金 1,000,000 收 十一月二四五拂込後
【資本異動】	十一年二月二四五拂込後 收 十一月二四五拂込後	【業績】	十年下 0.33 十一年上 0.33 十一年下 0.33 十二年 0.33
【名義書換】	十條	【新券交付】	五十條

サイドー炭の増産も計つてゐる。去る二月八日の石炭聯合會の理事會に於て十二年度の調節規定の改定を行つたが、これも増産獎勵の爲めである。即ち從來は超過出炭超當り二圓、減送炭五十錢の罰金を徴収する規定であつたのを、超過、減送ともに一圓とした。即ち超過分は罰金を軽くし、減送分は重くして極力増産に努めることにしたのである。各炭礦會社が増産に大意になつてゐるのは右の石炭界の情勢に刺戟せられた結果である。併し新たに礦區を延長したり、新礦區を開發したりするのは年月を要するから今後の需要増加に充分間に合ふかは疑問だ。石炭も物によつては品不足の現象に陥る危険がある。

【炭價昂騰】炭價は從來抑制主義を昭和石炭は採つてゐたが、需要が意外にも旺盛ではあるし、一般物價も著しく騰貴して來たので、先項超當り五十錢乃至八十錢の引上げを認めた。炭價は諸産業のコストに影響するから、無暗みに引上げることは社會問題を起し易いので困難であるが、併し一般的の物價高の傾向から推して、今後も炭價は除々に引上げられるであらう。





### 九州炭礦汽船株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内三番本館(電丸ノ内三〇)

【益々良好】九州炭礦は親會社たる菱鐵とは違つて石炭一本の會社であるけれども石炭會社としては内地隨一の會社と言つてよい。而も炭界の活況によつて今期の成績は一層向上する。内地向の送炭の積めることは勿論、船舶燃料炭の積込も海運等の活況で旺盛である。前期は四十九萬七千噸の出炭高であつたが、今期は五十萬噸を超えるであらう。一割二分配當の動かぬことは勿論、内容は益々良好となる。

【出炭増加】當社の礦區は崎戸炭礦の一ヶ所に限られてはをるし、その上採炭能力一杯近く出炭されてゐるので、この上の業績飛躍は急に期待出来ない。併し乍ら石炭の需要は全国的に著増してゐるので、これに應ずるため當社でも増産の準備工事を進めてゐるから出炭高は今後も増加を辿るであらう。物價高で経費も増加するが、成績は益々向上するであらう。

【合併問題】當社は莫大の預金を持つてゐるので、小規模の増産資金にはこまらなから急に拂込は期待されぬ。また久しく噂のまゝになつてゐる菱鐵との合併問題も糊ざらしになつてゐる。然し合併は何時か實現するものと思ふ。

【株價】百二十二圓は菱鐵株への鞘寄運動で騰つてもよい。

### 磐城炭礦株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内一ノ六ノ一(電丸ノ内三〇一三)

【三度出水】當社は昨秋來三度の出水事故を引起した。佛の顔も三度と言ふことがある。三回も出水すると株主たるもの嫌になるのも無理はない。出水が假りに不可抗力であるにしても當局者の責任は免かれぬ。菱鐵のやうに大組織で内容もよい會社なら、尾去澤事件を惹起しても業績には大して影響せぬが、當社のやうに事業規模も小さく、老坑に入つた炭礦には打撃も大きい。

【配當豫想】出水によつて減炭が何の位に上るかと言ふに、期を通じて前期に比し少く見ても三割は減るであらう。大きな打撃と言ふべきである。尤もこの出水で全山が廢坑となる譯ではない。一期位あつたば恢復も出来るであらう。それには、常磐炭田は老坑であるから此の際思切つた恢復策を講ずべきであらう。愈々重役が變つて金融筋の安田系の人が入つたから根本的の立直を行ふものと思ふ。業績だけから行けば三分乃至は五分の配當も出来るかも知れぬが、今期は無配とすべきであらう。

【株價】日賣の買收説で四十四、五圓まで騰つたが、デマと判つて元の四十圓弱みに落ちた。今後の立直し策如何で或は好感を持たれるかも知れぬが、まだ前途がハッキリせず安心出来ないから、値頃が低いからと言つて買ひつかれない。手を出さぬことがよい。

【設立】	明治四十年十一月
【決算期】	四月、十月
【事業】	石炭採掘販賣
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 6,000,000
【株數】	新(高) 100,000 舊(低) 100,000
【重役】	常務 村上伸雄 取締役 杉浦久三郎 取締役 池田三郎 監査 村田敏 吉田一郎 鈴木春之助
【株主數】	十年下 十至上 十年下 總數(高) 六六六 六六六
【大株主】	三菱礦業(一) 〇〇〇〇〇〇〇 三井礦業(二) 〇〇〇〇〇〇〇 諸戸清六 〇〇〇〇〇〇〇 安田信託 〇〇〇〇〇〇〇 吉川兵次郎 〇〇〇〇〇〇〇
【事業規模】	長崎縣西彼杵郡崎戸町 採掘礦區 十年下 十至上 十年下 全面積(千坪) 九、九〇〇 九、九〇〇 試掘礦區 十年下 十至上 十年下 全面積(千坪) 八、〇〇〇 八、〇〇〇 總數(高) 二九、九〇〇 二九、九〇〇
【事業成績】	十年下 十至上 十年下 出炭高(千噸) 四九、七〇〇 五〇、〇〇〇 販賣高(一) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 販賣高(二) 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【關係會社】	三菱礦業の子會社

【設立】	明治二十七年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	石炭採掘販賣
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 9,000,000
【株數】	新(高) 100,000 舊(低) 100,000
【重役】	社長 淺野健一郎 取締役 岡部正樹 専務 前川益一 取締役 倉田龜之助 取締役 白石元治郎 倉田龜之助 飯谷芳郎 監査 河合得男 淺野梅吉 遠山元一 小坂梅吉 遠山元一
【株主數】	十年下 十至上 十年下 總數(高) 一、八〇〇 一、八〇〇
【大株主】	淺野同族 天、天 遠山借成 〇〇〇〇〇〇〇 富岡鐵兵 〇〇〇〇〇 倉田龜之助 〇〇〇〇〇〇〇 淺野同族 〇〇〇〇〇 丸之内商事 〇〇〇〇〇〇〇 小坂梅吉 〇〇〇〇〇 小坂武雄 〇〇〇〇〇〇〇 所屬礦區 福島縣茨城縣
【事業規模】	十年下 十至上 十年下 採掘礦區 全面積(千坪) 二、二七二 二、二七二 未掘礦區 全面積(千坪) 〇 〇 未掘礦區 全面積(千坪) 〇 〇 總數(高) 二、二七二 二、二七二
【事業成績】	十年下 十至上 十年下 出炭高(千噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 販賣高(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 販賣高(二) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 貯炭高(一) 九 八 貯炭高(二) 九 八
【投資會社】	第二磐城炭礦

【資產負債】	十年 四十年 十一年
株主資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
外部負債	1,500,000 1,500,000 1,500,000
使用總資本	11,500,000 11,500,000 11,500,000
流動資産	6,000,000 6,000,000 6,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十至上 十年下
收入	3,000,000 3,000,000 3,000,000
支出	3,000,000 3,000,000 3,000,000
利益	0 0 0
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	0 0 0 0 0 0
【豫想配當】	十二年四月期 一割二分 三月二十日調
時價	新 七九 利 四分九厘
【名義書換】	十 新券交付 五十

【資產負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
外部負債	1,500,000 1,500,000 1,500,000
使用總資本	11,500,000 11,500,000 11,500,000
流動資産	6,000,000 6,000,000 6,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十至上 十年下
收入	3,000,000 3,000,000 3,000,000
支出	3,000,000 3,000,000 3,000,000
利益	0 0 0
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	0 0 0 0
【豫想配當】	十二年五月期 五分 三月二十日調
時價	新 七九 利 五分七厘
【名義書換】	五 新券交付 五十



### 太平洋炭礦株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町三井鐵山會社內(電日本橋三)

【増産促進】前期は不需要であつたため販賣炭は減つた會社が多かつたのに、太平洋炭礦は僅か乍ら増した。今期は需要期であるから出炭高は更に殖える。元々當社の出炭能力は六十萬噸計畫で設備されたものであるが、聯合會の統制規約によつて能力一杯の出炭が不可能であつた。爲に長い間業績も芳しくなかつた。それが一般的の石炭需要増加に伴つて當社の送炭も段々増加されて來た。且つ當社は前期には日東及び惠須取炭礦を今期には大成炭礦を買収して出炭許容量を殖やしたため、本年度は五十六萬噸となり略々能力に近づいて來た。更に當社は石炭需要増加に鑑みて買収炭礦の増産も計畫してゐる。當社はコークス用の原料炭ではなく、暖房用炭であるが、賣行は頗る旺盛である。

【償却増加】之迄は業績が不振であつたので充分な償却も出來なかつたが、昨上期から立直つて來たので内面償却も手厚くし、起業費の割高を改善しつゝある。設備は新しいのであるからこゝ、二三期たれば内容も著しく良くなるらう。それには七分配當にとゞめて行くのがよいが、増配氣運もあるから、來期當り一分位も増するかも知れぬ。

【株價】四十七圓は五分五厘の利廻りだ。先づ値頃であらう。

【設立】	大正九年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	石炭採掘販賣、土地經營、其他附帶事業
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 8,800,000
【株數】	(若手) 300,000
【重役】	會長 片山眞五郎 監査 古賀三千人 取締役 松方正徳 清水 源作 大東 善吉 岡本 達三 開瀬 三郎 相談 牧田 環
【株主數】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 天正 空三 六二
【大株主】	三井鐵山 300,000 木村商事 300,000 太平洋生命 300,000 帝國興業 300,000 北海道製糖 1,000,000 石井勲太郎 1,000,000 北田 善一 1,000,000 鈴木 圭三 1,000,000 林中 好子 1,000,000 藍澤商店 1,000,000 林 莊治 1,000,000 三井 英一 1,000,000
【事業規模】	所屬礦區 北海道釧路市郊外 探掘礦區 十年下 十年上 十年下 同面積(千坪) 六、五七 六、七二 六、九三 試掘礦區 元、五九 元、三三 三、八三 同面積(千坪) 元、五九 元、三三 三、八三
【事業成績】	採炭高(千噸) 十年下 十年上 十年下 採炭高(千噸) 2,627 3,354 3,354 販賣高(千噸) 2,627 3,354 3,354
【投資會社】	鋼路臨港鐵道

【資產負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	6,800,000 6,800,000 6,800,000
借入金	6,800,000 6,800,000 6,800,000
使用總資本	7,800,000 7,800,000 7,800,000
固定資産	7,800,000 7,800,000 7,800,000
流動資産	0 0 0
現金預金	0 0 0
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下
利	0 0 0 0
支	0 0 0 0
出	0 0 0 0
入	0 0 0 0
【豫想配當】	十二月五日期 七分 三月二十日期 五分五厘
【名義書換】	十 十 十

### 東邦炭礦株式會社

(本社) 東京市墨田區九ノ内二丁目一八(電丸ノ内三六)

【倍額増資】東邦炭礦は増資の必要に迫られてゐたが、愈々資本金五百萬圓を倍額の一千萬圓に増資し、その第一回拂込(一株十二圓五十錢)を去る四月一日に徴收した。一千萬圓の會社と言へば九州炭礦と北樺太炭礦があり、また太平洋炭礦も一千一百萬圓、磐城炭礦は一千七十五萬圓であるから、當社は今回の増資によつて、これ等一、二流會社と肩を並べることになつた譯だ。

【増資の目的】増資の目的は言ふまでもなく事業擴張にある。既に當社は一昨年來主力坑たる彌生坑の増産に着手してゐるが、その完成は本年下期である。その擴張費として残り約百萬圓を必要とする。更に當社の投資會社たる大谷炭礦も本年下期に合併することになつてゐるが、その増産設備費に四、五十萬圓かかる。その上昨年末社長赤司氏が個人として引受けした深阪炭礦も何れ當社に合併する筈であるが、その際にも資金が必要だ。これ等の増産、合併資金には今回の増資拂込金だけでは不足であるから、本年下期には第二回の拂込を徴收するであらう。

【八分配當持續】拂込金の増加で利益率は低下を免かれぬが、併し八分配當は充分持續出来る。一割も可能だ。七十二圓揃みの相場は五分五厘の利廻りとなり、一割とすれば七分の高利廻りとなる。

【設立】	大正八年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	石炭採掘販賣
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	(若手) 100,000
【重役】	會長 赤司初太郎 取締役 望月軍四郎 取締役 岡村左右松 加島安治郎 監査 太田 清藏 中東光五郎 徳水 重康 小倉 敬止
【株主數】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 三三 三三 三三
【大株主】	赤司初太郎 1,000,000 大日本製糖 1,000,000 内外商會 800,000 大阪商店 500,000 後宮信太郎 500,000 望月軍四郎 500,000 大島善代治 500,000 岡村左右松 500,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 彌生礦業所 北海道空知郡樺南別 彌生礦業所 北海道空知郡樺南別 彌生礦業所 北海道空知郡樺南別 彌生礦業所 北海道空知郡樺南別
【事業成績】	採炭高(千噸) 十年下 十年上 十年下 採炭高(千噸) 1,100 1,100 1,100 販賣高(千噸) 1,100 1,100 1,100
【投資會社】	深澤炭礦、雨澤炭礦
【資本興動】	十一月六月三回増資拂込徴收。十二月三回増資拂込徴收(最終)十二月四月増資額増資第一回三回増資拂込徴收

【資產負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	0 0 0
借入金	0 0 0
使用總資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	0 0 0
現金預金	0 0 0
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利	0 0 0 0
支	0 0 0 0
出	0 0 0 0
入	0 0 0 0
【豫想配當】	十二月五日期 八分 三月二十日期 五分五厘
【名義書換】	十 十 十

### 石油事業

【世界の油界】世界の重要商品相場が、多かれ少なかれ、擧げて續騰して居る最中であつて、獨り石油のみは沈靜して居る。こゝで云ふ油價は、主要な産油國に於けるそれを指す。我國或ひは獨、佛、伊其他の諸國に於ける油價は、ここ二、三年來可成り騰げて來て居るが、それは關稅或ひは消費稅の引上げ等特殊な事情に基づく。國際的重要商品たる石油が、何故他の商品の様に騰貴しないか。その原因は第一に石油は他の商品と異なり開發されたる豊富な石油資源それ自體が一の巨大な在庫を形成して居ること。第二、世界石油界に於ける米國の地位が壓制的に高いため、米國の油價に對する政策が世界市場を支配すること。第一の點は世界油界の現状は、必要に應じて、いつでも、そしていくらでも、極めて容易に産油を増加し得るからである。第二の點だが、米國では自動車工業が非常に重視されてをり、其の發達が石油界の發達に寄與した點は頗る大きい。之は逆に自動車工業を發達せしめるためには、より低廉な揮發油を供給

せねばならぬと云ふ結果にもなる。斯うした考へ方が米國に傳統的に強いからである。

【油價は騰る】だが、最近の狀勢を見ると、米國の油價も漸やく騰げ足に動いて來た様だ。中陸原油は一バーレル一七仙、ペンシルヴェニア原油一五仙の引上げが發表された。之は全面的に波及する形勢にある。他の商品相場の高騰に刺戟されたものだ。

斯うした海外高に加へて、我國に於ては消費稅の創設等が實施され、關稅また引上げられ様としてゐる。之は必然内地油價の騰貴を齎らす。揮發油消費稅は一ガロン當り五錢と決り、關稅引上げ同様に五錢の見込みだ。

【石油會社への影響】消費稅の創設は、石油會社にとつては何等の利益も齎らさぬ。寧ろその爲め新にロス、金利等を負擔せねばならぬ。だが、關稅引上げとなると、事情は全く異なる。産油をもつ會社にとつては關稅引上げだけ丸々増益となる。人造石油工業の發達助成のためには、油價の引上げは一方法だし、こゝからも油價の騰貴は免れぬ。

### 日本石油株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内三ノ四(電九ノ内三三〇九)

【特配二分か】日石は來る五月、創立五十周年を迎へる。最少二分程度の記念配當が行はれよう。業績の實體は頗るいいし、やれば四、五分の増配だつて出来るのだが、我國石油界の特殊事情を考へれば、さうしたことを望むのも無理である。一部には日石二分乃至四分増配、それも十二上期は記念配當と云ふ名目にするが、來期は普通配當に引直すと云ふ説を唱へるものもあるが、恐らくさうはなるまい。

【油界の特殊事情】我國石油會社は、昭和九年六月より施行された石油業法に依つて、先づ強大な外資資本の重壓から免れることが出來た。之で業礎を確立した。燃料國策は試掘獎勵金の増額となり關稅の引上げとなり、必然油價の騰貴となつて業績は向上した。それは國家の手厚き保護と援助とを背景とし、更に油價引上げに伴ふ消費者の負擔増を素地として居る。配當率に特殊な限界を考へねばならぬ所以だ。種々の事情を綜合して八分配當が妥當。

【業績向上と拂込】とは云つても業績は伸びる一方だ。十二上期は手堅く押へても百五、六十萬圓の増益は確實だ。鐵管、鋳力其の他諸材料の騰貴を見込んで來期は尙ほ之より増益しよう。鐵山基本其他の償却を厚くするが、結局未拂込徴収とならう。

【設立】	明治二十一年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	石油採掘精製販賣
【資本金】	公稱10,000,000 払込10,000,000
【株數】	新(100,000) 舊(100,000) 合計200,000
【重役】	社長 橋本圭三郎 取締役 西脇清三郎 専務 中野謙平 取締役 鶴見左吉雄 水田 政吉 渡邊 謙吉 山口 政太郎 渡部 介 白勢 春三 山本 留次 津下 政太郎 相談 大橋新太郎
【株主數】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 一四八三三 三三〇五 一八五三
【大株主】	山口 太郎 西脇合名 豊田 重 東洋代 行 三〇三 新津恒吉 三三六二 安田保全社 二九〇五 中野興業 一七九六 【事業規模】 十年下 十年上 十年下 坑井數(口) 三三〇 三三〇 三三〇 鐵山設備(千馬力) 一八〇〇 一八〇〇 一八〇〇 製油設備(千馬力) 一七〇〇 一七〇〇 一七〇〇 石油儲蓄(千馬力) 新開 一〇〇〇 一〇〇〇 備 太一六八三 備 一〇〇〇 一〇〇〇 北 道 五三三 秋田 縣 三三三 山形 縣 一三三 其他 共計 三三三 【事業成績】 十年下 十年上 十年下 賣上(高千圓) 三〇,三三三 三三,三三三 買入原油(高千圓) 一〇,三三三 一〇,三三三 【投資會社】 北神太石油、新潟鐵工、滿洲石油 【資本異動】 十年十二月末未拂込徴収
【資産負債】	九十年 十一年 十一年 株主資本 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 外部負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 社債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 支拂手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 使用總資本 二九,〇〇〇 二九,〇〇〇 二九,〇〇〇 固定資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 流動資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 現金預金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十年下 收入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 支出 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 固定資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 流動資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 現金預金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【業績】	九年下 十年上 十年下 利益 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 配當率 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
【株價(東京)】	高値 安値 高値 安値 十一年 三六〇 三〇〇 三三〇 二七〇 十一年 三六〇 三〇〇 三三〇 二七〇 十二年 三六〇 三〇〇 三三〇 二七〇
【豫想配當】	十二年三月期 一割
【利息】	三月二十日 五分一厘 時價 三三九 利息 三分九厘
【名義書換】	十 錢【新券交付】三十錢

### 北樺太石油株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内三ノ四有樂館内(電丸ノ内二六六十二)

【燃料國策の恩恵】燃料國策の強行で、當社の受ける恩恵は試掘奨励金の増額である。既定額は十二年度以降四ヶ年で三百三十五萬圓程度だったが、之は十二年以降五ヶ年繼續で七百六十萬圓に殖やされる。更に、之に六百萬圓(五ヶ年繼續)が追加される模様である。

【十一年度二分増配】三月末締切つた十一年度の事業成績は、採油高十七萬噸であつた。之は前年に比し僅かに七千噸増に過ぎぬ。ソ聯石油トラストよりの購入油は四萬噸で、結局搬出高は十六萬七、八千噸見當の様だ。前年より一萬噸方減る。成績は前年より低下した譯である。が、以上は事業自體で、營業の成績となると事情は異なる。當社の油は海軍省で九割以上買上げて居るが、其の買上値段が高められたからだ。と云つても、公表されたわけではないが、種々なる事情を綜合して見ると、さう押へられるのである。十一年度はせめて二分増配の五分増配はどうしてもやらなくてはならぬ事情に迫られて居る。未拂込徴収に次ぐに増資の斷行で、試掘資金を民間から集めねばならぬからだ。

【前途の見透】獨り歩きが出来ないのは心細いが石油の重要性和當社の特殊性とを考へれば、さう心配することもあまい。

【設立】	大正十五年六月
【決算期】	三月(年一回)
【事業】	原油採掘及輸入販賣
【資本金】	資本金 100,000
【株主】	取締役 左近司政三
【重役】	取締役 小泉武三、伊藤文吉、松村松太郎、橋本圭三郎、河手隆二
【株主名】	日本石油(株) 100,000
【大株主】	富岡徳兵衛 20,000、長部松三郎 10,000、旭石油(株) 10,000、片倉生命 10,000
【事業成績】	採掘高(千噸) 17,000
【採掘高】	前年持越(千噸) 10,000
【自出高】	40,000
【搬出高】	167,000
【原油収入】	1,000,000
【資本異動】	九月拂込各三圓五枚徴収

【資産負債】	三十九年三月
株主資本	100,000
外部負債	10,000
支拂手形	10,000
使用總資本	120,000
流動資産	100,000
現金預金	10,000
【收支勘定】	九年度
収入	1,000,000
支出	800,000
【業績】	七年度、八年度、九年度、十年度、十一年度、十二年三月
【利息】	十二年度三月期 五分
【名義書換】	十圓、新券交付 五十圓

### 旭石油株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル新館(電丸ノ内二二七)

【當社の収益源】燃料國策の恩恵を直接、且つ最も多く受けることが出来るのは、自社産油をもつ會社だ。處が當社は院内油田から採油して居るとは云へ、半期四、五萬圓と云ふのでは高の知れたものだ。従つて、國策から受ける好影響も大したことはない。當社は原油の精製、重油の輸入販賣、此の外に油槽船の經營をやつて居る。が結局當社の収益源の最大なものとはタンカーである。

【十二年度上期の業績】原油相場は前期に比し一石當り一圓弱み騰貴して居るから此の方の増益は先づ五萬圓内外。機械油及び輕油の製造販賣高は半期二十萬兩見當だが、市價の騰貴一兩當り五十錢として約十萬圓の増益が見込める。

油槽船の運賃は、噸當り十二圓八十錢程で、前期に比し一圓二、三十錢方の騰貴に當る。當社のタンカーは八千八百噸型二隻だが、半期輸送能力四萬噸として四萬圓、以上合せて十九萬圓の増益となる。拂込資本三百萬圓に對し二割五分弱の利益率に當る。以上は勿論概算だが、九分配當持續に問題ない。

【増配は不可】當社の今後には増配は期待出来ぬ。九分が頂上と押へてよからう。内容の改善に努めねばならぬからである。尙ほ近く早山石油合併とならう。

【設立】	大正十年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	採油、原油輸入、油槽船
【資本金】	資本金 100,000
【株主】	取締役 長崎英造、常務 幸松文太、取締役 岡本勲、取締役 小林中、取締役 長久伊勢吉
【重役】	社長 長崎英造、取締役 幸松文太、取締役 岡本勲、取締役 小林中、取締役 長久伊勢吉
【株主名】	長崎英造 10,000、武蔵松太郎 10,000、太平生命 10,000、橋爪勇一郎 10,000、東京二子 10,000
【事業規模】	秋田、山形、青森、新潟、岩手、秋田、山形、青森、新潟、岩手、秋田、山形、青森、新潟、岩手
【採掘高】	10,000
【搬出高】	10,000
【原油収入】	10,000
【資本異動】	十一月十月三萬圓を増資、一二圓五枚徴収

【資産負債】	十一年五月
株主資本	100,000
外部負債	10,000
支拂手形	10,000
使用總資本	120,000
流動資産	100,000
現金預金	10,000
【收支勘定】	十年度
収入	1,000,000
支出	800,000
【業績】	九年度、十年度、十一年度、十二年三月
【利息】	十二年度五月期 九分
【名義書換】	十圓、新券交付 五十圓

### 業銅産金産

【業界の躍進続く】内外経済界の好調、特に斯界にあつては世界的な軍備擴張を背景にして業界は文字通り躍進して居る。どこまで伸びるか見當がつかぬと云ふ状況である。増産に加ふるに市價の續騰があるからだ。

【銅價の奔騰】昨年の産銅高は七萬八千六百十四噸で、前年に比し九千二百噸の増産であつた。だが問題は寧ろ銅價の奔騰にある。紐育輸出銅は昨年十月十仙臺（一封度）に載せてから十二月には早くも十二仙に、更に本年二月に入るや初旬の十二仙七、八〇臺から、月末には十六仙三二と一舉三仙半の猛騰を演じた。三月に入つてからも騰勢尙ほ熄まず十七仙臺に保合つてゐる。世界恐慌直前の一九二九年の最高は二十仙四一だつたが、大分之に接近して來たわけだ。一方、東京電銅相場（百疋）は、之に伴ふてゲン／＼騰げ、百五十圓を突破した。大正九年産銅水曜會設立以來の高値である。昨年の八十圓臺から見ると略々二倍に及ぶ奔騰だ。斯うした銅價の躍騰は、旺盛なる需要増に伴ふ需給

實體の好變が基礎をなして居る。國際銅協定は、本年一月限産協定を廢棄し、尙業者の自由生産に委せたわけだが、さう急に増産も出來ぬ。需給は好調だし、銅價の位置は相當強いと見てよからう。

【産金界また活況】我國産金高の増加の度は、銅よりも著るしい。十年は内地、朝鮮、臺灣合せて三萬四千百九十三疋で前年に比して一割九分の増加だつたが、昨一年には、三萬九千五百疋（之は概算だ）で、十年に比し一割六分の増産に當る。尤も政府の産金買上値段は、昨年六月一匁十三圓十二錢五厘に据置かれて居る。四月一日倫敦金塊相場七磅二志二片を日英爲替相場一志二片で邦貨に換算すると、十四圓七十錢になり、現行買上値段との開きは一圓五十八錢だ。米國への正貨現送で、金を持つ意義は極めて重大視せられて居る折柄、多かれ少なかれ引き上げられることにならう。

【前途尙ほ伸びる】業界の將來は頗る明朗だ。物價高・質銀高に依る生産費増嵩も起つて居るが、相場の奔騰で今のところ之は一應無視してもよい。

### 日本産業株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ二(電丸ノ内 六〇一)

【未拂込徴収】日産は新株(十二圓五十錢拂込)一株に付き二十五圓、二百十三萬株に對し總額五千三百二十五萬圓の拂込を六月一日徴収することに決定した。この資金は、子會社の増資乃至未拂込徴収、或ひは融資にあてられる。

【資金の便途】拂込に應ずる分は日銀二千三百萬圓、日立製作五百萬圓、日本化學工業二千萬圓、日本油脂八百萬圓、之に日産自動車への融資五百萬圓、以上合計で六千一百萬圓に達する。之では七百七十萬圓程不足するが、それは借入金で賄ふ筈。

【決算餘裕を加ふ】軍事費増嵩に伴ふて生産力の擴大強化が強調され、其のため結城藏相に依つて「産業金融への積極的進出」が唱道されてゐる。かゝる好條件を背景として當社の子會社は何れも業績良好である。子會社への新投資に依る収入増は約五百八十五萬圓、これから税金、法定積立金、利子等を差引いたもの、即ち配當に廻し得る金額は四百五十萬圓、増資資本に對して一割二分強に當る。現行配當は一層餘裕を加へる譯だ。

【借入金の社債化】日産に残された一の重點は借入金社債化の問題だ。株券を擔保とする社債發行の問題は有利に解決されさうだ。若しそれが成立したら金融的に一段と安定することは明白。

【設立】	大正元年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	持株會社
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 二四〇,〇〇〇 新(三三三) 三〇,〇〇〇
【株主】	新(三三三) 三〇,〇〇〇
【役員】	社長 鮎川 義介 取締役 淺原 源七 専務 下河邊 建二 伊藤 文吉 常務 山田 敬光 小平 浪平 常務 國司 浩助 監査 岩田 宙造 取締役 保田 宗治郎 片山 善勝
【株主数】	十年上 二十下 總數(名) 三〇〇天 元〇,〇〇〇 号,〇〇〇
【大株主】	合同土地(三) 三田村合名(六) 三 東洋代(三) 三共立企業(三) 三 大株代(三) 三大阪商(三) 三 東京田合(三) 三富國(三) 三 【事業成績】 十年上 十年下 十年上 十年下 配當收入(千圓) 八・五五 八・五五 九・四〇 九・四〇 證券利益( ) 三〇 一・三三 三・八三 三・八三
【投資會社】	今十一月末現在持株(株) 日本 鐵業(三) 日産自動車(三) 三 同 新 株(三) 日立電力(三) 三 日立製作(三) 三同 新 株(三) 三 共同 産業(三) 三山田炭礦(三) 三 日本 炭礦(三) 三宇都 礦業(三) 三 日本 産業(三) 三三六・天
【資本異動】	十年八月〇〇、英一千圓増資 十年六月三〇日拂込徴収の豫定
【資産負債】	十一月 十一月 十一月 株主資本 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 外部負債 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 借入金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 使用總資本 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 固定資産 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 流動資産 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 投資勘定 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 流動負債 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十年下 十年上 十年下 收入 二,一三三 二,一三三 二,一三三 二,一三三 支出 三,五七五 三,五七五 三,五七五 三,五七五 利益 一,四四二 一,四四二 一,四四二 一,四四二
【株價(東京)】	九年上 九年下 十年上 十年下 高値 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 安値 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【株價(東京)】	高値 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 安値 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【利息】	三月二十日調 五分四厘 時價 九・九 利息 三分
【名義書換】	十 録【新券交付】三十録

### 日本鑛業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ二(電丸ノ内 二五二七)

【業績は伸びる】産金産銅界の躍進に伴つて、日鑛の業績も伸びる一方である。去る三月末に締切つた十二年上期の業績は、文字通り素晴らしい模様である。未だ決算は發表されぬけれども、金屬の産出増、鐵鑛石積取高の増加、これに市價の昂騰を考へ合すれば好轉の程は充分窺へる。

【積極政策の効果】当期の主要金屬の生産高は、金七千四百三十担、銀五萬九千三百四十担、銅一萬四千五十担であり、鐵鑛石の積取高は四十萬担であつた。前年同期に比し金は一千八百担、銀は一萬九百七十担、銅は二千三十二担を増加して居る。また鐵鑛石は八萬担を増加した。これ等は果敢な積極政策の賜である。一方、市價は事業概観で述べた様に奔騰して居る。業績が悪からう筈は無い。金の増産で二百五十萬圓、銅の増産と市價騰貴で四百萬圓、此の兩者だけで六百五十萬圓の増益に當るから大きい。三月一日、一株廿五圓、總額四千二百五十萬圓の末拂込を徴収したが、一割四分配當は益々餘裕を加へる一方である。

【見通し】拂込資金は、ヤンビー・サウンド島の鐵鑛石開發へ一千万圓、鑛山(主として金山)買収費に二千萬圓、其他はツングン並に精鍊設備の擴充にあてる。業績はまだ一向上する。

【設立】	昭和四年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	金、銀、銅、鐵、石炭其他採掘、精製、販賣
【資本金】	公稱一〇〇,〇〇〇 拂込二六,七〇〇
【株数】	新(五〇) 一七〇,〇〇〇 舊(五〇) 一七〇,〇〇〇
【重役】	會長 船川 義介 取締役 伊藤 文吉 越宮 朝太郎 今井 實代志 島田 利吉 坂本 威郎 片山 義勝 常務 権名 芳胤 監査 山田 敬亮 鈴木 富治 下河邊 二 窪田 哲二郎
【株主数】	十年上 十一年上 十二年上 總數(名) 五,六七〇 六,九六六 六,一七〇
【大株主】	日本産業(六八,八三三) 伊藤 文吉(一〇,〇〇〇) 東洋銀行(八,八〇〇) 第一信託(三,〇〇〇) 大株代(三,〇〇〇) 大阪商(三,〇〇〇) 富國(三,〇〇〇) 伊藤 直樹(一八,六三三)
【事業規模】	主要鑛區 日立、諏訪、大谷、東山、竹野、河津、高玉、百瀨、廣田、岩美、北條、馬場、佐賀
【生産高】	十年上 十一年上 十二年上 金(担) 五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇 銀(担) 五〇,〇〇〇 五〇,〇〇〇 五〇,〇〇〇 銅(担) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 鐵鑛石(担) 四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
【投資會社】	臺灣鑛業
【資本異動】	十年一月八千五百萬圓を増資、十二年三月二五圓拂込徴収

【資産負債】	七十年 三十一 九十年 三十一
株主資本	二五,〇〇〇 二六,七〇〇 二九,〇〇〇
外部負債	五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支拂手形	九,〇〇〇 九,〇〇〇 九,〇〇〇
使用總資産	二五,〇〇〇 二六,七〇〇 二九,〇〇〇
固定資産	二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇
流動資産	五,〇〇〇 六,七〇〇 九,〇〇〇
現金預金	四,〇〇〇 五,〇〇〇 八,〇〇〇
【收支動向】	十年上 十一年上 十二年上
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
固定消却	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
消却率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
【業績】	十年上 十一年上 十二年上
株價(重色)	高値 安値 高値 安値 高値 安値
十年上	一〇〇 一〇〇 一〇〇
十一年上	一〇〇 一〇〇 一〇〇
十二年上	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【豫想配當】	十二年三月期 一割四分
【利息】	三月二十日調 五分 四月四分
時價	新二五・二 利週 四分六厘
【名義書換】	十 續【新券交付】三十續

### 土肥金山株式會社

(本社) 大阪市東區北濱五丁目三(住友ビル内)電北濱三〇

【事業及系統】當社は住友の經營する會社だ。事業地は靜岡縣下の土肥及湯ヶ島の二ヶ所にある。當社は産金會社と稱しても自社では金の精鍊は全然やつてゐない。精鍊をして之を全部同系の住友別子鑛山に賣却してゐる。

【成績良好】昨年同期は政府の産金買上値段の引上げに惠まれて成績は向上した。即ち利益金は五十五萬六千圓増、利益率は四割四分五厘であつた。昨年同期に比し利益は三萬六千圓で利益率は二分九厘の向上に當る。配當は普通一割、特別二分、合計一割二分を据置いた。決算は益々餘裕を加へて來た譯である。

【鑛山の概況】豫めて増掘中の土肥鑛山中央堅坑々底設備及第二堅坑開鑿工事は漸次進行し、浮游選鑛場また近く機械据付の運びとなつた。湯ヶ島鑛山は前期に引續いて二條の鑛脈に就き鑛押探鑛中であるが、まだ品位の見るべきものに達着しない。

【一割二分配當】土肥鑛山の増産が近く實現する筈だし、又政府の産金買上建値も引上げ必至の事情にあるから、當社の業績も更に向上するだらう。假りに建値引上げが實現しなくとも、産鑛増加は略々此の三月期から實現されるから、何れにしても業績は向上するに相違ない。一割二分配當の繼續は當分問題ない。

【設立】	大正六年八月
【決算期】	三月、九月
【事業】	金鑛石採掘
【資本金】	公稱一〇〇,〇〇〇 拂込二六,〇〇〇
【株数】	新(五〇) 一七〇,〇〇〇 舊(五〇) 一七〇,〇〇〇
【重役】	専務 進藤 淳之祐 監査 神田 勇吉 取締役 菅野 秀次郎 宇佐美 正輔 近藤 宏太郎
【株主数】	十年上 十一年上 十二年上 總數(名) 五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇
【大株主】	住友 合資(九,〇〇〇) 飯田 五郎(四,〇〇〇) 菅野 秀次郎(三,〇〇〇) 草川 求馬(三,〇〇〇) 藤井 三郎(三,〇〇〇) 高橋 正雄(三,〇〇〇) 荒井 二郎(三,〇〇〇) 近藤 寛一(一,〇〇〇) 龜田 利三郎(一,〇〇〇) 坂口 彦三郎(一,〇〇〇) 所屬鑛區 靜岡縣土肥、湯ヶ島
【精鍊高】	(担) 九年上 一四,〇〇〇 九年下 一〇,〇〇〇 十年上 一〇,〇〇〇 十年下 一〇,〇〇〇 十一年上 一〇,〇〇〇 十一年下 一〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇 十二年下 一〇,〇〇〇
【鑛石收入】	(千圓) 十年上 一,〇〇〇 十年下 一,〇〇〇 十一年上 一,〇〇〇 十一年下 一,〇〇〇 十二年上 一,〇〇〇 十二年下 一,〇〇〇
【資本系統】	住友 係

【資産負債】	九十年 三十一 九十年 三十一 九十年 三十一
株主資本	二五,〇〇〇 二六,〇〇〇 二六,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支拂手形	九,〇〇〇 九,〇〇〇 九,〇〇〇
使用總資産	二五,〇〇〇 二六,〇〇〇 二六,〇〇〇
固定資産	二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇
流動資産	五,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
現金預金	四,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇
【收支動向】	十年上 十一年上 十二年上
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
固定消却	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
消却率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
【業績】	十年上 十一年上 十二年上
株價(重色)	高値 安値 高値 安値 高値 安値
十年上	一〇〇 一〇〇 一〇〇
十一年上	一〇〇 一〇〇 一〇〇
十二年上	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【豫想配當】	十二年三月期 一割二分
【利息】	三月二十日調 五分
時價	新二五・〇 利週 三分九厘
【名義書換】	廿 續【新券交付】五十續

### 機械工業作業

【再び躍進期に入る】造船事業と並んで、機械工業にも再び躍進の時期が到来した。昨上期までの二、三期間は、一般に機械工作會社の受注は殆んど横這ひの状態にあつたこと前報の通りであるが、昨下期以降かうした傾向は改められて、再び顯著な増勢を現はしつつある。財政急膨脹と之に對應する生産設備の不足が漸次判明して來たからに外ならない。その効果は早くも昨下期の各機械工作會社の決算に示されてゐる。いま主要製作工業會社十七社の綜合成績に就て見ると十一年下期の利益金は千九百八萬圓に上り、十年下期及び十一年上期に比し夫々一一%及び一〇%の増加に當つてゐる。平均拂込資本の増加に拘らず、利益率また十年下期の二五%、十一年上期の二四%七に對し、十一年下期は二五%九二と稍々際立つた上昇に恵まれた。

【増益抑制作用】本年上期にもかうした増益傾向は持續される見込みである。尤も地方に於て増益を阻む材料が二、三現はれて來た。その一つは増税の實施であり、第

二は原材料の暴騰であり、第三は官廳納入品に對する單價引下である。併し、これ等の影響は輕視出來ないにしても、いまのところその爲めに機械工作會社の利益が減るとは豫想されない。増税負擔の程度は精々拂込資本の三%で、恐らくそれ以下の處が多いだらう。材料の引き上げも、元々製品相場のうち材料費の占める割合の少い斯業のことだから、問題とするに當らぬ。單價引き下げも勿論無理な程度に行はれるものではない。此等の惡材料は結局受註増で補ひ得るものと思ふ。

【増資・拂込盛行】而も前途には尙ほ受註の激増が見込まれるので、これまで警戒されてゐた擴張計畫が一齊に進められることになつて來た。各社の拂込・増資の盛行はこれを最も雄辯に物語つてゐる。本年三月末まで二ヶ月間に於ける斯業の株式拂込額は概算三千二百萬圓に上り、昨年同期の約二倍半に當つてゐる。今後は更に増加の傾向を辿らう。株價の利廻りが著しく低下してゐるのも肯かれる。但しこゝまで來ると、投資には相當慎重さを要する。

### 三菱重工業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ四(電九ノ内 三三三)

【増額増資決行】舊曆二十六日の重役會に於て、遂に倍額増資を行ふことに決定した。第一回拂込金は四分の一、總額千五百萬圓で、徵收期日は此の五月一日である。増資新株は、去る四月一日現在の株主に對し、舊株一株に對し一株の割合で割り當てられた。【増資の目的】當社の増資は久しく市場で喧傳せられて來たものだが、軍事費の急膨脹が確定的になつたのを機會に、當局者も愈々その壯も決めた譯である。此の増資々金は差し當り航空機工場(名古屋)の擴張及び自動車工場の新設費に向けられる。後者のために新に東京市蒲田區下丸子に年産三千臺の規模を持つ工場を設ける計畫で、既に工事はかなり進んでゐる。製作される自動車は大眾乗用車ではなく、ディーゼル自動車に中心が置かれる。これに約五百萬圓位の資金が入用で、航空機工場その他各工場の擴張整備費を合すると二千萬圓位は注ぎ込まねばならぬやうだ。

【七分配當不動】これら擴張、新設工場が操業するまでの間は資本負擔だけ加るが、當社の業績からすればそれも問題にならぬ。昨下期の利益率は償却金控除後でも尙ほ一割六分五厘に達してゐた。これで七分配當しかつてないのだから、裕りの程が窺はれる。但し單價引下げ、増税等もあるから、増配は行はれまい。

【設立】	大正六年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	船舶、艦艇、航空機、各種車輛、自動車、各種機械並に工品。
【資本金】	1,000,000
【株主数】	1,100
【役員】	會長 斯波孝四郎 取締役 伊集院清彦 常務 堀古 謙 千原 一三 伊藤 達三 原 耕三 元良信太郎 佐本 菊太郎 岩崎彦彌太 玉井 喬介 三好 重道 松井 小三郎 水原 伸雄 山室 宗文 川井 源八 監査 松本 松夫 大株主 (名) 三三三 二二二 二〇、五六
【大株主】	三菱合資會社 日本郵船會社 明治生命會社 第一相互生命會社 日本生命會社 千代田生命會社 東京海上 日清學園 八〇〇〇 三海上火災 八、〇〇〇 日清生命 八、〇〇〇
【事業規模】	十年下 十年上 十年中 十年下
【造船】	造船(隻) 三隻 三隻 三隻 三隻
【造船】	造船(隻) 三隻 三隻 三隻 三隻
【投資會社】	郵船、商船、東京海上保險、日本電池、日本光學、航空輸送、富士電機、日滿マゲネ其他
【資本異動】	十年十一月五〇萬圓増資(横濱船渠の現物出資による) 十二年一月倍額増資を決定、四月三回拂込徵收の豫定

【資産負債】	十二年 十一年 十年 九年
株主資本	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
外部負債	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
使用總資本	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
固定資産	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
流動資産	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
現金預金	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上 十年中 十年下
收入	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	8,000,000 8,000,000 8,000,000 8,000,000
利益	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
【業績】	九年 十年 十一年 十二年
利益	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
【株價】(東京)	高値 安値
十九年	大正 100
二十年	大正 100
二十一年	大正 100
二十二年	大正 100
【豫想配當】	十二年六月期 七分
【利息】	三月二十日調 四分五厘
時價	七九
【名義書換】	十 新券交付 五十

【名義書換】十 新券交付 五十





### 古河電気工業株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町二ノ八(電日本橋 四三七一)

【全額拂込近し】當社は去る十二月一日、第一、第二兩新株に對し、一株二十五圓、總額五百六十三萬八千圓の未拂込を徴收した。徴收資金は各工場の整備擴張、關西伸銅工場の移轉擴張等のほか社債償還等に向けられる。この拂込徴收によつて、未拂込は剩すところ僅か二百五十萬圓(第一新株一株につき十二圓半)となつた。而も此の徴收も近く行はれることは、既に昨年十二月の拂込に際して株主に豫告せられた通りである。

【増資期接近】とすれば、次いで豫想されるのは増資である。毎期相當の社内保留益があるし、社債の償還も強ち株主資本によらねばならぬ譯でもないが、利益處分の手段として問題となるだらう。殊に同業住友金屬が倍額増資を執行した場合から見て、その實現は案外早いと思ふ。或は最終拂込の決定と同時に發表されることになるかも知れぬ。

【利益激増】成績は現在の拂込資本が倍加したとして尙ほ樂に一割配當を維持し得る程よい。昨下期の如き、利益金百九十六萬八千圓と前期より更に四十七萬圓を激増した。二割七分の利益率だ。而もこれは償却金控除後のもので、實際利益率は四割を突破してゐたと推定される。これで一割配當だから餘裕あり過ぎる位だ。

【設立】 明治二十九年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 伸銅、各種電線、電機、電池、綜合金條管、板、棒、特殊塗料

【資本金】 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇

【株主數】 第一新株 (五七五) 三〇〇、〇〇〇

【重役】 社長 中川 末吉 取締役 荻野元太郎

専務 杉本五十鈴 監査 利根川三郎

常務 鈴木 元 平沼 亮三

取締役 三谷 一二 河手 亮三

長谷川健郎 佐々木敏綱

【株主數】 十年下 十年上 十年下

總數(名) 一、一三五 一、五九九 一、〇〇〇

【大株主】 古河石炭礦業(株) 古河礦業(株) 古河銀行(株)

三菱礦業(株) 古河銀行(株) 帝國生命(一) 三菱重工業(株)

【事業規模】 日光電氣精製所 横濱電線製造所

九州電線製造所 大阪電池製作所

大阪伸銅所 尼崎伸銅所

特殊塗料製造所

【投資會社】 富士電機、大日電線、日本電線、日本海底電線、東亞ベイント、横濱電線製造、日本アルミニウム其他

【資本異動】 十一年十二月三十一日拂込徴收、十二年五月三十一日拂込徴收の豫定

【資産負債】 十一年 十一年 十一年

株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 三、〇〇〇、〇〇〇

社債 三、〇〇〇、〇〇〇

借入金 八、〇〇〇、〇〇〇

使用總資本 一、〇〇〇、〇〇〇

固定資産 一、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】 十年下 十年上 十年下

收入 三、〇〇〇、〇〇〇

支出 三、〇〇〇、〇〇〇

利益 一、〇〇〇、〇〇〇

【業績】 十一年 十一年 十一年

十一年下 一、〇〇〇、〇〇〇

十一年上 一、〇〇〇、〇〇〇

十一年 一、〇〇〇、〇〇〇

【豫想配當】 十一年五月期 特二分

【時價】 三月二十日調 四分四厘

【名義書換】 十 十 十

### 株式 芝浦製作所

(本社) 東京市豊町區有樂町三信ビル(電銀座五三三番)

【十一年下期成績】設備擴張と受註増加によつて、當社の成績も好轉する一方である。十月末に締め切られた昨下期の計上利益金は二百五十萬五千圓に上り、前期よりまた五萬五千圓の増加であつて、利益率は二割八分一厘と云ふ好成绩だ。而も此の利益金は諸償却金控除後のものであつて、内面で償却した金額は百二十七萬四千圓に上つてゐた。之を加へるならば、總利益金は三百三十七萬七千圓となり、利益率は四割五分を數へる計算だ。好調を示す機械工作會社のうちでも、一寸類のない高利益率である。

【増資完了】かく成績の擧るのには、震災による痛手を思ひ切つた減資で一掃した一方、工場を現在の地に新設して能率増進を計つた結果であるが、いまでは却つて高利益率緩和の必要を感じない位だ。倍額増資を執行した一半の理由もこゝにある。増資新株に對する第一回四分の一(總額三百七十五萬圓)拂込は、去る一月末徴收された。

【今期豫想】四月末締切の今上期も引續き二千萬圓近い引渡高が豫想される。増税の負擔や材料値上りの壓迫もあるが、前期並みの利益は擧らう。勿論一割配當は安泰。一時利益率は多少下らうが、徐々に擴張工事を進めてゐるから變て舊に復さう。

【設立】 明治三十七年七月

【決算期】 四月、十月

【事業】 發電機、變壓機、配電制御機、電氣機、電機、電機、其他電氣機器

【資本金】 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇

【株主數】 新(三〇〇) 三〇〇、〇〇〇

【重役】 會長 平田篤太郎 取締役 大田豊生

常務 久保 正吉 山口喜三郎

北村 貞次 田島 繁二

安川雄之助 監査 小林 康治

黄金井晴正 吉田 正康

【株主數】 十年下 十年上 十年下

總數(名) 三〇〇 三〇〇 三〇〇

【大株主】 三井合名(一) 東京電氣(株) 三井物産(株)

日華生命(株) 山一證券(株) 天光

吉川 元光 昭和生命(株) 天光

【事業成績】 十年下 十年上 十年下

受註高(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

工場所在地 横濱市鶴見區末廣町

【關係會社】 米國G. E. と特殊關係あり

【投資會社】 特殊合金工具、大井電氣、日本碍子電業社、鶴見臨港、東京石川島造船

【資本異動】 十一年三月三十一日拂込徴收、十二年二月三十一日拂込徴收

【資産負債】 十一年 十一年 十一年

株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 三、〇〇〇、〇〇〇

社債 三、〇〇〇、〇〇〇

借入金 八、〇〇〇、〇〇〇

使用總資本 一、〇〇〇、〇〇〇

固定資産 一、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】 十年下 十年上 十年下

收入 三、〇〇〇、〇〇〇

支出 三、〇〇〇、〇〇〇

利益 一、〇〇〇、〇〇〇

【業績】 十一年 十一年 十一年

十一年下 一、〇〇〇、〇〇〇

十一年上 一、〇〇〇、〇〇〇

十一年 一、〇〇〇、〇〇〇

【豫想配當】 十二年四月期 特二分

【時價】 三月二十日調 四分七厘

【名義書換】 十 十 十

### 東京瓦斯電氣工業株式會社

(本社) 東京市大森區入新井一ノ一〇〇 (電高輪 三區)

【自動車部分離】當社は愈々自動車部を分離することになつて、詳細な内容は未發表であるが、資金百萬圓の新會社を作り、之に當社自動車部と自動車工業株式會社(石川島造船系)とを之に併合する豫定である。その出資額は、當社及び自動車工業とも千三百萬圓で、新會社出現の晩には、二千七百萬圓の資本金となる計だ。尤も當社の自動車部が千三百萬圓に評價されるわけではなく、新會社の資本金二千七百萬圓の内には六百萬圓見當の未拂込を含む豫定だ。此の未拂込額は當社と自動車工業とで折半される筈だから、兩者の現實の出資額は約一千萬圓となる。換言すれば、當社自動車部は約一千萬圓に評價される。新會社の年産能力は五、六千臺となるが、當初は年産三千臺見當だ。

【分離後の當社】自動車部は當社収益の根源だ。利益金の三割以上は之によつて齎らされた筈だ。それだけ自動車部分離後の成績は低下する。但し此の利益を差し引いても實際利益は尙ほ半期百萬圓以上擧らうから、七分配當に不安はない。而も新自動車會社は八分配當をつけ得る見込みだから、配當収入も大きい。

【拂込】四月十六日に一株廿七圓半の拂込徴收。之で全額拂込済みとなるが、増資は今年中に實現困難か。

【設立】 明治四十三年八月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 航空機、發動機、自動車、各種兵器、計器類、一般機械、火藥

【資本金】 公稱 100,000,000  
 株主数 新(113名) 100,000,000  
 株主名 新(113名) 100,000,000

【役員】 社長 松方 五郎 取締役 星子 勇  
 常務 内山 直 監査 榮國 嘉七  
 取締役 谷口 賢三郎 監査 鎌倉 春彦  
 横濱 俊 室 孝吉

【株主数】 十年下 十年上 十年下  
 株主名 (113名) 113,000,000

【大株主】 十五銀行 2,500,000 山一證券 8,000,000  
 第一鐵兵 1,000,000 阿部 3,000,000  
 東都商事 2,000,000 龜田利三郎 2,000,000  
 千代田證券 1,500,000 龜田利吉郎 1,000,000  
 王石可一 1,000,000 中村 英男 1,000,000

【事業規模】 航空用發動機並機體、兼用聯合貨物車引消防用自動車、艦船用發動機、ホイス、ト、羅針盤高度計兵器、計器類、機關銃、銃砲各種兵器、一般機械

【投資會社】 東京火藥工業、協同自動車、東京、日本エヤープレ、同和自動車

【資本移動】 十一年八月六百萬圓増資決定、十月第一回拂込十二圓五徴收、十二年四月若圓増資決定

【資産負債】 十一年 五十一月 十一年

株主資本 6,250,000 6,250,000 6,250,000  
 外部負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 借入金 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 使用總資本 7,250,000 7,250,000 7,250,000

固定資産 6,250,000 6,250,000 6,250,000  
 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【收支勘定】 十年下 十年上 十年下  
 收入 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 支出 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 利益 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【業績】 十年下 十年上 十年下  
 高値 安値 高値 高値 高値  
 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【利息】 三月二十日調 七分  
 三月二十日調 一分五厘  
 三月二十日調 四分七厘

【名義書換】 十條 【新券交付】 二十條

### 東京製鋼株式會社

(本社) 東京市日本橋區吳服町三ノ五横町ビル内(電日本橋二三一五)

【當面の興味】今上期は丁度當社の創立五十周年に當る。これを記念する爲め昨上期、下期と二期に亘り、十二萬圓宛の祝典準備金を積立てた。今期も勿論これ位の積立は充分やれる。すると都合三十六萬圓位の資金が出来るわけだ。三十六萬圓と云へば八百五十萬圓の拂込資金に對し約四分二厘に相當する。このうち社員、職工への分配、記念事業的支出等に向けられるものもあるだらう。だがそれにしても、年率三分内外、半期分として五、六分位の特配は充分つけることが出来るだらう。

【未拂込・増資か】次で、此の特配が普通配當に直されるか何うかだが、これは今の處まだ何とも云へない。が、若し記念當が一期限りならば、他方に於て未拂込、増資等の實現性が加つて來る。當社は未拂込乃至増資の決行に於ては稀に見る消極的方针を採つて來た。この點いまま變りないが、消極的年ら、小倉、川崎兩工場擴張改良施設は引續いて進行中であるし、環境も今日ではスツカリ變つてゐる。能ふ限り生産能力増大を計つてをくことが一般の風潮となつて來た。當社の拂込、増資を否定し得ぬ所以だ。

【業績】昨下期は三割九厘の利益率を収めたが、今期は製作高の増加で更に向上しよう。

【設立】 明治二十年二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 ワイヤロープ、マニラロープ、其他鋼製製品販賣

【資本金】 公稱 100,000,000  
 株主数 新(113名) 100,000,000  
 株主名 新(113名) 100,000,000

【役員】 専務 赤松 龍一  
 常務 戸村 理郎 取締役 藤田好三郎  
 取締役 深山 正 監査 野口 彌三  
 大倉 榮 大倉 組 監査 信澤 信雄

【株主数】 十年下 十年上 十年下  
 株主名 (113名) 113,000,000

【大株主】 正三三三 第百銀行 4,000,000  
 深山 正 高津伊兵衛 3,000,000  
 富國 兵衛 2,000,000 尾高合名 2,000,000  
 太陽生命 2,000,000 大倉 組 2,000,000  
 戸村 理郎 2,000,000 萬興 2,000,000

【事業規模】 工場名 敷地(坪) 建物(坪)  
 川崎工場 1,200,000 1,200,000  
 兵庫工場 1,200,000 1,200,000  
 小倉工場 1,200,000 1,200,000  
 工場別年産能力  
 鋼索類(單位) 1,200,000  
 小倉工場 1,200,000  
 川崎工場 1,200,000  
 麻綱類(單位) 1,200,000  
 川崎工場 1,200,000  
 兵庫工場 1,200,000  
 投資會社 小倉製鋼所

【資産負債】 十一年 五十一月 十一年

株主資本 3,000,000 3,000,000 3,000,000  
 外部負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 借入金 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 使用總資本 4,000,000 4,000,000 4,000,000

固定資産 3,000,000 3,000,000 3,000,000  
 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【收支勘定】 十年下 十年上 十年下  
 收入 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 支出 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
 利益 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【業績】 十年下 十年上 十年下  
 高値 安値 高値 高値 高値  
 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【利息】 三月二十日調 七分  
 三月二十日調 一分五厘  
 三月二十日調 四分七厘

【名義書換】 五條 【新券交付】 二十條

### 富士電機製造株式會社

(本社) 神奈川県川崎市田邊新田一(電川崎 電話七)

【下期成績低下】昨年十一月末締切の十一年下期決算は、採算の悪化のため、増益の豫想を裏切つて、三十三萬二千圓の減益を示した。併し、七分配當にとどめたので決算は依然餘裕あるものであつた。

【今上期は回復せん】此の四月末締切の今年上期は成績の回復が豫想される。前期の低下は全く採算の悪化に基因するもので、受託高は依然旺盛だから、仕事の選擇さへ誤らなければ、半期百五十萬圓近い利益は期待出来るのだ。去る三月一日、未拂込の残額百萬圓を全部徴収したので平均拂込資本は若干増えるが、三割臺の利益率となるから、七分配當は依然餘裕をもつて据置かれよう。

### 株式新潟鐵工所

(本社) 東京市麹町區丸ノ内南有樂館内(電丸ノ内 三三二七)

【増益増ます】當社の成績は、極めて漸徐ではあるが、好轉する一方である。十一月末に締め切られた昨下期決算では、利益金百九千圓を計上した。前期より三萬五千圓の増加である。計上利益には勿論手心が加へられてゐるやうから、これだけで比較するは當を得ないが、増益の傾向を持続してゐることは争はれぬ。それであつて配當は一割据え置きなのだから、内容は充實する許りだ。尤も九月下旬五十萬圓の最終拂込を徴収したから、右の計上利益金では約二分の利益率低下となるが、それでも尚ほ三割五分強に當るのだから、素晴らしい成績だ。

【増資後の方向】此の利益率調節の意味も含めて、四百萬圓を増資して資本金一千萬圓としたこと前報の通りだ。その第一回拂込百萬圓は去る三月初徴収された。増資金は過半を蒲田工場のダイヤル機製造設備の擴張に、残りを新潟、長岡、柏崎三工場の擴張整備に充當する。此等の擴張は一、二年間に完成の豫定だから、未拂込は次々と徴収されることにならう。

【業績益々好望】最近原料鐵鋼の昂騰が著しく、採算に懸念を抱かせてゐるが、賣値の高い工作機械類にあつては大して問題とはならぬ。擴張設備の運轉と共に収益の基礎は一層安固となる。

【設立】	大正十二年八月
【決算期】	四月、十月
【事業】	交流直流電動機、變壓機、配電盤、各種電氣機器
【資本金】	10,000,000
【株主数】	100,000
【重役】	社長 吉村萬治郎、常務 梶山秀男、取締役 和田恒輔、中川末吉、松本五十鈴、中上川四郎、名取和作、三浦三郎、三浦三郎、三浦三郎
【大株主】	古河電工 2,500,000、三井物産 2,000,000、三井物産 2,000,000、三井物産 2,000,000、三井物産 2,000,000、三井物産 2,000,000、三井物産 2,000,000、三井物産 2,000,000
【工場所在地】	川崎市
【生産能力】	交流電動機 10,000台、直流電動機 10,000台、變壓機 10,000台、配電盤 10,000台
【投資会社】	十年六月電話機製造部を獨立せしめ通信機製造専門の富士通信機製造を創立(資本金六百萬圓)十二年三月五回拂込徴収

【資産負債】	十一年四月 十一年十月 十一年十二月
株主資本	6,100,000 6,100,000 6,100,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	7,100,000 7,100,000 7,100,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	6,100,000 6,100,000 6,100,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十年下 十一年上 十一年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【配當】	十年下 十一年上 十一年下
配當	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時価】	三月二十日調 八分
【名義書換】	十 十 十

【設立】	明治四十三年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	機械車輛小形船製作
【資本金】	10,000,000
【株主数】	100,000
【重役】	社長 佐村吉郎、取締役 山口八次、専務 長島吉次郎、取締役 橋本三太郎、取締役 橋本三太郎、取締役 橋本三太郎、取締役 橋本三太郎、取締役 橋本三太郎、取締役 橋本三太郎、取締役 橋本三太郎
【大株主】	山口誠太郎 10,000,000、西脇合名 5,000,000、日本石油 3,000,000、日華生命 2,000,000、中野興業 2,000,000、三井物産 2,000,000、大塚興業 2,000,000、本間 2,000,000、新島 2,000,000
【工場】	新潟工場、工作機械、鐵道車輛、船舶、發動機、汽機汽鍋、製油機械、柏崎工場、製油機械、鐵道車輛、東京蒲田工場、ダイヤル機製造
【受託高】	十一年上 十一年下
【資本異動】	十一年三月、九月、拂込各一、二四五萬圓(全額拂込済)。十一月四〇〇萬圓増資決定。十二年二月第一回一、二四五萬圓増資徴収

【資産負債】	十一年五月 十一年十一月
株主資本	7,000,000 7,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000
使用總資本	8,000,000 8,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000
固定資産	7,000,000 7,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十年下 十一年上 十一年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【配當】	十年下 十一年上 十一年下
配當	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時価】	三月二十日調 五分
【名義書換】	十 十 十



### 大阪製鎖造機株式會社

(本社) 大阪市此花區春日出町上五丁目二九(電土佐場三九一)

【拂込徴収】去る二月二十七日一株十五圓總額百二十萬圓の拂込を徴収した。これは主としてディゼルエンジン、化學工業用機械の増産設備費に充當されるが、一部は運轉資金にも廻はされる。

【減配】昨年同期は二分減配して八分配當に改めた。成績をみるに強ひて減配する必要もなかつた筈であるが、對軍部關係を考慮し、思切つて減配したのである。

【八分配當安泰】懸案の溝口齒切工場買収は去る一月十九日に正式決定した。買収価格は四百萬圓で、この代金は一部を興銀から借り一部は内部保留金で支出した。溝口工場は從來半期に約三十萬圓の利益を収めてゐた。今後もそれ以下に減ることはないだらう。とすると當社は同工場買収によつて新に半期二十萬圓(買収代の金利を控除)の純益が加はる筈だから、拂込徴収後と雖も八分配當は頗る安泰だ。

【拂込徴収】ディゼルエンジンの成績がよければ、當社は更に増産の方針を持つてゐるから、或は下期になるとまた拂込を徴収することになるかも知れない。當社は政策的に當分増配しない方針だから、その代り續々拂込を徴収して他面には利益率の調節を計る手段とすることになるだらう。

【設立】	明治三十七年八月	【決算期】	六月、十二月
【事業】	船舶用鎖額、昇降機其他製作	【資本金】	公稱 七、〇〇〇、〇〇〇 拂込 三、〇〇〇、〇〇〇
【株数】	新(五〇〇) 六、〇〇〇、〇〇〇 舊(三〇〇) 三、〇〇〇、〇〇〇	【重役】	社長 清水福太郎 取締役 角田 勝治 支那人 磯谷 實 監査 中村 準策 取締役 山岡 俊 監査 水田由次郎
【大株主】	廣海三三郎 二、〇〇〇、〇〇〇 古田 敬徳 四〇〇、〇〇〇 山岡 耕一 一、〇〇〇、〇〇〇 川上 同族 三〇〇、〇〇〇 井手 種藏 一、〇〇〇、〇〇〇 千原 國作 一〇〇、〇〇〇 藤村 五郎 一、〇〇〇、〇〇〇 中村 準策 一〇〇、〇〇〇 藤村 五郎 一、〇〇〇、〇〇〇 治郎 一〇〇、〇〇〇	【事業規模】	大阪市春日出町本工場 工場所在地 大阪市春日出町本工場 大阪市神奈川分工場 横濱市神奈川分工場
【主要設備】	オルセン型鎖額試験機(四〇〇) 一基 ハクント型 一基 六時鐘高速鎖額機(四〇〇) 一基 鎖額機(年産能力) 一、〇〇〇、〇〇〇 事業高千圓 十年下 十年上 十年下 事業益(千圓) 十年下 十年上 十年下 事業益(千圓) 十年下 十年上 十年下	【資本異動】	十一年七月四百萬圓増資十 二四五拂込徴収
【資産負債】	十二年六月 十一年十二月	【株主資本】	十二年六月 十一年十二月
株主資本	四、一八二、〇〇〇	株主資本	四、一八二、〇〇〇
外部負債	一、八二二、〇〇〇	外部負債	一、八二二、〇〇〇
使用總資本	五、九〇四、〇〇〇	使用總資本	五、九〇四、〇〇〇
流動資産	三、三三三、〇〇〇	流動資産	三、三三三、〇〇〇
固定資産	二、五七一、〇〇〇	固定資産	二、五七一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十年下	【收支動向】	十年下 十年上 十年下
収入	三、〇〇〇、〇〇〇	収入	三、〇〇〇、〇〇〇
支出	二、〇〇〇、〇〇〇	支出	二、〇〇〇、〇〇〇
【業績】	九年下 九年上 十年下 十年上	【業績】	九年下 九年上 十年下 十年上
利益	一、〇〇〇、〇〇〇	利益	一、〇〇〇、〇〇〇
【株價】	高値 安値 高値 安値	【株價】	高値 安値 高値 安値
九一年	高値 安値	九一年	高値 安値
十一年	高値 安値	十一年	高値 安値
十一年	高値 安値	十一年	高値 安値
【名簿書換】	十五錢	【名簿書換】	十五錢

### 株式 大阪機械工作所

(本社) 大阪市淀川區豐崎西通一ノ四(電北三〇〇)  
(出張所) 東京市京橋區銀座西七ノ三(資生堂ビル内)(電銀座八三)

【二分増配】去る十一月末に締切つた十一年下期決算に於て、二分増配の一割配當を行つた。いふまでもなく業績が順調であつたから、利益金は四十四萬二千圓と、前期に比し八萬圓を増加した。従つて對拂込資本利益率も二割六分六厘に向上し、一割配當には充分の裕りを示した。

【拂込徴収】去る十二月一日、一株につき十二圓半、合計八十四萬四千圓の拂込みを徴収した。これは豫ねてより工事中の擴張設備資金に充當した。即ち加島工場内に、一千坪の内燃器並びに工作機械工場を擴張したのがそれで、工事は既に去る二月十五日に完成した。今後はこの擴張設備が業績に寄與して行く。

【前途好調】而も當社の主製品たる紡績、人相用機械の受注は依然旺盛で、更に内燃器、軍需品、電動機、量水器、工作機械等の製作も繁忙を呈してゐるから、前途は益々好調が期待される。

【最終拂込】當社は更に加島工場内の新擴張工場の隣接地に、七百坪の航空機用發動機の部分品製作工場を擴張中である。今後はこの發動機の製造に進出するわけだ。更にディゼル自動車の製作も計畫中だから、かゝる擴張のために最終拂込が遠からず徴収されよう。そして先行き増資が期待される。

【設立】	大正四年十月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績用紡機及人相毛織用機械 量水器、ロード、ローラ、OK式日 動機、軍需品、内燃機、冷凍機	【資本金】	公稱 五、〇〇〇、〇〇〇 拂込 三、〇〇〇、〇〇〇
【株数】	新(五〇〇) 三、〇〇〇、〇〇〇 舊(五〇〇) 三、〇〇〇、〇〇〇	【重役】	社長 原 清明 取締役 星住龍次郎 取締役 渡邊 節 監査 範多鹿平 土屋 藤九 田島勝太郎
【大株主】	同生株式會社 八七〇 範多鹿太郎 七、一〇〇 竹中 治三 高木商店 一、五〇〇 原 清 明 鴻池信託 八七〇	【事業規模】	大阪市豐崎町本工場 工場所在地 加島分工場
【主要設備】	工場設備 パワーミラー 一臺 ブラノミラー 一臺 高速旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺	【資本異動】	十一年一月三圓半、十一年十 二月三圓五拂込徴収
【資産負債】	十一年五月 十一年十一月	【株主資本】	十一年五月 十一年十一月
株主資本	三、〇〇〇、〇〇〇	株主資本	三、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇	外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	四、〇〇〇、〇〇〇	使用總資本	四、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	二、〇〇〇、〇〇〇	流動資産	二、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	二、〇〇〇、〇〇〇	固定資産	二、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十年下	【收支動向】	十年下 十年上 十年下
収入	三、〇〇〇、〇〇〇	収入	三、〇〇〇、〇〇〇
支出	二、〇〇〇、〇〇〇	支出	二、〇〇〇、〇〇〇
【業績】	九年下 九年上 十年下 十年上	【業績】	九年下 九年上 十年下 十年上
利益	一、〇〇〇、〇〇〇	利益	一、〇〇〇、〇〇〇
【株價】	高値 安値 高値 安値	【株價】	高値 安値 高値 安値
九一年	高値 安値	九一年	高値 安値
十一年	高値 安値	十一年	高値 安値
十一年	高値 安値	十一年	高値 安値
【名簿書換】	十五錢	【名簿書換】	十五錢







### 豊田式織機株式會社

(本社) 名古屋市西區春日井新川(電 三三一)

【子會社開放】當社は子會社昭和重工業(舊名金城興業)株を開放した。昭和は資本金三百萬圓、内七十五萬圓拂込みで、株式は全部豊田で所有し、事業は紡機關係品を製作してゐた。今回豊田はその持株の大部分を自社の株主に無償交付すると共に(特配四分を中止した代償として)同社の社名を昭和重工業と改稱し、また事業も紡機關係品から軍需品製作に轉換した。而も昭和の株式を交付する條件として豊田は今年上期以降三ヶ年間昭和の株式に對し最低六分の配當保證をすることになつてゐる。豊田が昨年下期に昭和重工業配當準備金として廿五萬圓を自己の計算で積立したのはその爲だ。斯くて昭和重工業は豊田より開放された譯である。

【成績良好】豊田の上期は三月末締切りであるが、成績は大體順調の模様だ。即ち新工場が完成したので製品引渡高は相當増加し、従つて利益金も大體百二十萬圓位は收めるだらうと豫想される。すると利益率は二割六分となる。

【増配】八分配當は頗る餘裕があるから、増配が問題とならう。當局者は將來配當を一割位にし度い意向を持つてゐるようだ。恐らく近く二分増配を斷行するものと推測してゐるが、假りに上期見合はせるとしても下期になれば問題なく一割配當が實現しよう。

【自動車部擴張】當社事業の中心は、自動織機、精紡機、梳棉機等の製作から自動車の製作に移つてゐる。自動車製作に乗り出したのは昭和九年だが、昨年八月にはシボレー型大衆車の製作を完成し、現在では月産三百臺の生産能力を擁するに至つた。

【上期減配か】併し現在の規模では、まだ充分算盤に合はない。現在の賣値では一臺三、五百圓見當の損勘定になつてゐる様だ。之を自動織機その他在來の事業収益を以て補はねばならぬ譯だが、仲々そうは行かない。殊に自動車製作に乗り出してから九年三月、十年八月、十一月十月と三回も増資を重ねてゐるので、資本負擔が頗る荷重だ。去る三月期決算は未發表で幾何の利益を計上するか未詳だが、結局恒例の八分配當は減ぜられるものと思ふ。

【自動車部分離】前記の通り現在の自動車生産能力では不充分なので、月産五百臺に擴張する。が、それにはまた最少限一千萬圓の資金を要するので、三井の後援を得て一千五百萬圓の新會社を創立し、當社現在設備を九百萬圓見當で之に分離併合せしめる豫定。その後配當開始期を俟つて株式を一般に開放する筈だ。

【分離後】自動車部分離後の當社はまた三百萬圓見當の資本金に縮小され、從來の事業収益で八分配當に復歸することにならう。

### 株式 豊田自動織機製作所

(本社) 愛知縣碧野郡刈谷町大字旭字油木(電刈谷 三三一)

【設立】 明治四十年二月

【決算期】 三月、九月

【事業】 紡機並織機の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇,〇〇〇  
 拂込 六〇,〇〇〇

【株主】 新(三三) 二〇〇,〇〇〇  
 常務 野崎誠一 監査 益田 信世  
 取締役 中村 幸助 菊地 辰雄  
 川崎 隆 相談 齋藤 恒三

【大株主】 十年下 十年上 十年下  
 三井物産 二,〇〇〇 谷口豊三郎 八,〇〇〇  
 山崎 安正 三〇〇 兼松 照 二,〇〇〇  
 日本火災 二,〇〇〇 山口支合資 二,〇〇〇  
 岩田商事 二,〇〇〇 近江屋商會 一,〇〇〇

【事業規模】 工場 本社工場、新川工場、大阪工場  
 製造能力(年産) 廣幅織機(人絹織機共) 一〇〇,〇〇〇臺  
 小絹織機 一〇〇,〇〇〇臺  
 紡機機械(人絹紡機共) 一〇〇,〇〇〇臺  
 準備機械 一〇〇,〇〇〇臺  
 毛紡紡機機械 一〇〇,〇〇〇臺

【事業成績】 十年下 十年上 十年下  
 製作資金(千圓) 一,〇〇〇 一,一〇〇 一,〇七〇  
 販賣資金(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇

【資本異動】 十年十二月、十一年五月、各  
 一、二圓五拂込徴収、六月借換増資決定、  
 十一月第一回拂込一、二圓五徴収。

【設立】		大正十五年十一月
【決算期】		三月、九月
【事業】		自動織機、精紡機、梳棉機、自動車、製鋼業
【資本金】		公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込 六〇,〇〇〇
【株主】		新(三三) 二〇〇,〇〇〇
【大株主】		十年下 十年上 十年下 三井物産 二,〇〇〇 谷口豊三郎 八,〇〇〇 山崎 安正 三〇〇 兼松 照 二,〇〇〇 日本火災 二,〇〇〇 山口支合資 二,〇〇〇 岩田商事 二,〇〇〇 近江屋商會 一,〇〇〇
【事業規模】		工場 本社工場、新川工場、大阪工場 製造能力(年産) 廣幅織機(人絹織機共) 一〇〇,〇〇〇臺 小絹織機 一〇〇,〇〇〇臺 紡機機械(人絹紡機共) 一〇〇,〇〇〇臺 準備機械 一〇〇,〇〇〇臺 毛紡紡機機械 一〇〇,〇〇〇臺
【事業成績】		十年下 十年上 十年下 製作資金(千圓) 一,〇〇〇 一,一〇〇 一,〇七〇 販賣資金(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【資本異動】		十年十二月、十一年五月、各 一、二圓五拂込徴収、六月借換増資決定、 十一月第一回拂込一、二圓五徴収。

【資産負債】		十	十	十
株主資本		九、六八五	九、六八五	九、六八五
外部負債		八、〇〇〇	七、九〇〇	九、〇〇〇
使用總資本		一七、六八五	一七、五八五	一八、六八五
流動資産		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
固定資産		七、六八五	七、五八五	八、六八五
現金預金		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
【収支勘定】		十年下	十年上	十年下
収入		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
支出		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
【業績】		十年下	十年上	十年下
利益		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
【株主】		高値	安値	高値
【利息】		三月二十日調	三月二十日調	三月二十日調
【名義書換】		二十圓	【新券交付】	五十圓

【資産負債】		十	十	十
株主資本		九、六八五	九、六八五	九、六八五
外部負債		八、〇〇〇	七、九〇〇	九、〇〇〇
使用總資本		一七、六八五	一七、五八五	一八、六八五
流動資産		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
固定資産		七、六八五	七、五八五	八、六八五
現金預金		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
【収支勘定】		十年下	十年上	十年下
収入		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
支出		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
【業績】		十年下	十年上	十年下
利益		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
【株主】		高値	安値	高値
【利息】		三月二十日調	三月二十日調	三月二十日調
【名義書換】		二十圓	【新券交付】	五十圓

### 株式 田中機械製作所

(本社) 大阪市港區瓦無川北通三丁目二〇(電西三三)

【好調】去る九月末締切の十一年下期決算では、三十萬三千圓の利益金を擧げ、對拂込資本利益率も四割一分八厘を示した。配當は一割五分に据置いたが、決算には充分の餘裕があつた。尤もこれを前期に比較すると、採算がやや低下した、め六千圓の減益となつてゐるが、しかし悲觀する必要はない。と云ふのは、前期は明糖よりの大口受注があつたが、この引渡高の中に機械の据付に伴ふ建築費を含めたため、経費が嵩むことになつたので、これは寧ろ異例だ。

【内容充實】内容は益々充實し、資本構成を見ても、昨年九月末の株主資本は二百三十八萬一千圓に達し、外部負債は僅かに三十六萬一千圓を數へるに過ぎない。また固定資産も五十六萬九千圓で、株主資本の四分の一にも當つてゐない。

【前途順調】當社の前途は引き続き順調が期待される。まづ此の十二年三月期への繰越受注高は、既に百七、八十萬圓に達してゐるし、更に設備の擴張・改善による生産能力の増大が加はつてくるからだ。増税負擔は大きい、これは受注増で樂に補ひがつかう。何分一割五分と言へば相當の高率配當だから、一概には斷じ得ないが、現状からすればその持続には不安ない。

【設立】	大正八年十二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	製糖用、化學工業用諸機械、荷揚及輸送機、電機、鑄造類
【資本金】	公稱 一、〇〇〇,〇〇〇 新 〇(〇)
【株主】	新 〇(〇)
【役員】	社長 岸田東次郎 取締役 田中治之助 常務 渡本芳友 監査 重盛二三 多々良常吉 江崎政忠
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 株主名 三三 三三
【大株主】	鴻池信託 六三〇 鴻池合名 三〇〇 日本生命 〇〇〇 岸田東次郎 三三〇 木下 茂 一七〇 戸澤 武 一〇〇 多々良常吉 一〇〇 湯淺 九市 一〇〇
【事業規模】	工場敷地 〇,〇〇〇坪 工場 〇,〇〇〇坪 職工數 〇,〇〇〇人
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 繰越受注高(千圓) 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 当期受注高(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 引渡高(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 受注率(%) 三三 三三
【資本異動】	昭和九年四月百七十五萬圓を増資第一回拂込十二圓五割收、十年五月村上鐵工所を買収、十一年四月七日五、七月二回拂込徴収
【資産負債】	十年下 十一年上 十一年下 株主資本 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 外部負債 〇 〇 〇 借入金 〇 〇 〇 支拂手形 〇 〇 〇 使用總資本 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 固定資産 〇 〇 〇 流動資産 〇 〇 〇 現金預金 〇 〇 〇
【株主】	十年下 十一年上 十一年下 株主名 三三 三三
【業績】	十年上 十一年上 十一年下 利益 〇 〇 〇 配當 〇 〇 〇
【株價】	(高値) 安値 十一年 〇 〇 十二年 〇 〇
【豫想配當】	十二年五月期 九分
【利息】	三月二十日調 四分六厘
【名義書換】	十 續【新券交付】三十續

### 株式 滿洲工廠

(本社) 滿洲國奉天大東邊門外(電奉天三三)  
(支店) 大阪市東區備後町第二野村ビル(電本局二五)

【増資】當社は現在の資本金四百八十萬圓に對し五百二十萬圓を増資することになつた。即ち増資後の資本金は一千萬圓となる。この増資は當社自體の擴張費及び過般池貝鐵工所と共同出資で創立した滿洲機械工業(資本金百萬圓。内五十萬圓拂込)への投資々金調達のためだ。事業の擴張は、滿洲國政府及び滿鐵の各種産業開發計畫に應ずるため一段と必要になつて來たのである。

【業績順調】最近の業績は概して良好で、昨年同期の如きも利益金は四十一萬五千圓に達し上期より十萬圓餘の増益を示した。拂込資本増加のため利益率は一割八分となり上期より二分八厘方低下したが、九分配當の持続には無論問題なかつた。前途に對しては一部に悲觀的觀察をなしてゐるものがあるが、然しその主たる理由とされてゐる同業會社出現による影響は、滿洲國産工業界の實狀を認識すれば問題とするに足らぬだらう。又原料鐵の騰貴は一應問題になるが、これも當社は急騰前に今年一杯位の手當をしてゐるから當分心配要らない筈だ。寧ろ擴張後の業績には期待しうる所少なくなく、増配も期待しうる情勢にある。

【増配・拂込】即ち今期一分増の一割配當はほゞ確實。又資金の必要からして近く第二回の拂込も行はれる見込みだ。

【設立】	昭和九年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	車輛製造修理、鐵塔、橋梁、鐵骨其他鐵工品、一般鐵造品
【資本金】	公稱 一、〇〇〇,〇〇〇 新 〇(〇)
【株主】	新 〇(〇)
【役員】	社長 山本 盛正 事務 根本富士雄 取締役 伊藤知頼介 取締役 小林長時 監査 奥村慶太郎 山田多計治 渡野 榮一
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 株主名 三三 三三
【大株主】	根本富士雄 七〇〇 野村合名 六〇〇 大阪商店 三〇〇 奥村慶太郎 三〇〇 野村 徳七 三〇〇 今中 正巳 三〇〇 岩永雨之助 三〇〇 黒川商店 一〇〇 山本 盛正 一七〇 長谷川 興太郎 一〇〇
【事業規模】	工場所在地 奉天市 工場敷地 〇,〇〇〇坪 工場 〇,〇〇〇坪 職工數 〇,〇〇〇人
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 繰越受注高(千圓) 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 当期受注高(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 引渡高(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 受注率(%) 三三 三三
【資本異動】	昭和九年五月資本金百五十萬圓を以て創立、十年二月百五十萬圓増資、十一年六月百八十萬圓を増資
【資産負債】	十年下 十一年上 十一年下 株主資本 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 外部負債 〇 〇 〇 借入金 〇 〇 〇 支拂手形 〇 〇 〇 使用總資本 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 固定資産 〇 〇 〇 流動資産 〇 〇 〇 現金預金 〇 〇 〇
【株主】	十年下 十一年上 十一年下 株主名 三三 三三
【業績】	十年上 十一年上 十一年下 利益 〇 〇 〇 配當 〇 〇 〇
【株價】	(高値) 安値 十一年 〇 〇 十二年 〇 〇
【豫想配當】	十二年五月期 九分
【利息】	三月二十日調 四分六厘
【名義書換】	十 續【新券交付】三十續

### 東洋工業株式会社

(本社) 廣島縣安藝郡府中村(電廣島五二五〇ノ二)  
(出張所) 東京市京橋區人形町三丁目稻垣ビル内(電京橋町四三三)

【増資断行】昨十一月二十六日の定時株主總會に於いて、資本金二百萬圓を五百萬圓に増加することに決定し、その第一回拂込一株につき十二圓半、合計七十五萬圓を、去る三月一日に徴收した。この増資はいふまでもなく、自動三輪車を始め鑿岩機、工作機械等の増産を行ふ一方、更に自動四輪車の製作にも進出するためである。

【第二回拂込】そこで廣島縣安藝郡府中村の本社工場に隣接した埋立地一萬五千坪を購入し、此の四月頃より工場建設に着工する豫定だ。竣功は年内の見込みで、これが完成後は一齊に増産が實現する譯だ。この擴張資金調達のため、更に第二回の拂込を、來る十一月頃に徴收すること、ならう。

【増資後も順調】増資後にも不安はない。といふのは、業績が依然順調を辿つてゐるからだ。例へば去る十一月末締切の決算を見ても、利益金は前期より三萬圓を増加して、二十二萬二千圓を數へた。對拂込資本利益率にして二割二分三厘だ。一割配當には餘裕ある決算である。尤も一方に於て、資本負擔が増加するし、今後は増税の影響も加はるが、しかし擴張部分が業績に寄與して行くから大勢は依然樂觀的で、現行配當の持續は可能。

【設立】	大正九年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	自動三輪車、軍用機械類、コルク製品、鑿岩機
【資本金】	公稱 500,000 拂込 212,500
【株主数】	新(212,500) 2,000 舊(500,000) 4,000
【重役】	社長 松田重太郎 取締役 松田重太郎 取締役 野口 監査 杉本政平
【大株主】	野口 1,000 野口 1,000 松田重太郎 4,000 日本窒素 4,000 松田 恒天 1,000 備前銀行 1,000 香川 正彦 800 香川 香 500 松田 宗彌 500 杉本 政平 500 松田 宗彌 500 鈴木 榮助 500
【事業規模】	工場敷地 6,000坪 工場 5,000坪 職工數 200名 生産能力(年産) 自動三輪車 1,000臺 コルク製品 1,000千圓
【資本異動】	十二年三月二日圓五拂込徴收

【資産負債】	十一年 五十一 十一年
株主資本	3,200 3,200 3,200
外部負債	1,200 1,200 1,200
借入金	1,200 1,200 1,200
支拂手形	200 200 200
使用總資本	4,400 4,400 4,400
固定資産	2,800 2,800 2,800
流動資産	1,600 1,600 1,600
現金預金	900 900 900
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000
固定消却	1,000 1,000 1,000
消却年率	10% 10% 10%
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	22,200 22,200 22,200
【理想配當】	十二年三月期 一割
【利息】	三月二十日調 七分一厘
【名義書換】	十一年 五分一厘

### 日本車輛製造株式会社

(本社) 名古屋市南區熱田東町字梅ノ木三三(電南三三)  
(支社) 東京市麹町區丸の内二ノ九ビル内(電丸ノ内九一三)

【好成績】昨年十一月末締切の十一年下期決算は、引き続き頗る好成績であつた。利益金は前期より十七萬四千圓を増加して、百七十九萬六千圓に達した。従つて對拂込資本利益率もまた、前期に比し四分八厘を向上して、五割五分三厘といふ高率を示した。配當は一割に据置いたが、それだけ決算は充分の餘裕があつた譯で、社内保留率は七割八分六厘といふ優秀さだ。

【拂込徴收】去る二月一日、新株一株につき十圓、合計百萬圓の拂込みを徴收した。手許を潤澤とするためである。當社はこれ迄拂込徴收の外に社内保留金を以て、設備の擴張を行つてきた爲め、手詰りとなつてゐるからだ。即ち東京支店工場では、製鐵工場を取毀して、自動車工場を建設したし、名古屋本店工場に於ても、製鐵工場の擴張を行つた。之らは既に竣工済。

【前途も好調】前途は車輛界が依然繁忙を續けてゐる上に、前記の擴張部分が業績に寄與してくるから益々好調が期待される。尤も他方に於て、増税の影響が看過されないし、また拂込徴收による資本負擔の増加も加はる。しかし増税負擔がかなり大きくとも、當社の現在の業績並びに内容では、配當の壓迫とはならない。現行一割配當には素より安定性がある。

【設立】	明治二十九年八月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種車輛、自動車、鐵道用品、その他諸機械製造
【資本金】	公稱 100,000,000 拂込 79,600,000
【株主数】	新(79,600,000) 100,000 舊(100,000,000) 100,000
【重役】	社長 三浦 勇佐 取締役 後藤 英一 取締役 岩崎 三郎 取締役 青柳 一太郎 取締役 三輪喜兵衛 取締役 門野重九郎 取締役 天野 文司
【大株主】	天野 春一 1,000 大倉組 1,000 後藤 幸三 1,000 伊藤忠合名 1,000 三輪 定助 1,000 名古屋銀行 1,000 第百銀行 1,000 第一相互 1,000
【事業規模】	工場所在地: 名古屋、東京、各種機械車、各種自動車、各種客車、各種貨車、各種電車、各種客車、各種貨車、各種電車
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 製造高(圓) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 製造益(圓) 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【投資會社】	大連機械製作所、名古屋自動車製作所、同和自動車工業其他
【資本異動】	十一年二月二日圓五拂込徴收 十二年二月一〇日圓拂込

【資産負債】	十一年 五十一 十一年
株主資本	2,200 2,200 2,200
外部負債	1,200 1,200 1,200
使用總資本	3,400 3,400 3,400
固定資産	2,800 2,800 2,800
流動資産	600 600 600
現金預金	300 300 300
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	1,800 1,800 1,800
支出	1,800 1,800 1,800
固定消却	1,000 1,000 1,000
消却年率	10% 10% 10%
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	174,000 174,000 174,000
【理想配當】	十二年五月期 一割
【利息】	三月二十日調 五分一厘
【名義書換】	五 五分一厘



### 理研ピストリング株式会社

(本社) 東京市豊町區有樂町一ノ二常務生命ビル内(電報掛 六三三)

【創立来の好成績】飛行機、自動車等の新興事業躍進に伴つて、ピストリングの需要は増す一方である。これにつれて當社の成績も素晴らしく、本年二月末に締切つた當社の利益金はまた新記録を劃した。即ち當期の計上利益は三十三萬五千圓と前期より更に四萬九千圓の向上を現はしてゐる。昨年十二月初新株一株につき十二圓半、總額百十萬圓の拂込を徴收したので利益率は低下したが、それでも尙二割六厘だ。

【収益更に加らん】今期は更に収益の増加が見込まれる。前期には新設の東京王子工場がまだ殆んど業績に寄與しなかつたが、今期からは期を通じて操業される。柏崎、柿崎兩工場の擴張分も矢張り収益を生むのは今期からだ。而もピストリングの需要は増す計りだ。殊に當社製品は過半が陸海軍方面に納められる爲め、今年度豫算膨脹に惠まれる處が多い。

【拂込徴收接近】前述の如く昨年十二月第二回拂込を徴收したが、これだけでは間に合はず、爲めに四百五萬圓と拂込資本を超過する借入金を負つてゐる。このうち一部は社債化されるとしても、第三、第四回の拂込は近い。増資も遂て實現の機運にある。新株には興味を持たれる。

【設立】	昭和九年三月
【決算期】	二月、八月
【事業】	ピストリング、工作機械、エナメルカンター、金銀、銅、鋳鋼
【資本金】	新五〇〇,〇〇〇
【株数】	新五〇,〇〇〇
【重役】	社長 大河内正敏 取締役 岡田 秀吉 井田 榮造 矢部 又吉 岩崎 恒二郎 山田 多計治 林 達一 岩崎 恒二郎 林 達一
【大株主】	新五〇,〇〇〇
【事業規模】	新設工場 新設工場 新設工場
【投資】	新設工場 新設工場 新設工場
【投資】	新設工場 新設工場 新設工場

【資産負債】	二十一年	二十二年
株主資本	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
外部負債	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
借入金	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
支拂手形	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
使用總資本	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
流動資産	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
固定資産	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
現金	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
【収支】	二十一年	二十二年
収入	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
支出	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
【利益】	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
【名義書換】	三十	三十

### 株式栗本鐵工所

(本社) 大阪市大正區新庄町七七(電報掛 二六〇一)

【業績】 當社の去る十月末に締切つた十一年下期決算は、や、停滞を免れなかつた。即ち利益金は二十五萬三千圓と、前期に比し一萬圓の減少となり、従つて對拂込資本利益率も、一割三分九厘に低下した。が然し配當は八分だから決算には無理はない。

【停滞の原因】 かゝる業績の停滞は、元々主業たる鑄鐵管の製造は収益力が低い上に、原料難に禍されたが爲めである。また機械工場の擴張を行つたので、機械部の生産能力が妨げられたことも看過されてはならない。しかしながら製造費の節約に成功を収め得たので結局一萬圓の減益に止めることが出来た。

【前期が底】 當社の業績もこれを底として、今後は漸次立直りに向ふ筈だ。と言ふのは前記の擴張設備が運轉を開始してくるし、化學工業用諸機械の製作にも努力してゐるからである。ただこゝ暫くはまだ材料統の入手難があるかも知れぬが、もう大したことはない。

【内容改善】 努力の結果當社の内容は次第に改善されてきた。その點は買つてよい。固定資産額はなほ増加を示してゐるが、これは工場擴張の結果で、償却が不充分だつたからでは決してない。特許權、借地權等は引續き減少してゐる。

【設立】	昭和九年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鑄鐵管、鑄物、セメント製造、鑄造、鑄山用、化學工業用諸機械
【資本金】	新五〇〇,〇〇〇
【株数】	新五〇,〇〇〇
【重役】	社長 栗本勇之助 取締役 足田 輝雄 栗本 三郎 前島 孫太郎 高梨 善治 津田 勝五郎 加納 川俊一 片岡 安 中村 健吾 木村 敬二郎
【大株主】	新五〇,〇〇〇
【事業規模】	新設工場 新設工場 新設工場
【投資】	新設工場 新設工場 新設工場
【投資】	新設工場 新設工場 新設工場

【資産負債】	二十一年	二十二年
株主資本	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
外部負債	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
借入金	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
支拂手形	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
使用總資本	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
流動資産	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
固定資産	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
現金	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
【収支】	二十一年	二十二年
収入	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
支出	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
【利益】	三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
【名義書換】	三十	三十

### 日本精工株式会社

(本社) 東京市品川區東大崎二ノ三六三(電高輪 八三二)

【當社の特殊性】日本精工は資本金五百萬圓、内拂込三百廿五萬圓の中流會社だが、業績内容とも良い。當社製品たるベアリング、スチール・ボールは、九割内外まで軍部へ納めて居る。我國のベアリング事業は未だ規模が小さく、年需要額一千四、五百萬圓のうち七百萬圓前後は尙ほ外國からの輸入品によつて占められて居る。當社の外に、東洋ベアリング、光洋精工、S・K・I製作、藤原製作等の同業會社があるが、規模が小さく、其の中の或るものは製品の品質も劣る。當社が軍部の受註を一手に引受けて居る所以だ。

【業績は尙ほ好轉】前述の様な特殊性をもつから、業績が悪からう筈はない。去る十一月末に締切つた十一年下期決算に於て、利益金三十萬圓を越へ、利益率二割七分六厘に達する。前期より一分程上昇してゐる。去る三月一日、新一株に付十二圓五十錢、總額百七萬五千圓の拂込を徴収したが、勿論一割配當は過ぎもせぬ。軍事豫算の膨脹で、繁忙は未だ續くが、假りに一應それが下火になつたとしても、民間航空事業、自動車工業の發展は必至だし、それに伴つて當社製品の需要も減少する憂はないわけだ。

【増資か】情勢右の如くて、近く増資の運びとならう。

【設立】 大正五年十一月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 ボール及ローラーベアリング、スチールボール、諸機械部分品

【資本金】 資本金 500,000 圓

【株主数】 第一新(三〇) 500 圓

【重役】 社長 高橋 是賢 取締役 宮司 謙次

常務 多胡 秀敏 監査 安松 俊雄

取締役 山口 武彦 杉浦宗三郎

近藤 靜郎 日置 秀雄

株主(名) 天宮 三三 八元

【大株主】 高橋 是賢 八七五 安田銀行 八〇〇

高砂企業 三〇〇 山口 武彦 一〇〇

望月 乙彦 一〇〇 望月 孝一 一〇〇

松井 房吉 一〇〇 小林 裕次郎 一〇〇

赤津 大郎 一〇〇 宮司 謙次 一〇〇

【事業規模】 工場所在地 兵庫縣神戶 東京 大崎

同 多摩川

【資本異動】 九年十月第二日本精工(資本金 500,000 圓)を創立、同年十二月之を合併し、500,000 圓を増資し、三年三月三圓を拂込徴収

【資産負債】 十一月 五十二年 十一月

株主資本 三三三 三三三

外部負債 九三三 九三三

社債 〇 〇

借入金 〇 〇

支拂手形 〇 〇

使用總資本 四〇六 四〇六

流動資産 三三三 三三三

現金預金 三三三 三三三

【收支勘定】 十年下 十年上 十一年下 十一年上

收入 三三三 三三三 三三三 三三三

支出 三三三 三三三 三三三 三三三

【業績】 九年上 九年下 十年上 十年下

高橋 是賢 高橋 是賢 高橋 是賢 高橋 是賢

安松 俊雄 安松 俊雄 安松 俊雄 安松 俊雄

山口 武彦 山口 武彦 山口 武彦 山口 武彦

望月 乙彦 望月 乙彦 望月 乙彦 望月 乙彦

松井 房吉 松井 房吉 松井 房吉 松井 房吉

赤津 大郎 赤津 大郎 赤津 大郎 赤津 大郎

【名義書換】 十 十 十 十

### 新冢自轉車製造株式會社

(本社) 東京市品川區東大崎中町一九七 (營業所) 東京市品川區南乗物町一五大洋ビル内(電神田 八〇)

【前期成績】當社の昨十一月に締切つた決算をみると、利益金は二十三萬五千圓で前期に比較して二萬二千圓の増益であつた。然し乍ら、此の間に利益率は二割一分三厘から一割九分七厘に低下して居る。昨年七月に從來の資本金二百萬圓から四百萬圓へ倍額増資し、資本負擔が加つて来たからである。

【新工場の竣工遅延】それに増資資金でやる筈の大阪淀川新工場は完成が大分遅れる。同工場は從來からある兵庫工場及堺工場の設備を合同して、大阪市西淀川へ新設されるはずで、昨年末、遅くとも本年三月までには大體竣工する豫定であつた。處が本年五月一杯は掛かる様だ。またその所要金も最初の七十萬圓の豫算が、百萬圓に殖えるらしい。

【近く拂込徴収】滿洲及北支方面への輸出増加を意圖せる朝鮮工場の新設も、具體的には何も手を染めてない模様である。それには種々なる事情もあらうが、當局者の熱意が足りぬと見られても致し方あるまい。だが、大阪工場に約百萬圓資金が必要だとすれば、近く第二回の拂込徴収を期待してよからう。

【今期豫想】今期豫想利益金は二十五萬圓内外で、利益率は二割見當だ。勿論一割一分配當は据置れやう。

【設立】 大正八年十二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 自轉車リム製造

【資本金】 資本金 400,000 圓

【株主数】 第一新(三〇) 400 圓

【重役】 社長 新冢 龍吉

取締役 新冢 正次 監査 園山 武平

取締役 山口 宗一 吉野 安平

清水 直治郎 新冢 龍吉

株主(名) 十年下 十年上 十一年下 十一年上

【大株主】 新冢 正次 八七五 新冢 龍吉 三三三

山口 宗一 一〇〇 東野 嘉三郎 一〇〇

吉岡 佐敏 一〇〇 澤井 喜助 一〇〇

安本 吉次郎 一〇〇 園山 武平 一〇〇

辻 寅吉 一〇〇 福井 殖彦 一〇〇

岡山 商事 〇〇 新冢 克巳 〇〇

【事業規模】 工場所在地 東京市品川區、神戶、久留

リム月産(單位千個) 米、堺、名古屋

本社工場 〇 久留米工場 〇

兵庫工場 〇 名古屋工場 〇

浪華工場 〇 合計 三三三

【投資會社】 大同チキン(資本金二、〇〇〇千圓)

飛行機用チキンの製造

【資本異動】 十一年七月倍額増資三三三圓

【名義書換】 十 十 十 十

【資産負債】 十一月 五十二年 十一月

株主資本 三三三 三三三

外部負債 九三三 九三三

社債 〇 〇

借入金 〇 〇

支拂手形 〇 〇

使用總資本 四〇六 四〇六

流動資産 三三三 三三三

現金預金 三三三 三三三

【收支勘定】 十年下 十年上 十一年下 十一年上

收入 三三三 三三三 三三三 三三三

支出 三三三 三三三 三三三 三三三

【業績】 九年上 九年下 十年上 十年下

高橋 是賢 高橋 是賢 高橋 是賢 高橋 是賢

安松 俊雄 安松 俊雄 安松 俊雄 安松 俊雄

山口 武彦 山口 武彦 山口 武彦 山口 武彦

望月 乙彦 望月 乙彦 望月 乙彦 望月 乙彦

松井 房吉 松井 房吉 松井 房吉 松井 房吉

赤津 大郎 赤津 大郎 赤津 大郎 赤津 大郎

【名義書換】 十 十 十 十

### 日本エタニツトパイプ株式会社

(本社) 東京市豊町區大手町日清ビル内(電丸ノ内西六)

【漸次見直す】昨年十一月末で締切つた前期決算に於て、當社は十八萬四千圓の利益を計上した。季節的關係から下期には製品は賣つても引渡しが困難な事情にある爲め、此の計上利益のうちにはまだ實現されぬ部が幾分あつた筈だ。それにしても、昨年同期に比較すると、十四萬三千圓の増益であつて、利益率は一割を越えてゐる。資産整理の關係上、配當復活は勿論出来なかつたけれども、立直りの跡だけは窺はれる。

【好材料】今期も引續き相當の利益は出る見込みだ。殊に當社にとつて有利なのは、鐵鋼相場が昨年秋季以來二倍以上に騰貴したことだ。これが爲め、鐵鋼管の如き當社製品と競争關係にある高品が著しく値上りして來た。これが延いてはエタニツトパイプへの需要を刺激しつゝある。尤もエタニツトパイプでも、繼手用鑄物、ゴム等の相場は當然上つたが、此等附屬品價格が製品價格中に占める割合は三割見當だから、大した苦痛にはならない。冬期は出荷が抄らぬが、それでも今期利益は前期より殖えよう。

【復配期】とすれば當然復配が問題となる譯で、今期五分見當の復配が見込まれてゐる。併しこれはいま一期辛抱すべきだ。内容にまだ整理を要するものが残つてゐるからだ。

【設立】昭和六年二月  
【決算期】五月、十一月  
【事業】エタニツトパイプ及同附屬品  
【資本金】公稱 二五〇〇〇 實收 二五〇〇〇  
【株主】新(三三) 三三〇〇〇  
【役員】社長 藤原 宗吉  
常務 高田 道信 取締役 石黒七三郎  
大野 萬夫 大西虎之介  
取締役 波多野敬三 監査 松浦 孝治  
【株主数】十年下 十一年上 十一年上  
總數(名) 二六六 二六六 二六六  
【大株主】  
藤原 宗吉 二八〇〇 三三〇〇 二二五  
大西虎之介 六六〇 石黒七三郎 二〇〇  
野間 俊 二八〇 波多野敬三 二〇〇  
橋本 龍一 二〇〇 行形松次良 二〇〇  
寛 元貞 一〇〇 堀田 正一 一〇〇  
【事業規模】設備 月産能力  
大宮工場 製鋼製機 五〇〇  
東京工場 兩所共製鋼製機 五〇〇  
四國工場 製鋼製機 各二〇〇  
蒲田工場 鑄物工場 各二〇〇  
【事業成績】十年下 十一年上 十一年上  
売上高(千圓) 六〇六 六〇六 六〇六  
製造費( ) 三三二 三三二 三三二  
營業費( ) 三三 三三 三三  
【投資會社】エタニツトパイプ證券  
【資本異動】昭和九年十二月第二エタニツトパイプを合併し、千圓増資

【資産負債】  
株主資本 二五〇〇〇  
外部負債 三六三  
支拂手形 三三  
使用總資本 二八六  
固定資産 一五八  
流動資産 一二八  
現金預金 三〇  
【收支勘定】十年下 十一年上 十一年上  
收入 一〇〇 一〇〇 一〇〇  
支出 一〇〇 一〇〇 一〇〇  
【利息】三月二十日調 四分三厘  
時價 新五五 利 三分  
【名義書換】十五圓 新券交付 五十圓

### 日本皮革株式会社

(本社) 東京市足立區千住橋町一六ノ一(電淺草 六六)

【皮革市況好轉】皮革市況は昨年秋季頃からかなり好轉して來た。それまでは輸入原皮の漸騰にも拘らず、内地相場は殆んど騰らなかつたのである。季節的に夏季は面白くないと云ふ關係もあるが、昨年は年初以來十一月中まで靴底丸革相場の如き、百九十一圓(百斤建)の釘付けであつた。それだけ採算はよくなかつたわけだが、昨年十一月下旬以來これが次第に騰げ歩調を速つてゐる。

靴底丸革相場に就て見ると、十一月下旬百九十六圓、更に十二月下旬には二百一圓となつて今日まで來てゐる。昨秋から見ると十圓の値上げだ。舶來キツト、舶來ボツクス等も同様で、此の間夫夫一割四厘及び二割六分七厘を騰げてゐる。

【上期増益】去る三月末に締め切られた本年上期成績は、本稿執筆中まだ判らなかつたが、右の如き業界の好轉を受けて相當良くなつてゐる筈だ。尤も當社製品は軍靴、馬具、背囊、彈藥盒等の軍需品が多いから、採算はそれ程よくなつてゐないが、他面賣上げ數量の増加があり、新設ゼラチン工場、ベルト工場等からの寄與もあるから、心配は要らない。

【配當據置か】そこで配當だが、事業の性質上恐らく一割に据え置きとならう。但し三十周年記念配當の期待は持てる。

【設立】明治四十年四月  
【決算期】三月、九月  
【事業】靴底革、紡績用皮革類、軍用軍具、革ベルト  
【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇 實收 一〇〇,〇〇〇  
【役員】  
會長 伊藤 琢郎 取締役 村木 正幹  
取締役 大倉喜七郎 取締役 藤井 茂  
三好 三也 監査 岩崎 直作  
大澤 亨 西村 直  
【株主数】十年下 十一年上 十一年上  
總數(名) 六六 六六 六六  
【大株主】  
大倉 組 三〇〇 西村 合資 三〇〇  
伊藤 琢郎 三〇〇 西村 直 二〇〇  
秋元 源三 二〇〇 大澤 亨 一〇〇  
岡本 徳七 一〇〇 伊藤 勇 一〇〇  
【事業規模】工場所在地  
東京市足立區千住町 一六、七、七  
大阪市浪速區船出町 六、三、四  
上海寶山縣 子爵 二、〇、〇  
奉天鐵西區(豫定地) 六、〇、〇  
生産能力(年産 單位)枚  
牝牛革 一〇〇,〇〇〇  
小革(ボツクス類其他) 三〇〇,〇〇〇  
羊革 一〇〇,〇〇〇  
【投資會社】裕津製革公司

【資産負債】  
株主資本 九〇,〇〇〇  
外部負債 一〇,〇〇〇  
使用總資本 一〇〇,〇〇〇  
固定資産 一七,〇〇〇  
流動資産 八三,〇〇〇  
現金預金 一〇,〇〇〇  
【收支勘定】十年下 十一年上 十一年上  
收入 一〇〇 一〇〇 一〇〇  
支出 一〇〇 一〇〇 一〇〇  
【利息】三月二十日調 四分三厘  
時價 新五五 利 三分  
【名義書換】十圓 新券交付 四十圓

### 業事酒麥

【不安點解消】かつての不安點は總てが解消した。麥酒造石税の引上は六割から四割に改められ、而も、その殆んど全部が轉嫁可能と見られることになつたからだ。のみならず、麥酒消費は一時の減退見越を裏切つて、寧ろ一割乃至一割五分の増加を期待せしむる情勢に變つてきた。従つて、麥酒原價の増嵩は値上げに依つて充分補はれ、採算悪化のための利益減は最早や問題とするに足りないものとなつた、即ち、麥酒業は麥酒増税の重壓見越から解放され採算悪化の不安人氣から全く離脱することになつたのである。そして人氣は一變し、各社の業績は更に伸長を期待せしむることになつた。

【値上げ斷行】麥酒値上げは既に必然的のものとなつた。大日本、キリンの兩社が去る三月一日からサイダー一兩に付五十錢の値上を行ふたのは、確かに麥酒値上に對する瀬踏である。麥酒造石税は一石三十五圓に引上げられる。即ち一兩當り一圓七十二錢の増徴となるので、麥酒共販會社は機を見て一兩一圓七十錢の値上げを行ふこと

に決定し、遅くも来る四月十日から實施される。これが第一次の値上げである。

けれども、これだけではコストの増嵩に依る採算低下は補はれない。この故に麥酒共販は更に一兩六十錢程度の第二次値上げを行ふものと推測される。ホップ、大麥その他の原料高に原因する直接原價高三十五錢、荷造包装費高十五錢、所得税その他の増税負擔額二十五錢等で、麥酒原價は一兩當り七十五錢の増嵩が見越される。この内、五、六十錢は値上げを行ふてカバーする方針らしい。

【成績良好見越】以上の如くにして採算悪化の不安は實質的に喰止められる。而も、麥酒界の情勢はこれ程の値上げを行ふても需要に影響せず寧ろ相當の増進が見越されるのだから、麥酒各社の成績は必然向上の筋合にあるものと見てよい。麥酒醸造高は年初以來急増し、既に一二月の累計に於て一三〇%の増増を示してをる。無論、これは麥酒造石税の引上に對應して各社が懸命の増産を行ふてをること原因するが、それにしても今年度の需要増加は種々の角度から見ても必然的と思はれる。

### 大日本麥酒株式會社

(本社) 東京市目黒區三田二四七  
(事務所) 東京市京橋區銀座七ノ一ノ一 (電報掛番) 〇一七

【情勢一變】これまで當社の前途を暗くしてゐた問題は總てが解消した。麥酒造石税の引上に依る重壓も、採算悪化に原因する収益減も今は一片の悪夢でしかなくなつた。結城財政の出現以來麥酒増税額は軽減され、而も、増税の全部は轉嫁可能となり、麥酒消費は増大して寧ろ成績の向上を期待せしめる。剩へ、麥酒界には設備能力の擴大傾向が醸成され、この故に早晚當社も未拂込の徴収が問題とせらるゝ事態となつた。情勢は一轉したのである。

【今後の収益力】今後の収益力は寧ろ向上の望がある。麥酒造石税の引上額は一兩一圓七十二錢であるが、この全部は値上を以て補填され、原料並諸材料高に伴ふ原價高はまた第二次値上を行ふてカバーされる望がある。而も、當社の場合原價高の影響は未だそれ程でもない。況や、今年度の麥酒賣上高の上には大約一割五、六分の増大が豫想される。この關係からしてもコストは寧ろ低下し、採算良好に恵まれてくるわけだ。

【配當餘力】既に今年一月―二月の販賣高は査定石數の上から云へば十四割七分、三月の販賣成績は十二割の激増振りを示す。この勢では今年度の總販賣高の一割五分増加は確實で、結局の利益増加は三百萬圓見當とならう。一割二分配當に餘裕は加はる。

【設立】	明治三十九年三月	【決算期】	六月、十二月
【事業】	麥酒、清涼飲料、藥品	【資本金】	公稱 壹、〇〇〇、〇〇〇 實收 〇、〇〇〇、〇〇〇
【株主】	新 〇、〇〇〇、〇〇〇 舊 〇、〇〇〇、〇〇〇	【役員】	會長 高橋龍太郎 常務 渡邊得男 取締役 柴田清 山本爲三郎 監査 辰馬悅藏 高杉晋三 植村善二 橋本明太郎 宮島清次郎 松丸 廣吉 小坂 順造 大倉 榮馬 相談 植村澄三郎 根津 啓吉 植村澄三郎
【株主數】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 二、〇六九 二、〇六九 二、〇六九	【大株主】	根津合名 〇、〇〇〇 馬越同族 〇、〇〇〇 麒麟麥酒 〇、〇〇〇 第一徵兵 〇、〇〇〇 富國徵兵 〇、〇〇〇 松下商店 〇、〇〇〇 國分合名 〇、〇〇〇 丸ノ内商事 〇、〇〇〇
【事業規模】	生産能力(年産) 麥酒(百) 一、〇〇〇、〇〇〇 清涼飲料(百) 一、〇〇〇、〇〇〇 麥酒工場 目黒、吾妻橋、川口、吹田、 西宮、札幌、博多、名古屋、半田、青島	【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 定額(名) 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇
【投資會社】	朝鮮麥酒、東京麥酒、滿洲 麥酒、麥酒共同販賣	【資産負債】	十二月 六月 十二月 株主資本 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 外部負債 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 使用總資本 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇
【收支豫定】	十年下 十一年上 十一年下 收入 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 支出 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 固定資産 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 流動資産 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 現金預金 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇	【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下 売上 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 利益 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 消却年率 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇
【株價】	高値 安値 新株 九年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 十年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 十一年 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 十二月 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇	【豫想配當】	十二年六月期 一割二分 【利息】 三月二十日調 五分 時價 新五五 利息 二分七厘
【名義書換】	十 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇	【新券交付】	五十 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇



### 麒麟麥酒株式會社

(本社) 横浜市鶴見區生麥町神明前一七 (電報掛川三三二)  
(事務所) 東京市京橋區京橋明治屋ビル (電報掛六三三)

【懸案解決か】 當社の増配・未拂込金の徴収、そして増資の問題は既に久しい間の懸案だ。これが今年度には或は解決せらるゝのではなからうか。麥酒界の情勢一變は再び當社に斯うした楽しみをかけさせる。

【豫想成績】 今年度の豫想成績は依然として良好だ。當社の内容が優秀で、収益力の高率であることは既に定評のある處である。昨年下半年の麥酒販賣高は二割四分の著増を示したが、更に本年度の販賣高にも最少一割五分程度の増加が豫想される。既に、本年一―二月の販賣高は査定石數の上から云へば約二萬八千石、率にして約九八%の激増状態を示してをる。大日本社の六萬八千石増その率一四六%には遙かに及ばぬが、それにしても昨年度の激増に次ぐ激増だから注目し得る。今年度成績が更に向上して行くことに問題はない。

【能力不足】 麥酒界の能力不足は既に現實の問題である。當社が昨年度に能力一杯の生産を行ふても尙ほ間に合はず、遂に賣止めを執行した如きその現はれである。昨年来建設中の廣島工場は本年五月頃から操業開始となるが、能力十萬石の増加では既に満足されない時代となつた。更に能力擴大が行はれよう。

【設立】 明治四十年二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒、清涼飲料、酵母類の製造

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 伊丹二郎 取締役 大河原太郎

専務 磯野長蔵 監査 濱口 山岸慶之助

取締 平沼亮三 浅野敏郎 十一年上 十一年下

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

廣島工場 (初年度年産六萬石) 〇〇〇〇〇

【事業成績】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【資産負債】 十一年 五十一 十一年 十一年

株主資本 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇

外部負債 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

使用總資本 九、七〇〇 九、七〇〇 九、七〇〇

固定資産 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇

流動資産 五、九〇〇 五、九〇〇 五、九〇〇

現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【收支勘定】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

收入 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇

支出 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇

【業績】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

利益 〇 〇 〇 〇

【株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

### 櫻麥酒株式會社

(本社) 門司市大里二八〇五 (電門司五)  
(支社) 東京市麹町區丸の内、丸ビル内 (電丸ノ内二六四)

【見直さる】 内容は見違へる程に改善された。根本的整理に手をつけてから一年半足らずにして前途は明朗なるものとなつた。この故に久しく額面以下に叩かれてゐた株價は三月中旬末現在五十三圓までに買上げられた。見直しは當然である。

【増配近し】 現在配當は五分の据置きだが、近き將來一分の増配が行はれ六分の配當となる日が来よう。今後の豫想収益力は一年六十五萬圓見當が見込まれる。この収益力を以てすれば、六分の配當を行ふても一年約五十萬圓の内部蓄積が行はれる。保留率七割三分以上だから一流會社も及ばぬ程だ。

【増資も来る】 右の成績を持続すれば今後四年目には自力を以て現在社債の二百萬圓は償還され、七年後には興業費は零となる勘定だ。従つて、それまでには一割配當が可能となり、聽ては生産能力擴大のための資本増加が問題となるだらう。斯うした期待がかけられる。

【強味點】 麥酒カルテルの持續する限り當社の位置は安泰だ。一年五十四萬圓の販賣函數が確認され、これだけ賣れると否とに拘らずそれだけの利益は保證される。若しもカルテル崩壊の場合には時を移さず大會社への合併となるから之も悪くはない。

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【資産負債】 十一年 五十一 十一年 十一年

株主資本 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇

外部負債 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

使用總資本 九、七〇〇 九、七〇〇 九、七〇〇

固定資産 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇

流動資産 五、九〇〇 五、九〇〇 五、九〇〇

現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【收支勘定】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

收入 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇

支出 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇

【業績】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

利益 〇 〇 〇 〇

【株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【投資会社】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

昭和麒麟麥酒、滿洲麥酒、麥酒共同販

【設立】 明治四十五年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 麥酒及清涼飲料の製造販賣

【資本金】 公稱 一〇〇〇〇〇 拂込 八〇〇〇〇

【株主】 新 (株) 〇〇〇〇〇 舊 (株) 〇〇〇〇〇

【重役】 社長 木村 向一 取締役 重富 英一

専務 林 博 監査 三山 仁作

取締 大空謙太郎 野田 三郎 野田 三郎

【株主】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

【事業成績】 明治 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇

### 滿洲麥酒株式會社

(本社) 奉天本町六(電 聖三七)  
(出張所) 東京市京橋區銀座二丁目三米井ビル(電 京橋六天)

【工場完成】 當社も愈本格的操業に入る秋が来た。第一工場(サツポロ・ブランド)は十一年上期第一回の仕込を行つて今日に至つたが、第二工場(キリン・ブランド)は昨年十一月中旬機械設備を終り本年早々仕込を行つた。之で製造能力は二十萬圓となる。【前期成績】 昨上期に第一回の出荷を行ひ總利益六萬三千圓、利益率六分三厘の成績をあげた關係から、同下期の成績向上は期待されてゐた。處が、全く異想外の不成績で僅に四萬六千圓の収益をあげたにすぎない。之は操業勿々のこと、醸造販賣が思ひ通りに行かなかつたからであらう。

【今年成績】 今年既に第二工場も完成した故、相當の成績が期待される。實際生産高を年産能力二十萬圓の七割と見て年十四萬圓、半期七萬圓の出荷となるわけだが、今年には需要が最盛期に入らぬから五、六萬圓見當であらう。内輪に五萬圓と見て差益を一兩二圓とすれば十萬圓の利益となる。利益率は一割である。

【初配當は】 従つて今期初配當が問題となる。五分の配當所要金は五萬圓だ。利益金の外に當社は繰越金十一萬四千圓を有するので、實現可能を諒だが、或は來期持越となるかも知れぬ。理由は更に工場擴張計畫を有するのと株式の八割が固定してゐるからだ。

### 製粉事業

【粉界明朗化す】 製粉界は昨冬來頼に明朗化した。それは製品相場の奔騰によるもので、昨年十二月に鶴印現物五圓六錢の高値をつけそのまゝ今春にも越し、一月々央には定期先物は五圓二十二錢まで騰上した。實に大正十四年來の大相場である。この原因は内地及滿洲小麥の收穫減と世界小麥の需給改善、歐洲筋の政局不安による買進み等にもとづく内、外麥高を經とし、濠洲問題にからむ滿洲國の濠粉ポイコットから生じた輸出促進、先高見越しによる問屋筋の買進み等を緯とするものであつた。この大相場も不需要期の二月に入ると共に下押し、三月々央より反騰氣勢を示し四月初旬現在では五圓五錢と恢復してゐる。その上出廻り期の大量手持があるのでこの間相當のマーチンが見込めるわけだ。従つて各社共今期成績は著しく向上してゐる。

【滿洲より北支へ】 製粉會社の事業擴張は内地・朝鮮とも飽和點に達してゐるので、昨年滿洲進出が企圖され、六月運轉開始の日東粉を始めとして、日清粉、日本粉と

【設立】	昭和九年四月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	麥酒、飲料水	【資本金】	100,000
【株主数】	100	【重役】	専務 磯野長藏 取締役 淺野敏郎 高橋龍太郎 監査 大河原太郎 取締役 水井照八 渡邊得男 毛見信治
【大株主】	高橋 眞男 8,000 時澤 郁哉 5,000 山本 爲三郎 5,000 伊藤 誠一 5,000 徐 紹 5,000 岩水 裕吉 5,000	【事業規模】	工場所在地 滿洲國奉天西區南五路 工場面積 2,000坪 生産能力 100,000圓
【事業成績】	十年下 10,000 十年上 10,000 十一年 10,000	【株主数】	十年下 100 十年上 100 十一年 100
【関係会社】	大日本麥酒、麒麟麥酒の共同出資。	【資産負債】	十一月 五十一月 十一年
		株主資本 100,000	100,000
		外部負債 100,000	100,000
		支拂手形 100,000	100,000
		使用總資本 100,000	100,000
		流動資産 100,000	100,000
		現金預金 100,000	100,000
		【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
		收入 100,000	100,000
		支出 100,000	100,000
		【業績】	十年上 100,000 十年下 100,000 十一年上 100,000 十一年下 100,000
		【利益配當】	十二月 五月期 無配 三月二十日 無配
		【名義書換】	十 號 【新券交付】 五十號

も滿洲國法人の子會社を創立し、積極的に同地へ進出すること、なつた。又滿洲國の國策會社である日滿製粉も昨秋一大擴張を行ひ一躍能力一萬バレルの大會社となり、日清粉・日本粉同様今秋を期して全運轉開始となる豫定である。かうした擴張發展工作は、北支に於ても、その經濟開發五ヶ年計畫の線に沿つて行はれんとする。即ち、日本粉の投資會社三吉麵粉廠の擴張、日東粉の天津における工場買収等々である。而も同地製粉界の狀態は引續き本邦製粉會社の進出を要請してゐるので、今後の發展は滿洲より北支へと轉開されるであらう。

【資本擴充時代】 かゝる狀態は當然その資本的裏づけを伴はなければ置かない。即ち、各社の拂込徴收・増資實現で、先づ日清粉は十五圓の最終拂込徴收後二倍餘増資を行ひ、日滿粉は一躍五倍の大増資を敢行した。日本粉も新株第三回の拂込徴收をなしたが、更に最終拂込徴收増資が期待され、日東粉でも第二日東粉設立による千二百萬圓への變態増資が具體化してゐる。對外進出とは無關係だが、昭和粉も昭和産業と合併後増資の豫定である。

### 日清製粉株式會社

(本社) 東京市日本橋區小網町一ノ二(電) 芝罘町三、三七一セ

【増資進行】當社は前報に於て豫報した通り、遂に二倍餘の増資を断行することとなつた。新株の未拂込額が本年二月一日に徴收されたので、直ちに二日の重役會で内定され、同月廿七日の臨時總會で正式決定を見た。これによると従來の資本金千二百三十三萬圓を二千五百萬圓とし、増資新株廿五萬三千四百株の内六千八百株を功勞株に、残りを一對一の割合で株主に割り當てた。而して、この拂込徴收は六月一日に行はれる豫定となつてゐる。

【満洲進出】この總額は二月一日に徴收された未拂込徴收分と併せると五百三十六萬餘圓となるが、その内四百萬圓近くが滿洲における子會社康徳製粉の四平街、牡丹江各一千パーレル工場建設資金に充當される。其他は既設の北海道野付牛及び子會社朝鮮製粉の水登浦工場と目下建設中の鎮南浦工場に振當てられるわけだ。

【成績は飛躍】今期の成績は飛躍的に向上する。前期は前々期より幾分低下を見たが、昨年出廻り期に原麥買付けが大量的に行はれたので、今期の豫想利益は意外に増大する。加之、多角經營も伸展し、愈々収益期に入つた感が深い。併し、當社は堅實決算を旨としてゐるので、増税の影響をも考慮して、一割配當に恰好な利益計上に止めやう。先づ當分は特配撤廢の要もあるまい。

【設立】	明治四十年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	小麦粉製造
【資本金】	小麥粉製造 三、三〇〇,〇〇〇
【株主】	正田貞一郎 正田英三郎 星野唯三 標 智吉 丸山良太郎 監査 恩賀太一郎 加藤 徳雄 相談 根津嘉一郎
【大株主】	日本製粉 三、〇〇〇,〇〇〇 内地製粉 三、〇〇〇,〇〇〇 石島三郎 正田貞一郎 八、〇〇〇,〇〇〇 福道 會社 七、〇〇〇,〇〇〇 正田英三郎 六、〇〇〇,〇〇〇 千代田 社 六、〇〇〇,〇〇〇 正田順四郎 五、〇〇〇,〇〇〇 事業規模 工場別能力(単位:ト) 館林 一、〇〇〇 神戶 一、〇〇〇 水戸 一、〇〇〇 坂出 一、〇〇〇 高野 一、〇〇〇 野付牛 一、〇〇〇 佐野 一、〇〇〇 合計 三、〇〇〇,〇〇〇 名古屋 一、〇〇〇 十一年上 十一年下
【事業成績】	生産高 内地製粉(単位:ト) 六、〇〇〇,〇〇〇 輸出製粉(単位:ト) 一、〇〇〇,〇〇〇 投資會社 日本營養食料、日清製粉、オリエンタル酵母工業、東京製粉、朝鮮製粉、日本糖業、康徳製粉、
【資本異動】	十一年五月(最終)拂込徴收、三月三、五〇〇萬圓に増資決定。

【資産負債】	十一年 五十二年
株主資本	三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
支拂手形	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
収入	三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇
支出	三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇 三、三〇〇,〇〇〇
【利益】	三月二十日調 特二分
【名義書換】	十 新券交附 五十銭

### 日本製粉株式會社

(本社) 東京市京橋區京橋三ノ二(電) 京橋 五九一セ

【今期は良好】製粉景氣の波に乗つて、他社同様當社の今期は良好だ。二、三月の不需要期に入つて相場は下押ししたが、それでも向出廻り期の手持ちが豊富だつたので相當の差益が見込めるのだ。そのうへ期初二ヶ月の大相場がものを言つてゐる。従つて、今期問題になるのは幾何を保留し、幾何の利益を計上するかと言ふ點だけだ。だが製粉會社の性質上こうした状態が永續するとは限らないので、今期は決算に餘裕を残して従來通り利益率二割七、八分程度の利益計上に止めやう。配當は勿論一割据置きた。

【擴張】昨冬滿洲進出が具態化し奉天及び四平街に各一千パーレルの工場を建設、子會社東洋製粉を創立して是を主宰せしめることとした。工事完成は今秋である。又三井と共同投資の三吉麵粉廠(青島)が済南にも工場買収をなし事業擴張を行ふので、當社はこの増加資本の大部分を引受け北支進出を敢行する。

【税負擔増加】當社には臨時利得税増徴があるので、他社に比して痛いわけだ。然し利益率には三分程度の影響に止まらう。

【拂込徴收増資か】新株第三回拂込は三月一日に徴收された。これは前記東洋製粉の建設費に充てられるが、北支進出もあり、拂込徴收について聽て増資が期待される。

【設立】	明治二十九年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	小麦粉製造
【資本金】	公稱 二、〇〇〇,〇〇〇
【株主】	新(若) 二、〇〇〇,〇〇〇
【重役】	會長 中村 藤一 取締役 中島 義治 常務 向井 忠晴 監査 御酒 本徳松 取寄 八尋 俊介 根尾 克己
【大株主】	三井物産 二、〇〇〇,〇〇〇 中村 藤一 三、〇〇〇,〇〇〇 中島 義治 三、〇〇〇,〇〇〇 中島 知久平 三、〇〇〇,〇〇〇 山二株式 三、〇〇〇,〇〇〇 中島 義治 三、〇〇〇,〇〇〇 住友生命 一、〇〇〇,〇〇〇 安二郎 一、〇〇〇,〇〇〇
【事業規模】	工場別能力(単位:ト) 東京工場 三、〇〇〇 久留米工場 一、〇〇〇 横濱工場 三、〇〇〇 小樽工場 一、〇〇〇 高崎工場 三、〇〇〇 札幌工場 一、〇〇〇 小山工場 三、〇〇〇 仁川工場 一、〇〇〇 名古屋工場 三、〇〇〇 鎮南浦工場 一、〇〇〇 神戸工場 三、〇〇〇 沙里院工場 一、〇〇〇 門司工場 三、〇〇〇 合計 一、〇〇〇,〇〇〇
【事業成績】	出荷高(千圓) 十年上 十年下 十一年上 十一年下
内地向	六、〇〇〇,〇〇〇 五、〇〇〇,〇〇〇
輸出向	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
投資會社	日清製粉、三吉麵粉廠、關東製麵所
【資本異動】	十二年三月二日五拂込徴收

【資産負債】	十一年 五十二年
株主資本	二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
支拂手形	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
収入	二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇
支出	二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇
【利益】	三月二十日調 特二分
【名義書換】	十 新券交附 五十銭

### 日東製粉株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内八重洲ビル(電九ノ内三六八)

【擴張計畫】昨年六月滿洲進出に先鞭をつけた當社は引續き八百パーレル増産を實現し、新京工場は合計二千パーレルの能力となつた。加之、北支進出も具體化し、天津に二千五百パーレルの工場買収も決定した。是で當社も内地三百八十萬袋、滿洲三百萬袋、北支三百二十萬袋、合計年産一千萬袋計畫が實現する。

【變態増資内定】右の計畫遂行のためには大約四百、五十萬圓の資金が必要だ。新京、天津工場ともそれ、約七十萬圓の建設費を要するからだ。これを賄ふには現在の未拂込金の徴収と間に合ふが、それでは借金關係に不便を來たすのと、長期上場の下心から株數増加の必要もあつて、變態増資を行ふことになつた。即ち資本金七百萬圓の第二日東粉を設立し、總株十四萬株(十二圓半拂込)の内十萬株を一株に一株の割合で今年四月末日現在の株主に割當て、残り四萬株の内、二萬株は功勞株、二萬株はプレミアアム付で一般公募に附することになつた。第二日東粉の合併期は來る十月の豫定である。

【當社成績】今期成績は他社同様勿論向上する。一割配當復活も可能であらう。増資後も、年産一千萬袋が實現すれば一袋當り十錢の差益と見ても百萬圓で、一割配當には不安がなからう。

【設立】	昭和五年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	小麦粉製造販賣
【資本金】	公稱 3,000,000
【株數】	新 100,000
【重役】	社長 松本 眞平 取締役 堀田 鉄三郎 常務 櫻澤 千藏 監査 大川 義雄 取締役 日向 源之助 監査 岡 昇平 加藤 恭平 田中 清
【株主】	松本 眞平 10,000 田中 清 10,000 山田 借成 10,000 大川 義雄 10,000 三益 商事 10,000 松本 眞平 10,000 堀田 鉄三郎 10,000 松本 眞平 10,000 堀田 鉄三郎 10,000 松本 眞平 10,000 堀田 鉄三郎 10,000 松本 眞平 10,000
【事業規模】	工場別能力(パーレル) 無谷工場 100,000 千葉工場 100,000 木崎工場 100,000 名古屋工場 100,000 新京工場 100,000 天津工場 100,000 北支工場 100,000
【事業成績】	十年下 10,000 十年上 10,000 生 産 高 (噸) 10,000 10,000 出 荷 高 (噸) 10,000 10,000
【投資會社】	日東製粉、日東製粉株式有限

【資産負債】	十一年 五十一萬 株主資本 30,000 外部負債 21,000 支拂手形 10,000 使用總資本 41,000
【流動資産】	現金預金 10,000 流動資産 41,000
【流動負債】	流動負債 10,000
【株價】	高値 100 株 新株 100 安値 100 株 高値 100 安値 100 株 高値 100
【利息】	三月二十日開 八分 三月二十日開 五分一厘 三月二十日開 二分八厘
【名義書換】	十錢【新券文附】三十錢

### 日滿製粉株式會社

(本社) 滿洲國哈爾濱八站南馬路第五八號

【大増資斷行】當社は昨冬五倍増資斷行を發表して、本年三月二十日その拂込を徴收した。新株拂込は十二圓半、この内十二萬株は舊株一株に付新株三株の割合で割當て、一萬株を功勞株とし、残り三萬株を公募した。この公募新株のプレミアアムは平均一株七圓七十五錢で、合計すると約二十三萬圓となり、賣出引受店への手数料を差引いても相當の金額が轉り込んでくる譯だ。増資金は昨秋買収の六工場と新設齊々哈爾工場との費用に充てるが、工事完成は今秋で、完成後の全能力は一萬パーレル、日産四萬袋だ。

【増資も】加之、當社は二分増配をも斷行した。昨上期六分の初配當をつけた計りだから増配は工事完成後と思はれたが、この當分前途に不安なしと見て、八分配當を斷行したのだ。

【今期は】然らば今期の成績は如何と言ふと未だ全運轉出來ないので先づ公司の利益率はよく一割四、五分と豫想されるが、當社の八分配當には不安はないわけだ。茲に公司と言ふのは昨冬設立した滿洲國法人の日滿製粉股份有限公司のことだ。當社はこの子會社に營業權全部を委譲し純然たる持株會社となつたので、その配當は公司の配當と公司への貸金の利子に依て賄れるわけだ。

【決算期】今秋工事完成迄例外的に一期繰越し、十月決算とした。

【設立】	昭和九年六月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	小麦粉製造
【資本金】	公稱 10,000,000
【株數】	新 100,000
【重役】	會長 大志 藤原 四郎 本務 中澤 正治 取締役 岩崎 直記 加藤 謙三 支那人 岩崎 直記 片岡 眞夫 監査 太田 健七 中島 義治 監査 道巻 道巻 野上 彦市 加藤 恭平 松本 眞平 堀田 鉄三郎 増田 増太郎 堀田 鉄三郎 堀田 鉄三郎 堀田 鉄三郎
【株主】	東洋拓殖 10,000 日本製粉 10,000 三井物産 10,000 三益商事 10,000 日清製粉 10,000 味ノ素本舖 10,000 大阪商事 10,000 日東製粉 10,000 木徳商店 10,000 木徳製粉 10,000
【事業規模】	工場別能力(パーレル) 哈爾濱 第一工場 100,000 海拉爾 第二工場 100,000 綏化 第三工場 100,000
【事業成績】	十年下 10,000 十年上 10,000 出 荷 高 (噸) 10,000 10,000
【投資會社】	日滿製粉株式有限
【資本異動】	十二年一月八〇〇萬圓増資、三月第一回二五萬圓増資

【資産負債】	十二年 六十一萬 株主資本 30,000 外部負債 31,000 支拂手形 10,000 使用總資本 41,000
【流動資産】	現金預金 10,000 流動資産 41,000
【流動負債】	流動負債 10,000
【株價】	高値 100 株 無配 安値 100 株 無配 安値 100 株 無配
【利息】	三月二十日開 八分 三月二十日開 六分三厘 三月二十日開 五分
【名義書換】	十錢【新券文附】三十錢

### 業事糖砂

【黄金期の連続】吾々は前輯に於て糖業會社の利潤は昭和十一年度をトップとして低下の傾向につくものと觀察したが、今はこの見方に訂正を加へねばならぬ。昨秋以來世界の糖界には情勢一變の事實が現はれ、その基調は著しく好轉して來たからである。かくして我が糖業は一段と安定し、各社の今年度成績は前年度に較べても劣るものではなく、寧ろ或はヨリ以上の好成績を豫想せしめることになつた。即ち糖界の黄金期は更に持續の可能性を思はせる。

【今年度採算】今年十二年度の製糖採算はいかに悪くとも昨年度同程度、恐らくはそれ以上と見ても間違はるまい。先づ各社の産糖一擔當りのコストに就て云ふと、平均して五十錢見當の増嵩と見られる。原料甘蔗代の引上を初め、包装諸掛り其他間接費の増嵩と一般増税の影響を織り込んでこの程度である。けれども、糖價は昂騰して平均賣値は或は一圓以上の好値と見られる、事情にある。例へば、昨十一年度の平均賣値十二圓二、三十錢で

あつたものが、十三圓或はそれ以上とさへ推算せらるゝからだ。假りに平均十三圓賣としても一流會社の一擔當り差益は平均コスト六圓五十錢と見て半分の六圓五十錢となるのである。コスト割高の二流會社又は借金會社と雖も差益は六圓乃至五圓五十錢となるから、以て各社が如何に恵まれた事情にあるかは想像するに充分だ。この産糖一擔當りの差益關係が示す如くに、糖業會社の本年度成績は近年の黄金期と云はれた昨十一年度の成績を更に凌駕するものと見ても間違ひないであらう。

【拂込増資期至る】これ程に黄金期が持續され、これ程の増益時代が展開された結果一流會社には利益調節のため未拂込金の徴収が期待され、二流乃至整理會社は、この好機に於て未拂込金を徴収し次で増資に依つて内容外觀の整備充實に力を注ぐことになつた。之まで鳴かず飛ばずに過ぎた昭和、臺東の小會社が既に増資し、また増資に決定してをる如き、また鹽水糖の拂込徴収に依る整理促進又は製糖事業への進出の如き、明に糖界黄金時代連續を物語る。砂糖は今や不安なき投資株の一つだ。

### 臺灣製糖株式會社

(本社) 臺灣高雄州屏東市歸來八七三  
(事務所) 東京市麹町區丸の内三ノ四有樂館(電丸ノ内三三一八)

【老國獨糖】安泰無風の會社である。世界的インフレと關稅障壁のお蔭に依つて利益は獨り手に増大する。株主は増配を念願し株價は未拂込の徴収を豫想して見ても經營當局者は動かさず、動ぜずである。巨額の手許現金を擁しながらも、これは徒らに銀行預金とするだけで、何等事業に積極性をもちたせない。萬事に事なかれ主義の行き方がこの會社の本領である。従つて、内容に新味がなく、經營に進取性が見出されない。農事方面には、これまで糖界隨一の積極經營が行はれ、臺灣糖業の發達に貢獻する所多大であつたが、今は糖界の老國獨振りをサラケ出してをる。總ては餘りにも糖界が恵まれすぎてをるからに外ならない。

【生ぬるき副業】經營多角化もまた當社には期待すべくもない。森永食品、森永製菓、南國産業にその片鱗を示すだけで、これ以上の積極的進出には望がない。當社の身上は矢張り臺灣耕地の買収擴大で原料自給への再擴充策あるのみである。

【利益率七割】今年度産糖は前年度よりも五十萬擔増の四百四十萬擔が見込まれる。一擔の差益六圓五十錢として副業並に利息收入を合せると大約三千三、四百萬圓の利益勘定となる。利益率七割だから目立つ。關稅問題に火をつけるのは當社と明糖だ。

【設立】	明治三十三年十二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	租糖、耕地白糖、精糖、酒精
【資本金】	公稱 壹,000,000 拂込 壹,000,000
【株数】	舊 (壹〇〇) 壹,000 新 (壹〇〇) 壹,000
【重役】	社長 武智直道 専務 益田 太郎 取締役 島居 信平 平山寅次郎 監査 丸田治太郎 草鹿祐吉 朝吹 常吉 城戸廣三 朝吹 常吉 朝吹 常吉
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 二、二二六 一〇、七二七 一〇、七二七
【大株主】	内 藤 源次郎 三井物産 壹,000 内 藤 源次郎 三井物産 壹,000 帝國生命 三〇〇 益田 太郎 一八〇 第一生命 一〇〇 林 博太郎 一〇〇
【事業規模】	生産能力 分製糖 (一日原料處理能力) 二、二〇〇噸 精糖 (一日原料處理能力) 四〇〇噸 酒精 (一ヶ月間製造能力) 六、〇〇〇石 工場数 (分製糖) 十三ヶ所 工場数 (精糖) 二ヶ所
【事業成績】	八一九年 九一〇年 十一年上 植付面積(千坪) 一六、三三三 一六、三三三 一六、三三三 甲當收穫(千石) 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 產糖高(千石) 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 工場歩留(%) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 精製糖高(千石) 一、五五五 一、五五五 一、五五五
【投資會社】	森永製菓、南國産業
【資産負債】	十年 十一年上 十一年下 株主資本 壹,000,000 壹,000,000 壹,000,000 外部負債 一〇,000,000 一〇,000,000 一〇,000,000 使用總資本 一〇,000,000 一〇,000,000 一〇,000,000 固定資産 五,000,000 五,000,000 五,000,000 流動資産 五,000,000 五,000,000 五,000,000 現金預金 三,000,000 三,000,000 三,000,000
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下 收入 三,000,000 三,000,000 三,000,000 支出 三,000,000 三,000,000 三,000,000 利益 〇 〇 〇
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下 利益率 〇% 〇% 〇% 〇%
【株價(東京)】	高値 安値 高値 安値 九年 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十年 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年上 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年下 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【豫想配當】	十二年三三三 一割二分
【利廻】	三月二十日調 四分八厘 時價 新七〇 利廻 三分一厘
【名義書換】	五 錢 【新券交付】三十 錢



### 塩水港製糖株式会社

(本社) 臺灣臺南州新營街新營六五(電新營一七)  
(事務所) 東京市日本橋區通一ノ六(電日本橋八一七)

【興味の根據】糖界第一の興味株となつた。糖價の高値持續で整理は促進され、未拂込金の再徴収に次で増配が期待され更に早晩増資の見込まれる、事情にあることが人氣集中の原因である。

【拂込相次ぐ】當社は整理會社であるだけに極力經營の手堅さを念じてをる。このため増配の餘力を持ちながら、極力これを抑へてをるが、その代り拂込は次ぎ々徴収の方針に決まつてをる。既に本年三月十日には第二回一十圓五十錢宛、總額三百九十萬圓の拂込を徴収したが、更に本年九月頃には第三回一十圓五十錢が徴収され、引續き來春迄に最終の未拂込金徴収が約束されてをる。そして全額拂込済後に増資の到來すべき筋合にあることは否定すべくもない。

【増配期接近】未拂込の矢繼早なる徴収は借金返済と擴張資金への充當が目的だ。現に借金は次第に調整され、他面に擴張計畫は遂行されつゝある。新營工場は本年一月十七日から運營を始め、このため來年度には産糖三百萬擔が實現される。その上に更に二工場の建設が論議されてをる。成績は良好で本年度の豫想利益は最低八百萬圓だから、これと關聯して二分の増配が期待される。來年三月期までには實現されよう。

【設立】明治四十年三月

【決算期】三月、九月

【事業】粗糖、耕地白糖、精糖、酒精

【資本金】公稱一〇〇〇〇〇〇〇〇 拂込一三三〇〇〇〇〇

【株数】新(五〇〇) 三三、〇〇〇

【役員】社長 榎 哲 取締役 内ヶ崎良平

常務 羽鳥 精一 沖光太郎

藤又 榮 榎 武

岡田幸三郎 工藤金三郎

取締役 黒田 秀博 長谷川貞成

【株主数】十年下 十年上 十年下

【大株主】二〇〇〇〇 八二六 八二六 八二六

【事業成績】

【事業規模】

【投資會社】

【資本異動】

【資産負債】

【株主資本】

【外部負債】

【借入金】

【使用總資本】

【固定資産】

【流動資産】

【現金預金】

【收支積立】

【消却年率】

【業績】

【株價】

【豫想配當】

【利息】

【名義書換】

### 帝國製糖株式会社

(本社) 臺中州臺中市高砂町一八(電七五)  
(支店) 東京市麹町區海上ビル内(電丸ノ内 六一一)

【増資進行】懇案の増資は愈々斷行された。増資額は半額で昭和十二年二月一日現在株主に二對一の割合で割當てられた。この第一回拂込金十二圓五十錢、總額二百二十五萬圓は三月十五日に徴收済みだ。これで當社は公稱資本金二千七百萬圓、拂込資本金二千二十五萬圓となり、中堅製糖會社としてその活躍の地歩をかためたのである。この増資々金は事業擴張に當てられる。即ち、新竹州に於ける七百五十英畝の新式製糖工場とそれに附屬する蔗園の新採取區域擴張である。工場完成は蔗園の成熟を待つ關係から十三年末までである。従つてこの資金は一時假入金の辨済に當てられる筈だ。

【今年成績】當社の今年度産糖豫想は百十三萬二千擔、内地販賣割當數量は各種糖合計百五萬擔である。糖價は今期は著しく昂騰してゐるので、擔當り差益四圓と見ても過大評價ではあるまい。すると、利益は四百五萬圓、副業益其他と合すると四百五十萬圓となる計算だ。今期の平均拂込資本一千八百五十六萬三千圓に對して二割四分二厘の利益率となる。一割配當は樂々出來るわけだ。【問題】問題は來期以降にある。擴張工場完成迄は資本負擔増て苦しい。然し保留益もあるから糖價さえ支持すれば問題ない。

【設立】明治四十三年十一月

【決算期】四月、十月

【事業】粗糖、酒精

【資本金】公稱 二七〇〇〇〇〇 拂込 二七〇〇〇〇〇

【株数】新(五〇〇) 三三、〇〇〇

【役員】社長 松方 正樹 取締役 小畑 勇吉

重務 田原哲次郎 取替 小栗 良三

常務 伊藤 新吉 監査 廣瀬 徳太郎

取締役 林原 彌太郎 監査 廣瀬 徳太郎

【株主数】十年下 十年上 十年下

【大株主】

山口誠太郎 三三〇〇 富國 徹兵 二、〇〇〇

明治生命 一〇〇〇 日本生命 九〇〇

伊地知一清 八〇〇 住友生命 六〇〇

十五銀行 五〇〇 太陽生命 五〇〇

【事業規模】

【投資會社】

【資本異動】

【資産負債】

【株主資本】

【外部負債】

【借入金】

【使用總資本】

【固定資産】

【流動資産】

【現金預金】

【收支積立】

【消却年率】

【業績】

【株價】

【豫想配當】

【利息】

【名義書換】





### 沖繩製糖株式會社

(本社) 那覇市西新町二ノ一六 (電二三)  
(事務所) 東京市麹町區丸ノ内ノ八興銀ビル (電九ノ内三三)

【打撃の數々】文字通り氣息奄々たる業態におかれた當社は、昨年度突如として一分増配を執行し三分配當をつけるに至つた。成程十一年度の成績は九、十年度より向上はしてゐると言ふもの、利益率五分九厘、償却年限五十三ヶ年半と言ふ業態で優先六分普通三分の配當をつけ、前期より五萬圓の配當金増加を行つたのは全く無謀と云つてよい。この負擔増のみならず當社は、今回の砂糖消費税改正によつて致命的打撃を蒙つた。それは沖繩の主要農産物たる白糖黒糖に手厚い保護が加へられたからで、自作耕地をもたぬ當社は原料難、従つて原料高の深刻な悩みに當面せざるをえなくなつた。適當な打開策は構ぜられるであらうが、三温糖製造には甚だ不利となる譯だ。

【今期成績】税法改正の打撃は今期は受けないにしても、昨年十月の鹽風、昨年後半期の數回の暴風雨及び栽培技術の稚拙から生じた甘蔗の品質悪化に依つて收量及濃度の低下した事は否めない。本年度産糖は期初豫想より三萬擔を減じて二十七萬擔と見られる。差益一圓五十錢、雜收と合せて利益は四十五萬圓とならう。

【配當は】従つて現行配當は維持出来るわけだが、一部に言はれる二、三分増配設の如きは信じられない。

### 森永製菓株式會社

(本社) 東京市芝區田町一ノ二二 (電三三三)

【利益増進】森永製菓の本年上期決算は三月末で締切られたが、成績は依然順調で利益は續いて殖える。二月までの計算に依ると賣上高は六百四十二萬五千圓に達し、前年同期に比し卅三萬二千圓の増加である。その外この期から子會社の配當收入も殖える。尤も他方最近の物價高で支出も増加するから、收入の増加がそのまゝ利益の増加とはなるまいか、併し差引七十萬圓位もの利益に上る見込みである。或は表面には六十五萬圓見當を計上するかも知れぬが、それでも前期に比し二萬七千圓の増加で、更に新記録を作ることになる。昨年十月に全額拂込済みとなつたため配當金は殖えるが、それでも利益率は若干高まる。

【増配豫想】當社の増配はこゝ二、三期來の懸案であるが、此の期は成績も順調であるから、愈々一、二分の増配が實現するのではないかと思ふ。一部には増資まで期待する向もある。事實當社自身も擴張を行つてをり、更に子會社も擴張計畫があるので資金も入用だ。尤もそのための差迫つて増資を必要としないが、先の樂しみとして残してをいよ。

【株價】六十六圓弱みは七分配當として五分三厘、八分として六分一厘の利廻りだ。増資を残してゐる株としてはまだ買へる。

【設立】	大正二年三月
【決算期】	六月(年一回)
【事業】	分密糖
【資本金】	普通(五〇) 100,000 優先(五〇) 50,000
【株主】	普通(五〇) 100,000 優先(五〇) 50,000
【役員】	専務 末廣幸次郎 取締役 牧山龍二郎 取締役 赤司初太郎 監査 殿本松造 高津久右衛門
【大株主】	日本興業銀行 八〇〇,〇〇〇 高津久右衛門 二〇〇,〇〇〇 高津久太郎 三〇〇,〇〇〇 高津合資 三〇〇,〇〇〇 安田 三〇〇,〇〇〇 山田 三〇〇,〇〇〇
【事業成績】	(十一年) 十一年は豫想 産糖高(担) 270,000 糖質高(%) 13.5 糖量(担) 364,500 糖價(圓) 3,300 糖収入(圓) 1,202,850
【資産負債】	六九 六〇 六〇 六〇 株主資本 七〇八〇 外部負債 八〇〇〇 借入金 八〇〇〇 支拂手形 三〇〇〇 使用總資本 一〇,〇〇〇 流動資産 一〇,〇〇〇 固定資産 一〇,〇〇〇 現金預金 一〇,〇〇〇
【名義書換】	十 新券交付 五十錢

【設立】	明治四十三年二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	キヤラメル、チヨコレート其 他菓子類
【資本金】	普通(五〇) 100,000 優先(五〇) 50,000
【株主】	普通(五〇) 100,000 優先(五〇) 50,000
【役員】	社長 松崎半三郎 取締役 中村芳三 常務 森永善吉 白川順一 大車 松次 監査 武智直道 辻清次郎 櫻井小一 取締役 益田 太郎
【大株主】	森永製菓 八〇〇,〇〇〇 森永太平 五〇〇,〇〇〇 松崎半三郎 二〇〇,〇〇〇 岩下 壯一 一〇〇,〇〇〇
【事業成績】	賣上高(千圓) 7,500 売上高(千圓) 7,500 純利益(千圓) 1,000 株主資本(千圓) 1,000 外部負債(千圓) 1,000 借入金(千圓) 1,000 支拂手形(千圓) 1,000 使用總資本(千圓) 2,000 流動資産(千圓) 2,000 固定資産(千圓) 2,000 現金預金(千圓) 2,000
【名義書換】	十 新券交付 五十錢

# 明治製菓株式会社

(本社) 東京市京橋區京橋二ノ八(電京橋三三三)

【売上高増】 當社の売上高は引續き激増し、昨年度下期の新記録九百四十八萬六千圓を遂に突破して、待望の年二千萬圓實現に成功するものと思はれる。と言ふのは期初以降本年一月迄の累計は七百四十三萬圓に上つて居るから、今季總売上は大約一千十萬圓見當と豫想されるのだ。従來の例により利益金を賣上額の七分と見れば七十七萬圓だが、一方に原料小麥、砂糖、牛乳等の値上りも著しいので、先ず七十萬圓見當、よくつて七十五萬圓と抑へられる。内輪に七十萬圓と抑へても、利益率は一割九分三厘となる。

【多角經營】 當社製品の七割は菓子類、残りの三割は乳製品である。當社は各々の部門に於て擴張を續けてゐる。一例を挙げれば菓子類にては九州戸畑工場が今期より操業を開始し、乳製品に於ては上ノ山工場が同じく操業し、北海道札幌、十勝の兩製乳工場も擴張される。後者即ち乳製品部門に於ては當社は本邦全生産高の七割五分を獨占してゐる状態にある。其他東京武蔵境の特産牛乳工場の市販開始、蔬菜果物の瓶詰製造も計畫中だ。

【配當】 今期成績は前述の如く好轉し、前途も益々好調を辿るものと思はれる。従つて擴張資金充當の意味からの増資と揃んで、一、二分増配を見込む筋もあるが、共に當分は實現されまい。

【設立】	大正五年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	各種菓子及乳製品
【資本金】	10,000
【株数】	10,000
【役員】	社長 相馬半治 専務 植垣一郎 監査 佐々木清吉 常務 福島四郎 小出 義雄 取締役 伊藤 一二 山成 喬六
【株主】	明治製糖、古谷辰四郎、相馬半治、山口辰太郎、三木 榮一、今井商店、菓子川崎、戸田、奉天、函館、旭川、木古内、八雲、札幌、牛乳、兩國、豊平、笠岡、上ノ山
【事業成績】	十年下 十二下 賣上高(千圓) 七、七九八、八八六 製造費( ) 五、三二二、五七六 【関係会社】 明治製糖の子会社 【資本異動】 十一年四月明治製乳、函館菓子、山陽煉乳合併 100萬圓増資
【資産負債】	十年 十一年 十一年 株主資本 七、七九八、八八六 外部負債 一、一〇一、一〇一 支拂手形 一〇一、一〇一 使用總資本 八、九〇〇、〇〇〇 固定資産 八、九〇〇、〇〇〇 流動資産 一、一〇一、一〇一 現金預金 一〇一、一〇一
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下 收入 七、七九八、八八六 支出 八、九〇〇、〇〇〇 固定資産 八、九〇〇、〇〇〇 消却年率 一〇〇、〇〇〇
【業績】	八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 利益率 一〇、〇〇〇、一〇、〇〇〇、一〇、〇〇〇、一〇、〇〇〇、一〇、〇〇〇、一〇、〇〇〇、一〇、〇〇〇
【株(價)】	高値 安値 高値 安値 十一年 六、〇〇〇、六、〇〇〇 十一年 六、〇〇〇、六、〇〇〇
【後配當】	十二年三月期 八分
【利息】	三月二十日調 五分一厘 時價 新五、五分一厘 【名義書換】 十、新券交付 二十五

# 製肥事業

【肥料相場の恢復】 昨年十二月から先行き一般に強含み商況を示現してゐる肥料相場は、本年に入つてからづつと勝勢を續けてゐる。昨年の二月事件以來の低落傾向を改めたのだから注目値する。尤も最近の相場一例へば硫安の三圓五十錢餘(十貫建)は前年同期の四圓廿錢内外に比べると相當下値にあるが、昨秋の安値よりは一割餘の騰貴に當る。また過燐酸、石灰窒素等は前年同期並に恢復して來た。例の肥料業統制法の影響で著しい高値を示すこともあるまいけれども、原料昇騰の折柄でもあり、更に需給方面から見ても、相場の前途は昨年の轍を踏む様なことはなからう。

【統制法實施後】 肥料業統制法は昨年十一月十五日愈々施行され、十二月廿四日には同施行規則に含まれる硫安、石灰窒素及過燐酸の三肥料製造業組合も成立し、次いで運用委員會並組合の各役員を選定を見た。斯くて統制法運用の基礎工作を終へたのであるが、今迄の處まだ實際的に發動されない状態だ。但し政府が二月に「硫安輸出

入許可制」を實施した事、三月に朝鮮にも「重要肥料業統制令」を布いた事、並びに商工農林兩省が三月下旬に來る七月末に終る十一月十二日肥料年度の硫安需給推算を發表した等は、業界として關心を拂ふべき事項だ。

【製造業組合の活動】 他面組合では、硫安製造業組合が三月十一日に三―七月の建値(三圓五十五錢乃至三圓七十五錢)に對する認可方を主務當局に申請し、過燐酸製造業組合も亦三月下旬に三割餘の生産制限並組合員出荷調整の件に付同様認可を申請した。然し執れもまだ許可を得ない。即ち事實上統制法の運用を見ない所以だ。

【需要は良好】 斯様に所謂「公定價格」も決められぬ裡にも、實需季の接近と共に各社は自由相場―それも前記の如く相當高値で賣應じてゐる。而も需要は各肥料共旺盛の模様(現に當局の本年度推定全國消費は對前年二割増)だから原料高乍ら、業界は明朗だ。(傳へられる硫安公定建値三圓四十錢と雖も會社に不利なものでない)

【各社成績】 事情右の如しとすれば、尠なくとも本年上期の製肥會社の収益は可成り好轉するであらう。

### 日本窒素肥料株式会社

(本社) 大阪市北區宗島町一丁目(電報掛 〇六〇一四)  
(事務所) 東京市豊町區丸の内二ノ六八番地(電報掛 〇九二二)

【二億圓に増資】日本窒素は去る三月二十六日の重役会で、従来の資本金九千九百萬圓を二億圓に増資することに決定した。倍額増資よりも二千萬圓程多い譯だ。増資新株は七月一日現在株主に對し、一對一の割合を以て割當てられる。すると二千萬圓、四十萬株が餘ることになるが、これは日窒コンツェルンに屬する諸會社に分配され、一般市場には公募されない。新株の第一回拂込は八月一日で、一株につき十二圓五十錢總額二千七百五十萬圓だ。三月徴收の二千二百五十萬圓と合せて五千萬圓の資金が出来る。

【増資の目的】増資の目的は、鴨綠江水力の開發並に其の發生電力消費を目的とする諸工業の建設資金を調達するにある。尤も鴨綠江の開發資金は滿洲國、朝鮮總督府兩者の間に於て均等に出るが、日窒は其のうち朝鮮側に出資する。開發は最も經濟的な地點から始められるが、具體的な計劃は未確定だ。従つて拂込金は一時短期債務の返済に當てられる筈だ。然し日窒は、鴨綠江開發の外に、石炭液化工業への進出、長津江、盧川江の開發、曹達工業へ進出中で、當分資金はいくらあつても剩らない。

【配當】新株拂込徴收後も一割配當に不安はない。

【設立】	明治三十九年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	合成硝酸、カーバイド、合成硫酸、電氣供給
【資本金】	新(五〇〇〇) 〇〇〇〇〇〇
【株主】	新(五〇〇〇) 〇〇〇〇〇〇
【重役】	社長 野口 達 取締役 櫻島 健一、市川 誠夫、白石 宗城、櫻井直三郎、監査 藤本 太郎、常務 金田榮太郎、萩 生、傳
【株主数】	十年上 十年下 十年上 十年下
【大株主】	野口 達(一〇〇〇) 櫻井直三郎(一〇〇〇) 白石 宗城(一〇〇〇) 藤本 太郎(一〇〇〇) 萩 生(一〇〇〇) 傳(一〇〇〇)
【製造高】	合成硝酸(噸) 十年上 十年下 合成硫酸(噸) 十年上 十年下
【事業規模】	發電所出力(電力) 〇〇〇〇 〇〇〇〇
【投資會社】	朝鮮窒素、旭ハベンダ、長津江水電、朝鮮石炭工業、日本窒素、大東、朝鮮窒素火藥、朝鮮窒素、其他
【資本異動】	十一月三月二十五日拂込徴收、三月末一位一千万圓増資決定

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金支手	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
現金預金	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【收支】	十年上 十年下 十年上 十年下
収入	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
支出	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
利益	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【配當】	十一月五日 一割
【名義書換】	十 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

### 昭和肥料株式会社

(本社) 東京市京橋區寶町一ノ七味の素ビル内(電報掛 〇七七一)

【設備】川崎工場に於けるコークス法への設備第二次轉換は豫定より遅れたが、四月から愈々正式操業に入つた。同工場硫安生産全能力の過半がコークス法に基く水素源に依る事になり、電解法による電源不安への備へが出来た。従つて生産費も相當低下可能の見込だから、硫安相場高と相俟つて採算良化を強める。

【計畫】處で右設備轉換と共に原料コークスの消費が殖えるが、東京瓦斯其他からの買入の他に、新たに自給の計畫を樹てた。北海道石狩川上流の赤平炭礦の買入はその目的を遂行する爲めのものである。尤も此の炭礦の經營には別會社を創設する模様だが、兎も角、該礦山から一ヶ月二萬噸内外のコークスを得る外、更にその石炭瓦斯を利用してタービン系事業へ進出する計畫もある。いま一つ鹿兒島縣の屋久島に十萬キロ程の水力を開發し、之を利用して電氣化學工業を起す事も考慮されてゐる。

【資金】當社は前記硫安設備費を社内保留と借入金とで賄つて来たが、結局は拂込、續ひて増資に進む期待は充分ある。尠なくとも今年中には未拂込金の半額は徴收するのではあるまいか。

【成績】三月期の計上利益は三百萬内外の見込だから、勿論一割配當据置だ。増税後も配當に問題なく、株價は興味含みだ。

【設立】	昭和三年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	硫安、石灰窒素、カーバイド
【資本金】	新(三〇〇〇) 〇〇〇〇〇〇
【株主】	新(三〇〇〇) 〇〇〇〇〇〇
【重役】	社長 鈴木忠治 取締役 水島 勝正、森 嘉利 取締役 横山 武一、高橋 保、藤田 武一、白根 景作 監査 浦山助太郎、健和田良平、佐野 精一、五十嵐直三、津田 文雄、安田彦四郎、岡部 榮一、河西豊太郎、田邊 七六
【株主数】	十年上 十年下 十年上 十年下
【大株主】	東京電燈(一〇〇〇) 東信電氣(一〇〇〇) 森興業(一〇〇〇) 第一生命(一〇〇〇) 野村生命(一〇〇〇) 新海電力(一〇〇〇) 野村生命(一〇〇〇) 安田銀行(一〇〇〇) 硫安年産能力(噸) 十年上 十年下
【生産高】	硫安(噸) 十年上 十年下 石灰窒素(噸) 十年上 十年下
【カーバイド】	十年上 十年下
【關係會社】	東京電燈、東信電氣の子會社
【投資會社】	昭和合成化學、東京電燈、東信電氣、東信電氣、東信電氣
【資本異動】	十年四月三回五拂込徴收

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金支手	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
固定資産	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
流動資産	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
現金預金	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【收支】	十年上 十年下 十年上 十年下
収入	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
支出	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
利益	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【配當】	十一月五日 一割
【名義書換】	十 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

### 滿洲化學工業株式會社

(本社) 大連市郊外甘井子  
(營業所) 東京市豊町區丸の内(電丸ノ内天竺)

【減配】 昨年九月決算に於て一分減の七分配當とした。當期の利益は百六十一萬六千圓、利益率一割七分二厘で、必ずしも八分配當を持續し得ない譯ではなかつた。然し八分配當開始の十年下期が二割一分餘、次の十一年上期が四割二分餘の利益率であつたに比較すると、相當の成績低下と言ふべきで、監督官廳の慈愼且は堅實決算の意味から、減配を斷行した次第だ。

【上期】 本年三上期は前期と異り、硫安相場も餘程見直してをり、豫定の生産にも達し、更に硝安其他の副産物價格の昂騰もあるから、前期以上の収益を擧げ得る事は確かだ。併し配當は矢張り七分を踏襲するものと見られる。と言つても將來八分に復歸しない譯でなく、寧ろその復歸期待は充分ある。

【増産】 目下建設中の「堀式」による硫安六萬噸増産設備は、愈々大期仲は頃完成する。之が豫定建設費六百萬圓は當面借入金で支辨し、機を見て社債に振替へる豫定である。尙青森縣荒川の硫安鐵礦山を買収、以て硫酸自給を具體化する計畫は右増産に關聯して、生産費の低下を圖る目的からである。

【株價】 一時低落した株價は最近四分八、九厘の低利廻に迄買はれてゐるが、今の所拂込・増資は暫らく問題外だ。

【設立】	昭和八年五月	【設立】	大正四年五月
【決算期】	三月、九月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	硫安其他各種肥料及化學工業	【事業】	硫安、石灰窒素、各種工業藥品
【資本金】	品物製造、賣買並輸出	【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇
【株數】	株 八〇,〇〇〇	【株數】	株 六〇,〇〇〇
【役員】	社長 高橋 是實 取締役 田村 羊三 常務 右近 又雄 監査 中村房太郎 取替 藤川 水光 山本 信夫 奥村 政雄 堀 義雄	【役員】	社長 大橋新太郎 取締役 金子 武藏 常務 近藤 鉄次 監査 藤村 左吉 常務 岡田 光治 監査 間島 與喜 取替 日比 勝治 堀川 三郎 伊藤 二郎 相模 藤原 銀次郎 柳 壯太郎 牧田 環 羽村 協輔
【大株主】	南滿洲鐵道 五七、五〇〇 全購 興業 八、〇〇〇 東洋窒素工業 八、〇〇〇 廣徳興業 三、三〇〇 住友合資 八、〇〇〇 前田利爲 六、〇〇〇 川島屋商店 五、〇〇〇 豐年製油 五、〇〇〇	【大株主】	三井合名 四〇、〇〇〇 富國 鐵兵 三、〇〇〇 藤原合資 〇、〇〇〇 入丸商店 八、〇〇〇 牧田 環 八、〇〇〇 太平生命 八、〇〇〇 仁壽生命 七、〇〇〇 高砂企業 七、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 大連市郊外甘井子	【事業規模】	工場所在地 大連市郊外甘井子
【生産能力】	硫安 五〇,〇〇〇 噸 硝安 五〇,〇〇〇 噸 硝酸 五〇,〇〇〇 噸 硝酸(五〇%) 五〇,〇〇〇 噸	【生産能力】	硫安 一〇〇,〇〇〇 噸 硝安 一〇〇,〇〇〇 噸 硝酸 一〇〇,〇〇〇 噸 硝酸(五〇%) 一〇〇,〇〇〇 噸
【事業成績】	事業収入(千圓) 十一年上 十一年下 原價並諸掛(千圓) 三、三九 五、五五 五、五五 【投資會社】 滿洲鐵道、滿洲會社	【事業成績】	事業収入(千圓) 十一年上 十一年下 原價並諸掛(千圓) 三、三九 五、五五 五、五五 【投資會社】 滿洲鐵道、滿洲會社
【資本異動】	十一年三月十一日開五拂込徴収	【資本異動】	十一年五月三十一日開五拂込徴収
【資産負債】	株主資本 三三、三三三 外部負債 三三、三三三 支拂手形 三三、三三三 使用總資本 三三、三三三 流動資産 三三、三三三 現金預金 三三、三三三	【資産負債】	株主資本 三三、三三三 外部負債 三三、三三三 支拂手形 三三、三三三 使用總資本 三三、三三三 流動資産 三三、三三三 現金預金 三三、三三三
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下	【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
【株價】	高値 安値 新株 安値	【株價】	高値 安値 新株 安値
【利息】	三月二十日調 五分八厘 時價 五分三厘	【利息】	三月二十日調 五分八厘 時價 五分三厘
【名義書換】	五 銭 【新券交付】 二十 銭	【名義書換】	五 銭 【新券交付】 二十 銭

### 電氣化學工業株式會社

(本社) 東京市豊町區有樂町三丁目内(電銀座裏一)

【拂込】 當社は来る五月一日、新株最終拂込一株に付十二圓半宛總額三百五十萬圓を徴収する事に決定してゐる。これで資本金二千八百萬圓全額拂込済となるが、次で増資に進むものと観測せられる。増資程度は倍額或は倍額半、時期は今秋の見込である。

【建設】 今回の拂込金は、五及和賀川兩發電所の建設資金として一部支出済の借入金の内、二百萬圓を返済するほか、今後の同上建設費に充てる。尙増資拂込は、同建設費の不足分並該電力を利用しての硫安及石灰窒素の増産、低價鉄製鍊の各工場建設費に向ける豫定。尤も和賀川電力(及低價鉄、石室生産)の方は、別會社とする筈だが、某方面と共同出資を交渉中である。同社の資本金は一千萬圓以上の模様で、取極めの成立を俟つて創立の見込。

【前期】 昨年下期は利益金二百七十四萬圓、利益率一割七分七厘で、配當を一分増の一割とした。計上利益は稍渺ないが、内面保留を厚くして前途に備へたのだ。販賣高は對前年同期、硫安三割、石灰窒素五分の各増加で、採算は比較的良好だつた。

【今期以後】 今期は二百三、四十萬圓の利益を計上し得るから、一割配當踏襲は可能だ。前途は、擴張過渡期に入つてゐるが、内容の改善による弾力性と業界の好調によつて、一割持續見込。

【設立】	大正四年五月	【設立】	昭和八年五月
【決算期】	五月、十一月	【決算期】	三月、九月
【事業】	硫安、石灰窒素、各種工業藥品	【事業】	硫安其他各種肥料及化學工業
【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇	【資本金】	品物製造、賣買並輸出
【株數】	株 六〇,〇〇〇	【株數】	株 八〇,〇〇〇
【役員】	社長 大橋新太郎 取締役 金子 武藏 常務 近藤 鉄次 監査 藤村 左吉 常務 岡田 光治 監査 間島 與喜 取替 日比 勝治 堀川 三郎 伊藤 二郎 相模 藤原 銀次郎 柳 壯太郎 牧田 環 羽村 協輔	【役員】	社長 高橋 是實 取締役 田村 羊三 常務 右近 又雄 監査 中村房太郎 取替 藤川 水光 山本 信夫 奥村 政雄 堀 義雄
【大株主】	三井合名 四〇、〇〇〇 富國 鐵兵 三、〇〇〇 藤原合資 〇、〇〇〇 入丸商店 八、〇〇〇 牧田 環 八、〇〇〇 太平生命 八、〇〇〇 仁壽生命 七、〇〇〇 高砂企業 七、〇〇〇	【大株主】	南滿洲鐵道 五七、五〇〇 全購 興業 八、〇〇〇 東洋窒素工業 八、〇〇〇 廣徳興業 三、三〇〇 住友合資 八、〇〇〇 前田利爲 六、〇〇〇 川島屋商店 五、〇〇〇 豐年製油 五、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 大連市郊外甘井子	【事業規模】	工場所在地 大連市郊外甘井子
【生産能力】	硫安 五〇,〇〇〇 噸 硝安 五〇,〇〇〇 噸 硝酸 五〇,〇〇〇 噸 硝酸(五〇%) 五〇,〇〇〇 噸	【生産能力】	硫安 一〇〇,〇〇〇 噸 硝安 一〇〇,〇〇〇 噸 硝酸 一〇〇,〇〇〇 噸 硝酸(五〇%) 一〇〇,〇〇〇 噸
【事業成績】	事業収入(千圓) 十一年上 十一年下 原價並諸掛(千圓) 三、三九 五、五五 五、五五 【投資會社】 滿洲鐵道、滿洲會社	【事業成績】	事業収入(千圓) 十一年上 十一年下 原價並諸掛(千圓) 三、三九 五、五五 五、五五 【投資會社】 滿洲鐵道、滿洲會社
【資本異動】	十一年五月三十一日開五拂込徴収	【資本異動】	十一年三月十一日開五拂込徴収
【資産負債】	株主資本 三三、三三三 外部負債 三三、三三三 支拂手形 三三、三三三 使用總資本 三三、三三三 流動資産 三三、三三三 現金預金 三三、三三三	【資産負債】	株主資本 三三、三三三 外部負債 三三、三三三 支拂手形 三三、三三三 使用總資本 三三、三三三 流動資産 三三、三三三 現金預金 三三、三三三
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下	【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
【株價】	高値 安値 新株 安値	【株價】	高値 安値 新株 安値
【利息】	三月二十日調 五分八厘 時價 五分三厘	【利息】	三月二十日調 五分八厘 時價 五分三厘
【名義書換】	五 銭 【新券交付】 二十 銭	【名義書換】	五 銭 【新券交付】 二十 銭

### ラサ工業株式会社

(本社) 大阪市西淀川区高見町一ノ六四(電土住堀三)

【鑛山成功】當社は從來肥料製造、鑛石の採掘を主業として来た。ところが、今期から田老鑛山より銅鑛、硫化鑛を採掘することになり、収益上からは、鑛山の方が肥料関係事業よりも重要な位置を占めるやうになつて来た。本業の肥料事業が副業で、副業であるべき鑛山開發が主業とならうとしてゐる。今後の當社の成衰は一に懸つて此の鑛山開發の成否如何にあると言つてよい。そしてこの鑛山開發は大體に於て成功のと見られてゐる。

【今期二分増配】既に此の三上期に二分の増配は重役會にて決定してゐる。業績が非常によいかから、確かな數字は未詳だが百萬圓近くの利益が擧がるものと豫想される。

【拂込徴収】此の四月一日に新株一株につき二十五圓の拂込を徴収。拂込金は事業擴張の資金に當てられるが、此の拂込徴収によつて未拂込はあと十二圓五十錢を残りのみとなつた。最終拂込の徴収も案外早いものと豫想される。

【増資増配】来る九上期の業績は更に一段と好化する。銅鑛、硫化鑛の増産のためだ。百五十萬圓程度の利益は期待される。或は更に二分程度の増配とならう。業績は好調だから更に事業の擴張を行ふ豫定だ。倍額増資も遠くはない模様である。

【設立】大正二年五月

【決算期】三月、九月

【事業】過磷酸、硫酸、硝石、苛性苛性、合成硫酸、鑛石、硫化鑛、銅

【資本金】公稱上三〇〇〇 拂込一七五〇〇

【株数】新(五〇〇) 舊(一二五〇) 一七五〇〇

【重役】社長 小野 義夫 取締役 仲村 泰治 常務 藤田 小人大 監査 藤田 東太郎 取締役 石崎 石三 監査 藤田 清太郎

【株主数】十年上 十年下 十年上 十年下

【大株主】小野 義雄三三三 藤田 小人大 八〇〇 新井 貞太郎 八〇〇 石崎 石三 六〇〇 草川 商事 六〇〇 草川 求馬 六〇〇

【事業規模】年産能力(全産) 過磷酸 一〇〇〇 苛性苛性 一〇〇〇 硫酸 一〇〇〇 合成硫酸 一〇〇〇

【生産高】十年上 十年下

【事業成績】十年上 十年下

【資本異動】三月各一四一五拂込徴収、十一月、十一月、三月各一四一五拂込徴収、八月六〇〇萬圓増資、一四一五拂込徴収、十二月、四月二五〇拂込徴収の答

【資産負債】

項目	九月	十一月	十二月
株主資本	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
外部負債	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
借入金	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
使用總資本	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動資産	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定資産	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
使用總負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇

【業績】

項目	九月	十一月	十二月
株主資本	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
外部負債	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
借入金	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
使用總資本	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動資産	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定資産	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
使用總負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
固定負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
流動負債	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇
現金預金	六、二〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇

【名義書換】十 新券交附【五十】

### 住友化學工業株式会社

(本社) 大阪市東區北濱五丁目二二(電北濱二下)

【増資進行】豫てから豫想してゐた増資は、去る三月一日の重役會で決まつた。三月二十五日に最終拂込(二百五十萬圓)を徴収し、四月五日に臨時株主總會を開き、倍額増資案を附議することゝなつた。増資新株は一對一の比率を以て、五月十日現在の株主に割當てられる。増資新株の拂込期日は未確定であるが、六月下旬に徴収する筈だ。徴収金額は一株につき十二圓五十錢、總額五百萬圓だ。三月二十五日徴収の最終拂込二百五十萬圓と合せて七百五十萬圓の新資金が得られる。

【増資の目的】増資の目的は、第一に最近までの擴張計劃實施に依つて生じた借金を返済するにある。現に十一年下期末の借入金及支拂手形は合計六百八十萬圓に上つてゐた。右拂込並増資でこの借金は全部返済される譯である。だが當社の今回の早急な増資は單に借金の返済とのみ解することは出来ない。アルミナの大増産タール工業への積極的進出等の意圖も含まれてゐるのは蔽ひ難い。従つて、第二回、第三回の拂込も近き將來に期待されるばかりでなく、再度の増資も否定出来ぬ。

【配當安泰】當社が素晴らしい業績を収めてゐる事は屢報の通りだ引續き拂込が徴収されても一割配當には少しの懸念も要しない。

【設立】大正十四年

【決算期】六月、十二月

【事業】硫酸、過磷酸肥料、配合肥料、硫酸、合成硫酸、アンモニア

【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込 一七五,〇〇〇

【株数】新(五〇〇) 舊(一二五〇) 一七五〇〇

【重役】會長 小倉 正恒 取締役 三村 起一 常務 大屋 敏 取締役 三村 起一 常務 矢崎 徳治 取締役 三村 起一 常務 羽生 廣一 監査 八代 則彦 取締役 國府 精一 監査 村田 省藏 取締役 山本 信夫 監査 松本 順吉 監査 山本 信夫

【株主数】十年上 十年下 十年上 十年下

【大株主】住友合資三六三 住友信託 九三三 住友生命 五六三 住友青在 門三〇〇 愛國生命 三〇〇 住友子 山三〇〇 第一生命 三〇〇 明治生命 三〇〇 帝國生命 三〇〇 日本生命 三〇〇 生産能力(全産) 過磷酸肥料 一〇〇〇 硫酸 一〇〇〇 合成硫酸 一〇〇〇 各種硫酸 一〇〇〇 各種硫酸 一〇〇〇 各種硫酸 一〇〇〇 各種硫酸 一〇〇〇

【資本異動】十一月八月三圓五拂込徴収、三月三圓五最終拂込徴収、二、〇〇萬圓増資五月第一回三圓五拂込徴収の豫定

【資産負債】

項目	十二月	十一月	十二月
株主資本	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
外部負債	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
借入金	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
使用總資本	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動資産	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
現金預金	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
固定資産	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
固定負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
使用總負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
現金預金	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
固定負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
現金預金	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇

【業績】

項目	十二月	十一月	十二月
株主資本	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
外部負債	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
借入金	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
使用總資本	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動資産	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
現金預金	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
固定資産	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
固定負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
使用總負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
現金預金	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
固定負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動負債	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
現金預金	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇

【名義書換】十 新券交附【五十】

### 東洋高圧工業株式會社

(本社) 東京市日本橋區區町二ノ三井ビル内(電日本橋 三六六)

【合併終了】昨秋内定してゐた三池窒素の合併は去一月末を以て完了した。合併条件は一対一だが、三池の株主には一株に付十圓宛の特別交付金が分配された。この合併により資本金は公稱一千萬圓、拂込八百萬圓を、又硫安年産能力は七萬五千噸を、それぞれ増加し、名實共に三井硫安の優秀さを發揮する事となつた。

【成績】前期の成績は、高壓(十一年九月締切)は益金百六十一萬圓、利益率二割一厘、また三池(十二月締切)は益金百八十七萬一千圓及四割六分八厘であつた。兩社共一割配當措置だが、三池の方が斷然餘裕に富む。昨年は硫安相場の次第悪化で、優良會社程實力を發揮した譯だが、三池は流石に良成績であつた。それに反し高壓は操業が本調子に至らなかつた影響もあつて對上期五分三厘の利益率低下を示したのである。蓋し止むを得ぬ所だ。

【今後】然し合併後の高壓はその足りない點を充分補はれる筋合にある。經營一元化による利得と操業の順調化に期待されるからだ。而も尙一ヶ年の免稅期間がある。硫安市價は本春に入つて強調を辿り、需要も亦旺盛であるのと相俟つて、一割配當は安泰。當社と電化との合併が云々されてゐるが、尙實現性に乏しい。然し環境に對應するため増産に向ふことは考へ得る處だ。

【設立】	昭和八年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	硫安製造
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 8,000,000
【株数】	100,000
【重役】	會長 中井 四郎 取締役 松田 龍房 常務 荒木 道 古崎 秀次郎 長澤 一夫 玉置 豊助 磯部 房信 監査 岡本 達三 藤原 銀次郎 日比 勝治 取締役 原 邦造 中村 伍七 高島 基江
【大株主】	三井礦山 三六,000 電氣化學 六,000 第一鐵兵 三,000 三井生命 八,000 富國鐵兵 一七,000 第一生命 三,000
【事業規模】	工場所在地 福岡縣大牟田 年産能力 二七,七千噸
【事業成績】	十年下 十年上 十一年下 賣上高(千圓) 一,一〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 製造費(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 資本異動 昭和十年三月第三回拂込十 圓徵收。全年八月第四回拂込十圓徵收 十二年二月を以つて三池窒素工業を合 併し二一萬圓を増資
【資産負債】	九十年 十一年 十一年 十一年 株主資本 二六,八〇〇 二八,三〇〇 二八,〇〇〇 二八,〇〇〇 外部負債 五,八〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇 支拂手形 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 使用總資本 三三,〇〇〇 三六,三〇〇 三六,〇〇〇 三六,〇〇〇 流動資産 三三,〇〇〇 三六,三〇〇 三六,〇〇〇 三六,〇〇〇 現金預金 三三,〇〇〇 三六,三〇〇 三六,〇〇〇 三六,〇〇〇
【収入勘定】	十年下 十年上 十一年上 十一年下 收入 一,一〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 支出 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 利益 一〇〇 〇 〇 〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 利益率 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇
【株價】	九十年 十一年 十一年 十一年 最高 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 最低 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【利息】	三月二十日 利率 四分一厘
【名義書換】	五 續【新券文附】二十續

### 東硫化學工業株式會社

(本社) 東京市城東區大島町七ノ九五七(電本所三三三)

【事業】當社は硫酸界に於て有力な存在であると同時に、近年硫酸一本から染料、顔料、醫化學藥品方面にも進出し、この方面に於ても漸次有力な地歩を占めんとしてゐる。

【製品市況】硫酸類の價格は昨年以來低下したが、諸化學工業の活躍と關東地方に於ける斯界統制の完成とにより最近では略々安定した。又諸中間物及び醫藥品も時局の反映で漸次需要増加が期待される。

【上期の成績】この業界好況の影響を受けて上期成績は好望である。昨年下半年は利益金十八萬六千圓、利益率一割九分四厘であつたが、今期は新設工場運轉の効果が全面的に現はれる。かくて今期の染料中間物は販賣高に於て前期より一割餘を増加し、採算も横濱工場の全運轉によつてより好化しよう。他方硫酸販賣は前期並みの利益が擧がるから、今期利益は二十一、二萬圓が確實である。利益率二割で七分配當に餘裕加はる。

【今後の成績】今後の成績は更らに向上する。顔料と醫化學工業藥品が五六月頃に完成すれば、販賣は相當發展性があるので、これが成績に寄與する處大きいからである。なほ醫化學藥品完成の暁には、拂込徵收、増配も豫想される。

【設立】	明治廿八年十月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	發煙硫酸、強硫酸、純硫酸
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,100,000
【株数】	111,000
【重役】	會長 石川 一郎 取締役 磯村 乙巳 常務 兵衛 隆吉 監査 鈴木 敏藏 常務 石谷 傳兵衛 田中 榮八郎 取締役 柴田 二郎 相談 田中 榮八郎 取締役 柴田 二郎 相談 田中 榮八郎
【大株主】	柴田合名 一,〇〇〇 上野 豊藏 一,〇〇〇 兵衛 隆吉 一,〇〇〇 柴田 二郎 一,〇〇〇 秋田 太吉 一,〇〇〇 川崎 信託 一,〇〇〇 喜谷 喜和 一,〇〇〇 島田 左武郎 一,〇〇〇 河合千代子 一,〇〇〇 石川 一郎 一,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 東京市城東區大島町 横濱市鶴見區生麥町
【事業成績】	年産能力(噸) 硫酸 一〇,〇〇〇 純硫酸 一〇,〇〇〇 染料中間物 一〇,〇〇〇 化學藥品 一〇,〇〇〇
【投資會社】	大阪製鍊
【資本異動】	昭和十年十二月七圓五拂込 徵收。
【資産負債】	十二年 十一年 十一年 十一年 株主資本 二二,〇〇〇 二二,〇〇〇 二二,〇〇〇 二二,〇〇〇 外部負債 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 支拂手形 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 使用總資本 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 流動資産 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 現金預金 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
【収入勘定】	十年下 十年上 十一年上 十一年下 收入 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 支出 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 利益 〇 〇 〇 〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 利益率 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇
【株價】	九十年 十一年 十一年 十一年 最高 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 最低 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【利息】	三月二十日 利率 四分一厘
【名義書換】	十 續【新券文附】三十續

### 日本曹達株式会社

(本社) 東京市麹町區大手町二丁目八(電九ノ内 三三二七)

【恵まれたり】本報と前報との間に日曹程に飛躍的展開を遂げたものはなからう。僅か四ヶ月間ではあるが、経営當局が千載一遇の好機とばかり日曹コンツエルの擴大充實に突進して来たからではあるが、また一つには過去の積極経営が一気に物を置かした境となつたためだ。つまり生産擴充時代に面接して過去の捨石の全部が生きたからだ。日曹程に恵まれたる會社は多くはない。

【常に軌道に】日曹の行き方は一見無軌道の如くにして實は然らずである。常に軌道から離れず算盤は確かである。日曹コンツエルの擴大に若しも水膨れの不安を感じるならばそれは妥當の見解ではない。今の日曹自體は一大病院である。弱體會社はこの病院に於て健康を取り戻し、それぞれ獨立獨歩の立場が與へられる。即ち直系傍系の諸會社はそれ自體が健全なる發育を遂げて果を關係會社に及ぼすことのないように仕組まれつゝある。従つて日曹今後の分解作用は經營合理化のためであつて、一大化學工業コンツエルの充實完備のためと解して氣を安んずべきである。

【増資近づく】金融的に安定化し、製品の全部は採算の好轉に恵まれて意外の増益が約束されてゐる。二倍乃至三倍程度の増資は遅くとも今秋迄に實現するが、拂込は六月、九月に徴收される。

【設立】	大正九年二月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	曹達、晒粉、硫酸、電氣亞鉛、硫酸亞鉛、特殊鋼、金屬カドミウム、其他化學工業藥品、アルミニウム
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 17,000,000 新 10,000,000
【株主数】	10,000
【重役】	社長 中野 友藏 取締役 竹中 治 常務 小島 善太郎 監査 安川 隆治 取締役 沼田 敏直 武山 鶴太郎 神尾 友修 相談 山元 一 辰澤 茂乙 増田 義一
【株主数】	十年下 十年上 十年下 十年上
【大株主】	妙高證券、美西 九州曹達 三、八〇〇 中野友藏、美西 武藏火油 三、三〇〇 林 莊治、美西 武山信成 三、三〇〇 竹中イタ、美西 辰澤保全 二、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 崎玉縣戸田村、新潟縣二本木、福島縣會津、富山縣富山、高岡、同東岩瀬、東京王子區 晒粉月産能力 一、〇〇〇 曹達月産能力 一、〇〇〇 曹達月産能力 一、〇〇〇
【投資會社】	九州曹達、山城火油、米子 製鋼所、小田炭礦、臺灣製糖、米子
【資本異動】	十一年十月一、五〇〇萬圓 増資、十月第一回拂込二、四〇〇萬圓、十二月三、二〇〇萬圓、四月日本銀行株式會社合併、三、八四萬圓増資の豫定

### 旭電化工業株式會社

(本社) 東京市麹町區九ノ内三ノ一〇(電九ノ内 三三九三)

【増産】昨年以來の擴張事業は一應完了した。食用バターは昨年十月から月産三倍の三十萬圓に、薬バルブは本年一月から日産十倍の十圓に、同じくセロファンは月産倍の二千連となり、何れも増産される事になつたのである。尤もバルブとセロファンはまだ本格的な操業と云ひ難いが、採算見込みも立つたので、今後第二段の擴張に進む豫定で、現にバルブは今秋二十圓能力とする筈だ。

【前期】昨年下半年は曹達部並油脂部とも、期の前半に悪く後半に上かつた。前者に於ける相場の低落、後者の原料高製品安による採算悪化が解消したからだ。爲に益金三十四萬八千圓強、利益率二割五分四厘と、同上期とほぼ同様な好成績であつた。

【今期】来る五月決算は前期後半より更に各製品の相場が昇騰してをり、而も前記の増産分の収益もあることから、三十五萬圓程度の利益(實際の利益はもっと多い筈であるが)を計上し得るだらう。一割配當を据置くこと勿論だ。

【前途】新規事業たる金屬マグネシウムは目下尙試験操業の範圍を出ないが、相當の自信を得た模様だから、今秋か遅くも來春には本格的に工場建設の運びとならう。目下の處、拂込も現實化せぬが行くは結局徴收される筋合にある。株價は興味含みだ。

【設立】	大正六年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	苛性曹達、晒粉、合成硫酸、硬化油、石鹼、人造バター、グリセリン
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,700,000 新 10,000,000
【株主数】	10,000
【重役】	社長 鈴木市之助 取締役 近藤 眞一 事務 磯部 一郎 浦野 三朗 取締役 山口 三郎 小池 一郎 取締役 山崎 三郎 南 助之丞 藤田 五郎 木村 利吉 藤田 良雄 南宮 四郎
【株主数】	十年下 十年上 十年下 十年上
【大株主】	古河銀行、美西 古河工業 八、〇〇〇 日本曹達、美西 九、〇〇〇 長富八重子、美西 鈴木市之助 三、〇〇〇 近藤 眞一、美西 恒 信 社 三、〇〇〇 安田 保善、美西 帝國生命 三、〇〇〇
【工場所在地】	東京市荒川區尾久町
【生産高】	十年下 十年上 十年下 十年上
【苛性曹達】	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
【晒粉】	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
【石鹼】	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
【油脂加工品】	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
【人造バター】	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
【投資會社】	東海漁業、南洋貿易、高砂香料、日本農業

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	11,700,000 11,700,000 11,700,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	12,700,000 12,700,000 12,700,000
固定資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
流動資産	2,700,000 2,700,000 2,700,000
現金預金	2,700,000 2,700,000 2,700,000
【收支】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	8,000,000 8,000,000 8,000,000 8,000,000
利益	2,000,000 2,000,000 2,000,000 2,000,000
【業績】	十年下 十年上 十年下 十年上
株價	100 100 100 100
【豫想配當】	十一年五月期 一割
【利息】	三月二十日 五分三厘
【名義書換】	十 新券交付 二十五

### 保土谷曹達株式會社

(本社) 東京芝罘今入町三(電報掛番一)

【拂込徴收決定】昨年九月第一新十二圓半、第二新五圓の拂込徴收を行った當社は、亦々、来る五月一日十二圓半の拂込を徴收することに決定した。之で新株は全部三十七圓五十錢拂込となり、剩す處四分の一となる譯だが、之も年内には徴收される事とならう。

【總て増資か】斯ふ見てくると當社は結局増資となる筈にあるが、今の處大回の拂込を借入金によつて賄ふと言ふ説もある。併し、會社當局の意圖は大體増資に傾いてゐるやうだ。増資額はまだ不明だが恐らく現在の三百九十萬圓を倍額餘の八百萬圓とするのではあるまいか。

【事業擴張】この拂込徴收資金の用途は勿論事業擴張にあるので、現在計畫されてゐるのは高級染料への進出と、蟻酸、蓚酸の能力増加、保土ヶ谷工場における火力發電設備等である。この發電能力二千八百キロに要する建設費だけでも約六十萬圓だ。其他これ以外にも種々畫策されてゐるので、増資は時の問題であらう。

【成績良好】處で業績だが今期は染料鹽化物曹達共値上りしてゐるので、前期より良く、三十萬圓の純益は見込める。が、拂込徴收による資本負擔増があるので直ちに増配は期待されない。併し業績向上は今期より寧ろ來期にあるので増資と併せ來期に期待される。

### 徳山曹達株式會社

(本社) 山口縣徳山市八、三五五(電一七)  
(事務所) 大阪市東區北濱四岩井商店内(電本局三四)

【悪化底を突く】徳山曹達は十年上期以降四期引續き減配して、十一年下期には、ついに岩井商店は其の持株全部の配當を辭退し一般株主に對して辛ふじて一割配當を付けることが出来ると言ふ慘狀となつた。同期の利益率は七分六厘と言ふ低率のものであつた。言ふまでもなくアルカリ界の極度の不振に原因するものである。然し十一年下期は最悪期で今後は良くなる見込みだ。

【今期稍良好】最近のアルカリ界の恢復は實に目醒しいものがある。當社も無論此の好影響を受けるが、安値約定品がかなり多いので、四月締切の今上期は業界好轉の好影響はあまり期待出来なない。尤も生産高が一割五、六分の増加を見る筈であるから、それだけは確實に増益となる。然し結局利益は百萬圓以下であらう。

【來期以降大好轉】十月締切の下期には著しく業績は向上する。云ふまでもなく、製品の値上りの好影響を全面的に受けるからだ。恐らく利益は百五十萬圓を下らないであらう。十三年上期からは、セメント生産が本格的に開始され、こゝからも半期四十萬圓程度の利益が擧がるものと期待される。之に投ずる資金は四百萬圓程度だが、借入金に依つて賄ふので非常に有利だ。

【増配】岩井商店株への復配は勿論、一般株にも一、二分増配。

【設立】	大正五年十二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	苛性曹達、晒粉、金屬曹達、過酸化曹達、鹽素酸曹達、鹽素酸加里、チトリン、各種鹽化物、香料、酸基及水素瓦斯、醫藥、染料及中間物。
【資本金】	公稱 三〇〇〇 拂込 二、五〇〇 新 三、〇〇〇
【株主数】	新 三〇〇 公稱 三〇〇
【重役】	社長 磯村 乙巳 取締役 福川 忠平 常務 磯村 秀策 監査 村松 風範 近藤 晋 伊藤 茂七 取締役 青山 藤治郎 小田村 有芳 【株主名】 十年下 十年上 十年下 【大株主】 三三 三三 三三 磯村 乙巳 九三三 磯村 合名 七三三 東都商事 五八三 伊藤 學治 三三三 磯村 秀策 四八三 福川 忠平 四三三 山一證券 三三三 近藤 晋 三三三 小田村 有芳 三三三 濱信 三三三 【事業規模】 工場所在地 徳山市保土谷 東京市王子 横濱市保土谷 大分縣川崎村 【資本異動】 十一年九月第一新三圓半、 第二新五圓拂込徴收 十一年五月三圓半 拂込徴收
【資産負債】	十月年 四十月年 十一月年
株主資本	二、五〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇
外部負債	一、八〇〇 一、八〇〇 一、八〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	三〇〇 三〇〇 三〇〇
使用總資本	四、三〇〇 四、三〇〇 四、三〇〇
固定資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	二、三〇〇 二、三〇〇 二、三〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
支出	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
消却年率	三三 三三 三三
【利益】	三月二十日調 五分七厘 新株 四分五厘
【名義書換】	十 十 十

【設立】	大正七年二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	苛性曹達、曹達灰
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込 一〇〇,〇〇〇 新 一〇〇,〇〇〇
【株主数】	新 一〇〇 公稱 一〇〇
【重役】	社長 岩井 雄二 取締役 下田 伊三郎 常務 磯村 秋之助 監査 磯村 文雄 取締役 越智 主一郎 岩井 豊治 取締役 豊田 利三郎 岩井 勇雄 【株主名】 十年下 十年上 十年下 【大株主】 三三 三三 三三 岩井商店 一〇〇 第一 磯兵 一〇〇 東洋生命 一〇〇 千代田生命 一〇〇 大同生命 一〇〇 第一生命 一〇〇 昭和生命 一〇〇 野村生命 一〇〇 【事業規模】 工場所在地 山口縣徳山 生産能力(日産) 一〇〇〇 【事業成績】 十年下 十年上 十年下 生産高 一〇〇 一〇〇 一〇〇 曹達灰(噸) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 苛性曹達(噸) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 賣上高(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇 【資本異動】 九年八月一千万圓を増資、 第一回拂込三圓徴收、十年十二月現社 名に改稱(元日本曹達工業)
【資産負債】	十月年 四十月年 十一月年
株主資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
社債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
借入金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
使用總資本	四〇〇,〇〇〇 四〇〇,〇〇〇 四〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動資産	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
消却年率	三三 三三 三三
【利益】	三月二十日調 六分三厘 新株 五分二厘
【名義書換】	十 十 十



### 大阪曹達株式會社

(本社) 大阪市西區阿波堀通一丁目五(電新町二五九)

【前期不振】昨年十一月決算は急悪化した。即ち利益金十五萬三千圓、利益率二割九分一厘である。二割九分一厘の利益率自體は決して悪いものではないが、上期の四割四分六厘、十年下期の六割六分四厘と云ふ利益率に比較すると、如何に急悪化したか判るであらう。急悪化の根本原因は、云ふまでもなく業界不牙にある。苛性は一時赤字を出すし、晒粉も悪いと言ふ状態だつたら、利益の減少したのも當然である。

【今期好轉】ところが今期は大分いい。苛性の値上りは著しいし、晒粉も頗る好い。尤も製品市況が著しく良くなつたのは今年に入つてから、それも目立つたのは二月頃からだから、此の製品高もまだ今期の業績を著しく好轉させることは出来ない。然しそれにしても昨上期の二十三萬七千圓に近い利益は收め得られると思ふ。良く行けば三十萬圓程度の利益は計上出来そうだ。普通八分、特配一割の配當が据置可能なるは言ふまでもなく、特配を五分引上げ一割五分とするかも知れぬ。

【來期大好轉】來期の業績は更に良くなる。勿論運賃高で原料鹽の輸入原價は高くなるが、苛性のみならず晒粉界もよゝから六、七割の利益率を收めることに疑ひの餘地がない。特配は二割か。

【設立】	大正四年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	苛性曹達、晒粉、漂白液、合成鹽酸、液體鹽素製造
【資本金】	公稱 二,000,000 拂込 一,000,000
【株主】	新 舊 (五〇〇〇) 株
【役員】	社長 尼崎伊三郎 事務 矢野寛 取締役 大塚和三郎 監査 山田市治郎 清水雄太郎 堀村修三
【株主数】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 三三三 三三三 三三三
【大株主】	田村 花子 四、〇〇〇 尼崎伊三郎 四、〇〇〇 宗像 等一 三、七五〇 尼崎汽船部 三、〇〇〇 長尾 藤三 三、〇〇〇 大塚和三郎 三、〇〇〇 尼崎造船所 三、〇〇〇 山田市治郎 三、〇〇〇 天野 寛 一、〇〇〇 中野野三郎 一、〇〇〇 堀村 修三 一、〇〇〇 中外産業 一、〇〇〇 大塚貞太郎 七、〇〇〇 武田 正一 六、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 小倉工場 小倉市中井 尼崎工場 尼崎市大高洲町 生産能力(月産) 晒粉 一、〇〇〇 苛性曹達 一、〇〇〇 漂白液 一、〇〇〇 合成鹽酸 一、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 實上高(千圓) 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 製造費(千圓) 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【投資會社】	晒粉販賣會社

【資産負債】	十一月 五十一月 十一月
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
固定資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	十年下 十年上 十年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【名義書換】	十 五 二十

### 北海曹達株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町二丁目三井ビル内(電日本橋三三一)

【經營本格化】化學工業會社として成功する要諦は多角經營にある。當社は從來主として苛性曹達、晒粉製造を行ふに止まつたが、昨年四月から投資會社レヨン曹達の操業開始と共に、隣接伏木工場を擴張し製品の多様化を計ることゝなつた。即ち、レヨン曹達の副生鹽、水素を無償にて譲り受け、鹽化アンモニア以下二十種に及ぶ鹽化物製造を行ふことになつたのだ。かくて當社の經營は化學工業會社として愈々本格化するに至つた。

【成績は飛躍的】この多角經營の功果は觀面で、昨下期(九月期)には曹達市況の不調から無配説さえ生れたのだが、意外にも三分増配が敢行され、六分配當がつけられたのである。この原因は曹達出荷の増加もさることながら、鹽素製品の好採算に恵まれたからだ。それに引續いて今期も、苛性曹達及晒粉の値上りは驚異的であり、其他の製造薬品の値上りも亦顯著である。従つて成績は飛躍的に改善されるが、當社は從來償却不足であつた關係上この方面にも相當振向けられると思はれるから、今期計上利益は(償却後)大約二十萬圓見當、利益率は一割七厘揃みとならう。

【増配は】それでも一割配當は可能だが、親會社三井の堅實主義により配當平均主義をとり、八分配當をつけることゝならう。

【設立】	大正七年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	苛性曹達、晒粉、合成鹽酸、鹽化アンモニア
【資本金】	公稱 六,000,000 拂込 三,000,000
【株主】	新 舊 (五〇〇) 株
【役員】	社長 坂本敏彦 監査 名出 義雄 取締役 堀内明三郎 原安三郎 取除 堀内明三郎 岸本 肇 小泉米藏 十一年上 十年下 總數(名) 四三三 四三三 四三三
【大株主】	三井物産 七、〇〇〇 南海晒粉 三、〇〇〇 原安三郎 三、〇〇〇 橋本株式會社 三、〇〇〇 小泉米藏 一、〇〇〇 中井四郎 一、〇〇〇 廣田善八 〇、〇〇〇 中外産業 〇、〇〇〇 尾形大郎 〇、〇〇〇 鳥居村治 〇、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 富山縣伏木町 生産能力 苛性曹達 八、〇〇〇 鹽化アンモニア 八、〇〇〇 鹽化エチレン 八、〇〇〇 晒粉 二、〇〇〇 生産高 十年下 十年上 十年下 製品質(千圓) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 製品賣上(千圓) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【投資會社】	三井物産の子會社 レヨン曹達
【資本異動】	九年十一月三百萬圓増資。

【資産負債】	九月 十一月 十一月
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
固定資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	十年下 十年上 十年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【名義書換】	五 十 二十

### 南海晒粉株式會社

(本社) 和歌山縣海草郡津村大字津二三四二(電和歌山 六三)  
(事務所) 和歌山市杉元馬場二丁目(電和歌山 四三)

【前期大減益】南海晒粉の前期は大減益を示した。利益金八萬二千圓、利益率八分五厘。十一年上期に比し正に半減である。言ふまでもなく苛性曹達界の極度の不振と、晒粉界の不牙に依る。苛性曹達に至つては赤字計算と言ふ慘憺たる状態であつた。只僅に硫酸部の増益で之等の赤字をカバーすることが出来たのであるが、何しろ本業の方が右の様な状態だから、減益したのは當然と言はねばなるまい。配當は六分から三分二厘に引下げた。

【本期は恢復】然し今期の業績は相當の立直りを見る筈である。第一苛性は最近著しく騰げて来た。既に前期末には採算點にまで来てゐたのだから、今期は勿論苛性は黒字だ。而も最近の賣値は前期末に比しては相當騰つてゐる。晒粉の方も良い。人絹界、人絹界の好調が硫酸の方とむろん悪くはない。と云つても最近の立直つた製品界の好影響を全面的に受けるのは來期と見ねばなるまい。今期も勿論悪くはないが、製品の値上りに正比例して利益が増加すると見る事は出来ない。先づ十六、七萬圓程度の利益ではあるまいか。とすれば利益率は一割五分程度だ。

【増配期待】従つて、今期は恐らく六分配當に復歸することが出来るやう。來期は増税もあるが、更に成績は良くなる。

### 帝國火藥工業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内 五七) 〇

【火藥専底を衝く】日窒火藥の進出で、火藥界は昭和八年以來混亂に陥つた。それまでは、帝國火藥、日本火藥、淺野カーリットの三社が業界を支配し、價格並に販賣協定を結んでゐた。處が、日窒は販路獲得のため進二無二賣り進んだ。原料の騰貴にも拘はらず市價は暴落し、ために陸軍火工廠の拂下値段も之に引きづられて低落した。

だが、混亂も漸やく底をついた。四月一日改定された拂下げ値段は甲櫻三十圓九十錢と昨秋十月に比し一兩當り四圓九十錢、乙櫻は廿八圓三十錢と四圓二十錢引上げられた。之に依つて、帝國火藥、日本火藥、淺野カーリット、昭和火藥の四社は値上げを決定した。鑛業界の活況は爆藥類の需要を旺盛ならしめ、既に各社とも生産力一杯に動かして居るのだから、市價は現實に高められるわけだ。

【來期二分増配か】帝國火藥は、九年以上の八分配當から十年上期五分、同下期四分となり現在に至つた。今期は値上げの影響を受けぬから配當も据置くだらうが、來期は二分程度増配を期待してよい。尚ほ名古屋工場の擴張で百二、三十萬圓程資金が必要だ。當面借入金で賄ふとしても未拂込徴収は時期の問題。

【設立】	明治三十九年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	苛性曹達、硫酸、醋酸、硝酸、晒粉、液體酸素、其他製造
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇
【株数】	新(一七)七三三、三〇〇
【重役】	社長 小泉 米藏
常務	名出 義雄 取締役 北島龜一郎
取締	南方 常楠 監査 名手由兵衛
	武山 貞衛 山上市郎兵衛
	正田 貞藏 山土地佐太郎
	小野保次郎 川崎庄五郎
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下
【大株主】	一、〇〇〇 一、一五三 一、一五三
小泉 米藏 三〇股 廣田 喜八 一、〇〇〇	
北島龜一郎 一、〇〇〇 名手由兵衛 一、〇〇〇	
山地汽船 一、〇〇〇 大日本セメント 一、〇〇〇	
名出 義雄 一、〇〇〇 南方 常楠 〇、〇〇〇	
川崎庄五郎 〇、〇〇〇 山上市郎兵衛 〇、〇〇〇	
【事業規模】	生産能力(月産) 高〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下
晒粉製造(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
苛性曹達(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
晒粉販賣(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
苛性曹達(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
【投資會社】	北海曹達、南海石油
【資本異動】	九年二月一六五萬圓増資、十年二月五萬圓増資

【資産負債】	十一年	十一年	十一年
株主資本	三九〇〇	三九〇〇	三九〇〇
外部負債	八八〇	八八〇	八八〇
借入金等	八八〇	八八〇	八八〇
使用總資本	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
流動資産	二、〇二〇	二、〇二〇	二、〇二〇
現金預金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下	十一年上	十一年下
收入	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
【業績】	十年下	十一年上	十一年下
利益	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
【株主】	高値	安値	高値
【時價】	五〇	五〇	五〇
【名義書換】	五〇	五〇	五〇

【設立】	大正八年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	火藥製造
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇
【株数】	一〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 太田 半六 取締役 有本 完
取締	深尾 七郎 監査 磯部英一郎
	田林喜三郎 長崎 英造
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下
【大株主】	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
日本火藥六、〇〇〇 遠山借成〇、〇〇〇	
林 莊 治〇、〇〇〇 川松 道明三、〇〇〇	
田林商店三、〇〇〇 久米 嘉祿三、〇〇〇	
丸ノ内商事三、〇〇〇 横田 清助三、〇〇〇	
添田 富藏三、〇〇〇 田林喜三郎三、〇〇〇	
【事業規模】	愛知縣知多郡武豊町
【主要製品】	硝安ダイナマイト、硝安 綽 硝安 綽
硝安ダイナマイト、硝安 綽 硝安 綽	硝安 綽
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下
賣上高(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
【投資會社】	岩内火藥店
【沿革】	大正八年十一月資本金一千萬圓、主として軍用火藥製造の目的を以つて創立。大正十五年軍縮の結果、海軍よりの社文社經し其補償として九二六千圓を交付せられ、興業費償却に充當す。

【資産負債】	十一年	十一年	十一年
株主資本	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
外部負債	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
借入金等	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
使用總資本	六〇四〇	六〇四〇	六〇四〇
固定資産	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
流動資産	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
現金預金	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
【收支勘定】	十年下	十一年上	十一年下
收入	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
支出	三〇二〇	三〇二〇	三〇二〇
【業績】	十年下	十一年上	十一年下
利益	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇
【株主】	高値	安値	高値
【時價】	三〇	三〇	三〇
【名義書換】	三〇	三〇	三〇

### 日本火薬製造株式会社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内五七)ニシ

【十一年下期の業績】去る十一月末に締切つた十一年下期の業績は、利益金九十六萬八千圓で前期に比し七萬五千圓の増益。当期の平均拂込資本は増資の結果四百六十六萬圓となつたが、尙ほ利益率は四割強に達した。普通配當一割、特配一割の二割配當を据置いたのも當然である。

【今期の業績】帝國火薬のところで述べた様に、火薬類の値上げが四月一日から實施された以上、當社も亦惠まれるところ大きい。従來も、當社の成績がさうひどく下らなかつたのは、ダイナマイトの外に各種火工品を製造してゐるからだ。それから、投資部門の活躍も與かつて力があつた。其中、最も良い會社である伊豆持越金山は、抗内の火事で抗夫五十名の惨死事件があつた。甚だ遺憾なことではあつたが、それが業績に及ぼす影響は比較的輕微であり、二割配當は持續出来る。が、或ひは遠慮して五分程度減配するかも知れぬ。

【五分減配断行か】以上のやうに、若し持越金山が減配するとしても、當社に及ぼす影響は大したものではない。しかし今期拂込増加に依る配當資金は、二割として六十萬六千圓に増る。それに増税もあり、時節柄、五分程度の減配を断行するかも知れぬ。

【設立】	大正五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ダイナマイト、硝安爆薬、黑色火薬、硝火線、雷管類、藥莖、發射管、發射筒
【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 六〇〇,〇〇〇
【株主】	新(三〇) 全 〇,〇〇〇
【重役】	社長 原安三郎 取締役 小倉 禮三 長崎 英造 監査 岡野 伸二 藤森 梅男 工藤金三郎 飯森 梅男 桑田 達一
【株主数】	十一年上 十一年下 三三三 三三三
【大株主】	山本武太郎 八六 日本製鋼天六六 中外産業三三三 原安三郎二二二 内外産業八〇〇 長崎 英造 六三〇 小倉 禮三 三三三 清水 高邦 五七〇 飯森 梅男 二二二 石藤 豐太郎 〇〇〇
【事業規模】	工場所在地：山口縣厚狭町 生産能力(年産) 硝安ダイナマイト 〇〇,〇〇〇 硝安ダイナマイト 〇〇,〇〇〇
【投資資金】	中外産業(證券保有會社) 日本製鋼、中外火工品、帝國藥業、會社、染料、日本計布、山川製藥、中外製業、共和
【資本異動】	十一年十一月一五圓拂込徴収。十一月五二五萬圓増資第一回拂込二二〇五徴収。

【資産負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	七三三 七三三 七三三
外部負債	三三三 三三三 三三三
借入金	一七三 一七三 一七三
支拂手形	三三三 三三三 三三三
使用總資本	九三三 九三三 九三三
固定資産	一三三 一三三 一三三
投資資産	一三三 一三三 一三三
流動資産	一三三 一三三 一三三
現金預金	一三三 一三三 一三三
【收支積定】	十一年上 十一年上 十一年上
収入	一三三 一三三 一三三
支出	一三三 一三三 一三三
【消却年率】	十一年上 十一年上 十一年上
消却年率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
【業績】	九九年上 九九年上 九九年上
上	一三三 一三三 一三三
下	一三三 一三三 一三三
【株價】(高値)	株 新株
九九年上	高値 安値 高値 安値
十一年上	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
十一年下	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
十二月上	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
十二月下	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
【豫想配當】	十二年六月期 一割二分
【利廻】	三月二十日調 四分二厘
時價	新 一四〇 利廻 二分六厘
時價	新 一七五 利廻 二分六厘
【名義書換】	十 十 十
【新株交付】	五十 五十 五十

### 日本染料製造株式会社

(本社) 大阪市此花區春日町二七八(電土佐堀五〇)ニシ

【業績順調】業績は引續き順調である。昨年下期は原料高の壓迫と、期の前半に於ける荷動きの不活發で、幾分成績は低下するかと懸念されたが、期末に至り、諸物價高の刺激を受け製品の賣行は好調を取り戻し、結局百八十五萬九千圓の利益を計上することが出来た。上期に比して四萬八千圓の増益である。利益率にして二割九分七厘だ。固定資産償却は四十五萬圓で十二ヶ年賦に當り、配當は一割二分を据置いた。餘裕ある決算と言ふべきだ。

【今期は更に増益】今期から例の西島の製薬工場が運轉され、此の方面の利益が加はつて来るから、業績は一段と向上するものと思はれる。二百萬圓の利益は恐らく動かない。配當は今後も据置。

【來期大好轉】更に來期になると、擴張中の染料工場が完成、運轉を開始するので非常な好成績が豫想される。染料製造能力は五割の増加となるから素晴らしい。二百五十萬圓の利益は期待してよい。大増益と言はねばならぬ。其後も引續き向上の見込。

【拂込・増資】業績は右の如く好轉する上に、大分縣鶴崎の新工場建設にも取掛るので、近く拂込徴収が行はれるであらう。新株は一株二十五圓、總額四百萬圓の未拂込を残すが、徴収とすれば十二圓半であらう。残りも遠からず徴収され増資も期待される。

【設立】	大正五年二月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	各種染料製造
【資本金】	公稱 一,〇〇〇,〇〇〇 拂込 一,〇〇〇,〇〇〇
【株主】	新(三〇) 全 〇,〇〇〇
【重役】	社長 稻畑勝太郎 取締役 森 平兵衛 常務 稻畑二郎 中村 茂 取締役 大橋新太郎 監査 湯川忠三郎 藤山 雷太 村井 四郎
【株主数】	十一年上 十一年下 三三三 三三三
【大株主】	住友合資會社 〇〇〇 住友合名 九,〇〇〇 稲畑勝太郎 八,〇〇〇 稲畑二郎 四,〇〇〇 長瀬商店 三,〇〇〇 稲畑商店 四,〇〇〇 稲畑 太郎 四,〇〇〇 岩瀬 彌助 三,〇〇〇 松本 柳子 三,〇〇〇 木下 建平 三,〇〇〇
【事業規模】	生産能力(年産) 染料 〇,〇〇〇 染料 〇,〇〇〇 染料 〇,〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下
製品収入(全額)	六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
製造費(全額)	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
投資資金	日本染料輸出 一八,〇〇〇
資本異動	十年十一月拂込二二〇五徴収

【資産負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
外部負債	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
使用總資本	二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇
固定資産	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
投資資産	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
流動資産	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【收支積定】	十一年上 十一年上 十一年上
収入	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
支出	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【消却年率】	十一年上 十一年上 十一年上
消却年率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
【業績】	九九年上 九九年上 九九年上
上	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
下	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【株價】(高値)	株 新株
九九年上	高値 安値 高値 安値
十一年上	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
十一年下	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
十二月上	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
十二月下	二六七 六〇〇 二六七 六〇〇
【豫想配當】	十二年六月期 一割二分
【利廻】	三月二十日調 四分二厘
時價	新 一四〇 利廻 二分六厘
時價	新 一七五 利廻 二分六厘
【名義書換】	十 十 十
【新株交付】	五十 五十 五十

### 合同油脂株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内興銀ビル内(電九ノ内一〇〇)

【合併】人肥の日産への合併並日産傍系事業整備に關聯して、人肥の子會社たる當社の歸趨が注目されてゐたが、去三月廿七日の臨時總會に於て、日本油脂を合併することに決定した。合併期日は來る六月一日の豫定だ。日本油脂とは日産傍系のペルベツト石鹼及日本食料工業(但しその漁撈部、塗料工業、大豆加工工業の三部門のみ)の二社を合同して設立されたものである。

【資本變化】當社は去三月一日新株一株に付廿圓一總額二百萬圓を一氣に徴收し、資本金一千萬圓拂込済となつたが、今回の合併により七百五十萬圓(拂込済)を増加する筈だ。尙日本油脂の三月五日現在の使用總資本は千四百八十八萬一千餘圓で、之を株主資本七百八十四萬一千圓及外部負債二百六十四萬圓で賄ひ、固定資産は三百四十七萬二千圓、流動資産七百九十九萬圓となつてゐる。之が併合後も、元來内容のよい當社だから、内容悪化の懸念はない。

【兼體】日本油脂の合併は原料資源の一層の確保と製品の多角化を意味し、社業を安固ならしめる。但し朝鮮に於ける三井系の硬化石鹼會社設立は、同方面の原料魚油獲得競争を惹起するかも知れぬが、然しその爲の成績悪化は考へられぬ。今期は各製品相場昂騰で成績頗るよく、普通一割の外に特配一割五分を附する豫定。

【設立】	大正十四年四月	【決算期】	五月、十一月			
【事業】	リン、食用油脂、オレイン	【株主数】	約 10,000			
【資本金】	資本金 10,000,000	【役員】	社長 田中榮八郎 取締役 持田山孝 専務 二神謙吉 常任 長郷幸治 常務 若米地義三 監査 小石川一治 取締役 久保田四郎 監査 小西龍太郎 大橋退治 十一年上 金光庸夫 十一年下 三三三三			
【大株主】	大日本油脂 三三三三 仁壽生命 三三三三 大正生命 三三三三 小西合名 三三三三 日本教育生命 三三三三 入丸商店 三三三三 片倉生命 三三三三 大日本酒造 三三三三 九木商店 三三三三 林莊治 三三三三 石川一郎 三三三三 田中壽一 三三三三 【取立】	十年上 十一年上 十一年下 八〇〇〇 六〇〇〇 五〇〇〇 六〇〇〇 四〇〇〇 三〇〇〇 二〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇 【投資會社】	豊國水産、能美漁業、公海興 産、女川水産、鹿島水産 【資本異動】	十年四月三〇日、十一年六月 五、十二年三月三〇日、十一年六月 本油脂合併後、資本金増徴の旨		
【資産負債】	十一年 五十一 株主資本 六、七〇〇 外部負債 六、七〇〇 支拂手形 二、八〇〇 使用總資本 九、五〇〇 固定資産 七、二〇〇 流動資産 二、三〇〇 現金預金 八、二〇〇 【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【利息】	十一年 五十一 株主資本 六、七〇〇 外部負債 六、七〇〇 支拂手形 二、八〇〇 使用總資本 九、五〇〇 固定資産 七、二〇〇 流動資産 二、三〇〇 現金預金 八、二〇〇 【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【利息】	十一年 五十一 株主資本 六、七〇〇 外部負債 六、七〇〇 支拂手形 二、八〇〇 使用總資本 九、五〇〇 固定資産 七、二〇〇 流動資産 二、三〇〇 現金預金 八、二〇〇 【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【利息】

### 大日本セルロイド株式会社

(本社) 大阪府堺市七道西町二七(電戎天六〇一)  
(出張所) 東京市向島區寺島四ノ一三七(電農田一五九)

【前期好調】昨年同期は利益金百三十八萬四千圓を挙げ、利益率は二割二分一厘を示した。上期の利益金百三十五萬四千圓、利益率二割一分六厘に比し僅かとは言へ増益を示してゐる。製品賣行の好調に原因するものだ。

【輸出旺盛】セルロイド生地乃至セルロイド製品は、各國の輸入防遏策にも拘らず新市場を開拓し、輸出は依然旺盛である。例へばセルロイド生地は昨一年中に三百七十一萬七千圓の輸出で、十年中の三百四十七萬圓に比較し二十四萬圓を増加してゐる。其他の箱、ピンボール等々のセルロイド製品も増加を示してゐる。今後の輸出も樂觀し得る情勢にある。

【擴張計劃】當社はこゝ、一、二年間擴張を續けてゐる。網干の優良工場及び原紙工場は既に完成して運轉を開始してゐる。製品の高級化は漸次現はれて來つゝある。更に新潟縣新井工場に於ては不燃性セルロイドの製造に着手した。製品を出し得るまでにはまだ時日があるが、兎に角今後は相當期待される。

【今期如何】今期の業績も引續き良好だ。製品の高級化と原紙増産の恩恵で百五十萬圓程度の利益は充分期待される。前期に比し十二、三萬圓の増益となる譯だが、増配は行はない。

【設立】	大正八年九月	【決算期】	五月、十一月			
【事業】	セルロイド生地、同製品、ラック	【株主数】	約 10,000			
【資本金】	資本金 10,000,000	【役員】	社長 西宗茂 取締役 淺野修一 専務 小寺新一 監査 松本五郎 常務 伊藤吉次郎 監査 昌谷彰 井上道吉 監査 安場保健 取立 藤山雷太 監査 岩井豊治 平山篤太郎 監査 矢崎徳治 【大株主】	十年上 十一年上 十一年下 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇		
【事業規模】	東京、堺、網干工場	【事業成績】	十年上 十一年上 十一年下 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇			
【投資會社】	富士寫真フィルム、三國セルロイド、ローヤルセルロイド其他	【資本異動】	十年五月一十萬圓増資			
【資産負債】	十一年 五十一 株主資本 六、七〇〇 外部負債 六、七〇〇 支拂手形 二、八〇〇 使用總資本 九、五〇〇 固定資産 七、二〇〇 流動資産 二、三〇〇 現金預金 八、二〇〇 【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【利息】	十一年 五十一 株主資本 六、七〇〇 外部負債 六、七〇〇 支拂手形 二、八〇〇 使用總資本 九、五〇〇 固定資産 七、二〇〇 流動資産 二、三〇〇 現金預金 八、二〇〇 【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【利息】	十一年 五十一 株主資本 六、七〇〇 外部負債 六、七〇〇 支拂手形 二、八〇〇 使用總資本 九、五〇〇 固定資産 七、二〇〇 流動資産 二、三〇〇 現金預金 八、二〇〇 【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【利息】

### 日本ペイント株式会社

(本社) 大阪市西淀川区浦江北四丁目(電報局三三二一)  
(営業所) 東京市品川区南品川四六〇〇(電報局三三二一)

【業績好轉】 當社は昨年四月の決算總會で、従来の四月、十月決算を一月、七月決算に改めた。此の一月末を以て締切つた前期決算は、操業九ヶ月で利益金四十一萬九千圓を挙げた。利益率にして一割四分五厘だ。昨年四ヶ月期の利益率一割三分に比し一分五厘の向上である。十年下期の一割四分に比しても僅か乍ら向上してゐる。斯く業績が好調であるのは言ふまでもなく需要の増加に依る。業界には群小競争會社があり、競争は猛烈を極めてゐるのであるが、歴史と信用とは當社をして其の間にあつても尚ほ右の如き好成績を収めしめたわけだ。

【原料昂騰】 ベイントの主要原料たる鉛、亞鉛、油等々皆高い。金物類の騰貴もさることながら、亞麻仁油、荏油、麻油、大豆油魚油等も亦可なり強調を辿つてゐる。原料關係は益々不利。

【需要増加】 然し他方需要の増加も見逃してはならぬ。建築の旺盛、船舶建造の盛行等は當然需要の増加を齎らさずにはを兼ね。【今期如何】 斯ふ言ふ譯で、原料は高いが又需要も旺盛で、結局利益には大した變化を來さないものと思はれる。増配は期待出來ないとしても、配當維持に困難を來さやうなことはない。増税も心配の必要はない。

【設立】	明治三十一年一月
【決算期】	一月、七月
【事業】	亞鉛華、光明丹、リトホン其 他顔料、人造樹脂、各種ベイント
【資本金】	公稱 六〇〇〇〇 拂込 三〇〇〇〇
【株数】	新 三〇〇〇〇 舊 三〇〇〇〇
【重役】	社長 小畑源之助 取締役 森平兵衛 取締役 鈴木傳治郎 田中 新七 監査 藤井 善助 田坂吉二郎 吉原定次郎
【株主数】	十年下 七六六 十年上 七六六 總數(名) 一五三二
【大株主】	小畑源之助 六〇〇〇 野村生命 六〇〇〇 住友生命 四〇〇〇 日本生命 三〇〇〇 吉原定次郎 三〇〇〇 森合資 二〇〇〇 京野 敬三 二〇〇〇 大元商事 二〇〇〇 小畑 謙一 一八〇〇 大元商料 一八〇〇
【事業規模】	工場別生産能力(題)
工場	大阪工場 東京工場
ベイント	八、三三三 八、三三三
ワニス	四、〇〇〇 四、〇〇〇
顔料器具	一、六五五 一、六五五
合計	一四、〇〇〇 一四、〇〇〇
【資本異動】	九年九月、日滿産料(資本 金百萬圓)を對等條件にて合併し、百 萬圓を増資。十年十月決算期四月、十 月を一月、七月に變更從つて十年一 月は十年五月、十一年一月の九ヶ月間

【資産負債】	十年 四十年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十一年
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 四分八厘 三月二十日調 四分二厘 新舊 四三・五 利 四三・五
【名義書換】	十 十 十 新舊書換 三十 三十 三十

### 三共株式会社

(本社) 東京市日本橋區室町二ノ二(電日本橋三三二一)

【業績順調】 十一年十一月末締切の決算では利益金九十萬五千圓、拂込資本に對する利益率二割六厘と近年稀に見る好成绩を挙げ、八分配當を据置いた。利益率二割六厘で八分配當を据置いたのだから決算は餘裕綽々なるもので、利益の過半を社内に保留するこゝとが出来た。例へば固定資産償却にも十五萬圓を計上してゐる。二十年償却と云ふ行届いたものだ。

【好調の理由】 かくの如く當社の業績が順調なのは、云ふまでもなく當社の主要事業たる藥品業の好況によるものだが、日本ペイント其他の投資事業好轉に俟つ處も多い。

【原料高も不關】 たゞ最近懸念される材料としては原料藥品の騰貴が顯著になつて來たことだ。けれども、可なり原料高が影響してゐた昨年同期に於ても、利益率二割餘の好成绩を収め増配の可能性さへあつたのだから、少し位りの原料高では減配の不安はない。まして大巾の原料騰貴に對しては製品値上げの手段が残されてゐるから尙更だ。

【新資本計畫未だし】 かくして業績には些の不安もないが、さりとて當社には大きな事業擴張、從つて拂込とか増資とかの計畫は未だ決定してゐないやうだ。

【設立】	大正二年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	醫藥、滋養劑、工業農藥製造 及理化學用品、化粧品類、醫科理化 學及光學機械類、ペイント其他電 氣絶縁材料、酒精及酒精含有飲料
【資本金】	公稱 三〇〇〇〇 拂込 八八〇〇〇
【株数】	新 三〇〇〇〇 舊 二二〇〇〇
【重役】	社長 藤原 又策 取締役 大橋新太郎 監査 室田 義文 植村登三郎 田口 一太 藤原 謙三 顧問 鈴木梅太郎
【株主数】	十年下 一、〇〇〇 十年上 一、〇〇〇 總數(名) 二、〇〇〇
【大株主】	藤原合名 六〇〇 高峰保全 七〇〇 帝國生命 五〇〇 大橋本店 五〇〇 三井信託 四二五 千代田生命 四〇〇 大谷三和 三二五 武田合資 二七〇
【事業規模】	工場所在 東京 品川、向島 大連 北長柄町
工場建坪(総計)	一万四千餘坪
職工數(名)	九五〇名
【投資會社】	日本ペイント、ハレ レ、モーターサイクル販賣 所、藥品製藥、興東貿易、島居商店、 柏木檢温器、三共内燃機

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十一年
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 四分八厘 三月二十日調 四分二厘 新舊 四三・五 利 四三・五
【名義書換】	十 十 十 新舊書換 三十 三十 三十



### 東海電極製造株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル内(電九ノ内 六六一九)  
(出張所) 大阪市北區中ノ島三ノ三朝日ビル内

【前期減配】前輯で豫想の通り、當社は十一月末締切りの昨年度決算に於て、遂に特配二割四分を落したのみならず、普通配當も四分減の一割二分とした。と云つても、成績がそれ程悪化したわけではない。諸税引當と諸償却金とを含めた計上利益は四十六萬九千圓で、拂込資金の増加にも拘らず、利益率は四割一分七厘に當る。上期の特配は第二東海電極對當合併に伴ふ舊株主の不利を補ふ意味でつけたのだから、下期になくなるのは當然として、普通配當まで減らす必要はなかつた。

【今期豫想】従つて此の減配は増税、資本負擔の増加、時局に對する遠慮等から出でた政策的のものとしてよい。とすれば五月締切の今期も當然一割二分配當据え置きとならうが、併し利益は前期より相當殖える。前期には三分の一しか操業出来なかつた田ノ浦工場が、今期から全操業されたからだ。それに下押してゐた電極市況は再び硬化を期待されてゐる。今期賣上二百萬圓、その利益割合三割と見れば、六十萬圓の利益が出る。

【拂込徴收】舊股末第二、第三新株に對し十二圓半、總額百廿五萬圓の拂込を徴收した。その結果六十萬圓の利益では利益率は三割七分に低下するが、尙ほ高率たるを失はぬ。

### 日本硫黃株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内一ノ八興銀ビル内(電九ノ内 三三六)

【増・特配】去十二月決算で普通配當二分増の一割二分の外に、創業卅周年記念特配三分を行つた。當期の利益は廿一萬七千圓、對拂込利益率三割四分七厘であつたから、右一割五分配當も非常な餘裕を以て行ひ得た譯だ。但し今期は特配を削るも、一割二分配當は持續する見込であり、その實力も亦充分ある。

【拂込】尙當社は去三月一日に、新株一株に付十二圓半宛總額廿五萬圓の拂込を徴收した。之で拂込資本は百五十萬圓となつた。今度の拂込金は硫黃取扱高増加に對する流動資金とするものだが、一部は岡山工場の硫黃製造設備費にも充當する豫定である。

【販賣】昨年十月當社の親會社人肥で北海道斜里岳の知床硫黃の採掘權を買収したが、當社は人肥に一定の仕切値を支拂つて、その原礦の處分を行ふ事になつた。即ちそれを硫黃の儘で販賣するか、又は二硫化炭素として賣るかはその營業に屬する。前期からの成績にはこの方面の販賣益が加はる様になつたが、今後は相場の高騰もある事だから、利益は一段と増すだらう。

【經營】人肥が日産に合併される事になつたから、近く當社の經營にも何等かの變化が見られよう。どうなるか尙不明だが、日産の經營に移る事だけは確かだ。當社株の今後は注目に値する。

【設立】	大正七年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種電極、抵抗用炭素製品、エレマ製品、電極子類、炭素帶、炭素其他炭素製品、アークカーボン
【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【株主】	新(一〇〇,〇〇〇) 舊(五〇〇,〇〇〇)
【重役】	社長 藤川 恒貞 常務 川崎 敬三 取締役 藤川 恒三、中島 爲喜、川崎 敬三、水井 恒一郎、小早川 常雄、藤川 友之介、村上 竹藏、倉本 敬三
【株主数】	十年上 七、〇〇〇 十年下 七、〇〇〇
【大株主】	東海電氣 三〇〇,〇〇〇 前田 利爲 四〇,〇〇〇 大田 隆 二〇,〇〇〇 共済 會 三〇,〇〇〇 木村 林太郎 二〇,〇〇〇
【事業規模】	生産能力(年産) 人造電極 一〇〇,〇〇〇 炭素帶 一〇〇,〇〇〇 炭素其他炭素製品 一〇〇,〇〇〇 工場所在地 東京市大井、名古屋市場、江町、福岡縣若松市、熊本縣北郡田浦
【投資會社】	東海電氣
【資本異動】	昭和十一年十一月第二東海電極を合併三百萬圓を増資十月第二、第三新各三〇〇,〇〇〇拂込徴收

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	三二〇,〇〇〇 三二〇,〇〇〇
外部負債	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
借入金	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
支拂手形	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
使用總資本	三二〇,〇〇〇 三二〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動資産	二二〇,〇〇〇 二二〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
收入	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【業績】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
利益	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【利息】	三月二十日調 六分一厘
【名義書換】	五錢【新券交付】二十五錢

### 日本硫黃株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内一ノ八興銀ビル内(電九ノ内 三三六)

【増・特配】去十二月決算で普通配當二分増の一割二分の外に、創業卅周年記念特配三分を行つた。當期の利益は廿一萬七千圓、對拂込利益率三割四分七厘であつたから、右一割五分配當も非常な餘裕を以て行ひ得た譯だ。但し今期は特配を削るも、一割二分配當は持續する見込であり、その實力も亦充分ある。

【拂込】尙當社は去三月一日に、新株一株に付十二圓半宛總額廿五萬圓の拂込を徴收した。之で拂込資本は百五十萬圓となつた。今度の拂込金は硫黃取扱高増加に對する流動資金とするものだが、一部は岡山工場の硫黃製造設備費にも充當する豫定である。

【販賣】昨年十月當社の親會社人肥で北海道斜里岳の知床硫黃の採掘權を買収したが、當社は人肥に一定の仕切値を支拂つて、その原礦の處分を行ふ事になつた。即ちそれを硫黃の儘で販賣するか、又は二硫化炭素として賣るかはその營業に屬する。前期からの成績にはこの方面の販賣益が加はる様になつたが、今後は相場の高騰もある事だから、利益は一段と増すだらう。

【經營】人肥が日産に合併される事になつたから、近く當社の經營にも何等かの變化が見られよう。どうなるか尙不明だが、日産の經營に移る事だけは確かだ。當社株の今後は注目に値する。

【設立】	明治四十年四月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	硫黃、二硫化炭素
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込 一〇〇,〇〇〇
【株主】	新(一〇〇,〇〇〇) 舊(一〇〇,〇〇〇)
【重役】	専務 山田 彰 取締役 田中 榮八郎、取崎 富川七之助、西脇 健治、監査 林 政夫、石川 一郎、藤崎 友三、二神 駿吉、吉米 地義三
【株主数】	十年上 七、〇〇〇 十年下 七、〇〇〇
【大株主】	大日本人肥 二九六、〇〇〇 山一證券 三〇〇、〇〇〇 山田 彰 一〇〇、〇〇〇 田中 榮八郎 一〇〇、〇〇〇 中村 以次郎 一〇〇、〇〇〇 山田 彰 一〇〇、〇〇〇
【事業規模】	工場別製品及月産能力(萬) 沼尻工場(二硫化炭素) 一〇〇,〇〇〇 大阪工場(二硫化炭素) 一〇〇,〇〇〇 岡山工場(二硫化炭素) 一〇〇,〇〇〇 生産数量(十一年上 十一年下 十一年上 十一年下) 硫黃加工品 三三、三三三 一六、三三三 一七、三三三 硫黃高(十一年上 十一年下 十一年上 十一年下) 石 五三、三三三 五三、三三三 二硫化炭素 六三、三三三 六三、三三三
【投資會社】	中ノ澤温泉、吾妻電燈
【資本異動】	十二年三月三圓拂込徴收

【資産負債】	十二年 六十二年 十二年
株主資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
借入金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支拂手形	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
使用總資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
收入	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【業績】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
利益	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【利息】	三月二十日調 五分八厘
【名義書換】	五錢【新券交付】三十錢

株式 神戸電機製作所

(本社) 神戸市海東區相生町二丁目六〇番屋敷 (電元町三三三)

【配當措置】昨下期配當は八分を据置いた。この期の利益率は去る九月に拂込を徴収した爲め前期より一分二厘を低下し一割六分一厘となつたので、決算には裕りをなくした。が、八分配當には勿論何等無理はなかつた。

【増産】當社は昨年九月に總額三十七萬五千圓の拂込を徴収して即用蓄電池、カウベライト、シヨウブラス等の増産に着手したが、之らは既に昨年末完成した。之で當社の生産能力は十一年上期に比し約二倍になつた。中には蓄電池の如く四倍の能力に増大してゐるものもある。

【原料急騰】周知の如く蓄電池の製作には相當の鉛を必要とする。所が鉛は最近急騰し、昨春百斤三十圓見當であつたものが、現在では五十圓に著騰してゐる。そこで當社は蓄電池の賣値を約四割方引上げたが、原料の鉛の騰貴が七割にも及んでゐるので、採算悪化は免れない。この原料高、製品安に悩みがある。

【前途見透】原料たる鉛價高が解消しない限り、前途の業績も大して向上するとは期待されない。然し蓄電池以外の他の諸製品は原料高に遇つてゐないから、全體的にみれば強く悲觀する必要はないかも知れない。當分八分配當の持續と見てよいだらう。

Table with financial data for 1911 and 1912, including items like 設立, 決算期, 資本金, 株数, 役員, 事業, 工場, 借入金, 貸付金, 投資, 資本増動.

Table with financial data for 1911 and 1912, including items like 資産負債, 株主資本, 外部負債, 借入金, 支拂手形, 使用總資本, 固定資産, 流動資産, 現金預金, 収支勘定, 支出入, 利出, 固定負債, 借入金, 消却年率, 業績, 株主, 理想配當, 時價, 名義書換.

日本製鍊株式会社

(本社) 東京市江戶川區小松川一ノ一 (電墨田、四六) (事務所) 東京市本郷區駒込東片町一五七 (電小石川、二六七)

【合併】變態増資による二社合併の内、江東製鍊の方は昨年十二月一日手續を完了した。他の東北製鍊の方は四月中に合併の豫定。資本金は前者により公稱七十五萬圓、拂込廿六萬二千五百圓を、後により五百萬圓及百廿五萬圓をそれぞれ増加し、今期末には公稱一千萬圓、拂込四百四十六萬二千五百圓(平均拂込三百八十三萬七千五百圓)となる。之で昨年末の増資工作が終る譯だ。

【業績】昨年十一月決算の利益は廿八萬一千圓、利益率二割五分八厘で、利益の社内保留率六割に近く、餘裕ある一割配當を持續した。今期は五十萬圓近い利益を計上し得る見込だから、拂込増に拘らず前期とほぼ同様の利益率となる。配當一割の踏襲に問題ない。この良成績は前期後半以後の各種製品の値上りと販賣量増加に基づく。例へば今期前半の月平均賣上高は約七十二萬圓で、前期のそれより約十萬圓を増してゐる。勿論諸原料相場も昂騰してゐるが、安値原料の手持もあり、可及的にその大部分は製品相場に掛ける方針を採つてゐる爲、採算の悪化は尠ないのである。

【前途】小松川、龜戸、郡山の各工場とも増設或は新製品製造設備を續行してゐるので、下期中に増資新株に第二回拂込五圓を徴収する模様だ。化學工業會社の一異彩として株價に興味あり。

Table with financial data for 1911 and 1912, including items like 設立, 決算期, 資本金, 株数, 役員, 事業, 工場, 借入金, 貸付金, 投資, 資本増動.

Table with financial data for 1911 and 1912, including items like 資産負債, 株主資本, 外部負債, 借入金, 支拂手形, 使用總資本, 固定資産, 流動資産, 現金預金, 収支勘定, 支出入, 利出, 固定負債, 借入金, 消却年率, 業績, 株主, 理想配當, 時價, 名義書換.



### 株式 鐵 興 社

(本社) 東京市京橋區京橋三丁目四ノ八(電、京橋 1083)

【沿革】當社は大正十四年現事務佐野隆一氏の同族によつて創立された合資會社鐵興社にはじまる。當時資本金は僅か三萬圓で、製造品目は合金鐵のみであつた。處が技術家出身の同氏の科學的經營法が奏功し着々と發展したので、昭和三年株式組織に改め、化學藥劑にも進出して現在は八工場を有する。かくて昨年株式公開を行ひ、業界の先覺者棚橋氏を取締會長に迎へ業礎を堅くした。

【變態増資】現在資本金三百萬圓、拂込二百萬圓の當社は、買電のみにたよる不利を避けて自家發電計畫を立て、立谷澤水力發電所を建設することになつた。また當社の運命を決する醋酸纖維素工業に進出することになり、山形縣酒田市に同じく新工場を設立するに決定した。この所要資金五百萬圓を賄ふ爲、七百萬圓の第二鐵興社を創設し、之を年末迄に合併する豫定である。合併後の當社は一躍一千萬圓の大會社となる。この新株第一回拂込十二圓五十錢は四月十五日に徴收される。又第二鐵興新株は功勞株二萬株を除き一對二の割合で三月十五日現在株主に割當てた。

【成績安心】問題は増資後の成績だ。現在は一割二分の配當に綽綽たる餘裕を見せてゐるが、増資後も不安はない。今期豫想利益は二十八萬圓以上で、利益率三割八分に達するに徴しても明かだ。

【設立】	昭和三年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	合金鐵各種、炭化石灰、化學工業、藥品製造販賣、礦物探採製鍊
【資本金】	公稱 300,000 拂込 200,000
【株 數】	新 30,000 舊 10,000 計 40,000
【重 役】	會長 棚橋實五郎 取締役 佐野 忠司 西脇清三郎 監査 山本 勇 大塚 實治 十樂寺義建
【株主數】	十年上 十年下 十年上 十年下
【大株主】	棚橋實五郎 10,000 佐野 隆一 1,000 東都商事 1,000 山一證券 1,000 遠山 借成 1,000 岡本 弘吉 1,000 佐野 忠司 1,000 棚橋 幹一 1,000
【事業規模】	工場所在地 第一工場 福島縣田村郡小野新町 第二工場 山形市山形縣西裏 第三工場 福島縣伊達郡西裏 第四工場 山形縣藤島町 第五工場 酒田市 第六工場 秋田縣土崎港町 第七工場 青森市浦町町 第八工場 岩手縣黒澤尻町 第九工場 秋田縣増田町 第十工場 北海道、樺木、
【事業成績】	十年上 十年下 十年上 十年下
【事業収入】	1,200,000 1,100,000 1,200,000 1,100,000
【資本興動】	昭和十年十一月第二鐵興社を合併、百萬圓増資十二年一月三圓拂込徴收

  

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	2,200,000 2,200,000 2,200,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,200,000 1,200,000 1,200,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動向】	十年上 十年下 十年上 十年下
收入	1,200,000 1,100,000 1,200,000 1,100,000
支出	1,000,000 900,000 1,000,000 900,000
固定清却	100,000 100,000 100,000 100,000
消却年率	10% 10% 10% 10%
【業 績】	十年上 十年下 十年上 十年下
利益	200,000 200,000 200,000 200,000
【株 價】(買物) 新 株	高値 安値
十一年上	二六〇 一〇〇
十一年下	二六〇 一〇〇
十一年上	二六〇 一〇〇
十一年下	二六〇 一〇〇
【豫想配當】	十二年五月期 一割二分
【利 潤】	三月二十日調
時價新交	利潤五分五厘
【名義書換】	十錢【新券交付】五十錢

### 業 事 灰 洋

【許可指令發す】去る二月八日、新設十一社(其の月産能力合計三十六萬噸)に對する商工省の許可指令は敦賀、東北、富國、富山の各セメント會社及び徳山曹達の五社(其の許可能力月産合計八萬四千噸)に發せられた。計劃能力と許可能力との差は二十七萬六千噸で計劃の二割三分が許可されたに過ぎない。當局の許可に對するの峻厳さが窺はれる。合計七萬四千噸に上る既設會社の増産計劃は恐らく大部分許可されよう。だが新設と合せても今後の能力増加は月産十五萬噸だ。

【限産緩和】許可制實施に依つて今後の能力増加は一應右の程度で止ることになる。業界の増産不安は拂拭された譯だ。斯ふ云ふ状態にあるところへ、最近のセメント需要は急激に増加して來た。二月十八日の聯合會理事會は、次期限産率を二分緩和の六割一分として之に對應することにした。六割一分と言へば、まだかなり高度の限産率だが、今後は引續き一層の緩和があるものと期待される。樂觀的に見る業者は今年平均限産率を五割七、八

分と押さへてゐる。悲觀的に見る者と雖も平均限産率が六割臺の聲を聞かねばならぬとは思つてゐない。需要が急増してゐるからである。

【採算も有利】セメント會社の採算は、運賃の昂騰、諸材料の騰貴と言ふ不利な條件も勿論あるが、生産増加に依るコストの低減と言ふことも考へられ、かなりの部分が相殺されると思ふ。而も此所に見落してならぬのは、賣値の昂騰である。昨下期の決算では、今までの安値契約物が多分にあつた爲め、業界は安定し、市況は引締つたにも拘らず、實際の業績の上には其の好影響が殆ど現はれなかつた。従つて各社は概ね上期と同程度か、それより幾分悪い決算を發表せざるを得なかつた。然るに今年上期には、いよゝ業界安定後の市價恢復の具體的結果が決算の數字面に現はれる。各社とも多かれ少かれ増益することは殆ど疑ひの餘地がない。中には増配可能の會社も出現しようし、増配しないまでも、現行配當率に著しい安定性を與へ得ることは争はれぬ。今までより株價採算の利廻は當然低められてよい。

### 淺野セメント株式会社

(本社) 東京市豊町九ノ内海上ビル新館(電九ノ内一五〇九)

【二分減配】九下期以来六分配當を強行して来た当社も、去る十二月末締切の十一下期決算に於て遂に二分減の四分配當に落した。當期の計上利益は三百二十九萬一千圓だから、拂込資本に對する利益率は一割五厘に當る。従つて此の限り減配も止むを得なかつた譯だ。が、實際の利益は三百六、七十萬圓には達したとと思はれる。何故かなら、當期は出荷も増加したし、製品の市價も亦相當回復したからだ。

【政策の轉換】だから従來の方針よりすれば六分配當を踏襲するのが當然であつた。而も一舉二分減配を敢行したのは何故か。セメント業は去る十一月以來許可事業となり、爾後五ヶ年間は設備の新設擴張を抑制されることとなつた。此處五ヶ年間は業界の安定が見越される。當社は此の好機を把へて内容の刷新充實を圖らんとしたのである。當社の不良資産は畧ぼ二千五百萬圓位に上ると推定されるが、業界の前途は可なり樂觀されるから、右の不良資産も大體一掃出来ると思はれる。

【將來に期待】不良資産整理後の當社の實力は注目される。工場設備に於て、配給關係に於て他社を凌駕するからだ。従つて此處當分増配の望なしとは云へ、將來の増益に期待してよい。

【設立】	大正元年十月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	セメント、スレート
【資本】	公稱 1,000,000 拂込 3,990,000
【株主】	新(株) 1,000,000 新(株) 3,990,000
【役員】	社長 淺野健一郎 取締役 田中榮八郎 副社長 淺野良三 取締役 阪谷芳郎 本務 金子喜代太 監査 森廣 常務 淺野八郎 監査 安田善五郎 乙竹茂郎 尾高豊作 取締役 白石元治郎 鈴木紋太郎 濵澤武之助 鈴木紋太郎
【株主】	十一年上 十一年下 總數(名) 八、六三三 三、三三三
【大株主】	淺野同族會社、大川合名會社、安田銀行、三井物産、三井銀行、東京商工銀行、正隆銀行、三井物産、西多摩、門司、北海道、臺灣、大阪、香春、川崎、
【事業成績】	十一年上 十一年下 月産能力(噸) 1,000 1,000 生産高(噸) 1,000 1,000 出荷高(噸) 1,000 1,000 内(噸) 1,000 1,000 新契約(噸) 1,000 1,000 内(噸) 1,000 1,000 契約(噸) 1,000 1,000 内(噸) 1,000 1,000 在庫高(噸) 1,000 1,000 在(噸) 1,000 1,000
【投資會社】	日本セメント、土佐セメント

【資産負債】	十二年 十一年
株主資本	3,990,000 3,990,000
外部負債	3,990,000 3,990,000
社債	3,990,000 3,990,000
借入金	3,990,000 3,990,000
使用總資本	3,990,000 3,990,000
固定資本	3,990,000 3,990,000
流動資本	3,990,000 3,990,000
現金預金	3,990,000 3,990,000
【收支】	十二年 十一年
収入	3,990,000 3,990,000
支出	3,990,000 3,990,000
【利益】	十二年 十一年
利益	3,990,000 3,990,000
【名義書換】	五 五 五

### 小野田セメント製造株式会社

(本社) 山口縣厚狭郡小野田町六二七六(電小野田一一二)

【前期不振】十一年下期の業績は不振であつた。昨年八月聯合會との妥協成立以來、賣値は向上し、増益に向ふべき筋合にあつたにも拘らず、減益を見たのは、前輯でも述べた通り、安値契約残が相當にあつた爲に外ならない。値上りの實際的好影響を受けるに至つたのは、十月以降引渡の品からで、それまでは抗争期に結ばれた安値の品を引渡さねばならなかつたのだ。業績不振は當然と言へよう。然し今後の成績は好轉する筋合にあるので、配當は一割を据置いた。従來の當社の決算から見るとかなり窮屈な利益處分だが、今後は訂正される。

【今期は好轉】賣値向上の全面的好影響を受ける今期の成績が好轉することは多言を要しない。最近の賣値は新定最高價格に一致して、少しの値上げの余地もないほどに騰つてゐる。需要は、概觀欄にも述べて置いたやうに非常な増勢を示してゐる。生産制限率は緩和されて生産量は増加する。朝鮮方面の需要も、朝鮮、滿洲の經濟的開發促進で増大することは必然の勢である。關東州小野田セメント、朝鮮小野田セメント等の投資會社の収益も増大する筋合にある。當社の増益は必至と見られる。

【配當據置】従つて今後の一割配當持續は問題ない。

【設立】	明治十四年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造
【資本】	公稱 1,000,000 拂込 3,990,000
【株主】	新(株) 1,000,000 新(株) 3,990,000
【役員】	社長 笠井 廣三 取締役 赤羽 克巳 本務 狩野 宗三 監査 國吉 喜一 常務 朝枝 信太郎 監査 野村 正七 河内 通郎 高木 平治 取締役 田中 清太郎 石田 清 田中 清太郎 石田 清
【株主】	十一年上 十一年下 總數(名) 八、六三三 三、三三三
【大株主】	三井物産、三井生命、三井銀行、東京商工銀行、正隆銀行、三井物産、西多摩、門司、北海道、臺灣、大阪、香春、川崎、
【事業成績】	十一年上 十一年下 月産能力(噸) 1,000 1,000 生産高(噸) 1,000 1,000 出荷高(噸) 1,000 1,000 内(噸) 1,000 1,000 新契約(噸) 1,000 1,000 内(噸) 1,000 1,000 契約(噸) 1,000 1,000 内(噸) 1,000 1,000 在庫高(噸) 1,000 1,000 在(噸) 1,000 1,000
【投資會社】	大分セメント、太平セメント、朝鮮小野田セメント、關東州小野田セメント、滿洲小野田セメント
【資本異動】	十一年十月七回五拂込後

【資産負債】	十二年 十一年
株主資本	3,990,000 3,990,000
外部負債	3,990,000 3,990,000
社債	3,990,000 3,990,000
借入金	3,990,000 3,990,000
使用總資本	3,990,000 3,990,000
固定資本	3,990,000 3,990,000
流動資本	3,990,000 3,990,000
現金預金	3,990,000 3,990,000
【收支】	十二年 十一年
収入	3,990,000 3,990,000
支出	3,990,000 3,990,000
【利益】	十二年 十一年
利益	3,990,000 3,990,000
【名義書換】	五 五 五

### 磐城セメント株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内九ビル内(電丸ノ内三六七)

【業績凡調】去る十一月に終つた十一年下期は百一萬四千圓の利益を計上した。拂込資本に對する利益率は二割に當る。其の前期よりも一分一厘、前年同期に比較するならば四分一厘の低下を來したわけだ。かなり急激な業績低下だ。採算の悪化があつたためである。けれども八分配當を維持するには格別困難を來さなかつたことは云ふまでもない。

【内容好化】無論、固定資産の償却金は前期及び前々期よりも五萬圓方減額された。が、これは償却金を減じなければ配當が維持出来なかつたと云ふよりは、當社としては最早やこれ位で略ぼ充分な償却が行へたからである。即ち、當社の固定資産は樽當り二圓二十錢に迄切り下げられてゐるのだ。豊國に近い評價である。それに借金の整理も着々進捗してゐる。内容は寧ろ向上しつゝあると云ふべきだ。

【現状持続か】けれども當社の將來性は疑問である。内容は歩一歩充實されつつあるが、一方東北セメントも近く操業の運びとなる筈だし、賣値は最高を抑へられてゐるから、東北地方に、よし需要の増大がありとするも、あまり多きを期待出来なからだ。然し八分配當に事缺く様なきことは萬々ないと思はれる。

【設立】	明治四十年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造販賣
【資本金】	公稱 10,000,000 新 10,000,000
【株数】	新 100,000 公稱 100,000
【重役】	社長 岩崎清七 取締役 根津嘉一郎、吉水仁藏、安部政次郎、山田 肇 監査 小室高五郎、佐藤 清治、木村 清治、泉山岩次郎、大林三郎、相談 大橋新太郎
【株主数】	十年下 12,000 十年上 12,000 二十年上 12,000 二十年下 12,000
【大株主】	富國徴兵八、太平生命六、水野 秀雄四、伊藤清次郎三、長倉 正三三、兩宮保全三、太田利兵衛二、伊藤清次郎二、事業規模工場所在地 四倉、茨城、東京
【事業規模】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【生産高】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【出荷高】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【新契約】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【内債】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【在庫高】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【投資會社】	帝國ニューヒューム鋼管

【資産負債】	十一月	五月	十一月
株主資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
社債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
借入金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【收支勘定】	十年下	十年上	十年下
収入	10,000,000	10,000,000	10,000,000
支出	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定消却	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動消却	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【業績】	十年下	十年上	十年下
利益	10,000,000	10,000,000	10,000,000
配當	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【株價】	新 100,000	公稱 100,000	新 100,000
【名義書換】	十五錢	【新券交付】	五十錢

### 秩父セメント株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内日本工業俱樂部内(電丸ノ内三六七)

【好調持続】當社は去る十一月末締切の十一年下期決算に於て百八萬三千圓の利益を計上した。拂込資本に對する利益率は三割七分三厘に當る。前年同期の業績には及ばなかつたとは云へ、前期に比較すれば三分二厘方の向上を示してゐる。一割三分配當は餘裕を以て持續出来たわけだ。

【弾力絶大】當社が斯様に毎期充實した決算を行ひ得る所以は數數挙げられる。その一は固定資産の償却が行き届いてゐることだ。十一年下期末の固定資産は能力一樽當り八十七錢とその前期よりも更に八、九錢方切り下げられてゐる。幾多同業の中に當社ほど割安な固定資産を擁するものは他にない。その上有價證券や預貯金も巨額に上り、利子や配當を稼いでゐる。一方、當社には借金が一文もないのだから、利子支拂の必要がない。好収益を挙げ得るのも道理である。

【更に向上か】来る五月末に終る本年上期にしても相變らずの好調が期待される。出荷は略ぼ十七萬圓の豫定だから、十一年下期以上の利益は易々として計上し得るであらう。とすれば現行一割三分配當も當然踏襲される筋合だ。増配は見込めぬが、業界の前途が相當樂觀される折だから、今後更に内容は向上する。

【設立】	大正十二年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造販賣
【資本金】	公稱 10,000,000 新 10,000,000
【株数】	新 100,000 公稱 100,000
【重役】	社長 新井 恒平 取締役 大友 幸助、取崎 恒平、常務 大友 幸助、監査 鈴木 六郎、取崎 恒平、浅野辰太郎、渡邊 得男、三輪善兵衛、相談 大橋新太郎、三輪善兵衛、根津嘉一郎
【株主数】	十年下 12,000 十年上 12,000 二十年上 12,000 二十年下 12,000
【大株主】	秩父 恒平一六、第一生命一六、三輪善兵衛一六、帝國生命一六、三輪善兵衛一六、日本煉瓦一六、大友 幸助一六、三輪善兵衛一六、大日本煉瓦一六、康徳興業一六、工場所在地 秩父町
【事業規模】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【生産高】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【出荷高】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【新契約】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【内債】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【在庫高】	十年下 10,000 十年上 10,000 二十年上 10,000 二十年下 10,000
【投資會社】	秩父鐵道、大同セメント

【資産負債】	十一月	五月	十一月
株主資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
社債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
借入金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【收支勘定】	十年下	十年上	十年下
収入	10,000,000	10,000,000	10,000,000
支出	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定消却	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動消却	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【業績】	十年下	十年上	十年下
利益	10,000,000	10,000,000	10,000,000
配當	10,000,000	10,000,000	10,000,000
【株價】	新 100,000	公稱 100,000	新 100,000
【名義書換】	十五錢	【新券交付】	三十錢

### 大阪窯業セメント株式会社

(本社) 大阪市北區堂島濱通二丁目一四(電北二〇二二)

【前期良好】十一年下期の當社の業績は、僅かではあるが好轉を示した。即ち利益金は百二十九萬五千圓を示し、その前期に比し六萬三千圓の増益である。之は主として第六號窯加重制限期離脱によつて生産許容數量が増大した結果である。賣値向上の影響は殆ど受けてゐない。數量増加に依る好影響は率平均賣値の低下で減殺されたと思はれる。然し今後は良い。

【今期更に好轉】生産數量は前期から増加してゐたが、今期からは、之が賣値向上の好影響を全面的に受けるから増益は必至だ。恐らく百五十萬圓程度の利益は擧げ得るのではないかと思はれる。百五十萬圓の利益として利益率は四割四分が期待される。一割六分配當維持に問題はない。

【新事業に進出】十一年下期の定時株主總會で定款の一部を改正して化學工業界に進出することとなつた。既にアルミナ及びアルミナセメントの製造を試験的に行ひつゝある。成績が良ければ工場生産に移すであらう。何れも余剰電力の利用と、過般セメント工場擴張の準備として起した社債五百萬圓がそのまゝ、寝かせてあるので、之を利用する爲である。然し新事業の本格的操業までにはまだ時日があるから、此の爲に拂込徴収等は當分あるまい。

【設立】	昭和元年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 新(三三三) 一〇〇,〇〇〇
【株主数】	新(三三三) 一〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 磯野 良吉 取締役 渡田 平藏 専務 谷口 徳政 監査 白崎 廣文 【株主数】 十一年下 十一年上 十二年下 總數(名) 三,一七五 三,〇〇〇 二,八八八
【大株主】	大東證券 三三,三三三 渡田 平藏 八,八八八 磯野 良吉 三三,三三三 谷口 徳政 八,八八八 於勢 四郎 三三,三三三 小西 徳太郎 八,八八八 吉水 孝一 三三,三三三 三井物産 八,八八八 住友生命 三三,三三三 三井物産 八,八八八 小西喜兵衛 三三,三三三 千代田生命 八,八八八
【事業規模】	工場所在地 大阪府東加島 【事業成績】 十一年下 十一年上 十二年下 生産能力(噸) 八〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇 出荷高(噸) 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 内地(噸) 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 新契約(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 内地(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 契約(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 内地(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 在庫高(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三
【投資会社】	大東證券、土佐洋灰工業、大同セメント

【資産負債】	十一年 五十一 十一年 十一年
株主資本	三三三 三三三 三三三 三三三
外部負債	三三三 三三三 三三三 三三三
社債	三三三 三三三 三三三 三三三
借入金	三三三 三三三 三三三 三三三
支拂手形	三三三 三三三 三三三 三三三
使用總資本	三三三 三三三 三三三 三三三
固定資産	三三三 三三三 三三三 三三三
流動資産	三三三 三三三 三三三 三三三
現金預金	三三三 三三三 三三三 三三三
【收支勘定】	十一年下 十一年上 十二年下
収入	三三三 三三三 三三三 三三三
支出	三三三 三三三 三三三 三三三
【利益】	三三三 三三三 三三三 三三三
【利息】	三三三 三三三 三三三 三三三
【名義香換】	十 十 十 十

### 宇部セメント製造株式会社

(本社) 山口縣宇部市大字小串一九七八(電宇部八八八)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内三ノ二三三二二號館(電丸ノ内五五)

【増産敢行】例の金子・笠井協定で、當社の別會社朝鮮セメントは燒窯二基月産能力三萬噸の建設しか認められなかつたが、それを不満とし、將來の増産難を見越して當社は敢然更に一基の増産を行ひ、合計三基、月産能力四萬五千噸の工場の建設を行つてゐる。而も之は此の六月頃に完成し、試運轉を行ひ得るまでに工事は進捗してゐる。結局此の朝鮮セメントの増産は、小野田側も、淺野乃至聯合會側も黙認せざるを得ない状態となつてゐる。宇部社としては無理が通る譯だ。

【前期不振】十一年下期は抗爭時の安値契約物の引渡しのため、妥協成立にも拘らず、僅ではあるが上期に比べて減益した。利益率二割二分で、一割配當の据置きである。

【今後は好轉】今期は需要増と、賣値向上の好影響を全面的に受けて増益必至。然し、朝鮮セメントへの投資額に對する利子負擔もあるから著しい増益は期待困難。當社の業績が本格的な好轉を示すのは來期以降だ。即ち此の六月から朝鮮セメントが操業を開始するので、此期からかなり利益が擧つて来る。

【拂込徴収と配當】近く一株に付十二圓五十錢、總額百七十五萬圓の拂込を徴収するが配當維持に問題はない。

【設立】	大正十二年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇 新(三三三) 一〇〇,〇〇〇
【株主数】	新(三三三) 一〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 渡邊 剛二 取締役 依田 明 常務 藤本 勝雄 取締役 高田 宗七 取締役 高田 宗七 監査 庄 晋太郎 取締役 藤本 剛二 監査 名和田 正 取締役 山川 庸之助 名和田 正 【株主数】 十一年下 十一年上 十二年下 總數(名) 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇
【大株主】	渡邊 剛二 二六,六六六 大東證券 八,八八八 高田 宗七 二六,六六六 西尾 小五郎 八,八八八 藤本 剛二 二六,六六六 西尾 小五郎 八,八八八 【事業規模】 工場所在地 山口縣宇部 【事業成績】 十一年下 十一年上 十二年下 生産能力(噸) 八〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇 出荷高(噸) 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 内地(噸) 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 新契約(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 内地(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 契約(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 内地(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三 在庫高(噸) 三三,三三三 三三,三三三 三三,三三三
【投資会社】	朝鮮セメント
【資本異動】	十二年四月三圓を拂込徴収

【資産負債】	十一年 五十一 十一年 十一年
株主資本	三三三 三三三 三三三 三三三
外部負債	三三三 三三三 三三三 三三三
社債	三三三 三三三 三三三 三三三
借入金	三三三 三三三 三三三 三三三
支拂手形	三三三 三三三 三三三 三三三
使用總資本	三三三 三三三 三三三 三三三
固定資産	三三三 三三三 三三三 三三三
流動資産	三三三 三三三 三三三 三三三
現金預金	三三三 三三三 三三三 三三三
【收支勘定】	十一年下 十一年上 十二年下
収入	三三三 三三三 三三三 三三三
支出	三三三 三三三 三三三 三三三
【利益】	三三三 三三三 三三三 三三三
【利息】	三三三 三三三 三三三 三三三
【名義香換】	十 十 十 十

### 日本セメント株式会社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル新館(電九ノ内二〇五)

【抗争の終熄】十一年下期に可なり著しい業績の低下を見た当社も、業界の安定と製品需要の抬頭に恵まれて、三月末に終る本年上期はどうか昨年なみの業績に戻りさうな形勢を示してゐる。抗争の終るとともに真先に浮び上るものは何と云つても当社であらう。

【増益顯著】本年上期の出荷予定高は十三萬二千五百題だ。當期は未だ安値の契約も残つてゐたから、趣當りの利益を稍々手堅く四圓八十錢見當と押へれば、六十三萬六千圓の總利益となる。拂込資本に對する利益率は一割七分九厘となるから、十一年上期の成績とあまり變らない。更に市價の昂騰を加味すれば利益は一層増大する。

【更に好轉か】次いで下期はどうか。昨年末以來製品の需給状態が著しく改善せられつゝあると共に、先行尚ほ相當の好轉を期待されるから、當社の出荷も下期は更に増加する筈だ。無論その一方に物價高に依る原料其の他の昂騰があるから、これを考慮しなければならぬが、セメントも亦それに伴つて最高値段を維持しようから、彼此相殺される譯だ。需要の増加だけは利益となつて現はれる。従つて七分配當も亦先づ水積性ありと云ひ得る。

【設立】明治二十一年一月

【決算期】三月、九月

【事業】セメント製造

【資本金】新 10,000,000  
公 10,000,000  
備 10,000,000

【株主数】新 10,000  
公 10,000  
備 10,000

【役員】  
社長 淺野總一郎 取締役 長崎 英造  
理事 淺野良三 取締役 中川 政藏  
常務 金子喜代太 監査 田中榮八郎  
宮地 茂秋 監査 中川 政藏

【事業規模】工場所在地 八代、佐伯

【事業成績】十年下 十年上 十一年下

【大株主】淺野總一郎、九六、紫雲社、六〇〇

【関係会社】淺野セメントの子会社

【投資会社】東亞セメント、大同セメント

【資産負債】九十年 三十二年

株主資本 八、六三三 八、八三三

外部負債 五、三三三 五、三三三

借入金支分 一、〇〇〇 一、〇〇〇

使用總資本 一、六三三 一、六三三

固定資産 八、六三三 八、六三三

投資勘定 一、三三三 一、三三三

流動資産 一、三三三 一、三三三

現金預金 一、三三三 一、三三三

【收支勘定】十年下 十年上 十一年下

【業績】十年下 十年上 十一年下

【株價】(東京) 高値 安値

【利息】三月二十日調 六分三厘

【名義書換】十 十 十 十 十 十

### 豊國セメント株式会社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル内(電九ノ内一七五)

【頭を掻く】當社は最近ゲン／＼と驕足を延し、同業の羨望を受けてゐる。その筈で内容に恐るべき弾力を持つてゐる。十一年下期の業績は幾分悪化したのだが、それでも六十九萬五千圓の利益を計上した。餘裕裡に六分配當を持積すると共に、利益の六割四分までを社内に保留してゐる。

【堅實な資産内容】従つてその資産内容も更に一段と堅實性を加へてゐる。當社の固定資産は十一年下期末に於て總額八百八十九萬三千圓を數へるが、これは年産能力一樽當り二圓十五錢で、秩父、窯業、字部に次ぐ低評價である。一方、負債の整理も着々進捗してゐる。十一年上期末に於ける借入金及支拂手形は二百二十萬一千圓に上つたが、同下期末には二十萬圓を減じてゐる。本年上期末には更に同額を減する筈だ。

【増配せよ】本年上期中の出荷は十七萬題に上る豫定である。市價回復に依り趣當り利益は増す筈だが、手堅く四圓八十錢と見ても八十一萬六千圓の増益だ。利益率二割一分八厘に當るから、二分の増配は易々たるものだ。當局者は六分据置とする意圖の様だが、當社の現行配當率は決して高くないのだし、他方業界の前途も可なり樂觀されるから、此の際増配が至當と目される。

【設立】大正七年十二月

【決算期】四月、十月

【事業】セメント製造販賣

【資本金】新 10,000,000  
公 10,000,000  
備 10,000,000

【株主数】新 10,000  
公 10,000  
備 10,000

【役員】社長 村瀬 末一 取締役 下山 義雄

常務 岩崎 清一郎 監査 葛生 謙

取締役 木下 剛 山田 小太郎

板本 信雄 福澤 大四郎

清瀬 規矩雄 相談 岩崎 清七

堀 三太郎 相談 岩崎 清七

【株主数】十年下 十年上 十一年下

【大株主】千代田生命、セ、〇〇〇

【関係会社】豊國セメントの子会社

【投資会社】東亞セメント、大同セメント

【資産負債】十一年 十一年

株主資本 八、六三三 八、六三三

外部負債 五、三三三 五、三三三

借入金支分 一、〇〇〇 一、〇〇〇

使用總資本 一、六三三 一、六三三

固定資産 八、六三三 八、六三三

投資勘定 一、三三三 一、三三三

流動資産 一、三三三 一、三三三

現金預金 一、三三三 一、三三三

【收支勘定】十年下 十年上 十一年下

【業績】十年下 十年上 十一年下

【株價】(東京) 高値 安値

【利息】三月二十日調 六分三厘

【名義書換】五 五 五 五 五 五

### 七尾セメント株式会社

(本社) 東京市麹町区九ノ内九ビル内(電九ノ内三三三―七)

【業績回復】 去る十一月締切の十一年下期は四十二萬八千圓の利益を挙げた。拂込資本に對する利益率は二割一厘だ。その前期に比較して二分九厘を向上した譯だが、十年下期の利益率には若干及ばなかつた。けれどもその差は僅かに一分三厘だ。此の分なら當社も先づ更生の緒についたものと云ひ得る。

【償却に努力】 斯様に増益を見たため六分配當も格別苦痛なく持續出来た。即ち、その利益處分を見ても六割六分一厘までが社内に保留されてゐる。従つて固定資産の償却も再び二十五萬圓の計上が可能であつたのだ。斯くて固定資産の評価は格當り二圓七十一錢とその前期よりも三錢方の低下を見せてゐる。けれども當社の固定資産は同業と比較して尙ほ割高の状態なのだから、一層の努力を必要とするのである。

【増益か】 五月末に終る十二年上期は相當の増益が予想される。一般の需要が増大しつゝある上に北陸地方には東電、矢作等の電力會社の發電所が建設されてゐるので此の方面の需要が旺盛なのだ。當局者は六萬五千圓の出荷を豫定してゐるが、恐らくこれは控へ目の見積りで、實際は更に増加するであらう。従つて六分配當も當然踏襲出来る筋合だ。

### 土佐セメント株式会社

(本社) 高知市堀江五三四七(電三三三―一三)  
(出張所) 東京市目黒區下目黒三ノ六七五(電高輪五〇)

【減資】 昨年十一月二十四日當社は遂に減資を決議した。従來の資本金一千萬圓を五百萬圓に減少し、新、舊兩株式共二株を合併して一株とすることになつたのである。従つて拂込金額も、七百二十八萬九千圓から三百六十五萬圓に減ぜられた。此の減資額は別段積立金二十四萬三千二百圓、修繕積立金三萬五千八百圓等と共に固定資産の償却に充てられた。即ち三百九十二萬九千圓だけ固定資産は切下げられたのだ。十一年下期末の固定資産は九百六十六萬八千圓であるから、之から此の期の償却十四萬圓と前記の固定資産切下げ額を差引くと、五百五十九萬九千圓となる。之を年産能力四十四萬圓に對比すると、適當り固定資産は十二圓七十二錢となる。減資は三月一日に實行。

【内容充實】 切下後の固定資産評價は一流會社に比較して僅に劣るに過ぎなくなり、豊國、日本と言つた二流會社のトップを切るやうになる。内容的には著しく充實する譯だ。

【好轉】 當社のセメント原價は決して高い方ではないから、内容の整理がついた以上、今後には相當期待されるものがある。今期は當社も賣値向上で増益することは確かだ。三十七、八萬圓の利益は擧がらう。二分程度の増配は可能。

【設立】 大正十五年十二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 セメント製造販賣

【資本金】 拂込 4,000,000

【株数】 100,000

【役員】 社長 岩崎 清七 監査 石黒 傳六

常務 堀 朝雄 生明市太郎

監査 岡野利兵衛

【株主数】 十一年下 七

【大株主】 遠山 信成 30,000

千歳商會 5,000 山室 要 4,000

共済會 1,000 川島屋商店 1,000

宮島保平 1,000 根津嘉一郎 1,000

【事業規模】 工場所在地 七尾

【事業能力】 十一年下 十一年上 十一年下

生産高(公) 2,500 2,500 2,500

出荷高(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

新契約(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

契約(公) 2,500 2,500 2,500

在庫高(公) 2,500 2,500 2,500

【関係會社】 磐城セメントの子會社

【資産負債】 十一年 五十一 十一年

株主資本 3,000,000 3,000,000 3,000,000

外部負債 3,000,000 3,000,000 3,000,000

流動資産 3,000,000 3,000,000 3,000,000

固定資産 3,000,000 3,000,000 3,000,000

使用總資本 3,000,000 3,000,000 3,000,000

現金預金 3,000,000 3,000,000 3,000,000

【收支動向】 十一年下 十一年上 十一年下

収入 3,000,000 3,000,000 3,000,000

支出 3,000,000 3,000,000 3,000,000

固定利益 3,000,000 3,000,000 3,000,000

消却率 3,000,000 3,000,000 3,000,000

【業績】 十一年下 十一年上 十一年下

生産高(公) 2,500 2,500 2,500

出荷高(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

新契約(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

契約(公) 2,500 2,500 2,500

在庫高(公) 2,500 2,500 2,500

【時價】 三月二十日 六分

【名義書換】 十 新券交付 五十

【設立】 明治四十一年八月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 セメント製造

【資本金】 拂込 4,000,000

【株数】 100,000

【役員】 社長 淺野健一郎 取締役 社 塚 藤

常務 下元龍之助 監査 井上直太郎

入谷 春彦 大西 正幹

【株主数】 十一年下 十一年上 十一年下

【大株主】 溝淵 辨助 8,000

川崎三郎 4,000 小川奈良造 3,000

宇田友四郎 2,000 濱田 麟一 2,000

宇田 耕一 2,000 井上直太郎 2,000

【事業規模】 工場所在地 高知

【事業能力】 十一年下 十一年上 十一年下

生産高(公) 2,500 2,500 2,500

出荷高(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

新契約(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

契約(公) 2,500 2,500 2,500

在庫高(公) 2,500 2,500 2,500

【資本異動】 九年六月拂込七圓五枚收

十一年十一月半額減資決定

【資産負債】 十一年 五十一 十一年

株主資本 3,000,000 3,000,000 3,000,000

外部負債 3,000,000 3,000,000 3,000,000

流動資産 3,000,000 3,000,000 3,000,000

固定資産 3,000,000 3,000,000 3,000,000

使用總資本 3,000,000 3,000,000 3,000,000

現金預金 3,000,000 3,000,000 3,000,000

【收支動向】 十一年下 十一年上 十一年下

収入 3,000,000 3,000,000 3,000,000

支出 3,000,000 3,000,000 3,000,000

固定利益 3,000,000 3,000,000 3,000,000

消却率 3,000,000 3,000,000 3,000,000

【業績】 十一年下 十一年上 十一年下

生産高(公) 2,500 2,500 2,500

出荷高(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

新契約(公) 2,500 2,500 2,500

内産(公) 2,500 2,500 2,500

契約(公) 2,500 2,500 2,500

在庫高(公) 2,500 2,500 2,500

【時價】 三月二十日 六分

【名義書換】 十 新券交付 五十

### 大分セメント株式会社

(本社) 大分市大字大分一五五〇(電大分二七)  
(出張所) 大分市北區空町一ノ三二(電北セセ〇一三)

【下期不變】當社の十一年下期の業績は、殆ど前期と變らなかつた。即ち利益金は七十四萬九千圓、利益率は一割六分で、金額にして二千圓、利益率にして僅に一厘の低下に過ぎなかつた。賣値は勿論低いものであつたが、當社は以前から安値で賣つて來てゐたので、業績には大した變化を齎さなかつた譯だ。

【今期好轉】ところが今期の業績は相當好轉するものと豫想される。と言ふのは平均賣値がかなり引上げられるからだ。前期から既に市況は好轉してゐたのであるが、安値契約品があつた爲に其の好影響は受け得なかつたのである。今期の賣値は、前期に比較しては相當向上してゐるから増益は疑ひの余地がない。恐らく八十萬圓見當の利益は擧げ得られるのではなからうか。八十萬圓の利益として利益率は一割七分だ。然し増配は行はない。

【子會社操業】投資會社東北セメントは去る二月八日付を以つて一萬五千圓の燒窯二基の据付けを許可された。これは今年末でなければ完成しないであらう。本格的操業は來年かと思はれるが、これが完成すれば、當社の業績にも相當寄與することになる。

【今後配當】東北セメントが配當を開始するやうになれば、或は一、二分の増配が行はれるやうになるかも知れぬ。

【設立】	大正七年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造
【資本金】	公稱 二、〇〇〇、〇〇〇 新(舊) 九、三三三、〇〇〇
【株主数】	新(舊) 三、七〇三
【重役】	専務 田上爲次郎 取締役 野野 宗三 常務 山本 義人 監査 河野 香治 取締役 伊藤 右衛門 田淵榮次郎 風間 八左衛門 相談 笠井 廣三
【大株主】	小野田セメント 三、〇〇〇 伊藤 右衛門 八、〇〇〇 大正 生命 六、〇〇〇 大分合同銀行 六、〇〇〇 山本 義人 三、〇〇〇 田淵商店 六、〇〇〇 大阪 製糖 三、〇〇〇 田上爲次郎 三、〇〇〇 富 來 力 三、〇〇〇 楠本吉次郎 三、〇〇〇
【工場所在地】	九州 津久見、徳 浦 紀州 由良
【月産能力】	十年下 十一年上 十一年下 生産高(一) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 出荷高(一) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 出 荷 高(二) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【投資會社】	十一年四月創立の東北セメント(月産 三〇〇〇圓の豫定)の一部株式引受け岩 手縣大船渡工場を同社に譲渡す

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇
外部負債	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
社 債	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
使用總資本	二二、〇〇〇 二二、〇〇〇 二二、〇〇〇
固定資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇
現金預金	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
支出	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 六分
時價	新三五 利 六分二厘
【名義書換】	十 新券交付 五十

### 東洋セメント工業株式会社

(本社) 大阪市北區堂島渡通二丁目一五(電北濱 三〇五二)  
(支店) 大阪市東區東區丸ノ内三三二(電丸ノ内二九)

【前期著しく不振】十一年下期の業績は著しく低下した。利益金は三十五萬二千圓で、上期に比し一萬七千圓の減益、利益率は平均拂込資本金の増加の關係もあり、二割三分九厘となり、上期の二割九分八厘に比し六分を低下した。固定資産償却は一萬圓を減じて十四萬圓とした。十四ヶ年償却だから、あまり優秀なものとは言へない。此の減益は賣値の低下と、生産許容量の減少の二方面から來てゐる。賣値の低下は一般同業會社と同一原因に依るものであるが、生産許容量の減少は當社独自の事情に基くものである。と言ふのは、當社は昨年三月迄は試運轉期間として自由生産が許されてゐたのであるが、其の後は他の同業會社と同様の生産制限率に従はねばならなくなつたからだ。尚ほ注意せねばならぬことは、此の期の決算は、その前の期からの繰越品の含みを吐き出してゐることである。

【今後は良好】こう言ふ譯だから、今期は賣値向上の好影響はあるが、成績の急向上を期待することは困難である。勿論實際の營業成績の向上は疑ふ余地はないが、決算面上に前期よりどの位多くの利益を計上出来るかに疑問が持たれる。但し業界は落着いてゐるし、需要も急増してゐる。一割配當は維持出来る。

【設立】	昭和九年五月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	セメント製造
【資本金】	公稱 二、〇〇〇、〇〇〇 新(舊) 二、〇〇〇、〇〇〇
【株主数】	新(舊) 三、七〇三
【重役】	専務 阿部美樹志 取締役 山口謙四郎 取締役 南 喜三郎 監査 井上 周 浅利 三朗 川上 高帆 溝口軍太夫
【大株主】	阿部美樹志 三、〇〇〇 上田 幸六、〇〇〇 岩田有徳門 三、〇〇〇 黒川商店 三、〇〇〇 淺利 三朗 三、〇〇〇 有徳 左衛門 三、〇〇〇 帝國生命 三、〇〇〇 溝口軍太夫 三、〇〇〇 山口謙四郎 三、〇〇〇 山口合資 三、〇〇〇
【工場所在地】	福岡縣小倉市外市丸 工場設備 乾式回轉窯二基 工場敷地 一萬五千坪 年産能力 三十六萬圓
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 生産高(一) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 出荷高(一) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 出 荷 高(二) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 製造費(一) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【資本異動】	十年二月第三回、同年十月 第四回拂込各三圓五枚、十二年五月、 七圓千圓を増資

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇
外部負債	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
社 債	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
使用總資本	二二、〇〇〇 二二、〇〇〇 二二、〇〇〇
固定資産	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇
現金預金	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
支出	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 六分
時價	新三五 利 六分九厘
【名義書換】	十 新券交付 五十







### 洋紙事業

【紙價の暴騰】昨今の洋紙相場の騰貴には非常に驚くべきものがある。いま印刷紙の代表的なものに就て三月末現在の位地を見ると、印刷紙A 楓は一封度十六錢、B 模造紙は一封度十八錢五厘、ザラ紙は一連六圓だ。昨年十一月に比較すれば二割乃至三割、ザラ紙に至つては六割六分の大巾昂騰で當る。尚ほこれを長期的に見れば昭和元年以來の高値である。昨年末から本年春にかけての暴騰は何故起つたかと云ふに、一つには昨年末原料パルプの暴騰を見越しての思惑買ひも加はつてゐるが、何と云つても需要が非常に旺盛だからだ。

【需要の激増】先づ印刷用紙類（限産洋紙）の需給を見ると、本年一―二月の累計で生産高は九千八百萬封度、販賣高は一億二千五百萬封度となつて、二千八百萬封度の販賣超過である。前年同期に比較すれば生産高は一千二百萬封度（一四%）、販賣高は三千五百萬封度（三九%）を増大した。次に限産をやつてない新聞紙を見ても、一―二月の累

計では生産高一億三千三百萬封度、販賣高一億三千八百萬封度となり、前年同期よりもそれ／＼一千二百萬封度（一〇%）、二千一百萬封度（一八%）を増大した。その他包紙、ロール紙、色紙類、機械和紙類、板紙類、雑種紙等（何れも限産を行はず）の需給も好調を續け、これ等の洋紙を一切含めた全洋紙の今年二月累計の生産高は三億三千五百萬封度、販賣高は三億七千四百萬封度となり、前年同期に比べて前者は四千七百萬封度（一六%）、後者は九千萬封度（三二%）の増加に當る。洋紙全體としても販賣は生産よりも一層促進された譯だ。

【印刷紙短緩和】かゝる需要の激増に直面して印刷紙（限産紙）の操短率を一月來四月迄に一割五分を緩和した。然し紙價は反落の虞れなく、原料高と需要増に支へられて依然強調を呈するだらう。

【原料高不安なし】尤も紙價昂騰の一因である原料高は業界の不安材料に一應考へられるが、紙價の騰貴と販賣の増大により充分カバー出来る。従つて製紙株にはまだ妙味があると云へよう。

### 王子製紙株式会社

（本社）東京市王子區王子町 （電小石川 三〇四）  
（事務所）東京市豊町區有樂町三丁目（電銀座 五〇二）

【好調を續く】去る十一月末締切の決算では利益金二千六十四萬圓、拂込資本に對する利益率二割二分の好成績を収め一割配當を据置いた。これを前年同期に比較すれば利益金に於ては三百七十萬圓の増収だ。尤も利益率は資本負擔の増大のため若干低下せざるを得なかつたが、ともかくも好成績を擧げることが出来た。

【内容の一新】業績の好轉につれて利益の過半を社内保留してゐる。固定資産償却の如きも毎期五百萬圓の巨額で、内容は益々充實してゐる。外部負債のうち社債は昨年十一月末に於て僅か一千九百萬圓に過ぎず、昭和八年三社合併當時に比較すれば一億三千萬圓位りの減少に當り、前期末に比較しても三千五百萬圓を減じてゐる。僅か一期間でかく激減してゐるのは、期初に拂込まれた増資新株の拂込資本の一部が充てられたからだが、兎も角驚くべき改善振りである。

【未拂込債必至】ところで當社の新たな興味は新規資本計畫だが、愈々増資新株の第二回拂込は必至と見てよい。資金調達目的はパルプ事業への投資と外部負債の肩代りである。一株十二圓半、總額三千八百萬圓程度で本年中には實現するだらう。拂込後も無論一割配當は安泰だ。

【設立】	明治六年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種洋紙、製紙人用用パルプ
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,677,000
【株数】	新(1,000) 1,000,000
【重役】	社長 藤原銀次郎 取締役 原邦造 副社長 高島善次郎 井上 周 専務 井上 憲一 大川 鐵雄 足立 正 一柳 貞吉 松本 弘造 真島幸次郎 田中 治朗 益田 信世 大橋新太郎 井坂 孝 阿部房太郎 小池厚之助 田中榮八郎 小西喜兵衛
【株主数】	十年上 十一年上 十一年下
【大株主】	王子證券 三井合名 三友八八〇 大川合名 三友七六六 藤原合資 一〇,〇〇〇 帝國生命 六、六〇〇 第一生命 六、〇〇〇 大阪野番 海、〇〇〇 内藤頭 三、〇〇〇 【事業成績】 抄紙機數 二八臺 吋數 一三,〇〇〇吋 【事業成績】 製紙・販賣 十年上 十一年上 十一年下 洋紙製 七、七三三 七、七三三 七、七三三 製紙製 七、七三三 七、七三三 七、七三三 パルプ製 三、三三三 三、三三三 三、三三三 販賣 三、三三三 三、三三三 三、三三三 【投資】 王子證券、其他 【投資】 第一回一、二〇〇萬圓五拂込後

【資産負債】	十一年 十一年上 十一年下
株主資本	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
社債	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
借入金	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	三、〇〇〇,〇〇〇 三、〇〇〇,〇〇〇 三、〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
流動資産	二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
【收支】	十年上 十一年上 十一年下
收入	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
支出	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
固定資産償却	一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇
消却年率	一〇% 一〇% 一〇%
【株主】	十年上 十一年上 十一年下
株主数	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
株價(東京)	高値 安値 新株 高値 安値
十一年	一〇〇.〇〇 一〇〇.〇〇 一〇〇.〇〇
十一年上	一〇〇.〇〇 一〇〇.〇〇 一〇〇.〇〇
十一年下	一〇〇.〇〇 一〇〇.〇〇 一〇〇.〇〇
【利益】	三月二十日調 一割
時價	高〇 利四 四分七厘
【名義書換】	五 續「新券交付」二十條





### 日本産業護謨株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ二(電九ノ内 六)

【再び五分増配期待】 當社の去る二月末締切決算は本稿執筆中は未だ發表されないが、或ひは五分増配を断行するのではないかと思はれる。それ程に成績はよい。果して何うなるかは、不明と云ふはかなく、當局者もまだ配當に就いては全然考へてない模様であるが、昨年末から今年に掛けての護謨市價の暴騰により、大分五分増配實現が濃厚になつて来たことは事實だ。

【業績】 去る二月期の豫想生産高は二百五十萬封度見當で、平均賣値は三十二仙にはなつた筈だ。コストを十三仙とし邦貨に換算すると九十五萬圓の利益となるが、當社にはこの外椰子、マニラ麻、木材等の副業から約五萬圓の収益があるから、これを加算した百萬圓が當期の豫想利益金である。利益率は三割三分だ。

【長期上場切迫】 而も資産内容は極めて堅實で、償却を要する個處は少く、増益の大部分を社外分配に振向けても差支へない状態にある。こゝに二月期に五分増配の實現強いと見る最大の根據がある。それに當社には屢々述べて来た様に懸案の長期市場上場問題が控へて居る。東株への上場申請手續きは去る一月中旬に終つてゐるから、早ければ四月中、遅くとも五月末までには長期上場株となるであらう。これも有利な材料だ。

【設立】	昭和九年三月	【設立】	明治四十四年十月
【決算期】	二月、八月	【決算期】	三月、九月
【事業】	護謨、椰子栽培、木材伐採	【事業】	護謨、椰子栽培採取
【資本金】	100,000	【資本金】	100,000
【株主数】	100	【株主数】	100
【重役】	下河邊健二 取締役 前田 惟智 常務 田中 誠吉 監査 片山 義勝 岡部常太郎 山田 敬光 取締役 保田宗治郎 植村 俊平 植村 俊平 取締役 植村 俊平	【重役】	法華津孝治 取締役 吉原 春良 専務 松本 三郎 監査 廣瀬 橋三 取締役 井上 雅二 井上 敬太郎 取締役 森村 義行 松方 敬輔 取締役 櫻田益次郎 相談 森村市左衛門 櫻田益次郎 相談 森村市左衛門
【大株主】	日本産業三、六次 野村生命五〇〇〇 松尾善二郎五〇〇 上條 良夫五〇〇 秋田 太吉二〇〇 小出 源吾一〇〇 鶴尾 達郎一〇〇 岡部常太郎一〇〇	【大株主】	森村同族九〇〇 大倉和親三〇〇 森村 義行二七〇 櫻田益次郎二〇〇 法華津孝治一七〇 藍澤商店一〇〇 森村市左衛門一〇〇 森村 勇一〇〇 森村市左衛門一〇〇 森村 勇一〇〇
【事業地】	日本産業三、六次 野村生命五〇〇 松尾善二郎五〇〇 上條 良夫五〇〇 秋田 太吉二〇〇 小出 源吾一〇〇 鶴尾 達郎一〇〇 岡部常太郎一〇〇	【事業地】	護謨 馬場半島ジョホール、パトバ 護謨 (一) 十年上 十年下 十年上 植村地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 休採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 未採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇
【事業成績】	十年上 十年下 十年上 十年上	【事業成績】	十年上 十年下 十年上 十年上
【資産負債】	八十年 十一年 十一年	【資産負債】	九十年 十一年 十一年
株主資本	六、八〇〇 六、八〇〇 六、八〇〇	株主資本	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十年下 十年上	【收支勘定】	十年上 十年下 十年上
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調	【利益】	三月二十日調
時價	四分四厘	時價	四分四厘
【名義書換】	十 新券交付 三十	【名義書換】	十 新券交付 三十

### 株式会社 南 亞 公 司

(本社) 東京市日本橋區通一ノ七ノ三(電日本橋九)

【前期】 當社は昨年九月末決算に於て、二分増配の外に三分の記念配當を付けた。即ち合せて五分増配を断行したわけだ。然し乍ら決算は可なり窮屈であつた。これは記念配當金に相當する四万二千圓の配當準備積立金を崩したことによつても窺はれる。

【今期】 そこで此の記念配當を今期決算に於て何う處理するか、問題となる。記念配當三分を廢して一割二分配當とするか、それとも記念配當を普通配當に直して一割五分配當とするかであるが、本年に入つてからの護謨價騰に惠まれて、後者の一割五分配當の方が實現性を増して来た。

【増益理由】 當社の今年上期平均賣値は三十三仙から三十四仙を期待してよい。前期の二十五仙臺に較べ八、九仙も高い。これに生産高も限産率の緩和によつて増加する筋合にある。先づ上期豫想生産高は百十七萬封度は大丈夫だらう。とすれば前期生産高より約十萬封度の増加に當る。コストも前期同様十四仙見當と推さへれば大體間違ひない。平均賣値を手堅く三十三仙とみると封度當りの差益は十八仙で、豫想生産高に對する利益金は二十二萬二千弗だ。これを邦貨換算すると四十四萬四千圓で、此の利益率は三割二分だ。一割五分配當を期待し得る所以が明かであらう。

【設立】	明治四十四年十月	【設立】	明治四十四年十月
【決算期】	三月、九月	【決算期】	三月、九月
【事業】	護謨、椰子栽培採取	【事業】	護謨、椰子栽培採取
【資本金】	100,000	【資本金】	100,000
【株主数】	100	【株主数】	100
【重役】	法華津孝治 取締役 吉原 春良 専務 松本 三郎 監査 廣瀬 橋三 取締役 井上 雅二 井上 敬太郎 取締役 森村 義行 松方 敬輔 取締役 櫻田益次郎 相談 森村市左衛門 櫻田益次郎 相談 森村市左衛門	【重役】	法華津孝治 取締役 吉原 春良 専務 松本 三郎 監査 廣瀬 橋三 取締役 井上 雅二 井上 敬太郎 取締役 森村 義行 松方 敬輔 取締役 櫻田益次郎 相談 森村市左衛門 櫻田益次郎 相談 森村市左衛門
【大株主】	森村同族九〇〇 大倉和親三〇〇 森村 義行二七〇 櫻田益次郎二〇〇 法華津孝治一七〇 藍澤商店一〇〇 森村市左衛門一〇〇 森村 勇一〇〇 森村市左衛門一〇〇 森村 勇一〇〇	【大株主】	森村同族九〇〇 大倉和親三〇〇 森村 義行二七〇 櫻田益次郎二〇〇 法華津孝治一七〇 藍澤商店一〇〇 森村市左衛門一〇〇 森村 勇一〇〇 森村市左衛門一〇〇 森村 勇一〇〇
【事業地】	護謨 馬場半島ジョホール、パトバ 護謨 (一) 十年上 十年下 十年上 植村地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 休採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 未採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇	【事業地】	護謨 馬場半島ジョホール、パトバ 護謨 (一) 十年上 十年下 十年上 植村地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 休採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇 未採取地 二〇、七〇、七〇、七〇、七〇
【事業成績】	十年上 十年下 十年上 十年上	【事業成績】	十年上 十年下 十年上 十年上
【資産負債】	九十年 十一年 十一年	【資産負債】	九十年 十一年 十一年
株主資本	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇	株主資本	三、三〇〇 三、三〇〇 三、三〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十年下 十年上	【收支勘定】	十年上 十年下 十年上
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調	【利益】	三月二十日調
時價	七分四厘	時價	七分四厘
【名義書換】	十 新券交付 三十	【名義書換】	十 新券交付 三十



### 南洋護謨株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内二ノ八(電九ノ内 二六二)

【二つの好材料】 当社には二つの好材料がある。大巾の増配期待と増資含みがそれである。

【増配程度】 先づ増配程度を検討する爲に、今期の豫想利益金を推算すると二十八萬四千圓となる。拂込資本金二百萬圓に對して二割八分の利益率となり、前期に比し一割一分の急向上となる。新様に優秀な収益状態が期待されるから増配は充分出来る。當局者はまだ之につき具體的なことは決めてゐないやうだが、問題はたゞ増配程度にかゝつてゐるわけだ。之につき市場では二分増配の一割配當説と一割四分増配の一割二分説とがある。だが、何れかと云へば四分増配の方に實現性が強いと思ふ。

【増資問題】 と云ふのは資産内容が比較的良いこと、増資が控へて居るからである。當社の増資問題に就いては、當局者が發表を避けて居るのでハッキリとは判らないが、記者の推察する處によると、從來支那人の經營してゐた約千二百エーカーの護謨園を買収した點にその根據がある。此の資金約七十萬圓は臺灣銀行から借入れた模様だが、これは増資によつて返済する意圖であると想像される。果してさうだとすれば、増資の時期は來期あたり、遅くとも來々期には實現するのではあるまいか。

【設立】	明治十四年三月
【決算期】	四月、十月
【事業】	護謨栽培採取
【資本金】	二百〇〇,〇〇〇
【株主数】	一〇〇
【役員】	社長 藤田 軍太 取締役 松崎 繁太郎 常務 後藤 吉武 監査 河野 卓治 取締役 林 莊治 河野 卓治 【大株主】 十年下 十一年上 十一年下 三三三 三三三 三三三
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 生産費(色) 三三三 三三三 三三三 平均賣價(色) 三三三 三三三 三三三 生産高(対色) 三三三 三三三 三三三 生産高(対色) 三三三 三三三 三三三

【資産負債】	十月 十一月 十二月
株主資本	三三三 三三三 三三三
外部負債	三三三 三三三 三三三
借入金	三三三 三三三 三三三
使用總資本	三三三 三三三 三三三
固定資産	三三三 三三三 三三三
流動資産	三三三 三三三 三三三
現金預金	三三三 三三三 三三三
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
収入	三三三 三三三 三三三
支出	三三三 三三三 三三三
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	三三三 三三三 三三三 三三三
【株價(高値)】	三三三 三三三 三三三 三三三
【豫想配當】	十二年四月期 一割二分
【名義書換】	十 十 十

### ホルネ才護謨株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内三ノ六(電九ノ内 二六二)

【前期】 當社は豫て予想した様に去る九月末決算に於て一分増配の五分配當を付けたが、此の三月末決算に於ても、更に二分乃至三分の増配は必至の状態に置かれて居る。

【今期】 三月期増配の理由は、云ふ迄もなく護謨市價の騰貴と生産高の増加にある。いま今年上期予想利益金を算出すると、十四萬六千圓となる。利益率は一割四分六厘に當るから、前期に比し五分四厘の向上だ。先づ三分増配か、手堅く押へても二分増配を期待して間違ひなからう。

【缺點】 だが、当社には見逃してはならぬ二つの缺點がある。固定資産の割合と生産高の僅少と云ふことがそれだ。固定資産の評価は一頃からみると大分安くなつて來たが、未だ一エーカー當り八百餘圓で大分割高だ。また生産高が僅少であると云ふことは、昨今の様に護謨價が高い時には、何んと云つても大きな缺點だ。

【來期】 然し乍ら、當社は以上の様な弱味を持ち乍らも、前述の如く此の三月期増配は殆んど確定的である。而も來期は更に増益する見込みだ。來期の生産高が限産率の緩和によつて増加し、平均賣價も本年に入つてからの護謨價騰貴を全面的に享受して上昇するからである。増配が再び問題となつて來よう。

【設立】	大正六年十二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	護謨栽培採取
【資本金】	二百〇〇,〇〇〇
【株主数】	一〇〇
【役員】	社長 横山 章 取締役 増田 義一 常務 渡邊 勝家 監査 遠藤 謙夫 取締役 河野 卓治 相談 大隈 征夫 野口 三郎 山土 佐太郎
【大株主】	十年下 十一年上 十一年下 一、二六六 一、二六六 一、二六六
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 生産費(色) 三三三 三三三 三三三 平均賣價(色) 三三三 三三三 三三三 生産高(対色) 三三三 三三三 三三三 生産高(対色) 三三三 三三三 三三三

【資産負債】	九月 十一月 十二月
株主資本	三三三 三三三 三三三
外部負債	三三三 三三三 三三三
借入金	三三三 三三三 三三三
使用總資本	三三三 三三三 三三三
固定資産	三三三 三三三 三三三
流動資産	三三三 三三三 三三三
現金預金	三三三 三三三 三三三
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
収入	三三三 三三三 三三三
支出	三三三 三三三 三三三
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	三三三 三三三 三三三 三三三
【株價(高値)】	三三三 三三三 三三三 三三三
【豫想配當】	十二年三月期 八分
【名義書換】	十 十 十

### 株式 馬來護謨公司

(本社) 東京市麹町區大手町日清生命館(電丸ノ内 二六七)

【増配】昨年九月份は予想通り一分増の五分配當を行つたが、三月末締切の今年上期は、更に三分増の八分配當をつける模様である。當社は護謨會社中生産高が比較的多いので、舊來の護謨高の恩恵を多分に享けたからだ。

【業績豫想】今年三月份の推定生産高は九十九萬七千封度で、封度當り平均差益は、前期より六仙増の十八仙半へと急増したから、豫想利益は對前期八割増の三十四萬圓見當に上つたと見られる。すると、利益率は二割二分前後だから、八分配當は餘裕たつぷりと云へよう。護謨界の好勢が今後向續くものとすれば、下期利益は三十八萬圓見當に上り、利益率は二割四分強と豫想される。

【下期記念配當か】それに下期は當社の二十五周年に當るので、當局者は二分程度の記念配當を付けたいと言つてゐる。而も其後、此の記念配當を普通配當に引直す意向の様だが、右述の業績豫想からすれば、斯かる増配政策も可能であらう。

【拂込徴收】然し當社は「エーカー」當り固定資産が七百五十萬圓を超へる高評價なると、拂込資本の約半分(百五十萬圓)に及ぶ借入金を負つてゐる點に弱味がある。之が爲め、近く未拂込を徴收して借金の一部返済に充てる模様である。

【設立】	大正元年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	護謨栽培採收
【資本金】	公稱 二〇〇,〇〇〇
【株数】	第一新 〇〇,〇〇〇 第二新 〇〇,〇〇〇 第三新 〇〇,〇〇〇
【役員】	會長 増田 義一 取締役 大隅直太郎 社長 村上 漢吉 監査 星野 錦 取締役 伊藤 源助 山口 經治
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 一〇八 一〇九 一〇九
【大株主】	村上 漢吉 三〇,〇〇〇 山田 正三 二〇,〇〇〇 増田 義一 一〇,〇〇〇 大隅直太郎 一〇,〇〇〇 山田 味平 一〇,〇〇〇 伊藤 源助 一〇,〇〇〇 大平仁三郎 一〇,〇〇〇 朝水 常吉 一〇,〇〇〇
【事業規模】	馬來半島セランゴール州、スラ州、ネグリスマラン州、トングス州、パパン州
【所有園(家)】	十年下 十一年上 十一年下 總面積 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇 植付面積 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇 採取可能 六〇,〇〇〇 六〇,〇〇〇 六〇,〇〇〇 樹數(千本) 六〇 六〇 六〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 採取面積(英畝) 二〇 二〇 二〇 生産高(千圓) 一〇 一〇 一〇 生産費(千圓) 八 八 八 平均賣値(圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇

【資産負債】	九十年 十一年 十一年
株主資本	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
利益	二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇
【業績】	利益率 二〇% 二〇% 二〇%
【株價】	高値 安値 高値 安値 九十年 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年上 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年下 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【豫想配當】	十二年三月份 八分
【利息】	三月二十日調 五分五厘 時價 新元五 利息 四分六厘
【名義書換】	十 五 新券交付 三十 十

### 南國産業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内三ノ四有樂館(電丸ノ内 一五三)

【整理斷行】當社はいま一大整理案の實施中である。即ち現在の資本金二百五十萬圓(内拂込済二百萬圓)を百萬圓全額拂込済みに減資した上、更に二百五十萬圓を増資して三百五十萬圓とする。増資新株の第一回拂込金は二百萬圓(一株に付四十圓)で、来る五月末頃に徴收する豫定だ。増資の目的は和蘭銀行から融通を受けた邦價換算二百五十萬圓に上る借入金の返済に在る。

【前期業績】昨年十二月末で締切つた前期決算(年一回)に依ると、利益金は五萬五千四百圓で、利益率は二分八厘に止まつた。従つて依然無配續行を餘儀なくされた譯だが、今期からは全く様變りの情勢が豫想される。

【今期豫想】即ち主業たる護謨の生産量は、今期から二五%近く増大される筈であり、それに副業の紅茶、珈琲、規那等も市價は寧ろ漸騰歩調にあるからだ。當社は從來の年一回決算を今年から六月、十二月の年二回決算に改めたが、差當り今六月份には十七、八萬圓の利益が見込まれる。すると、五分程度の復配は、當然可能となつて来る。

【來期】十二月締切の下期は、之に更に六萬圓見當の利拂輕減が加はるから、業績は一層向上しよう。

【設立】	大正六年九月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	護謨、茶、規那、珈琲
【資本金】	公稱 二〇〇,〇〇〇 拂込 二〇〇,〇〇〇
【株数】	〇〇,〇〇〇
【役員】	專務 中村 第三 常務 有村 實一 監査 島居 信平 取締役 城戸崎 三三 伊藤 重郎 小倉 一二 玉井 義助 總數(名) 一〇二 一〇二 一〇二
【大株主】	臺灣製糖 四〇,〇〇〇 野崎 康雄 八〇,〇〇〇 龜田 眞治 七〇,〇〇〇 入間野 武雄 七〇,〇〇〇 昭和銀行 五〇,〇〇〇 岩田 十子 五〇,〇〇〇 島居 信平 五〇,〇〇〇 猪坂 利夫 五〇,〇〇〇
【事業規模】	爪哇バスマラ州、レ州マラン區、爪哇バタビヤ州、パインブルグ區
【植付面積】	爪哇バスマラ州(資本金八〇萬圓) ウノサリ一農園(資本金二〇萬圓) 茶 一〇,〇〇〇 規那 一〇,〇〇〇 テムボア七農園(資本金八〇萬圓) 護謨 一〇,〇〇〇 珈琲 一〇,〇〇〇 チンダリー一農園(資本金九〇萬圓) 茶 一〇,〇〇〇 護謨 一〇,〇〇〇
【生産高】	九年度 十年度 十一年度 規那(半担) 六三、〇〇〇 六三、〇〇〇 六三、〇〇〇 茶(半担) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 珈琲(担) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 護謨(半担) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【投資會社】	テムボアセオ農園、ウノサリ一農園、チンダリー農園

【資産負債】	九十年 十一年 十一年
株主資本	二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支拂手形	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
流動資産	二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【收支勘定】	九年度 十年度 十一年度
收入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
利益	二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇
【業績】	利益率 二〇% 二〇% 二〇%
【株價】	高値 安値 高値 安値 九十年 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年上 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年下 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【豫想配當】	十二年六月份 三分
【利息】	三月二十日調 四分四厘
【名義書換】	五 十 新券交付 三十 十



### 東京建物株式會社

(本社) 東京市日本橋區吳服橋三ノ七ノ三(電日本橋三六二七)

【滿洲興業合併】東京建物は舊滿洲會社滿洲興業を合併する事に決定、三月一日これを實行した。合併比率は滿洲興業八株對當社株七株で、合併の理由は經營の合理化と稅負擔軽減とであつた。滿洲興業は鞍山、大連、奉天に於ける建物賃貸を業とする會社で、内容も堅實であり、配當も八分をつけて居たのであるから、この合併は決して當社の負擔となるものでない。

【貸付狀態】當社の土地建物擔保貸付は最近殖えてゐる。二月末残高は八百三十萬圓で、前期末に比し二十萬圓増だ。資金需要の多くなつた事と、當社の貸付利率引下のおかげである。幾分利益金も増すであらう。他方舊滿洲興業地に於ても土地建物擔保貸付を開始したが、この方はまだ一口も無い。

【貸家狀態】東京の建物賃貸も悪くないが、舊滿洲の鞍山に於ける貸家事業は著しく發展してゐる。鞍山の昭和製鋼所の旨を受けて貸家を新築し、これを代用住宅として貸付けてゐるからだ。建築中のものをなほ多數殖してゐるから今後にも期待出来る。

【業績豫想】合併後の資本金は公稱一千四百餘萬圓、拂込八百四十餘萬圓で、九分の配當所要資金は三十八萬圓弱である。これ位の負擔は勿論問題なく、九分配當は繼續される。

【設立】	明治二十九年八月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	土地建物賃貸、擔保貸付
【資本】	公稱 1,400,000 拂込 840,000
【株主】	第一新 100,000 第二新 100,000 第三新 100,000 第四新 100,000 第五新 100,000 第六新 100,000 第七新 100,000 第八新 100,000 第九新 100,000 第十新 100,000
【役員】	専務 大泉 啓 常務 石橋 光治 取締役 大橋新太郎 取締役 安田 和重 川崎 清男 安田 善五郎 監査 小山 傳男 大倉 榮馬 池田 眞格
【株主】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【大株主】	安田保全(八、〇〇〇) 東京大興(六、〇〇〇) 日本建設銀行(七、〇〇〇) 安田生命(六、〇〇〇) 大平火災(四、〇〇〇) 大橋本店(四、〇〇〇) 帝國海上火災(三、〇〇〇) 服部支店(三、〇〇〇) 定期貸付(五、〇〇〇) 定期貸付(五、〇〇〇) 所有土地(三、〇〇〇) 三、〇〇〇 所有建物(三、〇〇〇) 三、〇〇〇 金積(三、〇〇〇) 三、〇〇〇 金積(三、〇〇〇) 三、〇〇〇
【事業成績】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年新設貸付(一、〇〇〇) 一、〇〇〇 貸付返済(一、〇〇〇) 一、〇〇〇 利息収入(一、〇〇〇) 一、〇〇〇 貸家収入(一、〇〇〇) 一、〇〇〇
【資本異動】	十二年三月滿洲興業を合併

【資産負債】	十二年 六月 十一月 十二月
株主資本	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
外部負債	七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
固定資産	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
内營業用	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支動向】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【利益】	三月二十日調 七分一厘 三月二十日調 六分三厘
【名義書換】	十 十 十 十

### 復興建築助成株式會社

(本社) 東京市豊町區山下町東洋ビル内(電銀座三三七九)

【重役陣一新】當社は一月八日突如として、創立以來の社長沼田政二郎氏、副社長弓削幸太郎氏が辭任し、次いで今後の經營について種々の説が噂された。例へば八分配當保證が廢棄されるとか、東京横濱兩市の直營説だとか等々である。これが事實ならば當社株主の打撃は大きい。然しこれは浮説である。

【缺損額】當社の業績が振はない事は事實だ。債務者中、元金ばかりか利子さへ支拂はないものが甚だ多い。その堆積額は既に二百四十萬圓となつて居り、「未収入金」五十四萬圓と云ふ様を不良勘定が出来てゐる有様だ。

【新首腦部】とは云へ本社の將來を悲觀する必要はない。新首腦者は現役の勤銀秋田支店長から引抜かれた中山孝治氏であるが、氏は債務者、東京市、預金部の三方面に向つて極力打開を策してゐる。氏は債務者中のひどい者に對しては強硬手段を辭せぬ一方、預金部に對しては現在二十ヶ年期限の借入金を延期する様に懇願してゐる。若しこれが成立すれば債務者の元利金支拂は容易となり、従つて必らず殖えよう。又市に對しても諒解を求めてゐる。【配當】今期は堅實な決算をする結果、或は利益金急減するかも知れぬが、配當保證があるから八分配當繼續には問題ない。

【設立】	大正十四年十二月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	東京横濱兩市復興建築助成
【資本】	公稱 1,000,000 拂込 300,000
【株主】	公稱 1,000,000 拂込 300,000
【役員】	社長 杉浦 健一 取締役 大橋新太郎 監査 門野重九郎 井坂 孝 渡邊利二郎 中山 孝治 松本 蒸治
【株主】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【大株主】	大正銀行(二、〇〇〇) 三井合名(二、〇〇〇) 横濱火災(四、〇〇〇) 千代田生命(四、〇〇〇) 成蹊學園(四、〇〇〇) 山内昌一(一、〇〇〇) 第一生命(三、〇〇〇) 大倉組(二、〇〇〇)
【事業成績】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【貸付決定額】	八、〇〇〇 八、〇〇〇 貸付決定額 八、〇〇〇 八、〇〇〇 貸付返済 八、〇〇〇 八、〇〇〇 利息収入 八、〇〇〇 八、〇〇〇 貸家収入 八、〇〇〇 八、〇〇〇
【市借入金】	八、〇〇〇 八、〇〇〇
【配當保證】	東京横濱兩市により八分配當を保證する

【資産負債】	十二年 六月 十一月 十二月
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
固定資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支動向】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【利益】	三月二十日調 八分 三月二十日調 八分
【名義書換】	十 十 十 十

### 映畫事業

【**混亂の映畫界**】映畫界はいま混亂の眞中にある。新進東寶の挑戦に對して、松竹、日活、新興、大都等既設會社の應戰が、現下の波瀾の中心となつて居る。東寶は周知の如く映畫界に對しては全く新參であるが、昭和九年以來矢張りな劇場建設により、東京を初め六大都市にチェーン組織をほゞ確立し、東寶映畫配給會社も創立した。然し配給すべき邦畫がない、東寶そのものには撮影所もなければ俳優もゐない。現在チェーンに配給して居る邦畫はP・C・LとJ・Oであるが、その配給能力は松竹、日活に比すべくもない。況や全國的の配給網に至つては、既設會社の地盤に喰ひ込んで行かねばならないから、非常に骨も折れるし無理も生じて來る。

【**引抜き戦**】か様な状態にある東寶が、全プロ配當を決心するに至つたのであるから、既成スター及既成監督の目星しい處え目を付けて、その獲得に突進したのは當然だ。その結果、大河内傳次郎、岡譲二、高田稔、入江たか子等の大スターや山中貞雄、渡邊邦男等大監督の引拔

となり、新聞紙上を賑はしたことは周知の如くである。

【**四社協定**】この爲め、一番引抜きに難に遇つた日活が黙つて居る道理がない。まして日活は昨秋の日活事件後新重役によつて自力更生に日夜努力して居る時期だけに對抗意識も盛んだ。そこで松竹、新興、大都と詰つて四社協定が生れたのである。東寶映畫をボイコットする爲めだ。四月一日以降東寶映畫の上映を禁じ、もし東寶映畫を上映するならば四社映畫の配給を止めると云ふわけだ。これに對して全國の常設館が何う動くか、今後の大問題である。松竹の某幹部は日活の常設館が若干動搖する程度と見てゐるが、そうなれば今日まで順調に發展して來た東寶は、大きな難關に遭遇せねばなるまい。

【**前途悲觀無用**】兎に角、今後兩プロックの抗争は猛烈を極めるだらう。だからと言つて勿論映畫界の前途を悲觀するは早計で、斯うした整理を経過せねば更生しない業界ならば、抗争も亦大いに可なりだ。唯だ此の間如何なる會社が篩ひにかけられるかは、投資家にとつては大いに注意せねばならぬ點だらう。

### 松竹株式會社

(本社) 東京市京橋區新富町三(東京橋 四三一一)  
(支店) 大阪市南區難波新地四(電戎 一五六一三)

【**改稱**】去る一月末を以て松竹興行を合併し、社名を松竹と改めた。新會社の事業は邦畫製作配給及興行、洋畫興行、演劇演藝、歌劇等である。二社合併の目的は各方面の冗費を省き、企業の基礎を固め、刷新且積極的な經營を行ふにある。兩社分立の弊を改める譯だから、成績上大局的に悪からう筈はない。

【**配當**】然し當面、もとの松竹キネマ並みの八分配當をつけるには困難がある。本稿締切迄に去二月決算の數字は判らなかつたが、當局者の推算では百七十萬圓内外だらうといふ事だ。前期の兩社利益合計よりやゝ殖へるが、對拂込資本利益率一割二厘程度に過ぎないから、償却方面其他内容充實の立前からすれば八分維持は無理だ。先づ六分と見るが至當である。それに來る六月一日拂込を徴収するが、減配せねばその負擔増が問題になる。

【**拂込**】右拂込徴収額は新株一株に付七圓五十錢—總額百廿一萬八千七百五十圓で、借入金一部返済、經營館の改築及設備改善等に振向けられる豫定だ。今後劇場新築もあり尙相當資金が要る。

【**株價**】東寶系との競争激化のため、無暗に當社が不利と見るは當らない。株價は既に減配を織込んでゐるから、減配と決れば、七分内外の利廻は却つて買餘地を生ずるのである。

【設立】	大正九年十一月	【決算期】	二月、八月
【事業】	映畫製作及興行	【資本金】	公稱〓〓〓〓〓〓 拂込〓〓〓〓〓〓
【株數】	〓〓〓〓〓〓 (〓〓〓〓〓〓)	【重役】	社長 大谷竹太郎(副社長)
【役員】	白井信太郎(専務) 城戸四郎(井上伊三郎) 町田唯介(常務) 井上重正(三島良誠) 大谷博(取締) 山本吉太郎(大久保源之丞) 田中周(遠藤樂市) 高橋茂雄(岡清三郎) 渡多海藏(細谷尚偉) 免太郎(監査) 白井權七(田中貞二) 渡邊明(監査) 名川保市(相澤) 白井松太郎	【株主數】	十年下 八、七九六 十年上 九、〇六六
【大株主】	白井松太郎 九、〇六六 町田唯介 五、九三三 大谷竹太郎 五、三三三 高尾銀次郎 三、〇〇〇 裕傳一 次次 城戸四郎 一、九六九 重正 一、〇〇〇	【事業規模】	十年上 十年下 十年上 十年下
【同收入(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	【同支出(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【同利益(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	【同配當(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【資本變動】	十年七月七圓増資決定、業案館合併(四萬圓増資十月松竹興行合併) 〓〓〓〓〓〓千圓増資決定す。	【負債】	外部負債 一、〇〇〇 内部負債 一、〇〇〇
【名義書換】	十 〓〓〓〓〓〓	【名義書換】	十 〓〓〓〓〓〓

### 日本活動寫真株式會社

(本社) 東京市京橋區京橋三ノ一(電京橋 三三三)

【その後の日活】昨秋に於ける前事務堀氏の召喚後、當社は全く混亂の連続である、解散説すらも一部で唱へられた程だ。その後種々なる軋轢を経て兎に角新重役陣も下掲の如く定り、松竹の援助の下に自力更生に努めつゝはあるが、然しなほ當社の更生は伸目鼻が付かない。例へば昨年末にも今年初にも臨時總會を開催したが、何時も流會の止むなきに終つて居る。

【定期株主總會開催】去る三月三十一日、昨年七月末締切決算と本年一月末締切決算を兼ねた定期株主總會を開催したが、昨秋の事件當時押収された帳簿及書類等の返還がなかつた爲に、確定數字の計算が困難であると云ふ理由の下に、決算數字作製の日まで延會の件を出席株主に諮つたに止る。收穫と云へば、太秦發聲委任經營期間に於ける純利益金三十一萬一千圓の報告だけだ。

【再生は未だし】か様に、日活の更生は未だ遠い。これは昨秋の事件の打撃が非常に大きかつた爲であるが、いま一つ東賣の進出が當社の更生を遅らせて居ることも見逃せない。最近頻々と新聞紙上を賑はして居る東賣の俳優、監督の引抜き、または日活常設館の移行がそれだ。東賣としては最も引抜きよい立場に置かれて居る日活を狙ふのは當然だ。當社の前途は、尙ほ警戒を要しよう。

【設立】	大正元年九月
【決算期】	一月、七月
【事業】	映畫製作、興行
【資本金】	公稱 八〇〇〇
【株主数】	新 (高〇〇) 七〇〇〇
【役員】	(十二年一月調) 社長 藤田 佐吉、大谷竹太郎、田中重二、松方乙彦、小笠原花末、横田水之助
【株主数】	十年上 三、三〇〇、十年下 三、三〇〇
【大株主】	日本映畫協會 二、九〇〇、松方乙彦 九〇〇、近藤 武夫 一、〇〇〇、人見伊之助 一、〇〇〇、横田水之助 一、〇〇〇、米山 米吉 一、〇〇〇、直營興行収入 三、三〇〇、歩合興行収入 三、三〇〇、特約興行収入 三、三〇〇、臨時興行収入 三、三〇〇、買入製造寫真 一、〇〇〇、元金 一、〇〇〇
【資本異動】	十年十一月日本興業合併二〇〇萬圓増資、十一年七月一〇圓拂込徴収
【資産負債】	十年 七十年 十一年 十一年
株主資本	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【収支】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
収入	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
固定消却	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
消却率	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【株價】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
株價	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【利益】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
利益	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【名義書換】	二十錢 (新券交付) 五十錢

### 株式 東京寶塚劇場

(本社) 東京市豊島區有樂町一ノ二(電銀座 六六六) (事務所) 今右樂町二丁目一日本劇場内(電九ノ内 六六六)

【前期成績】去る一月末に締切つた下期決算の利益金は五十二萬四千圓で、利益率は二割三分五厘となつた。これを前期と比較すると金額に於て十五萬八千圓、率に於て六分九厘の各向上となる。これで一割配當に据置いたのであるから、先づ無難な決算だ。

【資産内容】かくて従来半期十萬圓に過ぎなかつた資産債却も、下期には二十三萬四千圓に増加された。これでも未だ充分とは云へないが、改善されたことは確かだ。然し資産構成はまだ均衡を得てゐない。即ち株主資本五百五十三萬圓に對して固定資産は一千一百三十九萬圓、また外部負債八百萬圓に對し流動資産は七十三萬圓に止つてゐる。特に借入金六百七十萬圓で拂込資本金四百八十五萬圓より多いことは注目される。

【擴張計畫】目下建設中の大阪梅田映畫劇場が今年中に完成する豫定だが、これで當社の第一期擴張計畫は一段落が付き、次いで第二期計畫に進む筈である。第二期計畫とは二番館の擴充工作であるが、本所に於ける江東樂天地設立の計畫がその現れた。従つて、第二期計畫完成後に眞に當社の發展が期待される。

【前途】一割配當は當分動くまい。將來は増資に進むものと観測される。案外その時期は早いかも知れぬ。

【設立】	昭和七年八月
【決算期】	七月、一月
【事業】	少女歌劇、映畫、芝居、寄席等
【資本金】	公稱 一〇〇〇、〇〇〇
【株主数】	新 (高〇〇) 一〇〇〇〇
【役員】	社長 小林 一三、取締役 吉岡重三郎、岸本兼太郎、松岡 潤吉、八馬 兼介、鈴木三郎助、石山 賢吉、吉田卯之助、今村 信吉
【株主数】	十年上 三、三〇〇、十年下 三、三〇〇
【大株主】	東横電氣 一〇〇、〇〇〇、小林合名 一〇〇、〇〇〇、大川合名 一〇〇、〇〇〇、岸本兼太郎 一〇〇、〇〇〇、大正生命 一〇〇、〇〇〇、吉岡重三郎 一〇〇、〇〇〇
【資本異動】	十年六月一七〇萬圓増資、十一年九月日本劇場を合併し、百萬圓増資、十一月東京映畫劇場を合併し、百萬圓増資
【資産負債】	十年 七十年 十一年 十一年
株主資本	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【収支】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
収入	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
固定消却	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
消却率	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【株價】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
株價	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【利益】	十年上 十一年上 十年下 十一年下
利益	一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇、一、〇〇〇
【名義書換】	二十錢 (新券交付) 五十錢

### 新興キネマ株式会社

(本社) 東京市京橋區八丁堀二ノ三(電報掛五七一四)

【新重役の方針】昨秋の日活事件後、當社はその餘波を受けて金融的に非常な困難を來し、爲めに重役の變更を行った譯だ。またこゝしばらくは警戒を要するが、少くとも新重役が眞面目に立直りに努力してをることだけは認めてよいと思ふ。新重役は、先づ最初出来るだけ経費の節約を行ひ、次いで積極的に収入の増大を計る方針である。昨年末から本年に掛けて斯界から注目された處の、阪妻プロ、高田プロ等プロダクションの解散を行つて來たのは新重役のつた、経費節約の一つの現れである。今後も経費節約は續けられよう。

【前期成績】本年一月末に締切つた決算には、未だ経費節約の效果は殆んど現れてない。利益金は一萬一千圓で前期と變らぬ。従つて勿論普通株は無配である。優先株には一割配當を保證して居る手前一割配當(六千四百圓)を付けたが、優先株の大部分を所有する大谷社長及其他重役は配當を辭退した。

【今期豫想】今期業績は少しはよからう。と言つても復配は望めない。それに下掲の如く多額の借金はあり、商品假拂金も多い。かく資産内容が悪いのだから、少しぐらい利益金が増加しても、社外に分配せず、内容の充實に努めることが肝要だ。

【設立】昭和六年九月【決算期】七、一月	【資本】昭和六年九月【決算期】七、一月
【事業】映畫製作、興行、小屋賃貸	【事業】映畫製作、興行、小屋賃貸
【株数】普通(500) 優先(500) 500	【株数】普通(500) 優先(500) 500
【役員】社長 白井信太郎 田中 周一	【役員】社長 白井信太郎 田中 周一
専務 宮川幸三郎 監査 堤友次郎	専務 宮川幸三郎 監査 堤友次郎
常務 吉村 百太 井上 重正	常務 吉村 百太 井上 重正
取締役 福井福三郎 小笠原花末	取締役 福井福三郎 小笠原花末
高橋 誠男 相談 白井松太郎	高橋 誠男 相談 白井松太郎
山崎 修一 大谷竹次郎	山崎 修一 大谷竹次郎
【株主数】十年下 十年上 十年下	【株主数】十年下 十年上 十年下
【大株主】	【大株主】
大谷竹次郎 五〇〇〇 白井松太郎 二、〇〇〇	大谷竹次郎 五〇〇〇 白井松太郎 二、〇〇〇
白井信太郎 一、〇〇〇 堤友次郎 一、〇〇〇	白井信太郎 一、〇〇〇 堤友次郎 一、〇〇〇
山崎 修一 一、〇〇〇 福井福三郎 一、〇〇〇	山崎 修一 一、〇〇〇 福井福三郎 一、〇〇〇
【事業成績】十年下 十年上 十年下	【事業成績】十年下 十年上 十年下
直営収入(千圓) 八七 八三三 六六	直営収入(千圓) 八七 八三三 六六
同収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇	同収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇
歩合収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇	歩合収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇
同収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇	同収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇
前配収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇	前配収入(千圓) 一〇〇 一〇〇 一〇〇
臨時興業(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	臨時興業(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【関係会社】松竹キネマの子会社	【関係会社】松竹キネマの子会社
【資本異動】十一年三月帝國キネマ演劇	【資本異動】十一年三月帝國キネマ演劇
を合併二五萬圓増資、四月二五〇萬圓	を合併二五萬圓増資、四月二五〇萬圓

【資産負債】	十一年	十一年	十一年
株主資本	一八三	一八三	一八三
外部負債	一〇〇	一〇〇	一〇〇
借入金	一〇〇	一〇〇	一〇〇
支拂手形	一〇〇	一〇〇	一〇〇
使用總資本	二八三	二八三	二八三
固定資産	一〇〇	一〇〇	一〇〇
流動資産	一八三	一八三	一八三
手持品	一〇〇	一〇〇	一〇〇
現金預金	八三	八三	八三
【收支確定】	十年下	十年上	十年下
収入	一〇〇	一〇〇	一〇〇
支出	一〇〇	一〇〇	一〇〇
固定前却	一〇〇	一〇〇	一〇〇
消却年率	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【業績】	十一年上	十一年下	十一年上
利益	一〇〇	一〇〇	一〇〇
配當	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【株主】(×印取締役は配當辭退)	高橋 誠男	高橋 誠男	高橋 誠男
山崎 修一	山崎 修一	山崎 修一	山崎 修一
福井福三郎	福井福三郎	福井福三郎	福井福三郎
白井松太郎	白井松太郎	白井松太郎	白井松太郎
【豫想配當】十一年七月期 優一割	三月二十日調 普無配		
【名義書換】十五號【新券交付】三十號			

### 百貨店業

【環境は一變す】百貨店界は近頃メッキリと明朗化して來た。種々なる壓迫材料が百貨店界を憂鬱に閉して居つたのは、まだつい最近のことであつた。例へば、百貨店への差別的賣上税の増課案、苛酷なる百貨店法案の提出、高率配當の抑制懸念等がそれである。それが環境一變となつて來た。

【賣上税の撤廢】勿論今日でも此等の悪材料が全部解消したわけではない。併し兎に角林内閣出現で問題の賣上税が先づ撤廢された。馬場案によると三越、松屋、白木屋の三社が負擔する賣上税だけで年四十五萬圓見當に上り、これは三社平均拂込資本に對しザット一分五厘に相當する筈であつた。處が此の賣上税が全然撤廢されたのだから、業界にとつては大きな好材料だ。

【百貨店法案も緩和】また貴族院を通過した百貨店法案は、衆議院で審議されて居る時に議會が解散されたので、これまた御流れとなつた。而も法案の内容を一瞥すると、前回提出された政民兩黨のものよりは非常に緩和されて

居る。何れ百貨店法案は再び議會の問題となり、通過する運命にあると考へるが、今回提出された程のものであれば、大して業界を壓迫しまいと思ふ。それに業者も大體に於て百貨店法案の制定を不可避と見て、既存營業所の改築及擴張並に新設等に手をつけつゝある。これは注目に値する。

【拂込・増資問題】たゞ百貨店の如き消費者階級と不可分の關係にある事業は、現在の社會情勢が續く限り、往年の如き高率配當の再現は許されない。自然從來増配を期待された一割配當の三越、松屋の如きはその望みが殆んど絶へたと見るべきだらう。だが、その代り拂込徴收、増資等の方法によつて株主に酬ゆることにならう。現に松屋が來る六月一日に拂込徴收することに決定したが、多分に株主の利益が考慮されて居る。

【賣上高は増加】以上の様に業界は大部春めいて來たが、何よりも業界を明朗にしてゐるのは、昨年末邊から賣上が非常に増加して來たことである。以下各社の検討によつても、此の間の事情が窺はれる。

株式三越

(本社) 東京市日本橋區室町一ノ七(電日本橋三三二五)

【前期】當社の去る二月末締切の下期決算は、利益金二百三十九萬二千圓に上り、前期に比し五十萬圓、前年同期に比較しても四十七萬圓の各増益となつて居る。従つて利益率も二割五分五厘になり、前期、前年同期に比し五分、五分三厘の各向上を示した。か様な好成绩で配當は一割に据置いたのであるから、決算は一段と餘裕を加へたこと勿論である。

Table with financial data for San'yō Co., Ltd. including sections for '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year), '資本金' (Capital), '株数' (Shares), '重役' (Officers), '事業成績' (Business Performance), and '資産負債' (Assets and Liabilities).

Table with financial data for San'yō Co., Ltd. including sections for '株主資本' (Shareholders' Equity), '外部負債' (External Liabilities), '使用総資本' (Total Capital Used), '流動資産' (Current Assets), '手持品' (Inventory), '現金預金' (Cash and Deposits), '収支勘定' (Income Statement), '固定資産' (Fixed Assets), '消却年率' (Depreciation Rate), '株價' (Share Price), '豫想配當' (Expected Dividend), '利息' (Interest), and '名義書換' (Nominal Exchange).

株式松屋呉服店

(本社) 東京市京橋區銀座三ノ一(電京橋三二二〇)

【前期成績】松屋の業績も、三越同様仲々よい。去る二月末に締切つた下期決算の利益金は七十六萬四千圓に上り、利益率は三割八分を示した。前年同期に比較すると、金額に於て二十萬七千圓率にして一割餘の各向上である。實に驚くべき好成绩だ。

Table with financial data for Rikuya Co., Ltd. including sections for '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year), '資本金' (Capital), '株数' (Shares), '重役' (Officers), '事業成績' (Business Performance), and '資産負債' (Assets and Liabilities).

Table with financial data for Rikuya Co., Ltd. including sections for '株主資本' (Shareholders' Equity), '外部負債' (External Liabilities), '使用総資本' (Total Capital Used), '流動資産' (Current Assets), '手持品' (Inventory), '現金預金' (Cash and Deposits), '収支勘定' (Income Statement), '固定資産' (Fixed Assets), '消却年率' (Depreciation Rate), '株價' (Share Price), '豫想配當' (Expected Dividend), '利息' (Interest), and '名義書換' (Nominal Exchange).

株式 大丸

(本社) 大阪市南區心齋橋筋二丁目一八(電南三)

【業績良好】 當社は昨十一年八月から、年二回決算一八月、二月に改めた。その八月末決算の利益金は七十五萬六千圓を數へ、對拂込資本利益率にして一割五分五厘を示してゐる。六分配當の据置きには、充分餘裕のある決算であつた。

【その理由】 成績は右の如く順調であるが、これは賣上高の増加と経費の節減に基いてゐる。即ち、この期の推定賣上高は二千四百九十六萬五千圓に達してゐるし、また商品回轉率を見ても、一四・三と前年度より一・五回轉の向上だ。而も一方経費が減少し、收支比率は前年度の八四・八から八三・四へ低下した。

【前途も順調】 去る二月末締切の決算は更によく、利益金八十九萬五千圓、利益率一割八分四厘と云ふ好成绩であつた。季節關係もあるが、而も御堂筋道路の完成、近く大阪本店の擴張等の好材料があり、前途は依然順調である。尤も他方御堂筋道路の受益者税や増税の影響があるが、業績の壓迫とはなるまい。

【拂込徴收】 此の四月一日に一株につき七圓半、合計二百二十五萬圓の拂込を徴收して、擴張工事に要した借入金返済した。今後はこれによる利拂込が、また業績に寄與してくる譯だ。

【設立】 大正九年四月

【決算期】 二月、八月

【事業】 百貨店

【資本金】 公稱 一、〇〇〇,〇〇〇

【株主数】 三、三三三

【役員】 社長 下村正太郎

常務 里見純吉 取締役 安田孝次郎

下村昇之助 小野雄作

石本晋彦 津村甚之助

取締役 森八 監査 市川文次郎

西村清太郎 市川吉太郎

竹村清太郎 間坂松太郎

【大株主】 十一年上 十一年下

下村正太郎 三〇〇,〇〇〇

下村昇之助 三〇〇,〇〇〇

市田 爲吉 三〇〇,〇〇〇

竹村清太郎 三〇〇,〇〇〇

里見純吉 三〇〇,〇〇〇

森八 三〇〇,〇〇〇

西村清太郎 三〇〇,〇〇〇

竹村清太郎 三〇〇,〇〇〇

【事業規模】 大阪本店 延坪數三、二六坪

京都支店 延坪數六、六六坪

神戸支店 延坪數六、四四坪

【事業成績】 十年度 十一年上 十一年下

推定賣上(千圓) 五、三三三 五、三三三

商品回轉率(回) 二・八 二・八

【投資會社】 大丸興業

【資本異動】 十二年四月七回五拂込徴收

【資産負債】 十一年 十一年上 十一年下

株主資本 三、三三三

外部負債 三、三三三

社債 三、三三三

借入金 三、三三三

使用總資本 三、三三三

固定資産 三、三三三

流動資産 三、三三三

現金預金 三、三三三

【收支勘定】 十年度 十一年上 十一年下

収入 三、三三三

支出 三、三三三

【業績】 十年度 十一年上 十一年下

利益 三、三三三

【株價】 高値 安値

【名義書換】 十 十 十

株式 高島屋

(本社) 京都市下京區丸太町下ル因幡堂町(電下三)

(支店) 京都市日本橋區通二ノ五(電日本橋二一〇)

【好成绩】 去る一月末締切の十一年下期決算に於ては、利益金は百一萬八千圓を算し、前年同期より十二萬三千圓を増加した。従つて對拂込資本利益率も二割八厘に向上し、配當は八分を据置いたが、それだけに決算には充分の餘裕を示した。

【賣上高】 かうした好成绩はいふまでもなく、賣上高が増加したからで、當社の推定賣上高は四千三十七萬六千圓と、前年同期より六百五十六萬五千圓を増大した。商品回轉率を見ても、前年同期より一・七回轉の向上だ。而も一方経費が節約され、收支比率は八五・九と、前年同期に比し〇・四の低下となつてゐる。

【拂込徴收】 去る四月一日一株につき十圓、合計百四十萬圓の拂込を徴收し、諸擴張工事資金の一部に充てた。即ち京都店の新築を始め、大阪南海店、東京支店等の擴張がそれだ。尤も後の二者は、夫々南海鐵道、日本生命が主として工事を進行、當社はこれを賃借するのだらう。當社としては工事資金を要するのは京都店の建築のみだが、この拂込金だけでは素より不足する。そこで一方借入金で賄ふとしても、遠からずまだ拂込が徴收されよう。

【前途順調】 これらの新築擴張が完成するまでは、配當負擔乃至借金負擔が加はるが、しかし前途の好材料たることを失はぬ。

【設立】 大正八年八月

【決算期】 一月、七月

【事業】 百貨店

【資本金】 公稱 一、〇〇〇,〇〇〇

【株主数】 三、三三三

【役員】 社長 飯田新七

取締役 橋爪源吾 小澤直太郎

村松善次郎 川勝 肇一

林田裕太郎 片岡 鐵雄

飯田新太郎 竹田 景之助

原 邦彦 成瀬 達

【大株主】 十一年上 十一年下

飯田直太郎 飯田 新七 三〇〇,〇〇〇

飯田政之助 飯田 新七 三〇〇,〇〇〇

飯田 虎雄 飯田 三九六 三〇〇,〇〇〇

平松 莊一 當社共愛會 三〇〇,〇〇〇

【事業規模】 本店 京都市丸太町

支店 京都市丸太町、大阪長堀橋

出張所 六ヶ所

【事業成績】 十一年上 十一年下

推定賣上(千圓) 五、三三三 五、三三三

商品回轉率(回) 二・八 二・八

【資本異動】 十一年五月七回五拂込徴收

十二年四月三回拂込徴收

【資産負債】 十一年 十一年上 十一年下

株主資本 三、三三三

外部負債 三、三三三

社債 三、三三三

借入金 三、三三三

使用總資本 三、三三三

固定資産 三、三三三

流動資産 三、三三三

現金預金 三、三三三

【收支勘定】 十年度 十一年上 十一年下

収入 三、三三三

支出 三、三三三

【業績】 十年度 十一年上 十一年下

利益 三、三三三

【株價】 高値 安値

【名義書換】 十 十 十

### 株式 白木屋

(本社) 東京市日本橋區通一丁目(電日本橋 三三一〇)

【一分減配】當社は一月末決算に於て一分減配を断行した。今回の減配は一般の予想を裏書きしたものであるが、具體的理由は店員待遇の改善と増税、百貨店法に備へ内容に弾力性をつけるためで、下期賣上が減少したとか營業成績が不振に陥つた譯ではない。

【店舗擴張】當社は右の如く減配して將來に備へると共に、當社の賣庫である分店の擴張を實施中である。既に五反田分店は昨年十二月に完成したが、五月には大塚分店が竣工し、來期には大森と錦糸堀の兩分店の増設が竣工する予定である。従つて今來期にかけては之等改築中の各分店が交代に一部休業するが、その間本建築の竣工した分店が働くので、全體の成績には關係ない。

【今期業績】今期はまだ本建築完成の威力は十分に發揮出來ず、利益も五十二三萬圓に止まるであらうが、一分減配によつて配當負擔は半期四萬五千圓減少するから、假に此の程度の利益に止まつても充分増税の負擔に堪へて行ける。勿論六分配當は維持。

【來期豫想】來期以後は分店の本建築が完成するので、増税負擔を控除しても利益金は六十萬圓前後に達し、利益率は一割三分程度に上るものと思はれる。増配はむしろんやれぬが、六分配當は漸次安定性を加へて來るだらう。

【設立】	大正八年二月
【決算期】	一月、七月
【事業】	百貨店
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000 旧 10,000
【役員】	社長 大村彦太郎 取締役 梅田建太郎 本務 山田 忍三 西野新太郎 大橋新太郎 監査 鏡山 忠男 片岡 隆起 澤田文之助
【株主数】	十一年上 十一年下 總數(名) 4,333 4,157
【大株主】	仁壽生命 野村生命 野村生命 大日本 大日本 山田 忍三 大村彦太郎 加藤 正治 第一生命
【事業規模】	本店建物 地上九階、地下二階 總坪數 一萬坪 分店及賣店所在地 錦糸堀 丸ビル 大塚 神樂坂 麻布 新宿 五反田 大森
【事業成績】	推定賣上 十一年上 十一年下 商品回轉率 十一年上 十一年下
【資本異動】	十一年七月四、五〇〇千圓減資し優先株の特權を削除十一年六月五日開拂込徴收。

【資産負債】	十一年 十一年
株主資本	八、七〇〇 八、七〇〇
外部負債	七、八〇〇 七、八〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	十一年上 十一年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【豫想配當】	十一年七月期 六分
【名義書換】	十 十

### 東亞煙草株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内(丸ビル内)(電丸ノ内 三三二)

【最近決算】十一年下期は滿支農村の恢復が未だ充分でなかつたので、販賣高は減少し従つて利益金も上期より十四萬圓減の九十一萬圓であつた。然し素々業績の素晴らしくよい當社の事として、利益率はなほ二割三分の高率であつた。但し配當はいつも云ふ通り主務官廳の監督が厳しいため、一割配當を繼續し、三十週年紀念配當も名許りの二分に止どめた。

【發展業績】當社は不況時代の經營合理化が物を云つて、今日英米トラストを壓倒しつゝある。北支進出は着々進み秦皇島工場は敷地を買収し近く工事に取掛る。滿洲國市場に於ても特産物輸出の恢復で、農村が立直つて來たから、販賣高の増加が豫想される。従つて今期の利益金が百萬圓突破は確實だ。

【増資問題等】右の如く業績良好だが、一方滿洲國の監視、他方大蔵省の監督が嚴重であるため、増配は困難である。又秦皇島の工場建設に百萬圓、竣工後の運轉資金に同額近くを要しても、遊金約三百萬圓を擁してゐるから拂込徴收、増資の楽しみも遠い。斯う見て來ると株主は誠につまらぬ。殊に煙草製造業には滿洲國が專賣にするため買収する場合も考へねばならぬから、資産及業績の良好を手放しに樂觀する事は常に危険である。

【設立】	明治三十九年十月
【決算期】	四月、十月
【事業】	煙草、藥卷煙草
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新 10,000 旧 10,000
【役員】	社長 金光 庸夫 取締役 川村 桃吾 本務 金光 晴文 監査 井上 健一 常務 松尾 晴見 監査 山本前太郎 岩波藏三郎
【株主数】	十一年上 十一年下 總數(名) 1,233 1,233
【大株主】	大正生命 七、〇〇〇 日本教育 五、〇〇〇 田村周藏 五、〇〇〇 小林 良好 三、〇〇〇 太陽生命 四、〇〇〇 森田 一郎 三、〇〇〇 岩波藏三郎 三、〇〇〇 新井 茂 三、〇〇〇 小松 茂 三、〇〇〇 直樹 三、〇〇〇 青木 喬 三、〇〇〇 長谷尾平助 三、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 大連、奉天 管口 天津
【販賣高】	六年度 九年度 十年度 紙巻煙草(百萬本) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 十一年(百萬本) 四、二〇〇 四、二〇〇 四、二〇〇
【資本異動】	十一年九月十五開拂込徴收

【資産負債】	十一年 十一年
株主資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	十一年上 十一年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【豫想配當】	十一年四月期 一割
【名義書換】	十 十

### 滿洲煙草株式會社

(本社) 滿洲國新京特別市臨河街二、一〇一號 (電話) 四六一六  
(出張所) 東京市麹町區丸の内九ビル内 (電九ノ内五〇五)

【今期成績豫想】 當社の事業代行會社滿洲煙草股份有限公司の製品は、舊曆廿日から愈々市場に賣出された。併し大した成績はまだ期待出来ぬ模様である。代行會社の決算期は四月であり、當社の決算期は五月であるから、まだ的確な數字は判らぬが、大體收支一杯と見てをいて大過あるまい。むしろ配當はつけられぬ。

【操業過渡期】 と云ふのは、操業早々の爲め、能力(年産十五億本)一杯の生産は不可能である上、失費が多いからだ。殊に煙草の種類が現在五つに過ぎず、賣出しに際し不便が少くないし、名前を賣り込む必要も宣傳費も嵩んで来る。宣傳の爲めに、採算の合はぬ遠隔の地にも製品を出してある模様である。此の種失費は總て収益を生む根源となるものだから心配はないが、當面業績の抑へられることは仕方があるまい。

【配當期】 そこで何時になると、初配當がつけられるかだが、まづ早く今年下期と見るべきだらう。その程度は五分位か。

【擴張・拂込】 代行會社は現新京工場のほか、新にハルビンに同規模の工場を建設する豫定で準備を進めてゐる。同工場完成期は明年夏の見込みだが、それまでに右建設資金(百萬圓)や流動資金を補填する爲め、一株につき七圓半位の未拂込を徴収する見込。

【設立】 昭和九年十二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 煙草栽培製造

【資本金】 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇

【株主数】 公稱 三、〇〇〇

【重役】 社長 長谷川大郎吉

専務 中島三代彦 取締役 板谷 幸吉

取締役 窪田 四郎 取締役 板谷 幸吉

増田 大郎 監査 田畑 繁雄

古田 廣三 長谷川島之助

【株主数】 十年下 十年上 十年下

【大株主】 長谷川大郎吉 三、〇〇〇、〇〇〇

岩崎恒二郎 九、〇〇〇、〇〇〇

古田 慶三 三、〇〇〇、〇〇〇

黒川商店 八、〇〇〇、〇〇〇

坂梨 哲 三、〇〇〇、〇〇〇

【事業規模】 工場所在地 滿洲國新京特別市

工場建設(完成) 九、〇〇〇、〇〇〇

【生産能力】 新京工場 五億本に計畫中

哈爾濱工場 五億本に計畫中

【資本系統】 事業代行會社 滿洲煙草股份有限公司

大川系

【資産負債】 十一年 五十二年 十一年

株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 三、〇〇〇、〇〇〇

支拂手形 三、〇〇〇、〇〇〇

使用總資本 三、〇〇〇、〇〇〇

固定資産 三、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 三、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 三、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】 十年下 十年上 十年下

收入 三、〇〇〇、〇〇〇

支出 三、〇〇〇、〇〇〇

【業績】 十年上 十年下

【株價】 (實物) 高値 安値

【豫想配當】 十二年五月期無配

【利息】 三月二十日調

時價 二六八 利息 一

【名義書換】 十餘 【新券交付】 三十餘

### 東洋拓殖株式會社

(本社) 東京市麹町區内山下町一ノ二東拓ビル(電話) 五六一五

【配當據置】 十一年下期の成績は上期より八十三萬圓の減益で、期待外れの四分配當據置に終つた。然し利益率は一割一分八厘に當るから勿論五分配當は可能であつた。減益はしたが、政府納付金解消で社内保留は却つて上期より多く、五割三分に達した。減益の理由は收穫減と證券臨時益の減少とである。然し之等は配當據置の主因ではなく、根因は監督官廳の消極的態度であつた。

【多角經營】 収益源は農業、金融の二事業であるが、大體農業依存主義である。そのため農業の成績如何で、業績が左右され勝ちであつた。そこで之を改め、經營を多角化し、収益の安定を期することゝなつた。朝鮮江界水力電氣の設立、天津祐大紡、寶成紡及北支の長城煤礦公司等の買収がそれだ。直ちに収益は期待出来ぬが、總て業績に寄與するところ少くないであらう。

【配當可能】 所有株式は四千四百萬圓に上るが、増配會社の出現で證券収入は増加する一方、農業収入も概は減收したが、米價が高いから今期は少くも前年同期並みの成績は期待出来る。金融事業も資金コストの低下で之亦収益は増すであらう。従つて突發事情のない限り、今期は五分配當實現の可能性が多く、監督官廳も認容するものと見られる。株價も大體既に之を見越してゐる。

【設立】 明治四十二年十二月

【決算期】 六月、十二月

【事業】 拓殖資金貸付、農業植民經營

【資本金】 公稱 五、〇〇〇、〇〇〇

【株主数】 公稱 五、〇〇〇

【重役】 社長 安川雄之助

専務 渡邊 勲 取締役 福本元之助

取締役 佐方文次郎 監査 石橋 廣

【大株主】 大藏大臣 三、〇〇〇、〇〇〇

秋本 英吾 三、〇〇〇、〇〇〇

【事業成績】 十年下 十年上 十年下

【事業規模】 工場所在地 滿洲國新京特別市

工場建設(完成) 九、〇〇〇、〇〇〇

【生産能力】 新京工場 五億本に計畫中

哈爾濱工場 五億本に計畫中

【資本系統】 事業代行會社 東洋拓殖股份有限公司

大川系

【資産負債】 十一年 五十二年 十一年

株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 三、〇〇〇、〇〇〇

支拂手形 三、〇〇〇、〇〇〇

使用總資本 三、〇〇〇、〇〇〇

固定資産 三、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 三、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 三、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】 十年下 十年上 十年下

收入 三、〇〇〇、〇〇〇

支出 三、〇〇〇、〇〇〇

【業績】 十年上 十年下

【株價】 (實物) 高値 安値

【豫想配當】 十二年六月期 五分

【利息】 三月二十日調

時價 新元 利息 四分六厘

【名義書換】 五餘 【新券交付】 二十餘



### 朝鮮興業株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内一ノ二番國生命ビル(電九ノ内 二六八一)

【稅率影響】結城修正案による當社稅負擔増加額は、概算六萬圓利益率一分見當である。馬場案に對し四五萬圓減と推定されるが、何れにせよ、業績良好の當社にとつては大した影響ない。

【今期成績】この三月に締切られた決算はまだ詳細は判らぬが、勿論前期より悪い。何しろ當社は朝鮮の大地主會社で、米の作柄と米價が業績支配の最大原因だからだ。その米作は前輯に於いて朝鮮全體を通じて對前年七分七厘減と報じておいたが、その後情勢變化で當社の收納小作料は一割五分見當減と推定される。

【米安の影響】一方米價は期初以來概して昂騰したが、初秋來内地の豐作人氣で反つて崩落した。當社が何時賣つたか幾分相違も生ずるが、然しどうせ前年以上に高く賣つたとは思へない。すると以上の理由から當社の今期利益金は、對前年二割減見當の六十六萬圓弱みと信じられる。利益率は二割二分だ。

【配當豫想】當社は土地會社で償却が要らぬから、一割五分配當を續けて續けられぬ事は無い。然し高率地主會社と云ふ印象を除くため、この機會に一割三分に減配するかも知れぬ。若しさうゆう事態になれば、早晚増資があるものと考へて差支へないであらう。

### 日魯漁業株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内九ビル内(電九ノ内 二五六一)

【漁區とクレーム】對ソ漁業條約は昨年末改訂を豫想されたが種種の國際關係から延期された。然し當社としてはそれによつて惡影響を蒙らず既に競賣漁區廿六ヶ所を競落し、從來通りの出漁に決まつてをる。競賣漁區では四ヶ所減つたが總漁場数は三百七十六漁場と昨年度に比し十六漁場を増加してゐる。又前年來懸案の英商側のクレーム要求も凡そ百萬圓見當で解決した。従つて前期計上クレーム引當金二百萬圓の半が今期を潤すことゝなつた。

【現物販賣】然し今年度品の先約交渉は未調だ。それは當社側が諸材料の一齊昂騰を理由に賣値引上げを要求するに對して、英國側が總詰市況の不牙を理由として拒否的態度をとつてゐるからだ。だからこの世界的商品高はいずれは市況の好轉を來すとの見解から當社は現物賣主義に轉換した。先行堅調豫想故成功しやう。

【成績順調】今期成績は前述のクレーム引當金の減少益もあり、持越品も順調に捌けてゐるので、裕りある決算が出来やう。然し、一面には諸材料高の折柄前期同様の利益計上に止めやう。還境は内外市場とも良好で、この故に下期に多大の期待が懸けられる。【一割配當安固】當社の一割配當は固い。餘程の豐漁でない限り増配の望はないが、併し一割配當の永續に些の不安もない。

【設立】	明治三十七年九月
【決算期】	三月(年一回)
【事業】	農業經營及移出牛 檢疫期間中飼養管理
【資本金】	資本金 50,000 準備金 20,000
【役員】	會長 大橋新太郎 常務 島原鐵三 監査 西村道彦 取締役 尾高豊作 相談 佐々木幸三 尾高豊作 相談 佐々木幸三
【株主數】	九百三十三名
【大株主】	尾高合名六、三〇〇 大橋本店五、〇〇〇 尾高同族三、〇〇〇 第一相五、〇〇〇 仁壽生命二、〇〇〇 渡邊精産二、〇〇〇 追問房太郎一、〇〇〇 早川徳利一、〇〇〇 事業規模 八年度 九年度 十年度 農業部 田畑面積(町) 水田 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 畑地 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 計(町) 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇 小作料收納高 大豆(町) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 小麦(町) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 實積(町) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 畜産部(町) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 移出頭數 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 【資本異動】 十年五月二〇日開拂込徴収 資本金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 準備金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【資産負債】	三月三十一日
株主資本	50,000
外部負債	10,000
使用總資本	60,000
流動資産	50,000
固定資産	10,000
現金預金	50,000
【收支動向】	八年度 九年度 十年度
収入	100,000 100,000 100,000
支出	80,000 80,000 80,000
利益	20,000 20,000 20,000
【業績】	八年度 九年度 十年度
売上高	100,000 100,000 100,000
利益	20,000 20,000 20,000
【豫想配當】	十二年三月期一割三分
【名義書換】	五錢 【新券交付】二十錢

【設立】	大正三年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	漁獲、鹽漬、魚、冷凍品
【資本金】	資本金 100,000 準備金 50,000
【役員】	社長 窪田 四郎 専務 平塚次郎 取締役 窪田 四郎 常務 松田 高 取締役 大澤 孫四郎 取締役 柳田 秀雄 近江政太郎 金子喜代太 井出 智 山下 太郎 本川藤三郎 外山 源吉 米津喜九郎 有賀 徳夫 堀 朝雄
【株主數】	十一年上 十一年下 十二年下
【大株主】	東洋拓殖五〇〇 東林代行五〇〇 三菱商事二〇〇 山二株式二〇〇 三菱代行一〇〇 名古屋株取一〇〇 中島 伊平一〇〇 山崎株取一〇〇 入丸商店 九〇 泰平興業八〇 事業成績 本年度 前年度 漁獲高(千尾) 二〇、〇〇〇 一七、〇〇〇 鹽漬(千尾) 一〇、〇〇〇 八、〇〇〇 魚(千尾) 一〇、〇〇〇 八、〇〇〇 冷凍(千尾) 一〇、〇〇〇 八、〇〇〇 【投資會社】 太平洋漁業 其他

【資産負債】	十一月三十一日
株主資本	150,000
外部負債	50,000
使用總資本	200,000
流動資産	150,000
固定資産	50,000
現金預金	150,000
【收支動向】	十一年上 十一年下 十二年上
収入	200,000 200,000 200,000
支出	150,000 150,000 150,000
利益	50,000 50,000 50,000
【業績】	十一年上 十一年下 十二年上
売上高	200,000 200,000 200,000
利益	50,000 50,000 50,000
【豫想配當】	十二年五月期一割
【名義書換】	十錢 【新券交付】五十錢

### 日本水産株式会社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内二丁目二ノ一(電九ノ内三三七一)

【世界屈指の規模】當社は昨年九月、日本合同工船、日本捕鯨を合併し、更に日本食料工業、日本水産を買収して其の直接統制下に置いて、資本金九千一百五十萬圓、内拂込五千五百五十萬圓の會社となつた。合併前の各社の主要事業は舊共同漁業はトロール漁業及び機船底曳網漁業、日本捕鯨は近海捕鯨及び母船式鯨漁業、日本食料工業は製氷、冷蔵、冷凍、其他水産物の加工業、日本水産は漁獲物並に其の加工品の販賣等であつた。しかも、各分野に於て各々最大の實力を有するものであつた。斯うして、當社は漁撈、水産工業、水産物の販賣業を其の傘下に擁した漁業關係の一大綜合企業を形成するに至り、名實ともに我國最大―世界屈指―の水産會社となつた。尙舊社名共同漁業は、日本水産と改稱。

【下期の業績】去る一月末に締切つた昨下期の業績は、利益金九百二十四萬圓、對平均拂込資本利益率三割九分七厘であつた。此の中には新株賣却に依るプレミアム益四百七十六萬圓があるが、之を差引いても利益率は一割九分三厘に達する。

【業績は躍進する】各事業部門は何れも好況を續けて居るし、合併に依る眞價は寧ろ今後こそ期待出来るものだ。現行一割二分配當は搖ぎ相も無い。

【設立】	昭和十二年一月、七月	【決算期】	六月、十二月
【事業】	魚業、水産工業、水産物販賣業	【資本】	公稱 九,000,000 拂込 5,550,000
【株主】	新(三三) 九,000,000 舊(五〇) 八,000,000	【役員】	社長 鮎川義介(社長) 田村啓三(専務) 國司浩助 植木憲吉(常務) 田村啓三 岩本千代馬 桑田透一 濱谷辰西村有作 木村成松 安部小治郎 竹崎正五 隈井重男 増井進 林幸二 林源太郎 松田繁天 前橋壽一 今井直城 (監査) 増井六郎 鷺池平九郎 山田敬亮
【大株主】	日本水産 三,八〇〇,〇〇〇 東洋水産 三,〇〇〇,〇〇〇 合同土地 一,〇〇〇,〇〇〇 大株代 行 〇,〇〇〇,〇〇〇 田村合名 〇,〇〇〇,〇〇〇 大阪商事 一,〇〇〇,〇〇〇 仁壽生命 三,〇〇〇,〇〇〇	【事業規模】	トロール船 六隻 底曳網機船 七隻 捕鯨船 八隻 汽船 四隻 其他 四隻 捕鯨部(〇) 一隻 常期上置(千石) 一,〇〇〇 船隻部(〇) 一,〇〇〇 投資會社(日東漁業、日之用漁業、日滿漁業、ホルネオ水産、新興水産、其他)
【資本異動】	十一年六月日本合同工船、日本捕鯨を合併、十二年四月社名變更	【株主名簿】	十一年六月日本合同工船、日本捕鯨を合併、十二年四月社名變更
【資産負債】	十二年度 株主資本 一〇,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 一〇,〇〇〇,〇〇〇 社債 一〇,〇〇〇,〇〇〇 借入金 一〇,〇〇〇,〇〇〇 支拂手形 一〇,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 一〇,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 一〇,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 一〇,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇,〇〇〇,〇〇〇	【業績】	十二年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十一年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 九年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 八年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【名義書換】	五錢	【新株交付】	十錢

### 大日本鹽業株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内二ノ六(電九ノ内三三三〇)

【前期】十一年下期の利益(償却金控除後)は廿八萬五千圓で、期末の十二月に増資第一回拂込(百萬圓)の一部負擔にも拘はらず、利益率は一割八分七厘を示した。配當は八分を据置いた。拂込金は一部を借金の返済に當てたが、残額は當社の出資會社滿洲鹽業の第二回拂込金に振向ける豫定である。

【營業】近來工業鹽の需要は年々増加の傾向にある。當社の鹽販賣高の過半は工業用鹽だから、成績も従つて向上する筋合にある。而して當社は昨年より積極的に鹽田の開発に着手してをるが、昨年末の鹽田は六百萬餘町歩に達した。前記増資(倍額の八百萬圓となつた)の目的も、その必要資金を賄ふにあるから、遠からず第二回拂込が追徴されるであらう。

【内容】資産内容は下掲表の如く充實してゐる。たゞ償却金を明示せぬため、固定資産の償却年限等は判らないが、計上利益外に相當含みを持たせてある模様だから、非難するに當るまい。

【成績】滿洲鹽業に對する拂込は、同社の配當開始迄遊びになるが、自社成績向上でその負擔に問題ない。配當は八分を維持する方針の様で、増配は對官廳關係からも期待薄だ。然し増配に代るに拂込追徴を以てしよう。新株利廻の特に低い所以である。

【設立】	明治三十六年九月	【決算期】	六月、十二月
【事業】	鹽田經營、鹽業、非外鹽輸移入	【資本】	公稱 八,000,000 拂込 8,000,000
【株主】	新(五〇) 八,000,000 舊(三三) 〇,000,000	【役員】	社長 一宮 銀生 支那人 山下 博藏 常務 芝 喜代二 常任 岩井 俊藏 取締役 住田 正一 監査 三輪 喜兵衛 柳 悅耳 室谷 藤七 總務 十一年上 十二年上 十二年下 大株主 〇,〇〇〇,〇〇〇
【大株主】	正金東京支店 〇,〇〇〇,〇〇〇 大日本製糖 一,〇〇〇,〇〇〇 中村合名 〇,〇〇〇,〇〇〇 一宮銀行 〇,〇〇〇,〇〇〇 高橋 庄松 〇,〇〇〇,〇〇〇 加藤 左衛門 〇,〇〇〇,〇〇〇 井上 周 〇,〇〇〇,〇〇〇 雙島(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇 鹽田總面積(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇 雙子高(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇 普蘭店(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇	【事業規模】	鹽田總面積(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇 雙子高(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇 普蘭店(町) 〇,〇〇〇,〇〇〇
【事業成績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下	【事業】	鹽田經營、鹽業、非外鹽輸移入
【株主名簿】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下	【業績】	十二年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十一年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 九年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇 八年度 利益 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【名義書換】	五錢	【新株交付】	十錢

# 秋田木材株式會社

(本社) 秋田縣山本郡能代町(電、三)  
(事務所) 東京市京橋區銀座三丁目(電、三)

【減配の原因】當社は昨年十一月末締切の十一年度決算に於て二分減配を行った。昨年度利益金は五十七萬五千圓で、前年に對し三萬八千圓、前々年に對し四十六萬七千圓の減益となり、利益率は一割三厘に低下した。尤も此の程度の減益なら、八分配當は据置き得たであらうが、當局者は堅實決算方針に出で増配に備へて二分配當所要金に匹敵する税金引當金十萬圓を社内に保留したのである。減配の原因は、直接的には北洋材及び内地材製品の採算悪化の爲めである。

【今後】問題は今後の業績如何に在るが、當社の主業たる北洋材は舊態來暴騰して、昨今では昨年の平均市價に比し、百石當り二百圓増の九百五、六十圓を示してゐる。他面、海運々賃の急騰があるから、飛躍的増収は望めまい。だが秋田杉も昨年から見ると、一枚當り六錢近く騰貴して居り、副業たる機械工作業は依然好調の様だから、今年度の収益は相當増加する見込みである。

【秋田鋼業所操業】今度秋田市に新設した秋田鋼業所は、愈々來る五月頃から操業の豫定だ。製品は純鐵と之を原料とする特殊鋼であるが、何れも軍部方面に販賣されるのだから、事業に確實性がある。今後の業績に寄與するに違ひない。

【設立】	明治四十年三月
【決算期】	十一月(年一回)
【事業】	製材、積材、電燈電力供給、運輸業、製材機械製作販賣
【資本金】	資本金 八、〇〇〇圓 新(色)〇〇〇圓 公積金 八、〇〇〇圓
【役員】	社長 相澤治一郎 常務 大岩 輝 取締役 大倉喜七郎、相澤長四郎、井坂健男、相澤長九郎
【株主】	大倉組 二、〇〇〇股 相澤治一郎 一、〇〇〇股 津兵衛 吉三 一、〇〇〇股 菊池 啓吉 一、〇〇〇股 平川孫兵衛 一、〇〇〇股 井坂榮學會 一、〇〇〇股
【事業規模】	製材所所在地：能代、鶴見、青森、津別、函館、札幌、旭川、網走、釧路、帯広、旭川、網走、釧路、帯広、旭川、網走、釧路、帯広
【事業成績】	九年度 十年度 十一年度 製材生産(千石) 九、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 電燈電力(千kw) 八、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 供給電力(千kw) 八、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 營業收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 【投資會社】 北秋木材、豆満江林業、日本プライウッド、船川電氣、山形製材、日本工作機械等

【資産負債】	十九年 二十年 二十一年
株主資本	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
外部負債	四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇
借入金	四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一三、〇〇〇 一三、〇〇〇 一三、〇〇〇
固定資産	一三、〇〇〇 一三、〇〇〇 一三、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支動向】	九年度 十年度 十一年度
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	九年度 十年度 十一年度
利益	五十七萬五千圓 五十七萬五千圓 五十七萬五千圓
【名義書換】	十 十 十

# 新 設 會 社 調 査

<p><b>高麗化學工業株式會社</b> 〔資本金〕 一〇、〇〇〇千圓(四分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年八月 〔事務所〕 東京市王子區豊島町二二八〇 〔事業〕 肥料、染料、有機合成薬品 〔役員〕 取締役 高橋 三郎、取締役 伊藤 三郎、取締役 林 茂清、取締役 山本 隆一、取締役 山崎 隆一、取締役 山崎 隆一、取締役 山崎 隆一</p>	<p><b>小倉化學工業株式會社</b> 〔資本金〕 五、〇〇〇千圓 〔設立〕 昭和十一年九月 〔事務所〕 小倉市板橋二八二五ノ三 〔事業〕 純鐵、不銹鋼製造、水素製造 〔役員〕 取締役 赤澤俊太郎、取締役 竹本 隆一、取締役 芳岡 善一、監査 三木 隆一</p>	<p><b>東洋製紙工業株式會社</b> 〔資本金〕 一、〇〇〇千圓(二分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年九月 〔事務所〕 神戸市神戸區港邊五 〔事業〕 各種紙類製造販賣</p>	<p><b>日本鐵道結核株式會社</b> 〔資本金〕 二、〇〇〇千圓(四分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 東京市神田區丸の内二ノ二 〔事業〕 結核菌の培養、結核菌の殺菌、結核菌の検出、結核菌のワクチンの製造、結核菌のワクチンの販賣</p>	<p><b>相浦炭礦株式會社</b> 〔資本金〕 二、〇〇〇千圓 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 東京市神田區丸の内二ノ二 〔事業〕 石炭採掘、石炭の運搬、石炭の販賣</p>	<p><b>愛知化學工業株式會社</b> 〔資本金〕 一、〇〇〇千圓(二分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 名古屋市中區千代田一五 〔事業〕 各種有機合成薬品、染料、肥料の製造、各種有機合成薬品、染料、肥料の販賣</p>
<p><b>東北復興電力株式會社</b> 〔資本金〕 三、〇〇〇千圓(四分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 仙台市青葉區二ノ八 〔事業〕 電力の供給、電力の販賣</p>	<p><b>神奈川航空工業株式會社</b> 〔資本金〕 一、〇〇〇千圓 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 東京市大森區大森二ノ一八三 〔事業〕 航空機具材料製造、販賣、出資</p>	<p><b>愛知重工業株式會社</b> 〔資本金〕 五、〇〇〇千圓(四分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 名古屋市中區千代田一五 〔事業〕 各種機械製造、各種機械の販賣</p>	<p><b>上西製紙株式會社</b> 〔資本金〕 一、〇〇〇千圓(二分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 大阪市西區川島野里町七〇 〔事業〕 各種紙類製造、各種紙類の販賣</p>	<p><b>愛知重工業株式會社</b> 〔資本金〕 一、〇〇〇千圓(二分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 名古屋市中區千代田一五 〔事業〕 各種機械製造、各種機械の販賣</p>	<p><b>愛知重工業株式會社</b> 〔資本金〕 一、〇〇〇千圓(二分の一拂込) 〔設立〕 昭和十一年十月 〔事務所〕 名古屋市中區千代田一五 〔事業〕 各種機械製造、各種機械の販賣</p>

会社名	拂込日	拂込金額	拂込単位	種類	抽	要
不二越鋼材工業	---	1,000	100	増資	新、第二回	---
東京化学工業	---	1,000	100	増資	新、第二回	---
日本電機工業	---	1,000	100	増資	新、第二回	---
...	...	...	...	...	...	...

<p><b>日本ニッケル株式会社</b></p> <p>東京市日本橋區本町三ノ七ノ三 昭和十一年十一月 取締 杉本好太郎 監査 高野春良男 五、〇〇〇千圓(四分ノ一拂込)</p>	<p><b>日本炭油工業株式会社</b></p> <p>東京市京橋區銀座六ノ四ノ一 昭和十一年十一月 取締 丹野秀成 取締 左近藤四郎 一、七五〇千圓</p>	<p><b>北支電力興業株式会社</b></p> <p>東京市丸の内ノ八ノ一 昭和十一年十二月 取締 小杉三三 取締 内藤 隆 五、〇〇〇千圓(四分ノ一拂込)</p>	<p><b>新設炭礦株式会社</b></p> <p>東京市京橋區銀座四六ノ六 昭和十二年一月 取締 中山 真史 三、〇〇〇千圓</p>	<p><b>旭瓦斯株式会社</b></p> <p>東京市京橋區銀座四ノ三ノ二 昭和十二年三月 取締 橋本萬之介 取締 青柳 清雄 一、〇〇〇千圓(四分ノ一拂込)</p>
<p><b>日本燃料工業株式会社</b></p> <p>東京市日本橋區本町三ノ五 昭和十一年十二月 取締 林 安太郎 取締 藤田 芳太郎 五、〇〇〇千圓(四分ノ一拂込)</p>	<p><b>京濱地下鐵道株式会社</b></p> <p>東京市神田區須田町一ノ一六 昭和十二年三月 取締 小川市太郎 一、〇〇〇千圓(四分ノ一拂込)</p>	<p><b>日曹人絹パルプ株式会社</b></p> <p>東京市神田區丸の内二ノ二 昭和十二年三月 取締 中野 友雄 取締 山田 昌作 一八、〇〇〇千圓(四分ノ一拂込)</p>	<p><b>...</b></p>	<p><b>...</b></p>

高在現並行發債社公

(發行額本百)

Table with columns for years (1911-1921), bond types (National, Domestic, Foreign), and amounts. Includes sub-sections for 'National Bonds' and 'Domestic Bonds'.

調行發債社

Table listing various companies (e.g., 大東電氣, 東京電氣) and their bond issuance details, including company names, amounts, and terms.

調金込拂式株

Table listing companies (e.g., 日本電報, 東京電報) and their stock subscription details, including company names, amounts, and terms.

典 特 主 株

会社名	株主	株数	金額	備考
東京乗合自動車	三〇〇株以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	三〇〇株以上	三〇〇株以上	
東武	二、〇〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	二、〇〇〇株以上	二、〇〇〇株以上	
京成	五〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	
王子電氣	三〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	三〇〇株以上	三〇〇株以上	
京電	三〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	三〇〇株以上	三〇〇株以上	
京王電氣	五〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	
玉川電氣	五〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	
日黒浦田電氣	五〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	
東京電氣	五〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	
西濱電氣	三〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	三〇〇株以上	三〇〇株以上	
南武	一、〇〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	一、〇〇〇株以上	一、〇〇〇株以上	
秩父武藏鐵道	一、五〇〇以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	一、五〇〇株以上	一、五〇〇株以上	
富士身延鐵道	持分金額一五、〇〇〇圓以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	一五、〇〇〇株以上	一五、〇〇〇株以上	
青島電氣	七五〇株以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	七五〇株以上	七五〇株以上	
南京電氣	一、〇〇〇株以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	一、〇〇〇株以上	一、〇〇〇株以上	
大阪海電	五〇〇株以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	
大阪鐵道	五〇〇株以上ノ株主ニシテ六月ヲ経過シタルモノニ記名本人ノパスヲ發行ス	五〇〇株以上	五〇〇株以上	

社 會 併 合 被・併 合

合併会社	併合会社	併合年月	備考
新日本製糖	大日本製糖	十年一月	
新日本製糖	和歌山製糖	十年二月	
新日本製糖	和歌山製糖	十年七月	
新日本製糖	和歌山製糖	十年八月	
新日本製糖	和歌山製糖	十年十一月	
新日本製糖	和歌山製糖	十年十二月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年一月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年二月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年三月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年四月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年五月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年六月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年七月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年八月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年九月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年十月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年十一月	
新日本製糖	和歌山製糖	十一年十二月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年一月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年二月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年三月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年四月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年五月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年六月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年七月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年八月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年九月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年十月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年十一月	
新日本製糖	和歌山製糖	十二年十二月	

調 還 債 債 社

会社名	発行年月	発行高	償還期	現在高	備考
東京乗合自動車	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
東武	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
京成	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
王子電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
京電	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
京王電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
玉川電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
日黒浦田電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
東京電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
西濱電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
南武	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
秩父武藏鐵道	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
富士身延鐵道	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
青島電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
南京電氣	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
大阪海電	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	
大阪鐵道	十一月	10,000,000	抽還債	10,000,000	

表金據證本託委期長

所引取式株阪大

Table listing various companies and their stock information, including names like 大日本製糖, 大同製糖, and 大日本製粉, along with their respective stock types and prices.

表金據證本託委期短

Table listing companies and their stock information for short-term commissions, including names like 大日本製糖, 大同製糖, and 大日本製粉, along with their respective stock types and prices.

(十二年三月二十三日調)

表料數手託委並表金據證本託委引取期短 期長

所引取式株京東

Table listing companies and their stock information for short-term commissions, including names like 大日本製糖, 大同製糖, and 大日本製粉, along with their respective stock types and prices.

(十二年三月二十三日調)

事業別株價指數

(大正二年=100 東洋經濟)

Table with 8 columns: 年, 月, 銀行, 信託, 保險, 取引所, 海運, 造船, 電線. Rows include monthly data for 9, 10, 11, 12 and annual averages.

東京大阪兩取引所長期短期上場株一覽表

昭和12年3月現在

Large table listing various industries and companies such as 紡績織布, 製糖, 製粉, 製紙, 製糖, 製粉, 製糖, 製粉, 製糖, 製粉. Includes symbols for stock types.

○印東株長期, ●印東株短期, △印大株長期, □印大株短期



本邦事業活動指數

Table with 8 columns: 年月, 鐵道貨物發送噸數, 電力消費高, 石炭消費高, 原油供給高, 綿絲生産高, 輸出検査高, 羊毛輸入高. Includes monthly data from 1905 to 1912 and a summary section for 洋紙販賣高, セメント消費高, 鋼材供給高, 總平均(加重式), 米國事業活動指數, 英國事業活動指數.

日英米株價指數

Table with 7 columns: 日 (公債株, 産業株, 産業株), 米 (メーブル株, 工業株, 鐵道株), 英國工業株. Includes monthly data from 1909 to 1912 with various sub-categories and indices.

東京株式取引所上場主要株式短期平均相場

Table with 9 columns: 銘柄, 新東, 大株新, 鐵道新, 帝人新, 日魯, 三菱新, 日産, 鋼管. Lists stock prices for various companies like 新東, 大株新, etc., with monthly averages from 1909 to 1912.

(備考) \*印は東京長期先相相場

有價證券(50圓拂込)利廻早見表(2)

配 格	七 分	八 分	九 分	一 割	一 割 二 分	一 割 三 分	一 割 五 分	一 割 七 分
50	0.700	0.800	0.900	1.000	1.200	1.300	1.500	1.700
52	0.673	0.769	0.865	0.9615	1.154	1.250	1.442	1.635
54	0.648	0.741	0.833	0.9259	1.111	1.204	1.389	1.574
55	0.636	0.727	0.818	0.9091	1.091	1.182	1.364	1.545
56	0.625	0.714	0.804	0.8929	1.071	1.161	1.339	1.518
58	0.603	0.690	0.776	0.8621	1.034	1.121	1.293	1.466
60	0.583	0.667	0.750	0.8333	1.000	1.083	1.250	1.417
62	0.565	0.645	0.726	0.8065	0.968	1.048	1.210	1.371
64	0.547	0.625	0.703	0.7813	0.938	1.016	1.172	1.328
65	0.538	0.615	0.692	0.7692	0.923	1.000	1.154	1.308
66	0.530	0.606	0.682	0.7576	0.909	0.985	1.136	1.288
68	0.515	0.588	0.662	0.7353	0.882	0.956	1.103	1.250
70	0.500	0.571	0.643	0.7143	0.857	0.929	1.071	1.214
72	0.486	0.556	0.625	0.6944	0.833	0.902	1.041	1.180
74	0.473	0.541	0.608	0.6757	0.811	0.878	1.014	1.149
75	0.467	0.533	0.600	0.6667	0.800	0.867	1.000	1.133
76	0.461	0.526	0.592	0.6579	0.789	0.855	0.987	1.118
78	0.449	0.513	0.577	0.6410	0.769	0.833	0.962	1.090
80	0.438	0.500	0.563	0.6250	0.750	0.813	0.938	1.063
82	0.427	0.488	0.549	0.6098	0.732	0.793	0.915	1.037
84	0.417	0.476	0.536	0.5952	0.714	0.774	0.893	1.012
85	0.412	0.471	0.529	0.5882	0.706	0.765	0.882	1.000
86	0.407	0.465	0.523	0.5814	0.698	0.756	0.872	0.988
88	0.398	0.455	0.511	0.5682	0.682	0.739	0.852	0.966
90	0.389	0.444	0.500	0.5556	0.667	0.722	0.833	0.945
92	0.380	0.435	0.489	0.5435	0.652	0.707	0.815	0.924
94	0.372	0.426	0.479	0.5319	0.633	0.691	0.798	0.904
95	0.368	0.421	0.474	0.5263	0.632	0.684	0.789	0.895
96	0.365	0.417	0.469	0.5208	0.625	0.677	0.781	0.885
98	0.357	0.408	0.459	0.5102	0.612	0.663	0.765	0.867
100	0.350	0.400	0.450	0.5000	0.600	0.650	0.750	0.850
102	0.343	0.392	0.441	0.4902	0.588	0.637	0.735	0.833
104	0.337	0.385	0.433	0.4808	0.577	0.625	0.721	0.817
105	0.333	0.381	0.429	0.4762	0.571	0.619	0.714	0.810
106	0.330	0.377	0.425	0.4717	0.566	0.613	0.708	0.802
108	0.324	0.370	0.417	0.4630	0.556	0.602	0.695	0.787
110	0.318	0.364	0.409	0.4545	0.545	0.591	0.682	0.773
112	0.312	0.357	0.402	0.4464	0.536	0.580	0.670	0.759
114	0.307	0.351	0.395	0.4386	0.526	0.570	0.658	0.746
115	0.304	0.348	0.391	0.4348	0.522	0.565	0.652	0.739
116	0.302	0.345	0.388	0.4310	0.517	0.560	0.647	0.733
118	0.297	0.339	0.381	0.4237	0.508	0.551	0.636	0.720
120	0.292	0.333	0.375	0.4167	0.500	0.542	0.625	0.708
122	0.287	0.328	0.369	0.4098	0.492	0.533	0.615	0.697
124	0.282	0.323	0.363	0.4032	0.484	0.524	0.605	0.685
125	0.280	0.320	0.360	0.4000	0.480	0.520	0.600	0.680
126	0.278	0.317	0.357	0.3968	0.476	0.516	0.595	0.675
128	0.273	0.312	0.352	0.3906	0.469	0.508	0.586	0.664
130	0.269	0.308	0.346	0.2846	0.462	0.500	0.577	0.654

有價證券(50圓拂込)利廻早見表(1)

配 格	三 分	四 分	五 分	六 分	七 分	八 分	九 分	一 割
20	0.750	1.000	1.250	1.500	1.750	2.000	2.250	2.500
21	0.714	0.952	1.190	1.429	1.667	1.905	2.143	2.381
22	0.682	0.909	1.136	1.364	1.591	1.818	2.045	2.273
23	0.652	0.870	1.087	1.304	1.522	1.739	1.957	2.174
24	0.625	0.833	1.042	1.250	1.458	1.667	1.875	2.084
25	0.600	0.800	1.000	1.200	1.400	1.600	1.800	2.000
26	0.577	0.769	0.962	1.154	1.346	1.538	1.731	1.923
27	0.556	0.741	0.926	1.111	1.296	1.481	1.667	1.832
28	0.536	0.714	0.893	1.071	1.250	1.429	1.607	1.786
29	0.517	0.690	0.862	1.034	1.207	1.379	1.552	1.724
30	0.500	0.667	0.833	1.000	1.167	1.333	1.500	1.667
31	0.484	0.645	0.806	0.968	1.129	1.290	1.452	1.613
32	0.469	0.625	0.781	0.938	1.094	1.250	1.406	1.562
33	0.455	0.606	0.758	0.909	1.061	1.212	1.364	1.515
34	0.441	0.588	0.735	0.882	1.029	1.176	1.324	1.471
35	0.429	0.571	0.714	0.857	1.000	1.143	1.286	1.429
36	0.417	0.556	0.694	0.833	0.972	1.111	1.250	1.389
37	0.405	0.541	0.676	0.811	0.946	1.081	1.216	1.351
38	0.395	0.526	0.658	0.789	0.921	1.053	1.184	1.316
39	0.385	0.513	0.641	0.769	0.897	1.026	1.154	1.282
40	0.375	0.500	0.625	0.750	0.875	1.000	1.125	1.250
41	0.366	0.488	0.610	0.732	0.854	0.976	1.098	1.219
42	0.357	0.476	0.595	0.714	0.833	0.952	1.071	1.190
43	0.349	0.465	0.581	0.698	0.814	0.930	1.047	1.163
44	0.341	0.455	0.568	0.682	0.795	0.909	1.023	1.136
45	0.333	0.444	0.556	0.667	0.778	0.889	1.000	1.111
46	0.326	0.435	0.543	0.652	0.761	0.870	0.978	1.087
47	0.319	0.426	0.532	0.638	0.745	0.851	0.957	1.064
48	0.313	0.417	0.521	0.625	0.729	0.833	0.938	1.042
49	0.306	0.408	0.510	0.612	0.714	0.816	0.918	1.020
50	0.300	0.400	0.500	0.600	0.700	0.800	0.900	1.000
51	0.294	0.392	0.490	0.588	0.686	0.784	0.882	0.980
52	0.288	0.385	0.481	0.577	0.673	0.769	0.865	0.962
53	0.283	0.377	0.472	0.566	0.660	0.755	0.849	0.943
54	0.278	0.370	0.463	0.556	0.648	0.741	0.833	0.926
55	0.273	0.364	0.455	0.545	0.636	0.727	0.818	0.909
56	0.268	0.357	0.446	0.536	0.625	0.714	0.804	0.893
57	0.263	0.351	0.439	0.526	0.614	0.702	0.789	0.877
58	0.259	0.345	0.431	0.517	0.603	0.690	0.776	0.862
59	0.254	0.339	0.424	0.508	0.593	0.678	0.763	0.847
60	0.250	0.333	0.417	0.500	0.583	0.667	0.750	0.833
61	0.246	0.328	0.410	0.492	0.574	0.656	0.738	0.820
62	0.242	0.323	0.403	0.484	0.565	0.645	0.726	0.806
63	0.238	0.317	0.397	0.476	0.556	0.635	0.714	0.794
64	0.234	0.312	0.391	0.469	0.547	0.625	0.703	0.781
65	0.231	0.308	0.385	0.462	0.538	0.615	0.692	0.769
66	0.227	0.303	0.379	0.455	0.530	0.606	0.682	0.758
67	0.224	0.298	0.373	0.448	0.522	0.597	0.672	0.746
68	0.221	0.294	0.368	0.441	0.515	0.588	0.662	0.735
69	0.217	0.290	0.362	0.435	0.507	0.580	0.652	0.725
70	0.214	0.286	0.357	0.429	0.500	0.571	0.643	0.714

## 有價証券(50圓拂込)利廻早見表(3)

配 格	一 割 五 分	一 割 七 分	一 割 八 分	二 割	二 割 三 分	二 割 五 分	二 割 七 分	三 割
100	0.750	0.850	0.900	1.000	1.100	1.250	1.350	1.500
105	0.714	0.815	0.857	0.952	1.048	1.191	1.286	1.429
110	0.682	0.773	0.818	0.909	1.000	1.136	1.227	1.364
115	0.652	0.739	0.783	0.870	0.957	1.087	1.174	1.304
120	0.625	0.708	0.750	0.833	0.917	1.042	1.125	1.250
125	0.600	0.680	0.720	0.800	0.880	1.000	1.080	1.200
130	0.577	0.654	0.692	0.769	0.846	0.962	1.038	1.154
135	0.555	0.630	0.667	0.741	0.815	0.926	1.000	1.110
140	0.536	0.607	0.643	0.714	0.786	0.893	0.964	1.071
145	0.517	0.586	0.621	0.690	0.759	0.862	0.931	1.034
150	0.500	0.567	0.600	0.667	0.733	0.833	0.900	1.000
155	0.484	0.548	0.581	0.645	0.710	0.807	0.871	0.968
160	0.469	0.531	0.563	0.625	0.688	0.781	0.844	0.938
165	0.455	0.515	0.545	0.606	0.667	0.758	0.818	0.909
170	0.441	0.500	0.529	0.588	0.647	0.735	0.794	0.882
175	0.429	0.486	0.514	0.571	0.629	0.714	0.771	0.857
180	0.417	0.472	0.500	0.556	0.611	0.695	0.750	0.833
185	0.405	0.460	0.487	0.541	0.595	0.676	0.730	0.811
190	0.395	0.447	0.474	0.526	0.579	0.658	0.711	0.790
195	0.385	0.436	0.462	0.513	0.564	0.641	0.692	0.769
200	0.375	0.425	0.450	0.500	0.550	0.625	0.675	0.750
205	0.366	0.415	0.439	0.488	0.537	0.610	0.659	0.732
210	0.357	0.405	0.429	0.476	0.524	0.595	0.643	0.714
215	0.349	0.395	0.419	0.465	0.512	0.582	0.628	0.698
220	0.341	0.386	0.409	0.455	0.500	0.568	0.614	0.682
225	0.333	0.378	0.400	0.444	0.489	0.556	0.600	0.667
230	0.326	0.370	0.391	0.435	0.478	0.544	0.587	0.652
235	0.319	0.362	0.383	0.426	0.468	0.532	0.575	0.638
240	0.312	0.354	0.375	0.417	0.458	0.521	0.562	0.625
245	0.306	0.347	0.367	0.408	0.449	0.510	0.551	0.612
250	0.300	0.340	0.360	0.400	0.440	0.500	0.540	0.600
255	0.294	0.333	0.353	0.392	0.431	0.490	0.529	0.588
260	0.288	0.327	0.346	0.385	0.423	0.481	0.519	0.577
265	0.283	0.321	0.340	0.377	0.415	0.472	0.509	0.566
270	0.278	0.315	0.333	0.370	0.407	0.463	0.500	0.556
275	0.273	0.309	0.327	0.364	0.400	0.455	0.491	0.545
280	0.268	0.304	0.321	0.357	0.393	0.447	0.482	0.536
285	0.263	0.298	0.316	0.351	0.386	0.439	0.474	0.526
290	0.259	0.293	0.310	0.345	0.379	0.431	0.465	0.517
295	0.254	0.288	0.305	0.339	0.373	0.424	0.458	0.509
300	0.250	0.283	0.300	0.333	0.367	0.417	0.450	0.500

(使用法説明) 例へば鐘紡(親)が240圓ならば利廻は幾何かを見るには240圓の行を右へ2割5分の處を見れば5分2厘1毛である事が判る。又同じ株を5分5厘迄買へば幾何迄買えるかを見るに、上表第7欄2割5分の處を上から下へ順に見て来ると0.556と云ふのが225圓の處にあり、0.544と云ふのが230圓の處にあるから求める價格はこの中間の227圓50銭である事が判る。そして本表は50圓拂込として計算してあるが例へば25圓拂込のものを見るには本表の利廻を二倍すればよい。

# 社會四季報

昭和二十年

(第二輯)

昭和十二年四月十二日印刷  
昭和十二年四月十六日發行

定價【五拾錢】  
(送料六錢)

編輯兼  
印刷發行人  
東京市日本橋區本石町三ノ二  
神原周平

印刷所  
東京市芝區芝浦一ノ二三  
單式印刷株式會社

發行所  
東京市日本橋區本石町三ノ二  
東洋經濟新報社

振替東京六五一八番

圓二金共料送郵 金前年ヶ一

東洋經濟編

四六判 一五〇頁

定價五拾錢

(送料六錢)

# 世界的原料飢饉下の 商品相場はどうなるか

## 最新刊!!

これからの商品相場をリードするものは言ふまでもなく、世界原料商品だ。原料が現實に足りないとなれば、何處までも相場は騰がる。本書は原料飢饉の實狀を剩す處なく解明したものの、熟讀の必要は自ら明かだ。

- 商品相場は暴騰するか
- 海外物價の昂騰と今後
- 世界的原料飢饉の到來
- 鐵鋼・銅・アルミ・鉛・錫・亞鉛・棉花・羊毛・バルブ・石油・砂糖・小麥・護謨・

【附録】 重要商品相場累年表  
世界原料品在荷統計

小林一三著

菊判 五四頁

定價貳拾錢

(送料三錢)

# 映畫事業經營の話

## 最新刊

私は何事につけても徹底的に研究しなければ氣のすまない性質ですから、露骨に淡白にぶちまける嫌があるが、要領を得て方針を立てる所に私の事業經營の根柢がある。映畫界は、日活松竹大都新興の四社對P・C・L及J・O東寶系ポイコット混亂時代? (序文から)

### — 内容目次 —

- 一、これまでの我が映畫事業
- 二、見て来た外國の映畫事業
- 三、撮影所經營はなぜ危険か
- 四、映畫はまだ大衆のものではない
- 五、改善を要する映畫館の經營
- 六、東寶チェーンの行き方
- 七、日活の破綻と整理の経緯
- 八、今こそ業界立直しの秋
- 九、「新しき土」と映畫輸出の可能性

社 公  
債 債

引受・募集・賣買  
金融・保管預り  
登録・元利金取立

# 日興證券株式會社

東京市丸ノ内日本興業銀行四階  
電話丸ノ内(二三)代表二四一四

資本金壹千萬圓

支店 大阪、名古屋  
出張所 福岡、廣島、岡山、京都、神戸、新潟

¥. 50

14 5  
817

終